

---

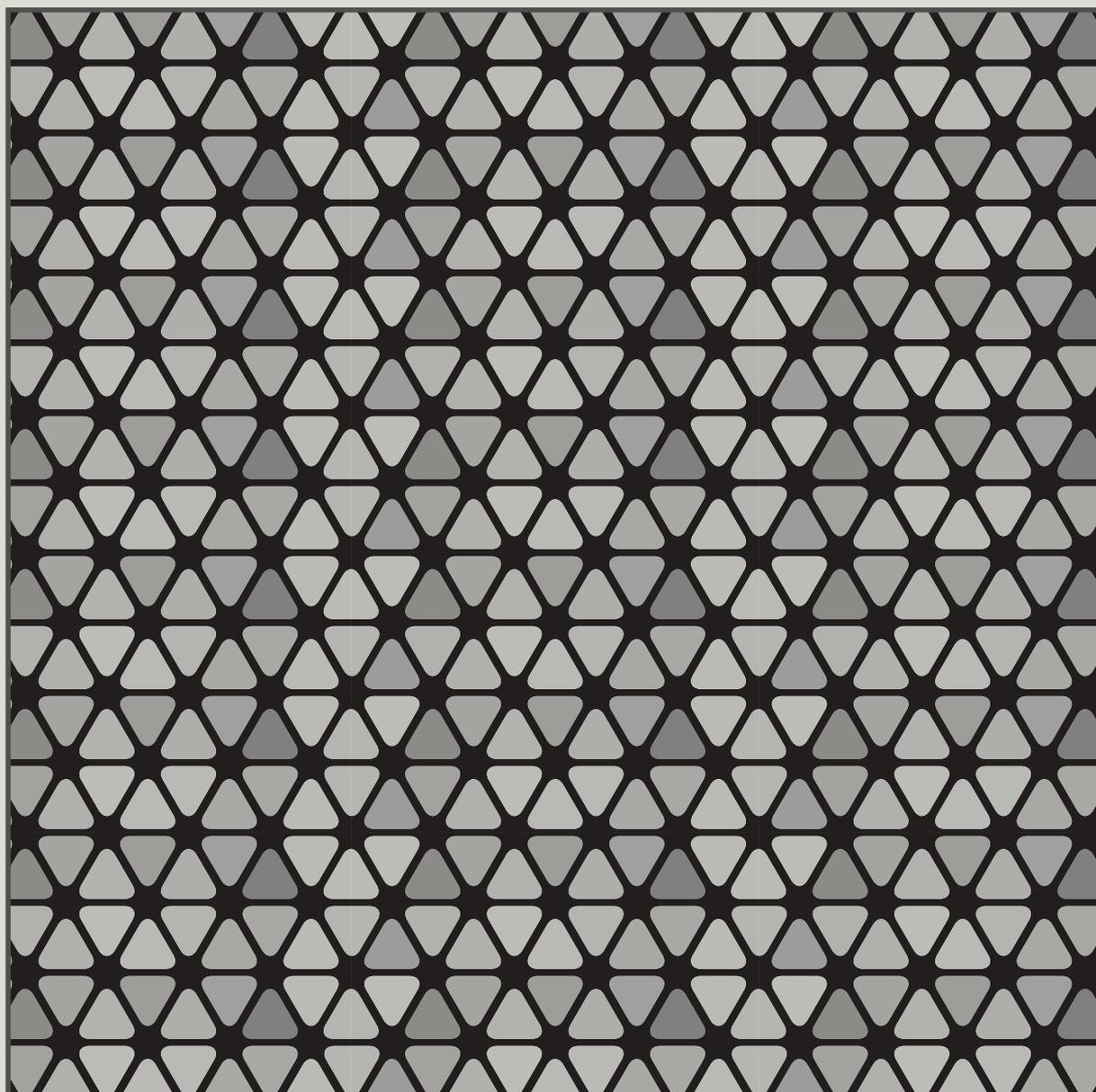
2018年度

---

# シラバス

# 全学共通授業科目

---



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

## 【シラバスの見方】

### 1. 目次について

#### ①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

#### ②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

独：ドイツ語学科

養(\*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科

英：英語学科

養(\*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科

仏：フランス語学科

養(\*3)：国際教養学部、韓国語履修者

環：国際環境経済学科

交：交流文化学科

14以降入学：2014年度以降入学者(全学部)

13以降入学：2013年度以降入学者(全学部)

13以降入学養：2013年度以降入学者(国際教養学部)

13以降入学経：2013年度以降入学者(経済学部)

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

免：2013年度以降入学の教職課程登録者

### 2. シラバスページの見方(右図参照)

#### ①入学年度

08年度以降……2008年度以降入学者

#### ②入学年度に対応した科目名

#### ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

#### ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

#### ⑤到達目標

#### ⑥事前・事後学修の内容

#### ⑦授業で使用するテキスト

#### ⑧参考文献

#### ⑨評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>春学期</b>		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>秋学期</b>		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

### 3. 注意事項

#### ①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

#### ②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

#### ③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

# 全学共通授業科目 目次 (2009年度から2018年度入学者用)

## 全学総合講座

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座 (芸術と社会—芸術が社会の中で果たす役割について)		青山 愛香	木3	1	-	10
全学総合講座 (社会を生き抜くセルフブランディング I)		有吉 秀樹	木2	1	-	11
	全学総合講座 (社会を生き抜くセルフブランディング II)	有吉 秀樹	木2	1	-	12
全学総合講座 (働くための基礎知識—知って得する労働問題)		市原 博	水2	1	-	13
全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)	全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)	岡村 国和	木2	1	-	14
	全学総合講座 (メディア社会とロク)	岡村 圭子	火3	1	-	15
全学総合講座 (教えるという仕事)		川村 肇	木3	1	-	16
	全学総合講座 (メディアと私たち)	川村 肇	月5	1	-	17
	全学総合講座 (企業の社会的責任と企業活動)	高橋 均	金4	1	-	18
全学総合講座 (NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)		高松 和幸	金4	1	-	19
	全学総合講座 (地域活性化システム論—これからの「まちづくり」のヒントを探る)	高松 和幸	金4	1	-	20
	全学総合講座 (情報社会とルール)	多賀谷 一照	水3	1	-	21
全学総合講座 (経営者が語る現代企業論1)		上坂 卓郎	火2	1	-	22
	全学総合講座 (経営者が語る現代企業論2)	上坂 卓郎	火2	1	-	23
全学総合講座 (環境学1)(環境基礎学-自然を見つめる)		中村 健治	火4	1	-	24
	全学総合講座 (環境学2)(環境応用学-環境と社会)	中村 健治	火4	1	-	25
全学総合講座 (大学における教養教育)		野澤 聡	月4	1	-	26
	全学総合講座 (社会の中の科学)	野澤 聡	月4	1	-	27
全学総合講座 (獨協学)		浅山 佳郎	月3	1	-	28
全学総合講座 (スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える)		松原 裕	木4	1	-	29
	全学総合講座 (クオリティライフのための健康講座)	和田 智	火4	1	-	30
	全学総合講座 (自由時間の達人)	和田 智	金4	1	-	31

## 全学共通講義科目部門

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1 (日本語文法形態論)	ことばと思想1 (日本語文法統語論)	浅山 佳郎	火1	1	養・14以降入学	32
	ことばと思想1 (英語学a)	安間 一雄	水1	1	養	33
ことばと思想1 (英語学b)		安間 一雄	金1	1	養	34
ことばと思想1 (言語学a)		安間 一雄	水1	1	養・12以前入学	35
ことばと思想1 (言語学概論)					養・13以降入学	35
ことばと思想1 (日本語教育概説)		石塚 京子	月3	1	養	36
ことばと思想1 (倫理の基本について考える)	ことばと思想1 (環境と生命の倫理)	市川 達人	火3	1	養	37
ことばと思想1 (社会思想史1)(市民的社会像の黎明期)	ことばと思想1 (社会思想史2)(市民的社会像の確立期)	市川 達人	火4	1	-	38
ことばと思想1 (応用言語学)	ことばと思想1 (第二言語習得)	臼井 芳子	水1	2	養	39
ことばと思想1 (音楽を言葉で語る—音楽分析入門)		木村 佐千子	水1	1	-	40
ことばと思想1 (こころの世界)		利根川 明子	金5	1	養	41
	ことばと思想1 (通訳・翻訳論)	永田 小絵	木5	2	-	42
ことばと思想1 (フランス・ドイツ哲学入門1)	ことばと思想1 (フランス・ドイツ哲学入門2)	犬塚 悠	水4	1	-	43
ことばと思想1 (倫理学a)	ことばと思想1 (倫理学b)	林 永強	木3	1	養	44
ことばと思想1 (社会心理学a)	ことばと思想1 (社会心理学b)	樋口 匡貴	金2	2	外・養	45
	ことばと思想1 (社会心理学b)	樋口 匡貴	金3	2	外・養	45
歴史と文化1 (ドイツ語圏のメディア文化a)	歴史と文化1 (ドイツ語圏のメディア文化b)	秋野 有紀	月3	2	独	46
歴史と文化1 (歴史学1)(中世の仏教と社会)	歴史と文化1 (歴史学2)(中世の「悪党」と民衆)	新井 孝重	水2	1	13以降入学経	47
	歴史と文化1 (日本文学論・中世 II)	飯島 一彦	水1	1	13以降入学養	48
歴史と文化1 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化)		井垣 昌	木3	2	養	49
	歴史と文化1 (日本研究概論 II)	生田 守	木4	1	13以降入学養	50
歴史と文化1 (歴史学1)(ヨーロッパ史1)	歴史と文化1 (歴史学2)(ヨーロッパ史2)	黒田 多美子	木4	1	-	51
歴史と文化1 (英語圏の文学)	歴史と文化1 (英語圏の文学 II)	関戸 冬彦	木3	1	養	52

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
	歴史と文化1 (日韓交流史)	小宮 秀陵	月4	2	養	53
歴史と文化1 (大衆文化論)		木本 玲一	月5	2	養	54
歴史と文化1 (歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史と文化1 (歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷 哲也	木3	1	-	55
歴史と文化1 (東西の文化を結ぶもの)	歴史と文化1 (東西文化と近代化)	熊谷 哲也	木4	2	-	56
歴史と文化1 (韓国文化各論c)		小宮 秀陵	火4	2	養	57
歴史と文化1 (韓国史)		佐藤 厚	金2	2	養	58
	歴史と文化1 (カリブ海域研究)	工藤 多香子	火2	2	養	59
歴史と文化1 (恐怖の日本文学)		佐藤 毅	木1	1	13以降入学養	60
	歴史と文化1 (日本文学現代)	佐藤 毅	木1	1	養	60
歴史と文化1 (歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史と文化1 (歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	木3	1	-	61
歴史と文化1 (都市と建築1)	歴史と文化1 (都市と建築2)	鈴木 隆	木4	1	-	62
歴史と文化1 (韓国文学史)		沈 元燮	水3	2	13以降入学養	63
歴史と文化1 (日本文化論)		城崎 陽子	火4	1	08以降入学法	64
	歴史と文化1 (日本事情とコミュニケーション教育)	城崎 陽子	火4	1	養	64
歴史と文化1 (日本文学論・中世 I)		城崎 陽子	火3	1	13以降入学養	65
歴史と文化1 (歴史学1)(文明史研究a)	歴史と文化1 (歴史学2)(文明史研究b)	高橋 裕子	月2	1	養	66
歴史と文化1 (中国史a)	歴史と文化1 (中国史b)	張 士陽	木4	2	養	67
歴史と文化1 (スペイン研究入門)		二宮 哲	月5	1	養	68
歴史と文化1 (日本における死生学)	歴史と文化1 (日本における世間学)	林 英一	火1	1	-	69
歴史と文化1 (民俗学)		林 英一	木1	1	養	70
	歴史と文化1 (地域文化)	林 英一	木1	2	養・法	70
歴史と文化1 (日本文学古典)		福沢 健	月5	1	養	71
	歴史と文化1 (平安時代の文学を読む)	福沢 健	月5	1	13以降入学養	71
歴史と文化1 (文化史入門)		古川 堅治	木2	1	養	72
歴史と文化1 (文化人類学a)		井垣 昌	木4	1	養	73
	歴史と文化1 (文化人類学b)	松岡 格	金2	1	養	74
歴史と文化1 (歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史と文化1 (歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜 昭	水2	2	養	75
歴史と文化1 (移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化1 (グローバル化と情報・通信の文化史)	水口 章	月4	1	-	76
歴史と文化1 (アラブ文化・芸術a)	歴史と文化1 (アラブ文化・芸術b)	師岡カリーマ・エルサムニー	月2	2	養	77
歴史と文化1 (在外日本人研究)		山本 英政	月2	2	13以降入学養	78
	歴史と文化1 (異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	1	英・養	78
歴史と文化1 (英語圏の文化)		山本 英政	水2	2	英・養	79
	歴史と文化1 (英語圏事情)	山本 英政	木2	2	英・養	79
歴史と文化1 (教育の歴史1)	歴史と文化1 (教育の歴史2)	萩原 真美	水2	2	養	80
現代社会1 (ブラジル研究)		E. ウラノ	火2	2	養	81
	現代社会1 (日本国憲法)	L. ベドリサ	火1	1	法	82
現代社会1 (地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1 (地理学2)(自然環境と文化)	秋本 弘章	木2	1	-	83
現代社会1 (シネマで学ぶ法律学)	現代社会1 (続・シネマで学ぶ法律学)	新井 剛	木3	1	-	84
現代社会1 (暮らしの中の民法入門)		新井 剛	金1	1	-	85
	現代社会1 (続・暮らしの中の民法入門)	新井 剛	金1	1	-	85
	現代社会1 (不動産取引と法)	新井 剛	木4	2	-	86
現代社会1 (ドイツ地域論)	現代社会1 (ヨーロッパ地域論)	伊豆田 俊輔	金5	1	独	87
現代社会1 (教育法1)	現代社会1 (教育法2)	市川 須美子	木2	2	法	88
	現代社会1 (非正規雇用を考える)	市原 博	水1	1	-	89
現代社会1 (History of International Relations I)	現代社会1 (History of International Relations II)	伊藤 兵馬	月3	1	-	90
現代社会1 (国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1 (国際法2)(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	月3	1	-	91
現代社会1 (東南アジアの開発と社会)		江藤 双恵	火1	2	13以降入学養	92
現代社会1 (韓国政治論)		呉 吉煥	金1	2	養	93
現代社会1 (地誌学1)(世界の自然環境と文化)	現代社会1 (地誌学2)(世界の自然環境と文化)	大竹 伸郎	月4	1	養	94
	現代社会1 (基礎から学ぶマネジメント)	上坂 卓郎	水1	1	経	95
現代社会1 (地域メディア論)		岡村 圭子	火3	2	養・13以降入学経	96
現代社会1 (社会学a)	現代社会1 (社会学b)	岡村 圭子	土1	1	養	97
現代社会1 (民法1)	現代社会1 (民法2)	小川 佳子	月2	1	法	98
現代社会1 (社会保障論a)	現代社会1 (社会保障論b)	尾玉 剛士	水2	1	-	99
現代社会1 (日本国憲法)	現代社会1 (日本国憲法)	加藤 一彦	火2	1	法	100
現代社会1 (経済学1)(はじめての経済学)	現代社会1 (経済学2)(はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	101

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会1 (家族と法)		齋藤 哲	金1	1	-	102
現代社会1 (政治思想と理論、制度)	現代社会1 (政策と政治過程)	大串 敦	火4	1	-	103
現代社会1 (歴史の中のメディア)	現代社会1 (メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	-	104
現代社会1 (グローバル化を巡って)	現代社会1 (日本の表象と世界)	柴崎 信三	木2	1	12以前入学経	105
	現代社会1 (NGO論)	清水 俊弘	水2	1	養	106
現代社会1 (社会生活と犯罪)		関根 徹	木1	1	-	107
現代社会1 (ビジネス法務)		高橋 均	金2	1	-	108
現代社会1 (現代の企業経営)		有吉 秀樹	水1	1	経	109
	現代社会1 (ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	水4	1	-	110
現代社会1 (中東の社会空間)	現代社会1 (中東政治と市民社会)	水口 章	月5	1	-	111
現代社会1 (社会科学概論1)	現代社会1 (社会科学概論2)	嶋津 格	月4	1	法	112
自然・環境・人間1 (数学a)	自然・環境・人間1 (数学b)	東 孝博	月2	1	養	113
自然・環境・人間1 (物理学I)	自然・環境・人間1 (物理学II)	東 孝博	月4	1	13以降入学養	114
自然・環境・人間1 (宇宙論a)	自然・環境・人間1 (宇宙論b)	東 孝博	火1	1	養	115
自然・環境・人間1 (天文学a)	自然・環境・人間1 (天文学b)	内田 俊郎	木4	1	養	116
自然・環境・人間1 (歴史における科学技術1: 西洋近代科学技術の起源)	自然・環境・人間1 (歴史における科学技術2: 日本の近代化と科学技術)	内田 正夫	木3	1	-	117
自然・環境・人間1 (地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間1 (地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	-	118
自然・環境・人間1 (科学技術基礎論I)	自然・環境・人間1 (科学技術基礎論II)	野澤 聡	木1	1	13以降入学養	119
	自然・環境・人間1 (科学技術と社会b)	野澤 聡	水1	1	13以降入学養	120
自然・環境・人間1 (文化としての科学a)	自然・環境・人間1 (文化としての科学b)	野澤 聡	木3	1	-	121
自然・環境・人間1 (科学史a)	自然・環境・人間1 (科学史b)	野澤 聡	月2	1	養	122
自然・環境・人間1 (スポーツ科学概論)		依田 珠江	水1	1	13以降入学養	123
自然・環境・人間1 (私の自由時間設計)		和田 智	金4	1	13以降入学養	124

## 全学共通実践科目部門

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2 (日本語教育研究法)		瀬尾 悠希子	金3	2	養	125
	ことばと思想2 (日本語学の諸問題)	浅山 佳郎	木1	2	養	126
ことばと思想2 (日本語口頭表現の実践的研究)		飯島 一彦	水1	1	-	127
ことばと思想2 (碑文を読む)		飯島 一彦	木5	2	養	128
ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	-	129
ことばと思想2 (ラテン語 I a)	ことばと思想2 (ラテン語 I b)	小倉 博行	金1	1	-	130
ことばと思想2 (ラテン語 II a)	ことばと思想2 (ラテン語 II b)	小倉 博行	金2	2	-	131
	ことばと思想2 (韓国の言語文化)	金 秀晶	水3	2	養	132
ことばと思想2 (書き言葉の問題)	ことばと思想2 (話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	-	133
ことばと思想2 (ロマンス語研究入門1)	ことばと思想2 (ロマンス語研究入門2)	島津 寛	木4	2	-	134
ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	清水 絹代	水2	1	-	135
ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	清水 絹代	水3	1	-	135
	ことばと思想2 (日本文学作品研究e)	城崎 陽子	火3	2	13以降入学養	136
ことばと思想2 (日本文学作品研究a)	ことばと思想2 (写本を読む)	城崎 陽子	水3	2	養	137
ことばと思想2 (日本文学作品研究c)		城崎 陽子	水4	2	養	138
ことばと思想2 (古典ギリシア語 I a)	ことばと思想2 (古典ギリシア語 I b)	高橋 裕子	火2	1	-	139
	ことばと思想2 (心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	養	140
ことばと思想2 (生活文化の発見)	ことばと思想2 (生活文化の記述)	林 英一	木2	1	-	141
ことばと思想2 (論文を書く)	ことばと思想2 (口頭発表を行なう)	福沢 健	月4	1	-	142
ことばと思想2 (古典ギリシア語 II a)	ことばと思想2 (古典ギリシア語 II b)	古川 堅治	木3	2	-	143
ことばと思想2 (英語通訳)(英語通訳の仕事)	ことばと思想2 (英語通訳)(英語通訳の仕事)	矢田 陽子	火2	1	-	144
歴史と文化2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts:1)	歴史と文化2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts:2)	A.ゾーリンジャー	月4	2	-	145
歴史と文化2 (Overview of Japanese History and Culture, Part I)	歴史と文化2 (Overview of Japanese History and Culture, Part II)	P.ネルム	水3	2	-	146

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
	歴史と文化2 (日本文化研究a)	飯島 一彦	木5	2	養・法	147
	歴史と文化2 (日本文化研究d)	飯島 一彦	木4	2	13以降入学養	148
歴史と文化2 (ドイツ語圏の歴史・文化史散歩a)	歴史と文化2 (ドイツ語圏の歴史・文化史散歩b)	渡部 重美	火3	1	-	149
	歴史と文化2 (日本文化研究b)	城崎 陽子	水4	2	13以降入学養	150
	歴史と文化2 (日韓比較文化論a)	金 熙淑	月3	2	養	151
	歴史と文化2 楽典(中級)	木村 佐千子	水2	1	-	152
歴史と文化2 (楽典(音楽通論)－楽譜を読み・書くために)	歴史と文化2 (楽典(音楽通論)－楽譜を読み・書くために)	木村 佐千子	金2	1	-	153
歴史と文化2 (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)		倉田 量介	火3	2	養	154
	歴史と文化2 (韓国の宗教)	佐藤 厚	金2	2	養	155
歴史と文化2 (イタリアの音楽史)	歴史と文化2 (イタリアの声楽曲)	園田 みどり	水3	1	-	156
歴史と文化2 (詩と音楽2)	歴史と文化2 (詩と音楽6)	園田 みどり	木2	1	-	157
歴史と文化2 (近代世界システム論)	歴史と文化2 (食の歴史と文化)	野澤 丈二	金4	1	-	158
歴史と文化2 (日本事情1)	歴史と文化2 (日本事情2)	堀川 徹	火4	1	13以降入学養	159
	現代社会2 (Future Skills Program)	浅山 佳郎	木5	1	-	160
現代社会2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	柿沼 義孝	水2	1	独	161
	現代社会2 (韓国研究情報収集法)	金 熙淑	水1	2	養	162
	現代社会2 (家族と法・実践編)	齋藤 哲	金1	1	-	163
	現代社会2 (社会生活と犯罪・実践編)	関根 徹	木1	1	-	164
現代社会2 (韓国社会論 I)		羅 一等	月2	2	養	165
現代社会2 (市民社会と法)		花本 広志	木3	1	-	166
	現代社会2 (自己表現の技法)	花本 広志	月3	1	-	167
現代社会2 (経理入門1)	現代社会2 (経理入門2)	原 郁代	木4	1	経	168
現代社会2 (英文会計入門1)	現代社会2 (英文会計入門2)	原 郁代	木5	1	-	169
現代社会2 (新聞を読む1)	現代社会2 (新聞を読む2)	半田 滋	木2	1	-	170
現代社会2 (インターンシップ)		森永 卓郎	木2	2	-	171
	現代社会2 (韓国社会論)	小宮 秀陵	水3	2	養	172
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	久東 義典	火3	1	外・養・経	173
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	173
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	黄 海湘	金3	1	外・養・経	173
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	黄 海湘	金5	1	外・養・経	173
現代社会2 (ホームページ作成)	現代社会2 (ホームページ作成)	久東 義典	火5	1	養	174
現代社会2 (ホームページ作成)	現代社会2 (ホームページ作成)	和泉 順子	水2	1	養	175
自然・環境・人間2 (サイエンスライティングa)	自然・環境・人間2 (サイエンスライティングb)	東 孝博	木4	2	13以降入学養	176
	自然・環境・人間2 (統計と調査法)	安間 一雄	火3	2	養	177
自然・環境・人間2 (基礎生物学実験a)	自然・環境・人間2 (基礎生物学実験b)	飯泉 恭一	月2	2	養	178
自然・環境・人間2 (生物学 I)	自然・環境・人間2 (生物学 II)	飯泉 恭一	月3	1	13以降入学養	179
自然・環境・人間2 (社会のなかの化学物質a)	自然・環境・人間2 (社会のなかの化学物質b)	内田 正夫	木4	2	養	180
自然・環境・人間2 (体育経営スポーツマネジメント)		川北 準人	月3	2	養	181
自然・環境・人間2 (コンピュータと言語)		呉 浩東	月2	1	外・養	182
自然・環境・人間2 (自然言語処理a)		呉 浩東	木1	2	養	183
	自然・環境・人間2 (コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	養	184
自然・環境・人間2 (情報検索と加工)		黄 海湘	水4	2	養	185
自然・環境・人間2 (データ構造とアルゴリズム論)		黄 海湘	水3	2	13以降入学養	186
自然・環境・人間2 (マルチメディア論a)	自然・環境・人間2 (マルチメディア論b)	田中 雅英	火4	2	養	187
	自然・環境・人間2 (文化について調べて書くa)	松岡 格	火2	2	養	188
	自然・環境・人間2 (人間活動の自然環境への影響のデータからの理解)	中村 健治	水1	1	-	189
	自然・環境・人間2 (スポーツコーチ学b)	松原 裕	水3	2	養	190
自然・環境・人間2 (スポーツコーチ学a)		依田 珠江	木2	2	養	191
自然・環境・人間2 (生理学 I)	自然・環境・人間2 (生理学 II)	依田 珠江	木4	1	13以降入学養	192
	自然・環境・人間2 (からだの仕組み)	依田 珠江	水3	2	13以降入学養	193
自然・環境・人間2 (リーダーシップ論)		和田 智	金2	2	養	194

# スポーツ・レクリエーション部門/カテゴリーV 体育科目

科目名(副題)	開講学期	担当教員	曜 時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション(3ボールスポーツa,b)	春・秋	依田 珠江	金 1	1		195
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa,b)	春・秋	和田 智	火 1	1		196
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa,b)	春・秋	和田 智	土 1	1		196
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa)	春	和田 智	土 2	1		196
スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーa)	春	松原 裕	水 3	1		197
スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門a,b)	春・秋	依田 珠江	水 2	1		198
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	重藤 誠市郎	火 1	1		199
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	重藤 誠市郎	火 2	1		199
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	田中 茂宏	木 1	1		200
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	松原 裕	金 1	1		201
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	松原 裕	土 1	1		201
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa,b)	春・秋	小笠原 慶太	金 1	1		202
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa,b)	春・秋	小笠原 慶太	金 2	1		202
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングa,b)	春・秋	松原 裕	水 1	1		203
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングa,b)	春・秋	山口 知恵	月 2	1		204
スポーツ・レクリエーション(サッカーa,b)	春・秋	大森 一伸	火 2	1		205
スポーツ・レクリエーション(サッカーa,b)	春・秋	原仲 碧	金 3	1		206
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤 初恵	金 1	1		207
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤 初恵	金 2	1		207
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野 元祐	木 1	1		208
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野 元祐	木 2	1		208
スポーツ・レクリエーション(卓球a,b)	春・秋	神宮司 親治	金 3	1		209
スポーツ・レクリエーション(卓球a,b)	春・秋	山口 知恵	月 1	1		210
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a,b)	春・秋	今野 廣隆	木 1	1		211
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a,b)	春・秋	今野 廣隆	木 2	1		211
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a,b)	春・秋	大森 一伸	火 1	1		212
スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツa,b)	春・秋	村山 光義	月 3	1		213
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa,b)	春・秋	川北 準人	月 1	1		214
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa,b)	春・秋	川北 準人	月 2	1		214
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)	秋	川北 準人	月 3	1		214
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa,b)	春・秋	依田 珠江	木 1	1		215
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)	秋	依田 珠江	木 2	1		215
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa,b)	春・秋	田中 茂宏	木 3	1		216
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa,b)	春・秋	藤野 和樹	水 1	1		217
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa,b)	春・秋	藤野 和樹	水 2	1		217
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa,b)	春・秋	重藤 誠市郎	火 3	1		218
スポーツ・レクリエーション(バレーボールb)	秋	佐藤 典子	金 2	1		219
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa,b)	春・秋	佐藤 典子	金 3	1		219
スポーツ・レクリエーション(ハンドボールa)	春	佐藤 典子	金 2	1		220
スポーツ・レクリエーション(フットサルa,b)	春・秋	神宮司 親治	金 1	1		221
スポーツ・レクリエーション(フットサルa,b)	春・秋	原仲 碧	金 2	1		222
スポーツ・レクリエーション(フットサルa)	春	松原 裕	木 2	1		223
スポーツ・レクリエーション(フリスビーa,b)	春・秋	村山 光義	月 2	1		224
スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	秋	和田 智	火 2	1		225
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀 祐子	水 1	1		226
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀 祐子	水 2	1		226
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスa,b)	春・秋	板垣 悦子	金 3	1		227
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスa,b)	春・秋	板垣 悦子	金 4	1		227
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	火 3	1		228
スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	春	和田 智	夏季集中	1		228
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	水 2	1		229
スポーツ・レクリエーション(ウインドサーフィン)	春	和田 智	夏季集中	1		229
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	火 2	1		230
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	春	和田 智	夏季集中	1		230
スポーツ・レクリエーション(アイススポーツトレーニング)	秋	和田 智	土 2	1		231
スポーツ・レクリエーション(アイススポーツ)	秋	和田 智	冬季集中	1		231
スポーツ・レクリエーション(コーディネーショントレーニング)	秋	松原 裕	木 3	1		232
スポーツ・レクリエーション(スキー&スノーボード)	秋	松原 裕	冬季集中	1		232

# 外国語科目群

## 英語部門(English)

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

### ■クラス指定科目(再履修クラス含む)

対象・コース等	科目名	担当教員	曜時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English(リーディングI a,b) //(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員		-	233
指定された者のみ	English(リーディングI a,b) //(Academic Reading Strategies I a,b)	岡田 圭子	月 5 火 5	-	234
環・国・総のみ	English(ライティングI a,b) //(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員		-	235
経のみ	English(スピーキングI a,b) //(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員		-	236
Quest Intro利用クラス	English(リスニング I a,b) //(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	237
Quest 1利用クラス	English(リスニング I a,b) //(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	238
指定された者のみ	English(リスニング I a,b) //(Academic Listening Strategies I a,b)	M. クロフォード	火 5 木 5	-	239
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English(リーディング II a,b) //(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員		-	240
指定された者のみ	English(リーディング II a,b) //(Academic Reading Strategies II a,b)	辻田 麻里	火 5 木 5	-	241
環・国・総のみ	English(ライティング II a,b) //(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員		-	242
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English(リスニング II a,b) //(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員		-	243
指定された者のみ	English(リスニング II a,b) //(Academic Listening Strategies II a,b)	J. ラシーン	火 5 木 5	-	244
経のみ	English(リーディング III a,b) //(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員		-	245
環のみ	English(テーマ研究a,b) //(English(Selected Topics in Social Sciences a,b)	各担当教員		-	246

### ■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English(留学生I a,b) //(Basic English Skills for International Students I a,b)	本年度休講			
外国人学生・帰国学生	English(留学生II a,b) //(Basic English Skills for International Students II a,b)	本年度休講			

### ■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜時	履修不可	ページ
Writing	English(ライティングI a,b) //(Academic Writing I a,b: Paragraph)	飯島 優雅	火 4	環・国・総	247
	English(ライティングI a,b) //(Academic Writing I a,b: Paragraph)	遠藤 朋之	木 2	環・国・総	248
	English(ライティングI a,b) //(Academic Writing I a,b: Paragraph)	T. マティカイネン	火 4	環・国・総	249
	English(ライティングI a,b) //(Academic Writing I a,b: Paragraph)	高畑 哲男	金 3	環・国・総	250
Speaking	English(スピーキングI a,b) //(Speaking in Academic Contexts I a,b)	W. ヘイ	月 3	経	251
	English(スピーキングI a,b) //(Speaking in Academic Contexts I a,b)	エイティム ソイハン	木 3	経	252
	English(スピーキングI a,b) //(Speaking in Academic Contexts I a,b)	A. キヤルコート	金 3	経	253
	English(スピーキングI a,b) //(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. フォー	金 3	経	254
	English(スピーキングI a,b) //(Speaking in Academic Contexts I a,b)	E. パタソン	金 4	経	255
	English(スピーキングII a,b) //(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	松岡 昇	月 3	-	256
	English(スピーキングII a,b) //(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウエイ	木 2	-	257
Reading	English(リーディング III a,b) //(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	中西 貴行	火 4	済・営(13年度以降入学者)	258
e-learning	English(e-ラーニング) //(Computer Assisted English Learning (CAEL))	岡田 圭子	火 4	1年生	259

Content-based	English(コンテンツ ii)	/(English Explorations)	J. ラシーン	火 3	TOEIC450 点未満	260
	English(コンテンツ iii)	/(English Explorations)	飯島 優雅	木 2	TOEIC450 点未満	261
Test-taking	English(資格I)	/(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	河原 伸一	金 4	TOEIC400 点以上	262
	English(資格II)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	松岡 昇	月 4	TOEIC400 点未満	263
	English(資格III)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	飯島 優雅	木 2	TOEIC450 点未満	264
	English(資格IV)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	J. ラシーン	火 3	TOEIC450 点未満	265
Pronunciation	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	辻田 麻里	木 4	-	266
	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	三谷 裕美	金 4	-	266
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	垣下 圭子	火 4	-	267
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	豊田 宣是	木 1	-	268
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池 武	金 4	-	269

# 外国語科目群

## 外国語部門(英語以外)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	270
{ (総合コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	271
	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員		独	272
(基礎コース)	ドイツ語(Ⅱ a,b 基礎)	辻本 勝好	金 2	独	273
{ (総合コース)	ドイツ語(Ⅱ a,b 基礎)	各担当教員		独	274
	ドイツ語(Ⅱ a,b 会話)	各担当教員		独	275
	ドイツ語(Ⅲa,b 会話)	D.オルランド	木 1	独	276
(基礎コース)	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員		仏	277
{ (総合コース)	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員		仏	278
	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員		仏	279
(基礎コース)	フランス語(Ⅱ a,b 基礎)	D.ベルテ	金 1	仏	280
{ (総合コース)	フランス語(Ⅱ a,b 総合J)	各担当教員		仏	281
	フランス語(Ⅱ a,b 総合F)	各担当教員		仏	282
	フランス語(Ⅲa,b)	L.フォンテーヌ	月 3	仏	283
(基礎コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	284
{ (総合コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	285
	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*1)	286
(基礎コース)	スペイン語(Ⅱ a,b 文法)	各担当教員		養(*1)	287
{ (総合コース)	スペイン語(Ⅱ a,b 文法)	各担当教員		養(*1)	288
	スペイン語(Ⅱ a,b 会話)	各担当教員		養(*1)	289
	スペイン語(Ⅲa,b 講読)	金澤 直也	木 4	養(*1)	290
	スペイン語(Ⅲa,b 会話)	M.サンチェス	金 3	養(*1)	291
(基礎コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	292
{ (総合コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	293
	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	294
(基礎コース)	中国語(Ⅱ a,b 会話)	張 継英	火 3	養(*2)	295
{ (総合コース)	中国語(Ⅱ a,b 会話)	各担当教員		養(*2)	296
	中国語(Ⅱ a,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	297
	中国語(Ⅲa,b 会話)	馮 日珍	水 3	養(*2)	298
	中国語(Ⅲa,b 講読・文法)	平野 佐和	火 2	養(*2)	299
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	各担当教員		養(*3)	300
{ (総合コース)	韓国語(Ia,b 総合1)	各担当教員		養(*3)	301
	韓国語(Ia,b 総合2)	各担当教員		養(*3)	302

(基礎コース)	韓国語(Ⅱ a,b 講読・会話)	沈 民珪	金 4	養(*3)	303
(総合コース)	韓国語(Ⅱ a,b 総合1)	各担当教員		養(*3)	304
	韓国語(Ⅱ a,b 総合2)	各担当教員		養(*3)	305
	韓国語(Ⅲ a,b 総合3)	柳 蓮淑	月 1	養(*3)	306
	外国語(イタリア語Ⅰa,b 基礎)	園田 みどり	水 4	-	307
	外国語(イタリア語Ⅰa,b 基礎)	園田 みどり	木 3	-	307
	外国語(イタリア語Ⅰa,b 基礎)	島津 寛	土 1	-	308
	外国語(イタリア語Ⅱ a,b 基礎)	島津 寛	土 2	-	309
	外国語(ポルトガル語Ⅰa,b 総合)	牧野 真也	金 1	-	310
	外国語(ポルトガル語Ⅰa,b 会話)	牧野 真也	金 2	-	311
	外国語(ロシア語Ⅰa,b 総合)	齊藤 毅	水 2	-	312
	外国語(ロシア語Ⅰa,b 会話)	小西 昌隆	月 4	-	313
	外国語(ロシア語Ⅱ a,b 総合)	齊藤 毅	水 3	-	314
	外国語(ロシア語Ⅱ a,b 会話)	小西 昌隆	月 3	-	315
	外国語(タイ語Ⅰa,b 会話)	江藤 双恵	火 3	-	316
	外国語(タイ語Ⅱ a,b 文字の読み書き)	江藤 双恵	火 2	-	317
	外国語(アラビア語Ⅰa,b 会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 3	-	318
	外国語(アラビア語Ⅱ a,b 読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 4	-	319
	外国語(現代ヘブライ語Ⅰ a,b 基礎)	阿部 望	金 2	-	320
	外国語(トルコ語Ⅰ a,b 総合)	M.チャクル	木 3	-	321
	外国語(トルコ語Ⅰ a,b 会話)	M.チャクル	木 4	-	322
	外国語(トルコ語Ⅱ a,b 応用)	M.チャクル	木 2	-	323

(春)	全学総合講座(芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割について)	担当者	青山 愛香
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>みなさんにとって、芸術はどのような存在でしょうか。普段意識しないだけで、それは案外身近にあるものかもしれません。</p> <p>この講義では、芸術を仕事にして、第一線で活躍する講師陣の話聞きながら、アートがこれまで社会とどのように深く結びつき、展開してきたのか、改めて一緒に考えることを目的としています。</p>		<p>① <u>イントロダクション</u> 青山愛香 (本学ドイツ語学科教授)</p> <p>② <u>美術品の来歴研究とは</u> <u>松方コレクション調査の今日的意味</u> 川口雅子 (国立西洋美術館情報資料室長)</p> <p>③ <u>ハンセン療養所における芸術活動</u> 金貴粉 (国立ハンセン病資料館 学芸員)</p> <p>④ <u>からだの表現と表現の自由</u> 青山愛香 (本学ドイツ語学科教授)</p> <p>⑤ <u>想起の文化と『芸術』－東ドイツを中心に</u> 伊豆田俊輔 (本学ドイツ語学科専任講師)</p>	
<b>講義概要</b>		⑥ <u>個人的なこと＝政治的なこと (仮) ①</u> 山川冬樹 (ホーメイ歌手・アーティスト)	
<p>現在、日本でアートに関わり、創作活動や教育機関、美術館等において活躍する講師陣に、ご自分の仕事についてお話を聞きます。例えば、美術館やギャラリーについてはこれまで知らなかった現場の様子を知る事になるでしょう。</p> <p>また、創作活動に携わるアーティストに直接接することで、芸術がより一層身近に感じられはらずです。美術や文学を研究する専門家からは、さまざまな側面から幅広い時代の芸術と社会のあり方についてご講義頂く予定です。</p>		⑦ <u>個人的なこと＝政治的なこと (仮) ②</u> 山川冬樹 (ホーメイ歌手・アーティスト)	
<b>到達目標</b>		⑧ <u>社会の中から生まれながら社会を超えていくもの、たとえば、二十世紀のいくつかの音楽について</u> 樽沼範久 (横浜国立大学教授)	
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。		⑨ <u>文学が社会のためにできること</u> 片山亜紀 (本学英語学科教授)	
<b>事前・事後学修の内容</b>		⑩ <u>メディアとしての写真、</u> <u>芸術としての写真</u> 山口誠 (本学交流文化学科教授)	
授業で聞いたことを元に、自分でも関連テーマについて調べて、考えることが求められる。		⑪ <u>洞窟壁画とクロマニヨン人の社会</u> 五十嵐ジャンヌ (東京芸術大学非常勤講師)	
<b>受講生への要望</b>		⑫ <u>ゲームとしての芸術</u> 木村太陽 (美術家)	
毎回様々なジャンルで活躍しているゲストの方々のお話を聞きます。自分の視野を広げるために、積極的に質疑応答の際には参加して下さい。		⑬ <u>ブラハの春とジョゼフ・クーデルカ</u> 谷口亜沙子 (明治大学准教授)	
<b>評価方法</b>		⑭ <u>社会の芸術 社会の課題と芸術の関わり</u> 神野真吾 (千葉大学准教授)	
毎回授業で書くコメントペーパーと学期末の筆記試験で評価。第一回目のイントロダクションには必ず参加して、詳細を確認すること。		⑮ <u>総括</u> 青山愛香	
<b>テキスト</b>			
なし			
<b>参考文献</b>			
適宜授業中に指示する。			

(春)	全学総合講座 (社会を生き抜くセルフブランディング I)	担当者	有吉 秀樹
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。</p> <p><u>尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。</u></p>		<p>1. ガイダンスと受講上の注意</p> <p>2～14. 外部講師による講話</p> <p>15. 確認テスト</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。</p>			
<b>到達目標</b>			
<p>身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。</p>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<p>事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。</p>			
<b>受講生への要望</b>			
<p>学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は不可</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>講義への参加度 60%</p> <p>期末小テスト 40%</p> <p>を目安とする。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>有吉秀樹編著 『自分の「軸」を作る セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』 中央経済社 を使用する。受講決定者は必ず購入すること。</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>授業中に紹介する</p>			

(秋)	全学総合講座 (社会を生き抜くセルフブランディングⅡ)	担当者	有吉 秀樹
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。</p> <p><u>尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。</u></p>		<p>1. ガイダンスと受講上の注意</p> <p>2～14. 外部講師による講話</p> <p>15. 確認テスト</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。</p>			
<b>到達目標</b>			
<p>身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。</p>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<p>事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。</p>			
<b>受講生への要望</b>			
<p>学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は不可</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>講義への参加度 60%</p> <p>期末小テスト 40%</p> <p>を目安とする。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>有吉秀樹編著 『自分の「軸」を作る セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』 中央経済社 を使用する</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>授業中に紹介する</p>			

(春)	全学総合講座(働くための基礎知識—知って得する労働問題)	担当者	市原 博
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アベノミクスによる景気回復が声高に言われる中でも、雇用をめぐる状況は深刻なままである。雇用が増加したと言っても、増えたのはおもに非正規の人びとだし、最近では「ブラック企業」問題が注目を集めていることに象徴されるように、正社員の厳しい労働の在りかたへの不安から正社員への移行を希望しない非正規社員さえ出現してきていると言われる。</p> <p>こうした時代に生きて行く学生諸君には、雇用問題への正しい知識が必要不可欠である。本講義では、「働く」ことをめぐる様々な問題に多様な切り口から接近し、これからの産業社会で生きて行く若者に必要な知識を身につけてもらうとともに、雇用をめぐる問題が我々の生活にどのように係っているのかを考える。</p>		<p>以下のようなテーマを予定している。授業の順番は講師の先生の都合で決まるので、下記の順番は日程を示すものではないことに注意すること。具体的な日程は最初の授業時に提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 労働法の基礎知識 (1)</li> <li>3. 労働法の基礎知識 (2)</li> <li>4. 少子化対策を考える—共働き社会の課題</li> <li>5. 労使関係論 (1) 経営側からみて</li> <li>6. 労使関係論 (2) 労働側からみて</li> <li>7. 労使交渉と政策制度の取り組み—現場の経験から</li> <li>8. 公務員の世界</li> <li>9. 労働組合の一年</li> <li>10. 1 社会保障制度—高齢化社会を迎えて</li> <li>11. 労働安全衛生—メンタルヘルスを含む</li> <li>12. 『全契約社員の正社員化』はなぜ実現したのか—広島電鉄労働組合の事例</li> <li>13. ILOと労働CSR</li> <li>14. ブラック企業問題への対応</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>講義概要</b>			
<p>講義は毎回ゲストスピーカーを招き行うことにする。労働組合や経営者団体の関係者、弁護士、労働・社会保障研究者等、社会の各方面でご活躍の多様な第一級の講師の方々から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。</p>			
<b>到達目標</b>			
<p>身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。</p>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<p>労働問題に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見て、現在何が問題になっているかを自分なりに把握しておくこと。</p>			
<b>受講生への要望</b>			
<p>社会の各方面でご活躍の高名な先生方にお話いただくので私語は厳に慎み講師の方に失礼のないようにすること。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>原則としてレポートにより評価する (100%)。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>なし</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>各回の講義において紹介する。</p>			

(春) (秋)	全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)	担当者	岡村 国和
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、大学生活4年間を通じて人間形成をどのように考え、進めて行くかについて学ぶことにあります。1年次にその出発点を置き、4年間でどのように実現して行くかを計画することが大切です。</p> <p>獨協大学の建学の精神「大学とは、学問を通じての人間形成の場である」(天野貞祐先生)に基づいて、学問、部活、交友に、時にはアルバイトにと、メリハリのある大学生活を送っていただきたいと考えています。</p> <p>社会人は「決められた期間内で如何に目的を達成するか」を問われます。自分は大学生活の4年間で何が学べたのか? また何が達成できたのか? を胸を張って言えるようになっていただきたいのです。</p> <p>社会には本当にさまざまな就業環境があります。そこで、当面の目標としては、まず働くとは何か? からはじめ、さまざまな業界経験者の貴重な体験談を聞いて自分を深めていくことを目指します。</p>		<p>(春学期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 さまざまな進路を考える オリエンテーション</li> <li>2 1年生の今、すべきこと</li> <li>3 自己理解・自己表現</li> <li>4 企業で働く 企業が学生に求めるもの</li> <li>5 社会が求める人材とは</li> <li>6 マスコミの世界から見るキャンパスライフ</li> <li>7 男女共同参画</li> <li>8 公務員の仕事</li> <li>9 女性の社会進出 (海外で働く)</li> <li>10 若者に届けたい「いのちの大切さ」</li> <li>11 サービス業の世界 笑顔の大切さ</li> <li>12 考古学から読み取る人間形成</li> <li>13 話し方の大切さ (活躍する本学OBに聞く)</li> <li>14 これまでの総まとめ</li> <li>15 内定者の体験談</li> </ol>	
<b>講義概要</b>		<p>(秋学期)</p> <p>春学期の授業計画と内容はほぼ同じですが、順序が変わる場合があります。</p> <p>{注意}</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義は上記のスケジュールで進めて行く予定ですが、講師の先生方のご都合によっては回が前後する可能性があります。</li> <li>2 一部講義のテーマが変更になる可能性があります。</li> <li>3 講師の先生のご都合により、講師の先生が替わる場合があります。</li> </ol>	
<b>到達目標</b>		<p>以上 の点につきご理解下さい。</p>	
<p>身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。</p>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<p>自分は何がしたいのか? どうすれば夢が叶うのか? コミュニケーション能力とは何か? などを考えつつ講義に参加して下さい。</p>			
<b>受講生への要望</b>			
<p>外部の講師の先生をお招きしますので、獨協大学の学生としてのマナーを守って受講してください。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>授業への参加度 (50%)、および各講義のレポート (50%) で評価します。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>必要な資料などは各講義の時に配布します。</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>必要な資料などは各講義の時に配布します。</p>			

(秋)	全学総合講座 (メディア社会とロック)	担当者	岡村 圭子
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ロック」という文化をとおして、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話をお聴きなから、自分なりに(自分の問題関心に応じて)話題を展開して行ってほしい。たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽(Jポップやグループサウンズ)にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力についての議論が展開できるかもしれない。講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業があらたに見つかるかもしれない。この機会を十分に活かしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. メディアの発達とロックの進化1 ——ロック誕生の瞬間から現在まで プロデューサー・作詞家・ミュージシャン <u>サエキけんぞう</u></li> <li>3. メディアの発達とロックの進化2 ——ロックの変革者たち  同上</li> <li>4. アニメが飲み込むロック ——世界を席卷するアニメ文化のグローバル性 音楽評論家 <u>富田明宏</u></li> <li>5. Jポップ論 音楽評論家 <u>青木 優</u></li> <li>6. 日本のロック・海外進出史 サエキけんぞう</li> <li>7. ロックフェスティバル考 ——ロックが生み出す消費の現場 同上</li> <li>8. ロックカルチャーとファッション 同上</li> <li>9. ワールドクラブカルチャー論 音楽評論家 <u>サラーム海上</u></li> <li>10. テクノ音楽と世界 音楽評論家 <u>小暮秀夫</u></li> <li>11. グループサウンズ論 ——異形の和製ポップスがもたらしたもの 音楽評論家 <u>中村俊夫</u></li> <li>12. ロックとアイドル文化 ミュージシャン <u>掟ポルシェ</u></li> <li>13. ヒップホップ論 ミュージシャン <u>高木 完</u></li> <li>14. 越境する音楽 音楽評論家 <u>北中正和</u></li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>講義概要</b>			
<p>初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。</p> <p>講義の前半では、ロックについての基礎的な解説をし、後半は、日本における大衆音楽とメディアとの関係について、さらに、ロックとの関連からそれぞれのテーマについての各論を展開する。</p> <p>講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、経験・知識ともに豊富な方々ばかりである。なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるかもしれない。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで、積極的に質問をしてほしい。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
毎週、つぎの回までに観ておくべき映像や読んでおくべき資料を指示する。			
<b>受講生への要望</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って講義に参加できる学生を希望します。</li> <li>2) 初回オリエンテーションには必ず参加すること。</li> </ol>			
<b>評価方法</b>			
授業への積極性 (50%) 期末試験 (50%)			
<b>テキスト</b>			
サエキけんぞう『ロックとメディア社会』新泉社			
<b>参考文献</b>			
授業内で指示する		<p>！注意！ 上記の順番は、講師の都合により前後することがあります。</p>	

(春)	全学総合講座(教えるという仕事)	担当者	川村 肇
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどのような問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。</p> <p>また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。</p>		<p>1 ガイダンス テレビ東京制作「星空の中学生とともに」</p> <p>2 松崎運之助（元夜間中学教諭） 「学ぶとは何か 夜間中学校を中心に」</p> <p>3 白鳥勲（さいたま教育文化研究所） 「貧困社会の教育（1）子どもを支える」</p> <p>4 窪岡文男（テレビ・ディレクター） 「貧困社会の教育（2）奨学金を考える」</p> <p>5 岩田彦太郎（中学校教諭） 「教師の仕事 教師の労働実態」</p> <p>6 宮下与兵衛（首都大学東京特任教授） 「生徒の学校参加と主権者教育」</p> <p>7 嶋村純子（中学校教諭） 「中学校の生活指導」</p> <p>8 関口武（小学校教諭） 「小学校の生活指導 一年間の実践構想」</p> <p>9 山城和美（中学校教諭） 「中学校の教科指導（1）英語を教える」</p> <p>10 小堀俊夫（元中学校教諭） 「中学校の教科指導（2）社会科を教える」</p> <p>11 森達（宮城県元中学校教諭） 「大震災と教育 復興の現状と学校の課題」</p> <p>12 奈須恵子（立教大学教授） 「多文化教育と学校」</p> <p>13 中村悌一（さいたま教育文化研究所） 「中学校の生活指導 いじめと不登校」</p> <p>14 間中崇史（特別支援学校教諭） 「支援を必要とする子どもたちとともに」</p> <p>15 川村 「講義のまとめ」</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。</p> <p>お招きするのは、埼玉県内外の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生、総勢12名の先生方を予定しています。</p> <p>それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話いただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。</p> <p>みなさんが教育や社会の問題を考える素材を提供する科目にしたいと考えています。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
テキストを読んで自分の考えをまとめておいてください。			
<b>受講生への要望</b>			
教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎します。			
<b>評価方法</b>			
毎回の授業レポート（学んだこと、20行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4判用紙で3～4枚）と併せて評価します。			
<b>テキスト</b>			
高橋陽一編『新しい生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版部）。その他、配布プリント類によります。			
<b>参考文献</b>			
適宜紹介します。			

(秋)	全学総合講座(メディアと私たち)	担当者	川村 肇
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディアは急速な発展を遂げる一方、メディアに対する政治的な圧力が強まっていることが伝えられています。</p> <p>そうした中で、私たちはメディアとどう向き合えばいいのでしょうか。また、ソーシャルメディアの発達によって、情報を発信する側にもいる私たちは、どのようにそれを用いていけばいいのでしょうか。</p> <p>本講義では、メディアと関わりの深いゲスト・ティーチャーにメディアの現場と仕事の実情について語ってもらい、メディアに関する考えを深めていくことを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 新聞論説委員（本学非常勤講師／東京新聞・半田滋） 「自衛隊の「軍隊」化が呼び込む報道統制」</li> <li>3. 元テレビディレクター（元 NHK・永田浩三） 「テレビメディアと政治権力」</li> <li>4. テレビアナウンサー（日テレ・井田由美） 「女性アナウンサーの仕事の変遷」</li> <li>5. 元テレビディレクター（元日テレ・窪岡文男） 「ドキュメンタリー番組がみた日米関係」</li> </ol>	
<b>講義概要</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>6. テレビディレクター（日テレ・清水潔） 「戦争と報道」</li> <li>7. 新聞記者（朝日新聞・河原理子） 「取材するということ」</li> <li>8. 新聞記者（東京新聞・片山夏子） 「伝えるということ」</li> <li>9. 映像クリエイター（笠原衛） 「ひとの目とカメラの目」</li> <li>10. 雑誌記者（アエラ・渡辺豪） 「沖縄の基地問題を本土から考える」</li> </ol>	
<b>到達目標</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 映画監督（綿井健陽） 「戦争とメディア 戦地をどのように報じるか」</li> </ol>	
<b>事前・事後学修の内容</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 憲法学者（本学名誉教授・右崎正博） 「放送法と放送倫理」</li> </ol>	
講師が紹介する文献や資料を自主的に集めて読み進めてください。		<ol style="list-style-type: none"> <li>13. 講義のまとめ (1)</li> </ol>	
<b>受講生への要望</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>14. 講義のまとめ (2)</li> <li>15. 講義のまとめ (3)</li> </ol>	
<b>評価方法</b>		*講義の順序は変更になることがあります。	
毎回提出する授業レポート用紙の記述内容と、最終レポートにより総合的に判断します。			
<b>テキスト</b>			
なし			
<b>参考文献</b>			
授業中に適宜紹介される文献など。			

(秋)	全学総合講座（企業の社会的責任と企業活動）	担当者	高橋 均
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. 学修を通じた獲得目標</p> <p>(1) 企業の社会的責任の意義の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業が社会的責任を果たす意義は何か、具体的な企業活動の状況を通じて、理解を深めること</li> </ul> <p>(2) 企業活動の実態認識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業風土や企業活動の方針等は、業種・業態によって様々であることを認識すること</li> </ul> <p>2. 質疑応答を通じたインプットとアウトプット</p> <p>(1) 講演内容に課題意識を持って聞く能力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各回の講演内容について、課題意識を持って、集中して聴講する習慣を身に付けること</li> </ul> <p>(2) 疑問に感じたことを表現する能力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演内容について質問や確認事項があった場合に、適切に発言できること</li> </ul>		<p>第1回 イン트로ダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方、注意点、評価の仕方等</li> </ul> <p>第2回 テレビはまだ面白い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その裏側と本当の魅力</li> </ul> <p>第3回 ブラック企業とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業での働き方と労働者の権利を正しく知ろう</li> </ul> <p>第4回 企業の不祥事対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>信頼のV字回復のための意識と行動</li> </ul> <p>第5回 総合重機メーカーにおける多様な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロケットから環境ビジネスまで</li> </ul> <p>第6回 住宅ローン保証事業と地域社会の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の夢の実現のための最高の商品とサービス提供</li> </ul> <p>第7回 総合商社における企業法務の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業法務によるリスクマネジメント</li> </ul> <p>第8回 生活協同組合のDNAと社会的役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会への具体的な貢献</li> </ul> <p>第9回 海外大型プロジェクトのリスクと国際エンジニアリング会社の挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発展途上国の産業の近代化とインフラ整備のために</li> </ul> <p>第10回 日本企業のグローバル化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事経験から見えてきたこと</li> </ul> <p>第11回 公認会計士の職業とその魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公認会計士仕事と企業とのかかわり</li> </ul> <p>第12回 自動車産業における地球環境への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境にやさしい車づくり</li> </ul> <p>第13回 遺伝子組替作物の製造物企業の法的問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術の進歩にともなうリスク</li> </ul> <p>第14回 企業の社会的責任の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業の社会的責任を果たすことの意義について考える</li> </ul> <p>第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各講演者の講演から学んだこと</li> </ul>	
<b>講義概要</b>			
<p>1. 現役の役員・上級管理職による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マスコミ、金融、総合商社、製造業、人材派遣業、弁護士事務所、監査法人等に勤務中、若しくは関係していた現役の役員、上級管理職、弁護士、公認会計士により、企業の社会的責任を念頭に、実務体験（苦労したこと、やりがいを感じたこと等）も交えて講演をさせていただきます。</li> <li>若手企業担当者による企業説明会とは異なった視点の講演を通じて、将来の職業選択や業界選択の一助になると考えます。</li> </ul> <p>2. 質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有益な機会ですので、約70分強の講演の後、講演者と質疑の時間を取ります。積極的な学生諸君の参加を期待しています。</li> </ul>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
講演者の業界や企業について、事前にインターネットや業界紹介の書籍等でおおよその認識をしたり、事後に興味を湧いた場合に、より深く研究すると有益です。			
<b>受講生への要望</b>			
獨協大学の学生として相応しい態度で授業に参加すること。遅刻・早退は厳禁とします。			
<b>評価方法</b>			
① 毎回出席をとる予定（外部講演者の講演中、9回以上の出席が単位認定の条件）			
② 期末試験 100点			
③ 講演者に、教室で直接質問した学生は加点する。			
<b>テキスト</b>			
講演者の方から、必要に応じてプリントの配付や参考文献の紹介があります。			
<b>参考文献</b>			
企業法学会編『企業責任と法～企業の社会的責任と法の役割・在り方』文真堂（2015年）		注. 下記は、あくまで予定であり、講演者が直近の内容を織り込む等の理由で、変更もあり得ます。最終的には、初回のイントロダクションの際に連絡します。	

(春)	全学総合講座 (NPO 論 人を変える・地域を変える・世界を変える)	担当者	高松 和幸
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義では、NPO などを通じての企業の社会貢献や NPO 活動に関する、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。</p> <p>解題:「疲弊した地域を取り巻く環境は厳しくなるばかりで、その地域のために、今こそ、企業・行政・市民が共働して、課題解決をしなければならない」</p> <p>そこで企業独自の視点やNPO独自の展開などを、公共的な空間(場)に根ざしたものとして行政も含めて市民社会の一員として、地域に責任を持つ時代に入った。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 高松和幸</li> <li>2. テーマ:企業連携のソーシャルプロジェクトを企画して東北復興を支援する復興支援プロジェクト 「道のカフェ」プロデューサー ベルベット・アンド・カンパニーLLC代表 谷中修吾</li> <li>3. テーマ:地域資源を活用! NPO 法人 a t a m i s t a 代表理事 市来広一郎</li> <li>4. テーマ:自治体政策の独自開発 一般財団法人 武蔵野市開発公社 理事長 小森岳史</li> <li>5. テーマ:防災分野で社会に、そして世界に挑む NPO 法人プラス・アーツ 東京事務所 チーフ 小倉文佳</li> </ol>	
<b>講義概要</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>6. テーマ:環境NPOとソーシャルビジネス 地球環境パートナーシッププラザ 平田裕之</li> <li>7. テーマ:異彩を放つ小さな町からのメッセージ NPO 法人オペラ彩 理事長 和田タカ子</li> <li>8. テーマ:NPO と企業 一般財団法人 CSO ネットワーク 事務局長 黒田かをり</li> <li>9. テーマ:ふじみの国際文化センターの活動 ふじみの国際交流センター 理事長 石井ナナエ</li> <li>10. テーマ:ソーシャル・イノベーション ㈱コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ 代表取締役 長本 光</li> </ol>	
<p>ドロッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてNPOに注目して、その運営におけるミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といったマネジメントの必要性を主張した。</p> <p>その背景には、もはや寄付に頼るだけでは活動できない先進国のNPOが直面する危機があった。NPOが生き残るためには、企業や地域に働きかけ、これまで以上に課題解決に情熱を傾ける必要がある。</p> <p>こうした課題を、様々な活動を通しての接点としてみることで、これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>11. テーマ:ノーベル賞受賞者との出会いが、私の人生を変えた もったいない kids 植林プロジェクト 代表理事 伊藤恵里子</li> <li>12. テーマ:カート缶による 森を育む紙製飲料容器普及協議会事務局長 世木田大介</li> <li>13. テーマ:社会的企業 NPO 法人 とよあしはら 事務局長 山本裕隆</li> <li>14. テーマ:自治体図書館の再生 前東京都小平市副市長 昼間守仁</li> <li>15. テーマ:NPO と企業の協働はどこまで進んだか NPO 法人 パートナーシップ・サポートセンター 代表 岸田眞代</li> </ol>	
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
事前:社会貢献に関する一般知識 事後:NPOなどで活躍できる人材			
<b>受講生への要望</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。</li> <li>・遅刻は認めない。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
平常点 70%、レポート 20%、授業への貢献度 10%			
<b>テキスト</b>			
その都度、指示する。			
<b>参考文献</b>			
その都度、指示する。		上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。	

(秋)	全学総合講座（地域活性化システム論—これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松 和幸
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、地域活性化をキーワードに、地域の活性化とまちづくりなどを制度や人的、社会諸資源から取上げる。地域活性化システム論では、地域やまちの置かれている状況やそのまちが持っている潜在力とは何かについて考え、様々な取組事例を紹介する。また講義では、比較的簡単な説明と同時に、各市町村の創意工夫にあふれた取組みが、どのように地域特性となるかも垣間見ることになる。それをシステム論という意味で共通土壌に載せ、それぞれの地域が相対化されることで、その枠組みを利用しての地域活性化の一般化が期待されている。</p> <p>本講義では、こうした取組みについて講師を招いて開催する。わが国の地域活性化の方向が学ぶ唯一の授業である。</p>		<p>1. ガイダンス 高松和幸</p> <p>2. 良好な市街地形成を誘導するシステム 横浜市立大学国際総合科学部 国際都市学系 准教授 中西正彦</p> <p>3. 震災復興とまちづくり（仮題） 柴田いつみ SKM 設計計画事務所 共同代表</p> <p>4. やる気を起こせば必ず奇跡は起きる 行政に頼らない村おこし 豊重哲郎 鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館館長</p> <p>5. 地域活性化の動向 木村俊昭 元農林水産省大臣官房政策課 企画官</p> <p>6. 世界の食料事情と環境の関係 末松広行 林野庁林政部長</p> <p>7. 地域プロデューサーがつくる地域ブランド 廣川州伸 日本作家協会事務局長</p> <p>8. 安全・安心なまちづくり NPO と被災地の関係性 横浜市立大学国際総合科学部 国際都市学系 准教授 石川永子</p> <p>9. 観光と地域活性 綿石隆人 (株)JTB 法人東京 本社マーケティング部 部長</p> <p>10. 私自身が活性化するために (株)ヌールエ 代表取締役 筒井一郎</p> <p>11. 持続的に地域に関わり地域の持続性を高めるといこと 竹本吉輝 株式会社トビムシ 代表取締役</p> <p>12. ローカル線は心の栄養剤 鳥塚 亮 いすみ鉄道(株) 代表取締役社長</p> <p>13. 都市の超高齢者と地方の健康資源を結ぶ介護旅行システム 篠塚恭一 NPO法人 日本トラベルヘルパー協会 理事長</p> <p>14. 地域の誇り・愛着を醸成・発信する 横浜市立大学国際総合科学部 国際都市学系 まちづくりコース コース長/教授 鈴木伸治</p> <p>15. 関東大震災の教訓 北原糸子 日本史学者 日本の災害研究者</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>この科目は内閣府等の協力を得て実現したものである。また具体的な施策や事例などを、例示しながら講義する。</p> <p>個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが、わが国の地域活性化の最先端の問題を中心に、テーマ設定を行っている。</p> <p>この結果、地域の中で起きている様々な事例を通して、地域の実情が理解できると共に、地域の課題についての新たな認識と共に、自分が住んでいる地域や将来住むかもしれない地域の可能性に関して、示唆に富んだ内容が展開される。</p> <p>この講義を通じて、地域で求められる人材に関する具体的な問題意識を得ることができるであろう。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
事前：地域での出来事の一般知識 事後：地域活性によって求められる人材			
<b>受講生への要望</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。</li> <li>遅刻は認めない。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
平常点 70%、レポート 20%、授業への貢献度 10%			
<b>テキスト</b>			
その都度、指示する。			
<b>参考文献</b>			
その都度、指示する。		上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。	

(秋)	情報社会とルール	担当者	多賀谷 一照
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
インターネットの普及、スマートフォンなどにより、今後の社会活動が物理的空間から情報空間に移っていく過程において、対面関係を前提としてきた社会ルールがどう変容していくか、新たな情報空間上の社会関係をどう形作っていったらよいかについて、学生諸君に問題意識を持ってもらうことを目標とする。		第1回 総説 第2回 情報社会と違法有害通信 第3回 ウイキリークス、盗聴 第4回 情報セキュリティと暗号システム 第5回 情報社会とルール、倫理 第6回 - 第7回 通信システムと情報社会 第8回 電波と情報空間 第9回 放送と情報社会 第10回 AI 第11回 ビッグデータ 第12回 5G とドローン、自動走行車 第13回 著作権と情報 第14回 個人情報保護 第15回 まとめ	
<b>講義概要</b>			
情報社会、情報空間について、インターネットや光ファイバーによるブロードバンドサービスによって、既存の通信・放送にかかるルールがどう変容したか、暗号技術などにより新たなルールをどう作っていくか。それぞれの分野の専門家により、オムニバス方式で講義してもらう。(講義の順番、内容について若干の変更の可能性ある)			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探究できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
インターネットやメディアで関連する話題を注視させる。			
<b>受講生への要望</b>			
自分がラインなどでネットアクセスしている場合のあり様と対比してください。			
<b>評価方法</b>			
講義全体の中で、3回程度レポート提出を求める。			
<b>テキスト</b>			
毎回、レジメを原則配布します。			
<b>参考文献</b>			

(春)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 1）	担当者	上坂 卓郎
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。</p> <p>講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。</p> <p>なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。</p> <p>春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。</p>		<p>第1回 会社の仕組みと株式会社</p> <p>第2回 医薬品事業の特色</p> <p>第3回 家庭用品メーカー 花王の成長戦略</p> <p>第4回 食品業界の動向と今後の戦略</p> <p>第5回 住宅産業とリノベーション事業</p> <p>第6回 地方銀行ビジネスの現状と課題</p> <p>第7回 損保・生保のビジネスの現状と課題</p> <p>第8回 物流における事業化</p> <p>第9回 リースと不動産ビジネスの概要</p> <p>第10回 日本のツーリズムビジネス</p> <p>第11回 出版業界の最近の動向</p> <p>第12回 広告業界の動向</p> <p>第13回 コンビニ業界の成長と今後の課題</p> <p>第14回 情報サービス産業の雄 リクルートの成長の仕組み</p> <p>第15回 通信・IT ビジネスの新展開</p> <p>※開講日程、内容は若干変更の可能性がある。</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。</p> <p>概ね1年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。</p> <p>毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。</p> <p>講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。			
<b>受講生への要望</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。</li> <li>授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う4年生は注意すること。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
定期試験のみで行う（100%）。当然のことだが欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。最初の一回、二回目の授業で配布する注意事項を良く読むこと。			
<b>テキスト</b>			
講義の中でハンドアウトを配布する			
<b>参考文献</b>			
講義の中でハンドアウトを配布する			

(秋)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 2）	担当者	上坂 卓郎
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。</p> <p>講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。</p> <p>なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。</p> <p>春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。</p>		<p>第1回 産業構造変革と企業の盛衰</p> <p>第2回 化成品産業におけるビジネス創造</p> <p>第3回 自動車と部品産業の構造変化</p> <p>第4回 自動車の技術革新の行方</p> <p>第5回 百貨店の未来</p> <p>第6回 新素材ビジネスの展開</p> <p>第7回 生命科学と再生医療ビジネス</p> <p>第8回 世界の食糧の現状と課題</p> <p>第9回 飲料業界の商品開発戦略</p> <p>第10回 IT社会とリスクマネジメント</p> <p>第11回 総合商社ビジネスの実際</p> <p>第12回 環境ビジネス</p> <p>第13回 電力業の現状と未来</p> <p>第14回 ホテル・リゾートビジネス</p> <p>第15回 都市銀行と金融関連ビジネス</p> <p>※開講日程、内容は若干変更の可能性がある。</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。</p> <p>概ね1年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。</p> <p>毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。</p> <p>講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。			
<b>受講生への要望</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。</li> <li>授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う4年生は注意すること。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
定期試験のみで行う（100%）。当然のことだが欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。最初の一回、二回目の授業で配布する注意事項を良く読むこと。			
<b>テキスト</b>			
講義の中でハンドアウトを配布する			
<b>参考文献</b>			
講義の中でハンドアウトを配布する			

(春)	全学総合講座 (環境学1) (環境基礎学－自然を見つめる)	担当者	中村 健治
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>20世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホール拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、自然環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。</p> <p>本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境とは何か</li> <li>2. 人類と環境 (1)</li> <li>3. 人類と環境 (2)</li> <li>4. 地域と気候変化</li> <li>5. 地球温暖化</li> <li>6. 気候と雨 (1)</li> <li>7. 気候と雨 (2)</li> <li>8. 水循環と植生 (1)</li> <li>9. 水循環と植生 (2)</li> <li>10. モンスーンアジアの人と自然 (1)</li> <li>11. モンスーンアジアの人と自然 (2)</li> <li>12. モンスーンアジアの人と自然 (3)</li> <li>13. 人類と環境</li> <li>14. 地球環境の観測</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>講義概要</b>			
<p>春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について講義する。</p> <p>本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識できるようにする。			
<b>受講生への要望</b>			
環境は、学際的に扱うべきテーマである。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。			
<b>評価方法</b>			
定期試験(70%)と授業参加度(30%)を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する			
<b>テキスト</b>			
特に無し。			
<b>参考文献</b>			
浜本光紹監修、獨協大学環境共生研究所編、『環境学への誘い』(創成社、2016年)			

(秋)	全学総合講座 (環境学2)(環境応用学-環境と社会)	担当者	中村 健治
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>20世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、自然環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。</p> <p>本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 地球・地域環境問題の諸相 (1) 環境と人間</li> <li>3. 地球・地域環境問題の諸相 (2) 人口と食糧問題</li> <li>4. 地球・地域環境問題の諸相 (3) エネルギー問題</li> <li>5. 地球・地域環境問題の対応 (4) 環境経済・政策 (1)</li> <li>6. 地球・地域環境問題の対応 (5) 環境経済・政策 (2)</li> <li>7. 地球・地域環境問題への対応 環境と法 (1)</li> <li>8. 地球・地域環境問題への対応 環境と法 (2)</li> <li>9. 地球・地域環境問題への対応 環境教育 (1)</li> <li>10. 地球・地域環境問題への対応 環境教育 (2)</li> <li>11. 地球・地域環境問題への取り組み (1)</li> <li>12. 地球・地域環境問題への取り組み (2)</li> <li>13. 地球・地域環境問題への取り組み (3)</li> <li>14. 地球・地域環境問題への取り組み (4)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>講義概要</b>			
<p>秋学期は「人間社会の環境問題への対応」を中心に講義する。</p> <p>本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほか担当する。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識できるようにする。			
<b>受講生への要望</b>			
環境は、学際的に扱うべきテーマである。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。			
<b>評価方法</b>			
定期試験(70%)と授業参加度(30%)を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。			
<b>テキスト</b>			
特に無し。			
<b>参考文献</b>			
浜本光昭監修、獨協大学環境共生研究所編、『環境学への誘い』(創成社、2016年)			

(春)	全学総合講座（大学における教養教育）	担当者	野澤 聡
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>様々な立場で活躍されている方々から、教養や教養教育について、多様な視点を提示していただくことによって</p> <p>(1) 多様な視点の中で、受講生が自分の考えを自覚し、自分と異なる考えが存在していることに気付く</p> <p>(2) 各自にとっての教養や教養教育に向かう姿勢を主体的に選ぶ</p> <p>(3) 人文社会科学系の大学である獨協大学で、自然科学系の知識を学ぶことの意味を考えることを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODクシヨ、教養とは、教養教育とは</li> <li>2. 現場から見た教養—カルト教団の事例</li> <li>3. 方言が映し出す自然観</li> <li>4. 人生における大学と教養</li> <li>5. 科学技術政策から見た大学における教養教育</li> <li>6. マスメディアから見た大学における教養教育</li> <li>7. 教養教育の歴史と多様性</li> <li>8. 文系と理系のあいだ</li> <li>9. 人工知能と社会</li> <li>10. あなたは10年後どのように働きたいか—人工知能と働き方</li> <li>11. プライバシーを読みとく教養</li> <li>12. 教養としての文学</li> <li>13. 生命に向き合う教養とは</li> <li>14. 地球儀を俯瞰して考える—世界の中の日本</li> <li>15. 教養を問う意味—大学で学ぶということ</li> </ol> <p>（登壇者の都合により、テーマや回数を変更することがある）</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>大学の教養教育にはどんな意義があるのだろうか。現在の大学は、地球規模で生じている大きな変化の真ただ中にあり、大学における教養教育に対しても、その意義を問い直す声が高まっている。とくに、専門教育や卒業後の仕事と直接関係ないように見える教養教育に対しては、しばしば不要論も唱えられている。他方、社会がますます複雑化すると同時に、専門分野が著しく細分化されている現在では、狭い意味での専門分野だけを学んでいたのでは不十分であることは明らかである。では、現在にふさわしい教養あるいは教養教育とはどのようなものであろうか。</p> <p>この講義では、本学や他大学の大学教員だけでなく、高校教員、書籍編集者、小説家、ジャーナリスト、行政官、ビジネスマンなど、様々な立場で活躍されている方に登壇していただき、ご自身の生き方と関連付けて、教養や教養教育のあるべき姿や現状の問題点についてお話していただく。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
授業報告に向けて各自で文献調査をおこない、執筆を進める。			
<b>受講生への要望</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は静粛に受けること。（悪質な場合は退席を命じることがある）</li> <li>・特別な理由なく30分以上中座した場合は欠席と見なす。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末に提出する授業報告（レポート）（約70%）と獨協大学レポート用紙の記述（約30%）により評価する。</li> <li>・詳細については、第1回の授業で説明する。</li> </ul>			
<b>テキスト</b>			
なし。			
<b>参考文献</b>			
【全般的な参考文献】村上陽一郎『あらためて教養とは』新潮文庫、2009年			

(秋)	全学総合講座 (社会の中の科学)	担当者	野澤 聡
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>科学技術が社会の中で作動するためには、様々な立場の人々の協働が不可欠である。とくに近年では、いわゆる人文・社会科学的な知見を科学技術に活かそうとする試みが注目されている。つまり、社会の中で科学技術を活かすためには、狭い意味での科学技術の専門家だけでは不十分なであり、人文・社会科学の知見をもった人々との協働が強く望まれるようになりつつあるのだ。</p> <p>この授業では、科学技術が社会の中で育まれており、つねに変化し続けているということ、様々な具体的な事例を通じて紹介することによって、受講生諸君が科学技術に興味関心をもってもらうことを目標とする。受講生一人ひとりが学びつつある専門と、科学技術とをどのように関係付け、生かしていくのかを考えるきっかけを提供する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、社会の中で科学を考える</li> <li>2. アジアと遺伝子 遺伝子検査をめぐる意識と社会的諸課題</li> <li>3. 企業における研究開発と製品開発における消費者の役割</li> <li>4. ICT 政策と社会—5G 通信の事例から考える</li> <li>5. 人工知能と社会</li> <li>6. 科学・技術・産業と知的財産—基礎的事項と役割</li> <li>7. 医療における市民の役割について (上) 地域の課題を知ろう</li> <li>8. 医療における市民の役割について (下) 患者・住民の政策決定への参画</li> <li>9. 信仰と学問</li> <li>10. 歴史の中の科学と社会—進化論を巡る論争を例に</li> <li>11. 文学と科学技術</li> <li>12. 出版と科学技術</li> <li>13. 環境と科学技術</li> <li>14. 緩和医療とは何か</li> <li>15. 科学技術と人間</li> </ol>	
<b>講義概要</b>			
<p>様々な分野で科学技術に関わっている人たちに登壇していただき、どのような科学技術に、どのような形で関わっているか、また、科学技術の希望と問題がどのようなところにあると考えているかをお話していただく。</p> <p>高校までの授業や、大学での日々の勉強とは違った話題に触れることによって、様々な発見や共感や疑問を抱くことができるだろう。 なお、各回の内容は変更することがある。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。		(登壇者の都合により、テーマや回数を変更することがある)	
<b>事前・事後学修の内容</b>			
授業報告に向けて各自で文献調査をおこない、執筆を進める。			
<b>受講生への要望</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は静粛に受けること。 (悪質な場合は退席を命じることがある)</li> <li>・特別な理由なく 30 分以上中座した場合は欠席と見なす。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回提出する獨協大学レポート用紙の記述 (約 30%) と、学期末に提出する授業報告 (レポート) (約 70%) により評価する。</li> <li>・詳細については、第 1 回の授業で説明する。</li> </ul>			
<b>テキスト</b>			
なし。			
<b>参考文献</b>			
【全般的な参考文献】中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年			

(春)	全学総合講座(獨協学)	担当者	浅山 佳郎
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「獨協」という名詞は、「ドイツ (獨逸) 学協会」の略称である。そしてその名詞をタイトルとするこの「獨協学」の授業は、学生諸君がそこで学ぶ獨協大学に冠せられたこの名詞が持つ多様な概念をトピックとしてとりあげ、日本、ドイツ、国際、外国語、近代、教育、学問、大学という相当抽象的な問題を、自分と大学について思考するための方途としてみようという目的の授業である。</p> <p>なお、「獨協学」という耳慣れない名称は、担当者の私見では、決して獨協学園全体が「学」と呼称できるような何かを統一的に持っているわけではないので、あくまで「獨協」をトピックとするための「言い回し」に過ぎないと考える。</p> <p>いずれにしろ、「外国語に秀でた国際的な大学」という印象を持たれる本学で学ぶことを、ドイツ学と日本と獨協という切り口で考えてみるための講座である。</p>		<p>第1回 4月9日 「獨協学」というトピックの意味</p> <p>第2回 4月16日 ヨーロッパにおけるドイツ 講師；伊豆田俊輔 ドイツ語学科講師</p> <p>第3回 4月23日 ドイツの学問と大学 講師；黒田多美子 獨協大学名誉教授</p> <p>第4回 5月7日 ドイツ語の特性とドイツ語学習 講師；金井満 ドイツ語学科教授</p> <p>第5回 5月14日 ドイツというプレゼンスのまとめ 講師；浅山佳郎 (担当者)</p> <p>第6回 5月21日 近代とはどういう時代か 講師；佐藤元氏 (17年度言語文化学科卒業生)</p> <p>第7回 5月28日 ドイツ学の受容 講師；矢羽々崇 ドイツ語学科教授</p> <p>第8回 6月4日 草創期の獨逸学協会学校 講師；未定</p> <p>第9回 6月11日 ドイツから見た日本 講師；A.ヴェルナー ドイツ語学科教授</p> <p>第10回 6月18日 日本とドイツのまとめ 講師；浅山佳郎 (担当者)</p> <p>第11回 6月25日 20世紀のドイツと獨協 講師；福永文夫 総合政策学科教授</p> <p>第12回 7月2日 天野貞祐とドイツ哲学 講師；未定</p> <p>第13回 7月9日 外から見た獨協 講師；高橋輝暁 立教大学名誉教授</p> <p>第14回 7月16日 獨協学園とドイツ学についてのまとめ 講師；浅山佳郎 (担当者)</p> <p>第15回 7月23日 再度「獨協学」というトピックの意味</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>全15回の授業のうち、10回程度については、本学のさまざまな学部で教鞭を執っている、あるいは本学とさまざまに関係する教員や専門家に出講してもらい、それぞれの課題について、単独の講義形式または担当者との対談形式で授業を行う。この講義または対談はおおよそ45分から60分をめやすとし、その後質疑応答を行う。</p> <p>各回の授業の最後には、講師から提示される課題について、簡単な授業内レポート(リアクションペーパー)を書くことが求められる。</p> <p>3回または4回ごとに、小さなまとめの授業が設定されているが、ここではその前の回までに提出された授業内レポートから、興味深いものを選び出し、それを書いた履修者とともに議論によって、内容の深化をはかる。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
授業内容をまとめるとともに、他の履修者からの質問を考えることで復習すること。また、自分で書いた授業内レポートについて、議論を深化させておくこと。			
<b>受講生への要望</b>			
問題を発見し、考えるという姿勢を求めたい。			
<b>評価方法</b>			
毎回の授業中の小レポート 30%			
授業参加への積極性 30%			
期末レポート 40%			
<b>テキスト</b>			
特に指定しない。			
<b>参考文献</b>			
特に指定しないが、各回の講師によって授業中に指示がある。			

(春)	全学総合講座 (スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える)	担当者	松原 裕
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>大学生になり、これからどのようにして人間形成をしていくのか？大学時代は人間形成ということが学習のテーマの中心になります。</p> <p>その手段のひとつとして「スポーツ」というものがあります。しかし、ここで言う「スポーツ」は日常生活からの気晴らしから戦争までを含みます。</p> <p>チャンピオンスポーツだけでなく、健康や世界といった言葉もキーワードです。</p> <p>視点を変えることで今後の生活や将来の生き方を各自が考え発見していくことへの知的刺激が目的です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・ゲスト一覧紹介・ゲスト講義</li> <li>2. ゲスト講義・カード配布</li> <li>3. ゲスト講義・カード配布</li> <li>4. ゲスト講義</li> <li>5. ゲスト講義</li> <li>6. ゲスト講義</li> <li>7. ゲスト講義</li> <li>8. ゲスト講義</li> <li>9. ゲスト講義</li> <li>10. ゲスト講義</li> <li>11. ゲスト講義</li> <li>12. ゲスト講義</li> <li>13. ゲスト講義</li> <li>14. ゲスト講義</li> <li>15. ゲスト講義・最終レポート課題配布</li> </ol>	
<b>講義概要</b>			
<p>毎回ゲストを招いてその講義を受ける形式になります。</p> <p>毎回200字程度、各自の考えをまとめて記述した用紙を提出してもらいます。</p>		<p>現段階では依頼中のため決定されていない。</p> <p>参考のため前年度のゲストは下記の通りですが、都合によりゲストは変更になります。</p>	
		<p>伊藤慧      サッカー・スポーツ指導者支援</p> <p>シギー吉田   ラグビー・フォトジャーナリスト</p> <p>渡辺律子      体操・学校教育</p> <p>松野隆史      サッカー・理学療法</p> <p>岩嶋孝夫      硬式テニス・スポーツ科学</p> <p>河原工        サッカー・スポーツフォートゥモロー</p> <p>黒田卓志      サッカー・競技運営</p> <p>田中重陽      軟式野球・スポーツ科学</p> <p>矢島鎗司      スキー・土木・情報科学</p> <p>中塚義実      サッカー・体育社会学</p> <p>中村孝        サッカー・アジアズブリッジ</p> <p>大場美代子   ボールルームダンス・教職</p> <p>白戸太朗      トライアスロン・スポーツ経営</p>	
<b>到達目標</b>			
<p>身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。</p>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<p>体調管理をしてベストコンディションで臨むこと。</p> <p>毎回の授業内容を纏めておくこと。</p>			
<b>受講生への要望</b>			
<p>顔と名前を一致させコミュニケーションをとるために配布したカードに顔写真と必要事項を記入して提出する。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>授業への参加度・授業で提出した記述内容 70%、最終レポート 30%を目安に総合して評価する。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>適宜紹介する。</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>適宜紹介する。</p>			

(秋)	全学総合講座（クオリティライフのための健康講座）	担当者	和田 智
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今日、健康を維持し、守ることは個人の幸福のためでもあります。社会的責任ともなっています。健康に関わる問題について、現状、将来の見通し、対策についての知識を獲得することは、良き社会人となるために必須のこととなります。</p> <p>本講義では、健康について多方面から考え、健康に関わるゲストの方々への報告を聞き、学習することにより、望ましい社会を形成するうえで必要な態度を形成することを目標とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 和田 智 コーディネーター</li> <li>2 QLと健康 獨協学園理事長</li> <li>3 日本人の疾病と死因の現状 獨協医科大学</li> <li>4 三大疾病とその対策 草加市保健センター</li> <li>5 アルコール・薬物依存の現状 草加市薬剤師会</li> <li>6 健康を創る食生活 獨協医科大学</li> <li>7 どのような運動が健康を創るのか 日本健康運動研究所</li> <li>8 精神疾患の増加の原因 草加市保健センター</li> <li>9 最新医療の現状 医療ジャーナリスト</li> <li>10 海外に行った時の医療 海外旅行傷害保険担当者</li> <li>11 生命の源「水」 草加市水道部</li> <li>12 健康保険の仕組みと現状 医療保険専門家</li> <li>13 健康日本21とはなにか 草加市保健センター</li> <li>14 終活を行う意味 終活普及協会講師</li> <li>15 まとめ 和田 智 コーディネーター</li> </ol>	
<b>講義概要</b>			
<p>学生の現在および将来にわたり最重要課題となる健康を守り、増進するための知識と健康にかかわる社会の仕組みについて考えるきっかけを提供するための講座とします。</p> <p>多方面から健康問題に関わっておられるゲストの方々からお話を伺います。</p> <p>google form を用いたライブアンケート、質問、意見をスマートフォンから入力できるように設置し、双方向授業に生かします。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
氾濫する健康情報を整理、分別しておくこと。日常生活でゲストから得た情報、考え方を十分役立てることができるよう心掛けること。			
<b>受講生への要望</b>			
質問、アンケート等で情報端末を利用します。場合により通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。			
<b>評価方法</b>			
授業レポート（30％）、学期末レポート（20％）、授業への取り組み姿勢（50％）により総合的に評価します。規定回数以上の出席、授業レポート提出が必要です。			
<b>テキスト</b>			
必要に応じて配布します。			
<b>参考文献</b>			
特になし。			

(秋)	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田 智
<b>講義目的</b>		<b>授業計画</b>	
<p>みなさんは自由時間の大切さに気づいているでしょうか。自由時間をどのように使っていますか。私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間の労働時間のための学習や活動が多かったのではないのでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちとそれを実践している人たちを紹介しします。</p> <p>「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目的にしています。</p> <p>春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。</p>		<p>1 オリエンテーション 「あなたの自由時間の現状」 和田 智 コーディネーター</p> <p>2 自由時間の達人① 「ライフスタイルとしての有機農業」 鈴木智久 どんちゃんファーム</p> <p>3 自由時間の達人② 「好きなことを続けるということ」 松元 恵 フリーダイバー</p> <p>4 自由時間の達人③ 「好きなことを続けるということ」 谷川育子 いくらサーカス主宰</p> <p>5 自由時間の達人④ 「私になぜ空を飛ぶようになったのか」 多胡光純 本学卒業生 エアフォトグラファー</p> <p>6 自由時間の達人⑤ 「生きることの証をもとめて」 服部 文祥 サバイバル登山家</p> <p>7 自由時間の達人⑥ 「好きなことを続けるということ」 ズッカーマン明子 パントマイムアーティスト</p> <p>8 自由時間の達人⑦ 「好きなことを続けるということ」 内堀晃太郎 本学卒業生 プロダンサー</p> <p>9 自由時間の達人⑧ 「高齢者のためのレジャー」 山崎律子 (株)余暇問題研究所代表取締役</p> <p>10 自由時間の達人⑨ 「好きなことを続けるということ」 麻生子八咫 本学卒業生 活弁士</p> <p>11 自由時間の達人⑩ 「好きなことを続けるということ」 水島結子 薩摩琵琶奏者</p> <p>12 自由時間の達人⑪ 「好きなことを続けるということ」 村山恵梨 プロボウラー</p> <p>13 自由時間の達人⑫ 「好きなことを続けるということ」 鈴木彰久 指揮者</p> <p>14 自由時間の達人⑬ 「好きなことを続けるということ」 田辺 鶴遊 講談師</p> <p>15 自由時間を「自由時間をレジャーとするために」 和田 智 獨協大学教授</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。</p> <p>第2回目の授業から、それぞれのゲストがどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。</p> <p>最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。</p>			
<b>到達目標</b>			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
労働、自由時間のあり方、それぞれの余暇活動について関心を持ち、毎回課される授業レポートに反映できるように調べておくこと。			
<b>受講生への要望</b>			
オンラインライブアンケートシステムを利用するので、スマホ等での入力にご協力ください。			
<b>評価方法</b>		講師の都合により、予定が変わることがあります。	
授業レポート（30%）、学期末レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（50%）により総合的に評価します。規定回数以上の出席、授業レポート提出が必要です。			
<b>テキスト</b>			
必要に応じて配布します。			
<b>参考文献</b>			
特になし。			

08年度以降	ことばと思想 1(日本語文法形態論)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的]</p> <p>日本語の文法のうち形態論から統語論の前半をとりあげる。形態論とは語の内部構造を決定する過程であり、統語論とは語の結合によって句構造を決定する過程である。講義では、日本語における語及び形態素の認定にはじまり、融合的な活用と派生、さらに自律的な結合である複合をあつかい、後半で文の基本構造と命題のパターンをとりあげる。</p> <p>[講義概要]</p> <p>授業は、反転式に準ずる方法をとる。履修者は、PORTAを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし、授業内でグループでその問題を議論する。授業後やはりPORTAを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め、次の授業で不明な点への質問をおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンスと文法論概説</li> <li>2. 単語</li> <li>3. 品詞</li> <li>4. 形態素</li> <li>5. 語構成</li> <li>6. 複合</li> <li>7. 活用</li> <li>8. 前半のまとめ</li> <li>9. 二次語幹</li> <li>10. テ形からの拡大</li> <li>11. 自動詞と他動詞</li> <li>12. 名詞の文法カテゴリ</li> <li>13. 単文の構造</li> <li>14. 命題のパターン</li> <li>15. 後半のまとめ</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	PORTA で配布される問題への解答を用意し、テキストを読了するとともに、質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3~4 時間の学習が予想される。		
テキスト	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
参考文献	鈴木孝明(2015)『日本語文法ファイル』くろしお出版		
評価方法	授業内小テスト(40%) 2回のレポート(40%) 授業活動の積極性(20%)		

08年度以降	ことばと思想 1(日本語文法統語論)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的]</p> <p>日本語の文法のうち統語論の後半と談話論をとりあげる。統語論とは語から文をくみだてるときの、語順に関する構造を決定する過程のことであり、談話論は発話された複数の文間の関係によって決定される過程のことである。春学期の文法論 I もふくめて、日本語教育により適合する意味論的な文法を中心とする。</p> <p>[講義概要]</p> <p>授業は、反転式に準ずる方法をとる。履修者は、PORTAを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし、授業内でグループでその問題を議論する。授業後やはりPORTAを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め、次の授業で不明な点への質問をおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンスおよび統語論と談話論概説</li> <li>2. 付加詞および修飾</li> <li>3. VAT</li> <li>4. モダリティ</li> <li>5. 否定と疑問</li> <li>6. 複文</li> <li>7. 前半のまとめ</li> <li>8. 指示と省略</li> <li>9. 主題</li> <li>10. 語順と談話</li> <li>11. 動詞範疇と談話</li> <li>12. 談話の構造(1)~会話</li> <li>13. 談話の構造(2)~文章</li> <li>14. 開始と終了、応答と問投</li> <li>15. 後半のまとめ</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	PORTA で配布される問題への解答を用意し、テキストを読了するとともに、質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3~4 時間の学習が予想される。		
テキスト	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
参考文献	Th.R.Hofmann(1986)『10日間意味旅行』くろしお出版		
評価方法	授業内小テスト(40%) 2回のレポート(40%) 授業活動の積極性(20%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想1(英語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論・英語史などがある。それぞれのテーマについて基本的概念を解説し、実際の英語理解の支援を行う。分野によっては視聴覚資料を補助的に用いる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の文法理論 (6章)</li> <li>2. 音声学 (7章)</li> <li>3. 音韻論 (1): 分節音韻論 (8章)</li> <li>4. 音韻論 (2): 強勢・イントネーション (8章)</li> <li>5. 形態論・語形成 (9章)</li> <li>6. 統語論 (1): 構造主義の統語分析 (10章)</li> <li>7. 統語論 (2): 生成文法の統語分析 (10章)</li> <li>8. 意味論・語用論 (11章)</li> <li>9. 談話分析</li> <li>10. 英語史 (1): 古英語 (4章)</li> <li>11. 英語史 (2): 中英語 (4章)</li> <li>12. 英語史 (3): 近代英語 (5章)</li> <li>13. 英語史 (4): 現代英語 (5章)</li> <li>14. 英語史 (5): 英語の多様性 (12章)</li> <li>15. 英語の対象言語学的研究 (15章)</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト	龍城正明編、『英語学パースペクティブ』(南雲堂, 2015; ISBN: 978-4-523-30075-5)		
参考文献	David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4)他		
評価方法	定期試験 : 70%, 小テスト・授業中の課題 : 30%		

08年度以降	ことばと思想 1(英語学 b)	担当者	安間 一雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかにかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する地誌的資料を随時紹介する。</p> <p>後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布</li> <li>2. 英語以前 (1)：印欧語族の成立</li> <li>3. 英語以前 (2)：ゲルマン語族の成立</li> <li>4. 英語の夜明け：古英語とその社会</li> <li>5. 英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動</li> <li>6. 英語の夜明け：中世とは？そしてその英語</li> <li>7. 英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展</li> <li>8. 英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化</li> <li>9. 英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異）</li> <li>10. 英語の現状：アメリカ英語・第3世界の英語・コックニー</li> <li>11. 英語使用の現状 (1)：公用語・第2言語・英語学習・辞書</li> <li>12. 英語使用の現状 (2)：社会・文化と英語使用</li> <li>13. 英語の特徴（語彙・語源）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング、（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法</li> <li>14. 英語の特徴（文法）：語順・修飾・統御、（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト</li> <li>15. 英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
<b>テキスト</b>	随時プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>	David Crystal、 The Cambridge Encyclopedia of the English Language、 2nd ed. (Cambridge University Press、 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4)		
<b>評価方法</b>	定期試験 (60%) + 平常授業における課題 (40%)		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

13年度以降 12年度以前	ことばと思想1(言語学概論) ことばと思想1(言語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の基礎的および応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、言語資料分析については他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域における言語研究にも言及する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>話し言葉と書き言葉 ?言葉は約束事言語学の研究対象、記号論、ローマ字表記…英文法の基礎となる言語産出モードの質的差異について学ぶ。</li> <li>動物の言語と人間の言語 ?チンパンジーも言葉が話せる?動物のコミュニケーション…英文法理解及び産出の基礎となる人間言語の特性を二重分節などのキーワードを用いて学ぶ。</li> <li>言語と脳 ?失われた言葉を取り戻す心理言語学と大脳生理学…英文法及び英語音声の産出能力に関わる失語症を中心とした研究に言及する。</li> <li>子供の言葉の発達 ?どのようにして言語を習得するか?第1言語の発達過程…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例とする第2言語習得の理論の背景を学ぶ。</li> <li>外国語の上達 ?どのようにしたらうまく話せるようになるか?第2言語の習得理論…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例として学ぶ。</li> <li>音と音声 (1)?カテゴリーができるまで調音音声学と音韻論…英語音声を中心的な例として学ぶ。</li> <li>音と音声 (2)?音声はどのように聞こえるか?音響音声学と聴覚音声学…英語音声を中心的な例として学ぶ。</li> <li>統語論 ?「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述構造主義文法、生成文法、その他の文法…英文法を中心的な例として学ぶ。</li> <li>形と意味 ?発話に意味を込める形態論、意味論、語用論…広義の英文法を中心的な例として学ぶ。</li> <li>会話の原則 ?言葉の適切な使用方談話分析…広義の英文法を中心的な例として学ぶ。</li> <li>言語と社会 ?言葉の多様性と普遍性社会言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。</li> <li>世界の言語とその系統 ?言語の系統と分類歴史言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。</li> <li>言語の進化 ?言語と人類の発達言語考古学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。</li> <li>コンピューターと言語 ?近未来の言語研究人工知能、機械翻訳、コーパス言語学…英文法・英語音声・英語の歴史的発達など英語学全般を含む分野に関連する研究方向を概観する。</li> <li>まとめ…英文法・英語音声・英語の歴史的発達などを含む言語学全般に関連する基礎知識を総括する。</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト	G. ユール/今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)		
参考文献	David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)		
評価方法	定期試験 : 100%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

13 年度以降	ことばと思想 1 (日本語教育概説)	担当者	石塚 京子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義概要&gt;  「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。この講義は、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法 1 の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。</p> <p>&lt;講義の目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本語教育と国語教育の違いを知る</li> <li>2.日本語教育の歴史と現状を知る</li> <li>3.さまざまな外国語教授法を概観する</li> <li>4.日本語を外国語として客観的に捉える</li> <li>5.外国語としての日本語の指導法を考える</li> <li>6.教師の役割を考える</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介</li> <li>2.日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い</li> <li>3.日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史</li> <li>4.日本語教育とは何か(3) 日本語教育の現状</li> <li>5.日本語教育とは何か(4) コミュニケーション教育</li> <li>6.外国語教授法の歴史</li> <li>7.外国語教授法の紹介(1)</li> <li>8.外国語教授法の紹介(2)</li> <li>9.異文化接触と日本語教育</li> <li>10.言語教育と言語学習観</li> <li>11.日本語のしくみと指導のポイント(1)</li> <li>12.日本語のしくみと指導のポイント(2)</li> <li>13.教室活動の活動例</li> <li>14.教師の役割と評価</li> <li>15.講義のまとめ</li> </ol> <p>*進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。</p>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中に出される課題について事前に調べておいてください。 配布した資料を授業後にまとめ、次回までにきちんと内容を整理しておいてください。		
<b>テキスト</b>	必要な資料を授業中に配布		
<b>参考文献</b>	佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』（ひつじ書房、2007）*その他は授業中に適宜紹介		
<b>評価方法</b>	定期試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	ことばと思想1(倫理の基本について考える)	担当者	市川 達人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識がでてきたりしたとき、この「なぜ」が、つまり倫理的問いかけが生まれるのである。</p> <p>近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし最近、倫理への関心は急速に高まっている。良識が揺らいできているのである。</p> <p>講義では、倫理的問いかけの基本を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学と倫理</li> <li>2. 非倫理の時代か倫理の時代か</li> <li>3. 「倫理」の概念</li> <li>4. 倫理と道徳</li> <li>5. 規範としての倫理(1)……習俗と倫理</li> <li>6. 規範としての倫理(2)……法と倫理</li> <li>7. 価値としての倫理(1)……欲求から善へ</li> <li>8. 価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題</li> <li>9. 行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル</li> <li>10. 行為への問い(2)……他者からの問いかけ</li> <li>11. 行為への問い(3)……動機主義と結果主義</li> <li>12. 功利主義の倫理(1)……ベンサム</li> <li>13. 功利主義の今日的展開</li> <li>14. 自由主義の倫理(1)……カントとミル</li> <li>15. 自由主義の倫理(2)……現代の自由主義</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
<b>テキスト</b>	テキストは使いません。		
<b>参考文献</b>	適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	期末の定期試験で評価します。		

08年度以降	ことばと思想1 (生命と環境の倫理)	担当者	市川 達人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>21世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方で、人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいはやさしく殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。内的自然支配の深まりと外的自然支配の限界ともいふべきこの両者を目撃えながら、伝統的な生命観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境倫理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「倫理問題」とは?……応用倫理について</li> <li>2. 生命をめぐる状況(1) 「医療化社会」批判</li> <li>3. 生命をめぐる状況(2) 所有的身体観と要素的生命表象</li> <li>4. 生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ</li> <li>5. 生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題</li> <li>6. 生命倫理の前線(3) 安楽死問題</li> <li>7. 生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題</li> <li>8. ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ</li> <li>9. 環境倫理の世界(1) 環境保護とはどういうことか</li> <li>10. 環境倫理の世界(2) 生態系価値を中心にする思想</li> <li>11. 環境倫理の世界(3) 自然物の権利を中心とする思想</li> <li>12. 環境倫理の世界(4) 地球レベルでの構造的不正義</li> <li>13. 環境倫理の世界(5) 不正義に関する倫理的言説</li> <li>14. 環境倫理の世界(6) 持続可能性と世代間倫理</li> <li>15. 生命と環境とをつなぐ倫理的課題</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
<b>テキスト</b>	テキストは使いません。		
<b>参考文献</b>	適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	期末の定期試験で評価します。		

08年度以降	ことばと思想1(社会思想史1)(市民的社會像の黎明期)	担当者	市川 達人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。</p> <p>前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してやることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。</p> <p>後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「市場というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の狙いについて</li> <li>2. 「社会」という思想問題</li> <li>3. 「市民社会」の原型と近代的再生</li> <li>4. ルネッサンス思想と古典古代文化</li> <li>5. マキャベリと『君主論』</li> <li>6. マキャベリと近代政治理論</li> <li>7. ユートピアという思想</li> <li>8. トマス・モアと『ユートピア』</li> <li>9. 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派</li> <li>10. ルターの改革運動と神学</li> <li>11. ルターの政治思想</li> <li>12. ルターの職業思想</li> <li>13. カルヴィニズムの宗教思想</li> <li>14. カルヴィニズムと近代的エートス</li> <li>15. まとめ—主権国家と市場社会</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
<b>テキスト</b>	使いません		
<b>参考文献</b>	適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	期末の定期試験で評価します。		

08年度以降	ことばと思想1(社会思想史2)(市民的社會像の確立期)	担当者	市川 達人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>西欧では17世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るため、契約という作をを通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて19世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「市場というまとまり」が隠れた主題となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の狙いについて</li> <li>2. 西欧自然法思想の源泉</li> <li>3. 自然法思想の近代的転回</li> <li>4. 社会をめぐる自然と作為(1)…ホッブズの利己心</li> <li>5. 社会をめぐる自然と作為(2)…ホッブズの国家観</li> <li>6. 個人を守ること(1)…ロックの所有的個人主義</li> <li>7. 個人を守ること(2)…ロックの政治的自由主義</li> <li>8. 文明化という課題…フランスの啓蒙思想家たち</li> <li>9. 風土と社会…モンテスキューの権力論</li> <li>10. 個人と社会の一体化(1)…ルソーの歴史認識</li> <li>11. 個人と社会の一体化(2)…ルソーのデモクラシー</li> <li>12. 社会は自然に発生する(1)…ヒュームの自然法批判</li> <li>13. 社会は自然に発生する(2)…スミスの市場社会秩序</li> <li>14. 社会的に生きる(1)…社会主義の思想</li> <li>15. 社会的に生きる(2)…マルクスの思想</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
<b>テキスト</b>	使いません		
<b>参考文献</b>	適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	期末の定期試験で評価します。		

08年度以降	ことばと思想 1(応用言語学)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>応用言語学の領域の中でも主に第二言語・外国語習得諸理論およびそれらの理論が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。また、4技能の領域においてどのような研究がされ、外国語教育に何を示唆しているかを考える。</p>		<p>第1回：概論 応用言語学とは？  第2回：習得のメカニズム  第3回：モニターモデル  第4回：インタラクション仮説、アウトプット仮説  第5回：学習者言語：中間言語、習得順序  第6回：言語能力(BICS, CALP, DLS)、認知要求度と場面依存度  第7回：教室での言語習得  第8回：4技能の習得 リーディングおよび他技能との関係  第9回：4技能の習得 リスニングおよび他技能との関係  第10回：リーディング・リスニングまとめ  第11回：口頭発表1 インプットと他技能の関係  第12回：4技能の習得 スピーキングおよび他技能との関係  第13回：4技能の習得 ライティングおよび他技能との関係  第14回：スピーキング・ライティングまとめ  第15回：口頭発表2 アウトプットと他技能との関係</p>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。		
<b>テキスト</b>	論文他の配布資料		
<b>参考文献</b>	Understanding SLA (Ortega)、英語教育学体系第5巻：第二言語習得（佐野他）		
<b>評価方法</b>	論文のまとめを含む諸課題（40%）口頭発表（20%）定期試験（40%）		

08年度以降	ことばと思想 1(第二言語習得)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを理解し、諸理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。特に個人要因に焦点をあてる。また、テーマごとに論文を読み、研究方法、問題点、展望などについて議論する。</p>		<p>第1回：概要：環境要因・個人要因  第2回：環境要因、社会的動機づけ理論  第3回：適性、MI  第4回：不安  第5回：動機づけ1  第6回：動機づけ2  第7回：学習ストラテジー、学習ビリーフ、好意度  第8回：意欲、WTC  第9回：グループワーク：言語習得過程モデル  第10回：口頭発表  第11回：年齢：臨界期仮説、早期英語教育  第12回：スピーチ学習モデル、音声認識、早期英語教育  第13回：グループワーク：初中等教育における英語教育  第14回：口頭発表  第15回：まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。		
<b>テキスト</b>	論文他の配布資料		
<b>参考文献</b>	英語教育学体系第5巻：第二言語習得（佐野他）		
<b>評価方法</b>	論文のまとめを含む諸課題(50%)、口頭発表およびそのまとめレポート（50%）		

08年度以降	ことばと思想 1(音楽を言葉で語る—音楽分析入門)	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>音楽は聴いて楽しむもの、言葉で描写したり分析したりするものではないと思っている方がいるかも知れません。音楽を分析・研究するには、まず音楽を言葉であらわさなくてはなりません。音楽を言葉で語るには、どのようにすればよいでしょうか？ この授業では、クラシック音楽や歌を例に、音楽を分析するにあたって注目すべきいくつかのポイントについて説明していき、みなさん自身が自分なりに音楽について語れるようになることを目指します。</p> <p>音楽の演奏経験や音楽理論の知識の有無は問いませんが、楽譜を用いて授業をしますので、ある程度楽譜が読める（読むのが嫌いではない）方のほうが理解しやすいと考えます。また、ディスカッションやグループワークを行うこと、音楽学者等が書いた文章を読む機会が多いこと（音読してもらうこともあります）も了解しておいてください。また、毎回、音楽を鑑賞しますので、鑑賞中は静粛を守ってください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・導入、長調と短調 *初回授業の内容から、試験範囲に入ります。</li> <li>2. 長調と短調</li> <li>3. 拍子</li> <li>4. テンポ</li> <li>5. 音の三要素、音楽の三要素、リート形式</li> <li>6. 歌曲</li> <li>7. インヴェンションとフーガ</li> <li>8. ロンド形式</li> <li>9. 変奏曲</li> <li>10. 管弦楽法</li> <li>11. 旋律について</li> <li>12. 旋律（主題の変型等）</li> <li>13. ショパン</li> <li>14. 音楽分析のまとめ、楽曲解説を書くには</li> <li>15. まとめ・授業内試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業の復習。授業で扱う作品等について、必要に応じて調べてください。		
<b>テキスト</b>	プリントで配布します。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	平常点 60%、授業内試験 40%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。みなさんが反応してくれないと成立しない授業ですので、積極的に参加できる方の受講を期待いたします。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	ことばと思想1(こころの世界)	担当者	利根川 明子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p> <p>本講義では、現代心理学の成立過程について概観した上で、知覚、記憶、学習、動機づけなど現代心理学の主要テーマについて、実証研究に基づいたデータを示しながら説明していく。</p>		<p>第1回：はじめに：科学としての心理学  第2回：心理学のあゆみ①：知覚  第3回：心理学のあゆみ②：記憶  第4回：心理学のあゆみ③：学習  第5回：心理学のあゆみ④：動機づけ  第6回：心理学のあゆみ⑤：思考  第7回：心理学のあゆみ⑥：パーソナリティ  第8回：心理学のあゆみ⑦：発達  第9回：心理学のあゆみ⑧：感情  第10回：心理学のあゆみ⑨：対人関係  第11回：現代社会と心の病①：ストレスとパーソナリティ  第12回：現代社会と心の病②：ストレスとコーピング  第13回：教育と心理学①：知能と学力  第14回：教育と心理学②：授業と実践  第15回：まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学習では授業計画に示した各回のテーマについて参考文献をもとに予習する。 事後学習では講義内容について配布資料や文献をもとに自分なりの言葉で説明できるようにする。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	授業にて適宜提示する。		
<b>評価方法</b>	授業内課題(20%)と試験(80%)により総合的に評価する。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想1(通訳・翻訳論)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。</p> <p>最初に、翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。</p> <p>次に、通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。</p> <p>最期に、通訳と翻訳の理論について学びます。</p> <p>授業ではパワーポイントのスライドや映像資料を利用して講義を行いますので、遅刻欠席は厳禁です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス</li> <li>2. 日本の翻訳通訳の歴史 1</li> <li>3. 日本の翻訳通訳の歴史 2</li> <li>4. 世界の通訳史、国連通訳</li> <li>5. 翻訳者・通訳者の役割、通訳の種類</li> <li>6. 会議通訳、ビジネス通訳、放送通訳</li> <li>7. コミュニティ通訳、司法通訳</li> <li>8. 医療通訳、手話通訳、通訳案内士</li> <li>9. 外国語学習と通訳訓練について</li> <li>10. 職業としての翻訳</li> <li>11. 出版翻訳と産業翻訳</li> <li>12. 翻訳と通訳の理論 1</li> <li>13. 翻訳と通訳の理論 2</li> <li>14. 通訳と翻訳の理論 3</li> <li>15. 全体のまとめ、期末試験に関する説明</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの当該箇所を精読すること。		
テキスト	鳥飼玖美子編著 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ書房		
参考文献	<a href="http://tuuyaku-honyaku.my.coocan.jp/">http://tuuyaku-honyaku.my.coocan.jp/</a>		
評価方法	定期試験の成績によって評価する。		

08年度以降	ことばと思想1(フランス・ドイツ哲学入門1)	担当者	犬塚 悠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、近代的な思考法が誕生する15世紀から19世紀のフランス・ドイツの哲学者らに焦点を当て、宗教的世界から人間理性が目覚める過程を追うことにある。別の言葉で言えばそれは、当たり前だと思われてきた世界を人々が疑い、自分の言葉で考え直し、新たな社会を作り出していく過程である。</p> <p>偉大な哲学者の人生と思想を学ぶことは、一人だけで考えていたのでは思いもよらない世界へと私たちを導いてくれる。また、哲学史という大きな流れを知ることは、私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を知るために重要である。多様な考えの共存する国際社会で活躍するために必要な批判力と表現力をこの授業で身につけてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：本講義の見取り図</li> <li>2. 近代的精神の登場：クザーヌス</li> <li>3. モラリストの人間観察1：モンテーニュ</li> <li>4. モラリストの人間観察2：パスカル</li> <li>5. 理性への信頼1：デカルト</li> <li>6. 理性への信頼2：ライプニッツ</li> <li>7. 啓蒙思想1：ヴォルテール</li> <li>8. 啓蒙思想2：ルソー</li> <li>9. ドイツ観念論1：カント1</li> <li>10. ドイツ観念論2：カント2</li> <li>11. ドイツ観念論3：フィヒテ</li> <li>12. ドイツ観念論4：シェリング</li> <li>13. ドイツ観念論5：ヘーゲル</li> <li>14. 社会主義の思想6：マルクス</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。		
<b>テキスト</b>	授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>	授業中に適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	授業内小試験 50%、期末レポート 50%		

08年度以降	ことばと思想1(フランス・ドイツ哲学入門2)	担当者	犬塚 悠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、19世紀から20世紀のフランス・ドイツの哲学者らに焦点を当て、実存主義・現象学・構造主義といった、今日の学問・芸術にも大きな影響を及ぼしている思想の誕生と発展を追うことにある。これらの思想は、近代以降の社会が基盤としてきた人間の理性・主体性といったものの不確実性を暴き出し、その上で改めて私たちが望みうる人生や社会の構築を考えてきた。</p> <p>偉大な哲学者の人生と思想を学ぶことは、一人だけで考えていたのでは思いもよらない世界へと私たちを導いてくれる。また、哲学史という大きな流れを知ることは、私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を知るために重要である。多様な考えの共存する国際社会で活躍するために必要な批判力と表現力をこの授業で身につけてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：本講義の見取り図</li> <li>2. 実存主義の先駆者：ニーチェ</li> <li>3. 生の哲学：ベルクソン</li> <li>4. 現象学1：フッサール</li> <li>5. 現象学2：ハイデガー</li> <li>6. 現象学3：メルロ＝ポンティ</li> <li>7. 現象学4：レヴィナス</li> <li>8. 実存主義：サルトル、ボーヴォワール</li> <li>9. フランクフルト学派1：アドルノ</li> <li>10. フランクフルト学派2：ハーバーマス</li> <li>11. 構造主義：レヴィ＝ストロース</li> <li>12. ポスト構造主義1：フーコー</li> <li>13. ポスト構造主義2：ドゥルーズ</li> <li>14. ポスト構造主義3：デリダ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。		
<b>テキスト</b>	授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>	授業中に適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	授業内小試験 50%、期末レポート 50%		

08年度以降	ことばと思想1(倫理学 a)	担当者	林 永強
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は倫理論理の諸説を考察し、倫理学の基礎を探究する。具体的には、功利主義、義務論、徳倫理学、私的と公共、正義と平等、共生倫理学を取り上げて分析する。</p> <p>授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理学全般の基礎を幅広く修得するものである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 倫理学の定義と方法論</li> <li>3. 功利主義I：快樂と苦痛</li> <li>4. 功利主義II：J.S. ミル</li> <li>5. 義務論I：義理と義務</li> <li>6. 義務論II：カント</li> <li>7. 徳倫理学I：古代ギリシャからマッギンタイアまで</li> <li>8. 徳倫理学II：マッギンタイア以降</li> <li>9. 私的と公的：滅私奉公から滅公奉私へ</li> <li>10. 私的と公的：活私開公から公共哲学へ</li> <li>11. 正義と平等I：古代ギリシャからロールズまで</li> <li>12. 正義と平等II：ロールズ以降</li> <li>13. 共生倫理学I：エゴイズムから共生へ</li> <li>14. 共生倫理学II：シンバイーシスとコンヴィヴィアリティ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。		
<b>テキスト</b>	授業時に適宜指示		
<b>参考文献</b>	授業時に適宜指示		
<b>評価方法</b>	発表及び議論（40%）、レポート（60%）		

08年度以降	ことばと思想1(倫理学 b)	担当者	林 永強
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>応用倫理学の諸論理を概説し、現代社会の問題に沿って検討する。具体的には、科学技術、環境、医療、情報、そしてビジネス倫理学を取り上げ、実社会の諸問題にどう向き合うかと考えていく。</p> <p>授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理学全般の基礎を幅広く修得するものである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 応用倫理学の定義：論理と応用</li> <li>3. 応用倫理学の方法論：観念と事例</li> <li>4. 科学技術倫理学I：定義と起源</li> <li>5. 科学技術倫理学II：安全と安心</li> <li>6. 環境倫理学I：定義と方法</li> <li>7. 環境倫理学II：自由と義務</li> <li>8. 医療倫理学I：定義と原則</li> <li>9. 医療倫理学II：自律と他律</li> <li>10. 情報倫理学I：定義と課題</li> <li>11. 情報倫理学II：私益と公益</li> <li>12. ビジネス倫理学I：定義と背景</li> <li>13. ビジネス倫理学II：商業と道徳</li> <li>14. ビジネス倫理学III：秘密と公開</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。		
<b>テキスト</b>	授業時に適宜指示		
<b>参考文献</b>	授業時に適宜指示		
<b>評価方法</b>	発表及び議論（40%）、レポート（60%）		

08年度以降	ことばと思想1(社会心理学 a)	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション - 「社会心理学」講義の前に</li> <li>2.社会心理学の概要</li> <li>3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか</li> <li>4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別</li> <li>5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団</li> <li>6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる</li> <li>7.自己(1)：自分はどうな人間か</li> <li>8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか</li> <li>9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか</li> <li>10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割</li> <li>11.社会的影響(2)：規範的影響と情動的影響</li> <li>12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか</li> <li>13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す</li> <li>14.まとめと振り返り</li> <li>15.社会的影響(5)：人間の力</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通していただくこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出していただくこと。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学(有斐閣, 2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』(新曜社, 2017)		
評価方法	中間レポート30%, 期末試験60%, その他10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

08年度以降	ことばと思想1(社会心理学 b)	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に</li> <li>2.コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション</li> <li>3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動</li> <li>4.コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ</li> <li>5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相</li> <li>6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの</li> <li>7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの</li> <li>8.信頼社会と安心社会</li> <li>9.社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝</li> <li>10.社会的感情(2)：表情と感情</li> <li>11.社会的感情(3)：生死を分ける感情</li> <li>12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論</li> <li>13.健康行動と社会心理学(2)：感染予防ための挑戦</li> <li>14.まとめと振り返り</li> <li>15.社会心理学の未来</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通していただくこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出していただくこと。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学(有斐閣, 2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』(新曜社, 2017)		
評価方法	中間レポート30%, 期末試験60%, その他10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

08年度以降	歴史と文化1(ドイツ語圏のメディア文化 a)	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〈ドイツの文化政策——思考アイテム入手編〉</p> <p>ドイツはしばしば、芸術家を惹き付けてやまない「芸術大国」と言われます。日本では足を踏み入れなくても、ドイツに旅行や留学をする際には、現地のオペラ座やコンサートホール、博物館（お城を含む）や美術館に行きたいと思っている人も少なくないでしょう。</p> <p>この講義では、ドイツが持つ文化面でのこうした「魅力」がどのように培われているのか、その背景を紐解きます。ドイツの「魅力」が培われた背景には、様々な歴史と特殊な思考回路があります。それは今見える「成功事例」だけを日本人の視点から見ても理解できません。まずは今の「ドイツ」を形成している歴史、政治や経済の考え方の基本を知り、日本とは違う背景やロジックをおさえた上で、ドイツでは芸術や文化がどのようなものと考えられて、支えられているのかを明らかにしていきましょう。</p>		<p>《芸術文化は、“育む”もの？一日独の視点の相違》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ドイツ連邦共和国における政治—その原則と構造</li> <li>3. ドイツにおける公権力と芸術文化をめぐる諸課題</li> <li>4. 近代国家形成期の国家理論—文化国家と法治国家論</li> <li>5. 「教養市民層」という存在と日本の近代化への影響</li> <li>6. ボン基本法の構造と特色—ヴァイマル憲法との比較</li> <li>7. 戦後西ドイツの経済原則—一日独の理念の比較</li> <li>8. 補完性の原則に見るドイツおよびEUの政治姿勢</li> <li>9. 戦後ドイツ社会の民主化—背景、理念、実践</li> <li>10. 民主化への転機—アウシュヴィッツ裁判（映像）</li> <li>11. 学生運動から「文化」の民主化へ</li> <li>12. 社会問題を扱うドイツの映画（外部講師）</li> <li>13. 「自由」の種類—公権力による制限の可否</li> <li>14. 表現の自由と間文化的な摩擦</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に予告したテキストの章あるいは、指定の文献を読んでから出席してください。		
テキスト	藤野一夫、秋野有紀、マティアス・T・フォークト編著『地方分権の国ドイツの文化政策』美学出版、2017		
参考文献	野村朋弘編『日本文化の源流を探る(22)』藝術学舎、2014、西田慎、近藤正基編著『現代ドイツ政治』ミネルヴァ書房2014		
評価方法	授業内試験 80%、平常点 20%		

08年度以降	歴史と文化1(ドイツ語圏のメディア文化 b)	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〈ドイツの文化政策——迷宮編〉</p> <p>春学期には、思考のツールを身に着けました。その上で秋学期は、芸術文化の各領域（劇場、ミュージアム、多文化共生、国際交流など）の具体的課題に目を向けて、一緒に考えてみましょう。世界各国で今動いている問題なので、「正解」はありません。2020年のオリンピックに向けて、日本は「文化」も発信していきますが、文化を扱う政策を知れば知るほど、何をすべきか、迷うことになるでしょう。「伝説」の真偽、多数決と質の高さの非両立性、資金と成功の因果関係の不透明性、プロパガンダと紙一重の危険、数値化・効率化を求める時勢……等々、様々に落とし穴があります。観光動員のために何かを仕掛けるのではなく、芸術や文化が育まれる環境を長期的視点で整え、文化的に「魅力」のある国・地域を作るといふ日独文化政策の今日の壮大な理念は、夢でしかないのでしょうか。</p>		<p>《何が「成功」なのか？どう評価するのか？》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日独の文化政策—産業規模と制度的背景</li> <li>2. 芸術文化施設の機能変化—誰のため？何のため？</li> <li>3. 芸術文化を政策的に扱う手法（法的側面）</li> <li>4. 芸術文化を政策的に扱う手法（文化経済学）</li> <li>5. 劇場—ボウモル・ボウエンのコスト病と助成の是非</li> <li>6. ミュージアム—機能、理念、政策構造、形態</li> <li>7. ドイツと日本の「文化」概念と文化施設の違い</li> <li>8. 戦後ドイツの対外イメージ戦略—政策と歴史</li> <li>9. 戦後ドイツの対外イメージ戦略—手法と構造</li> <li>10. 観光・産業資源化する歴史問題</li> <li>11. 社会批判的なアート活動</li> <li>12. 移民・難民—多文化共生政策の手法と効果</li> <li>13. 文化政策における「成功」とは—多数決と質</li> <li>14. 芸術文化を数値化して評価することの両義性</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol> <p>※春学期に基礎的な考え方を履修してから受講した方が理解は深まりますが、必須条件ではありません。</p>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の授業の最後に示される次回の事例問題について、各自考えてくる。		
テキスト	藤野一夫、秋野有紀、マティアス・T・フォークト編『地方分権の国ドイツの文化政策』美学出版、2017		
参考文献	伊藤裕夫、藤井慎太郎編『芸術と環境』論創社、2011、宮本直美『教養の歴史社会学』岩波書店、2006		
評価方法	授業内試験 80%、平常点 20%		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学1) 中世の仏教と社会	担当者	新井 孝重
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>◎中世は人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であった。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勸進聖重源<small>かんじんひじりちようげん</small>の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。</p> <p>(1) 東大寺を再建した男 (2) 重源の時代 (3) 信仰と経済</p>		<p>① 炎上する東大寺 ② 誰の力に頼るか ③ 重源の業績 ④ 木材をどこから運ぶか ⑤ 出現した大群衆 ⑥ 雨を突いて伊勢へ ⑦ 重源の記憶 ⑧ 法然と重源 ⑨ 合戦の中の黒田荘(くろだのしょう) ⑩ 天変地妖(てんぺんちよう)と飢餓・疫癘(えきらい) ⑪ 源平合戦の余燼 ⑫ 聖の社会事業 ⑬ 新しい経済社会の出現 ⑭ 後生の約束 ⑮ 「荘園」外の経済</p>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。		
<b>テキスト</b>	新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス、本学ポータルサイトよりプリントアウトすること)		
<b>参考文献</b>	新井孝重『楠木正成』(吉川弘文館)		
<b>評価方法</b>	試験成績(100%)による。		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学2) 中世の「悪党」と民衆	担当者	新井 孝重
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>◎ 中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。</p> <p>(1) 戦乱の中の伊賀 (2) 自立する村 (3) 戦国のコンミュン</p>		<p>① 伊賀国の南北朝内乱 ② 錯綜する地侍の行動 ③ 大規模な合戦は続けられない ④ 国人領主の出現 ⑤ 自立する村 ⑥ 南都への志向 ⑦ 悪党たち、起請文を提出 ⑧ タテの力とヨコの力 ⑨ 惣国のコンミュン ⑩ 内部の規律と「平和」 ⑪ 織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫ 崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬ 兵農分離と石高制 ⑭ 中世民衆の共同体をどうみるか ⑮ 荘園史のまとめ</p>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。		
<b>テキスト</b>	新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス、本学ポータルサイトよりプリントアウトすること)		
<b>参考文献</b>	新井孝重『楠木正成』(吉川弘文館)		
<b>評価方法</b>	試験成績(100%)による。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化1(日本文学論・中世Ⅱ)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：日本の歌うウタ（歌謡）の歴史を辿り、日本人の想像力と情の表現を味わい、特に中世歌謡のダイナミズムを理解する。</p> <p>講義概要：日本のウタはもともとすべて声に出して歌うものであったが、中国から書く文芸（詩文）の伝統が入ってから徐々に歌うウタと書くウタとの分離が始まり、平安時代半ば過ぎにはほぼ分離が完成する。するとかえって歌うウタのダイナミズム（表現の多様化と振幅の拡大）が発展し、それが近世近代の爆発的な流行歌謡群を生んだ。その影響は現代にも及んでいる。</p> <p>講義は全体的には日本歌謡史を追うが、その中で中世歌謡の部分の厚くして、現代の歌謡との対比も含めて提示し、日本文化の基底を占める感情を探っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・導入</li> <li>2. 概説①（日本の「歌うウタ」概観）</li> <li>3. 概説②（日本の「歌うウタ」の表現）</li> <li>4. 日本の歌うウタ・古代</li> <li>5. 日本の歌うウタ・中古Ⅰ</li> <li>6. 日本の歌うウタ・中古Ⅱ</li> <li>7. 日本の歌うウタ・中世Ⅰ</li> <li>8. 日本の歌うウタ・中世Ⅱ</li> <li>9. 日本の歌うウタ・中世Ⅲ</li> <li>10. 日本の歌うウタ・中世Ⅳ</li> <li>11. 日本の歌うウタ・近世Ⅰ</li> <li>12. 日本の歌うウタ・近世Ⅱ</li> <li>13. 日本の歌うウタ・近代Ⅰ</li> <li>14. 日本の歌うウタ・近代Ⅱ</li> <li>15. まとめ（日本人とウタ）</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前：配布するテキストを読んで理解してくる。 事後：提示されたウタの歴史と表現を他のウタに応用して考えてみる。→毎回課題を提示します。		
テキスト	毎時間印刷して配布する。		
参考文献	『古代から近世へ 日本の歌謡(うた)を旅する』（和泉書院刊、税込 3,888 円）他、授業中に適宜示す。		
評価方法	数回提示する課題 50%、学期末の論述試験 50%		

08年度以降	歴史と文化1(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	井垣 昌
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、主に南米の数カ国に関する事例研究に触れながら、現代ラテンアメリカの社会と文化との関係について理解することにある。ラテンアメリカ全体の特徴、域内における多様性と相違についても視野に入れる。</p> <p>本授業は講義形式で行なうが、履修生には、自由研究の提出や発表、講義や発表への質問など、積極的な授業参加を求める。また、知識や概念の理解度を試す小テストや、概念を用いた思考力を試す課題を出す。なお、課題を全て提出しない学生は、成績評価の対象としない。</p> <p>※履修生の興味・関心、授業の進捗などに応じて、授業計画等を変更する可能性があるが、講義で取り上げる主な国やテーマは、ラテンアメリカの一部に限られる。</p> <p>※授業の進め方については、初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ラテンアメリカの概念と全体像</li> <li>3. ラテンアメリカの主な亜地域と諸国家の特徴</li> <li>4. ラテンアメリカにおける人種と民族</li> <li>5. ラテンアメリカにおける宗教と国家</li> <li>6. アンデス地域におけるコミュニティ形成</li> <li>7. アンデス地域の宗教、政治、文化—コカ葉</li> <li>8. アンデス地域の宗教、政治、文化—祝祭</li> <li>9. アンデス地域の伝統、社会、文化—フォルクローレ</li> <li>10. 異文化接触—アンデス地域とアマゾン地域</li> <li>11. ラプラタ地域の政治、文学、舞踊— gaucho</li> <li>12. ラプラタ地域の宗教、政治、経済—マテ葉</li> <li>13. 異文化接触—アンデス地域とラプラタ地域</li> <li>14. ラテンアメリカの他地域との比較—嗜好品</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：指定された資料を精読し、概念および用語の意味と具体例を関連付けて把握しておくこと。 事後：授業の内容を復習し、ラテンアメリカに関するトピックの考察に反映させること。		
テキスト	参考資料を配布		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	平常点（授業への参加度等）[25%]、小テスト[25%]、課題[50%、実施する場合は期末試験を含む]を評価対象の目安とする。課題の期限内の全提出および一定回数以上の出席を成績評価の必須条件とする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化1(日本研究概論Ⅱ)	担当者	生田 守
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語や社会・文化について、日本研究の礎となる視点を提供し、日本について考える力を涵養するのがこの講義の目的である。</p> <p>(1) 日本語とはどんな言語だろうか。世界言語の中で日本語の特徴をとらえることを試みる。</p> <p>(2) 日本語の表現の特徴で、特に敬語を取り上げ、社会と言語の関係について考察する。</p> <p>(3) 文化という語もよく使われるが、その基本的定義をふりかえり文化に根ざす問題について考察する。</p> <p>(4) 日本文化のキーワードである「義」を取り上げ、文楽や日本語論から考察を行なう。</p> <p>授業は講義形式で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.講義の概要</li> <li>2.日本語論(1)世界の中の日本語、日本語の特徴</li> <li>3.日本語論(2)主語の省略、主題と主語</li> <li>4.日本語論(3)受動文</li> <li>5.日本語論(4)時間の表現</li> <li>6.ことばと社会(1)日本社会と敬語</li> <li>7.ことばと社会(2)ポライトネス</li> <li>8.ことばと社会(3)配慮表現</li> <li>9.文化をめぐって(1)文化とは</li> <li>10.文化をめぐって(2)価値・倫理</li> <li>11.文楽に見る忠義</li> <li>12.『武士道』を読む①</li> <li>13.『武士道』を読む②</li> <li>14.日本語的表現</li> <li>15.講義のまとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内容で興味を持った点を自分で深めたり、調べたりすること		
テキスト	授業時に資料を配布する		
参考文献	特になし		
評価方法	試験 100%		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学1)(ヨーロッパ史1)	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(記憶の継承：ホロコーストと否定論者)</p> <p>日本ではドイツの歴史と聞くと「ホロコースト」を思い起す人が多いでしょう。本講義では、反ユダヤ主義の歴史的経緯やナチ体制下での迫害の変容をたどることによって、ナチ体制下でなぜ未曾有の大量虐殺に至ったのかを解明する手掛かりとしたいと思います。さらにその記憶を後の世代に継承していくための記念碑を紹介します。しかし、一方で、そうした歴史的事実を否定する人々も後を絶ちません。そこで、否定論者の主張を分析し検討していきます。本講義の目的は、以上の分析を通じて、受講生が自国の歴史問題を考える際の分析力を涵養することにあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) 反ユダヤ主義 (中世から近代まで)</li> <li>3) 「人種論」と反セム主義</li> <li>4) 第一次世界大戦と戦争責任</li> <li>5) ナチ体制下のユダヤ (人) 迫害</li> <li>6) ナチ体制下の諸民族虐殺</li> <li>7) 犠牲者の追悼と記念碑</li> <li>8) ホロコースト記念碑</li> <li>9) ホロコーストを否定する人々</li> <li>10) 否定論者の主張と意図</li> <li>11) 否定論者の系譜</li> <li>12) 映画『否定と肯定』</li> <li>13) 映画『否定と肯定』をめぐる</li> <li>14) 日本の記念碑と否定論者</li> <li>15) まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内容に関する課題などで、事前学習または事後学習を行います。		
テキスト	必要に応じて授業時に配布します。		
参考文献	授業時に適宜紹介します。		
評価方法	授業時の課題とレポート 90%、授業への参加度 10%を目安に総合的に評価します。		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学2)(ヨーロッパ史2)	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ドイツにおける戦争責任と歴史認識)</p> <p>本講義では、ドイツが第二次世界大戦後、自国の「負の遺産」にどう対処したか、あるいはしようと努めてきたのか、さらに戦争の記憶をどのような視点から後の世代に伝えていこうとしているのかを考察していきたいと思います。自国の「過去」とどう向き合うかという歴史認識は、その時々々の政治風土とも大きくかかわっています。また、自国の歴史を後の世代にどのように伝えようとしているかという点は、特に学校での歴史教育のあり方に顕著に表れています。そこで、ドイツの学校ではどのような観点から、またどのような方法で歴史の授業が行われているかを紹介します。そのうえで、日本の歴史認識と比較し、検討したいと思います。この講義を通じて、受講生はドイツにおける歴史認識の変遷と現在の教育実践についての知識を習得すると同時に、日本における歴史認識についても考察することが期待されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) 第一次世界大戦とドイツの戦争責任 <ol style="list-style-type: none"> <li>①開戦をめぐる</li> <li>②ドイツ革命</li> <li>③ヴェルサイユ条約</li> </ol> </li> <li>3)</li> <li>4)</li> <li>5) 第二次世界大戦後の歴史認識の変遷 <ol style="list-style-type: none"> <li>①経済復興とタブー</li> <li>②歴史家論争など</li> <li>③「国防軍の犯罪」展など</li> </ol> </li> <li>6)</li> <li>7)</li> <li>8) 学校での歴史の授業 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ドイツの教育制度</li> <li>②歴史の授業</li> <li>③教科書の記述</li> <li>④試験・大学入学試験</li> </ol> </li> <li>9)</li> <li>10)</li> <li>11)</li> <li>12) 歴史認識の日独比較 <ol style="list-style-type: none"> <li>①資料分析</li> <li>②国民の責任</li> <li>③加害と被害</li> </ol> </li> <li>13)</li> <li>14)</li> <li>15) まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内容に関する課題などで、事前学習または事後学習を行います。		
テキスト	必要に応じて授業時に配布します。		
参考文献	授業時に適宜紹介します。		
評価方法	授業時の課題とレポート 90%、授業への参加度 10%を目安に総合的に評価します。		

08年度以降	歴史と文化1(英語圏の文学)	担当者	関戸 冬彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語で書かれた代表的な文学（主に小説、アメリカ文学）を通して、その作品における様々な英語表現が理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品、トウエイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。</p> <p>なお、この科目は講義科目となつてはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: イントロダクション文学とは何か? / アメリカ文学への招待</li> <li>2: マーク・トウエインとその時代（南北戦争とミシシッピ）</li> <li>3: トウエイン（<i>Adventures of Huckleberry Finn</i>）を読む</li> <li>4: マーク・トウエインの英語表現 / 晩年のトウエイン</li> <li>5: フィッツジェラルドと時代（1920年代とアメリカンドリーム）</li> <li>6: フィッツジェラルドの作品（<i>The Great Gatsby</i>）を読む</li> <li>7: フィッツジェラルドの英語表現 / 短編小説と映画</li> <li>8: トウエインとフィッツジェラルドの比較（事実と影響）</li> <li>9: ヘミングウェイと時代（アメリカンドリーム以後のアメリカ）</li> <li>10: ヘミングウェイの作品（短編小説）を読む</li> <li>11: ヘミングウェイの英語表現とフィッツジェラルドの影響</li> <li>12: サリンジャーとその時代（第二次大戦以後のアメリカ）</li> <li>13: サリンジャーの作品（<i>The Catcher in the Rye</i>）を読む</li> <li>14: サリンジャーの英語表現 / 翻訳と村上春樹</li> <li>15: トウエイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーの系譜（まとめ）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）		
<b>テキスト</b>	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。		
<b>参考文献</b>	フィッツジェラルド <i>The Great Gatsby</i> , トウエイン <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> など		
<b>評価方法</b>	授業内課題（60%）、レポートないしプレゼンテーション（40%）		

08年度以降	歴史と文化1(英語圏の文学Ⅱ)	担当者	関戸 冬彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語で書かれた代表的な文学（英米の小説、詩、演劇など）を通して、その作品における様々な英語表現を理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的な文学作品、シェイクスピアやカズオ・イシグロなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。</p> <p>なお、この科目は講義科目となつてはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: イントロダクション 文学とは何か?</li> <li>2: イギリスの小説（時代と文化、英語表現）</li> <li>3: イギリスの詩（時代と文化、英語表現）</li> <li>4: イギリスの演劇、映画（時代と文化、英語表現）</li> <li>5: アメリカの小説（時代と文化、英語表現）</li> <li>6: アメリカの詩（時代と文化、英語表現）</li> <li>7: アメリカの演劇、映画（時代と文化、英語表現）</li> <li>8: 英米文学の特徴（まとめと中間報告）</li> <li>9: カズオ・イシグロの世界（<i>The Remains of the Day</i>）</li> <li>10: <i>The Remains of the Day</i> と英語表現</li> <li>11: 英米文学と日本（受容の歴史）</li> <li>12: 英語で読まれる日本文学（翻訳と表現）</li> <li>13: 英語で発信する日本文学（翻訳と英語表現）</li> <li>14: 世界文学、英米以外の英語圏文学の作品と英語表現</li> <li>15: イギリス、アメリカ、日本、そして世界文学（まとめ）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）		
<b>テキスト</b>	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。		
<b>参考文献</b>	カズオ・イシグロ <i>The Remains of the Day</i> , シェイクスピア <i>Romeo &amp; Juliet</i> など		
<b>評価方法</b>	授業内課題（60%）、レポートないしプレゼンテーション（40%）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化1(日韓交流史)	担当者	小宮 秀陵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では古代から現代までの日韓交流の歴史を概観することで、多様な日韓交流に関する知識・理解を深めるとともに、東アジア地域や世界の情勢に対する見方・考え方も身につけることを目的にしている。</p> <p>そのため、東アジア地域や世界のなかで日韓交流の歴史を扱った本をテキストにして、日韓交流の歴史を見ていく。日韓交流は古代から多様にあるが、1回ごとにいくつかの重要なトピックについての理解を深めた後、交流の社会背景や現代社会との関わりについても見ていく。</p> <p>基本的には講義形式とグループでの議論・発表を中心に進めていく。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントなども配布していく。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓交流史をみる視角</li> <li>2. 日韓交流史概観</li> <li>3. 先史時代の交流</li> <li>4. 三国・伽耶と倭との交流</li> <li>5. 隋唐帝国の成立・展開と東アジアの情勢</li> <li>6. 10世紀～12世紀の東アジアと日本・高麗の交渉</li> <li>7. モンゴル帝国の成立と東北アジア</li> <li>8. 明の成立と日本・朝鮮</li> <li>9. 豊臣秀吉の世界構想と日朝関係</li> <li>10. 通信使外交の成立と展開</li> <li>11. 日韓の開港と東アジアの紛争</li> <li>12. 帝国主義と独立運動</li> <li>13. 日韓国交正常化以前の交流</li> <li>14. 現代日韓交流の拡大・発展</li> <li>15. まとめ一日韓交流の未来を展望する</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを精読しておく。事後学修：授業で配布するプリントを整理する。		
テキスト	歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓歴史共通教材 日韓交流の歴史』明石書店、2007年		
参考文献	吉田光男編『日韓中の交流—ひと・モノ・文化（アジア理解講座）』山川出版社、2004年		
評価方法	授業に対する積極的参加度(20%)、レポート(30%)、期末試験(50%)		

08年度以降	歴史と文化 1(大衆文化論)	担当者	木本 玲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
音楽、ゲーム等のコンテンツや、それらの背景にあるサブカルチャー（音楽文化、オタク文化など）、さらにはそれらを売買する市場について、具体的な事例をもとに講義を進めていく。コンテンツを介したグローバル化についても講義する。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化を多角的に見る視点を養う。		1 イントロダクション 2 20世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3 20世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4 20世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5 20世紀のサブカルチャー4：ヒップホップの現在 6 サブカルチャーとグローバル化1：日本のロック 7 サブカルチャーとグローバル化2：その後 8 産業と文化1：文化産業論 9 産業と文化2：市場の動態 10 不良の文化 11 オタク文化 12 ゲーム文化(1) 13 ゲーム文化(2) 14 まとめ(1) 15 まとめ(2)	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内で指示する課題に取り組むこと		
<b>テキスト</b>	授業内で随時指示する		
<b>参考文献</b>	授業内で随時指示する		
<b>評価方法</b>	テスト		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	歴史と文化1(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷 哲也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義目標)</p> <p>西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>(講義概要)</p> <p>7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>なお、毎回出席をとる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イスラームの基本事項について説明する。</li> <li>2. イスラーム教の誕生以前の世界について。</li> <li>3. 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、時代背景。</li> <li>4. 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について。</li> <li>5. ウマイヤ朝の歴史。「アラブ帝国」の意味。</li> <li>6. アッバース朝の歴史。「イスラーム帝国」の意味。</li> <li>7. イスラーム教の聖典コーラン、ハディース。</li> <li>8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学。</li> <li>9. アッバース朝下に出現しはじめた軍事政権。</li> <li>10. マムルーク朝について。とくにイクター制が西ヨーロッパの封建制と比較される点。</li> <li>11. 同 その2</li> <li>12. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。</li> <li>13. 同 その2</li> <li>14. 歴史にみられるイスラーム教徒の生活と社会。</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
<b>テキスト</b>	とくにさだめない。授業で指示する。		
<b>参考文献</b>	とくにさだめない。授業で指示する。		
<b>評価方法</b>	レポートの評価(70%)と平常点(30%)。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷 哲也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義目的)</p> <p>イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p> <p>(講義概要)</p> <p>イスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。</p> <p>なお、毎回出席をとる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オスマン朝の成立と発展について考察する。</li> <li>2. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界。</li> <li>3. 「西洋の衝撃」とイスラーム改革運動。</li> <li>4. さまざまなイスラーム改革運動について考える。</li> <li>5. パレスチナ問題とエジプトの近代化について。</li> <li>6. トルコの近代化とその過程について考える。</li> <li>7. 近代化がイスラーム世界の人々におよぼした影響。</li> <li>8. 宗教と近代化との関係について検討する。</li> <li>9. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。</li> <li>10. 20世紀のイスラーム世界について考える。</li> <li>11. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。</li> <li>12. 同その2</li> <li>13. 同その3</li> <li>14. 今日のイスラーム主義の主張と展開。</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
<b>テキスト</b>	とくにさだめない。授業で指示する。		
<b>参考文献</b>	とくにさだめない。授業で指示する。		
<b>評価方法</b>	レポートの評価(70%)と平常点(30%)。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。		

08年度以降	歴史と文化1(東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷 哲也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義の目的) アジア史的な観点を中心に「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい。「東洋」という概念は、「西洋」側の主観の産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが最初の目標である。</p> <p>(講義概要) 最初はセム系の一神教の理解を歴史に沿ってすすめ、やがてキリスト教が西洋世界の形成とつながることを理解し、次に東洋におけるイスラーム教や仏教やヒンドゥー教などを考察し、最後に大航海時代がもたらした「世界の一体化」の意味を検証する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>ユダヤ教・キリスト教の広がりアジア世界。</li> <li>同その2</li> <li>同その3</li> <li>イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。</li> <li>同その2</li> <li>同その3</li> <li>十字軍・レコンキスタとその時代。</li> <li>同その2</li> <li>同その3</li> <li>仏教・ヒンドゥー教とその世界。</li> <li>同その2</li> <li>日本への仏教の伝播とその性格。</li> <li>同その2</li> <li>大航海時代とその後。</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
<b>テキスト</b>	とくに定めない。授業で指示する。		
<b>参考文献</b>	高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		
<b>評価方法</b>	レポートによる評価（100％）レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。		

08年度以降	歴史と文化1(東西文化と近代化)	担当者	熊谷 哲也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義の目的) 秋学期ではとくに、東洋における近代化が事実上の「西洋化」であった点を考察し、それが生み出すさまざまな現実を検討しながら、現代の世界のしくみを理解するための橋渡しとなることを目的とする。</p> <p>(講義概要) アジア地域について近代化の問題を広く考察する。とくに近代化にともなってオスマン帝国が解体し、広範な地域で宗教や民族意識にかかわる問題があらわれるが、それらが現在の国際情勢と結びついている点を検討したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>中東におけるさまざまな近代化。</li> <li>同その2</li> <li>同その3</li> <li>帝国主義とイスラーム世界</li> <li>同その2</li> <li>同その3</li> <li>オスマン世界の近代化と民族・宗教意識のゆくえ。</li> <li>同その2</li> <li>同その3</li> <li>ヨーロッパのオスマン世界、とくに旧ユーゴスラヴィアにおける民族意識の形成。</li> <li>同その2</li> <li>同その3</li> <li>旧ソ連諸国の民族意識。</li> <li>同その2</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
<b>テキスト</b>	とくに定めない。授業で指示する。		
<b>参考文献</b>	高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		
<b>評価方法</b>	レポートによる評価（100％）レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。		

08年度以降	歴史と文化 1(韓国文化各論 c)	担当者	小宮 秀陵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は先史から朝鮮時代までの歴史を概観し、韓国の歴史に関する基礎的知識を習得し、現代社会の前近代史に対する捉え方を理解することにある。</p> <p>講義では韓国史の手引書となる1冊を選び、先史から朝鮮時代までの歴史の歩みを、国家別・時代別にみていく。この際、国内政治とともに、東アジアや西洋との国際関係の中での歴史的展開を重視する。また、各回で扱う単元に関連する論点を取り上げ、現代社会の韓国前近代史に対するまなざしも考えるようにしたい。</p> <p>基本的には講義形式だが、重要な論点についてはグループで議論・発表するようにする。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時プリントを配布し、小テストなども行う。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 韓国史の時代区分</li> <li>3. 韓国の先史時代</li> <li>4. 古朝鮮・楽浪と領域論</li> <li>5. 高句麗史と帰属問題</li> <li>6. 百濟史の展開と古代日本</li> <li>7. 新羅の成長</li> <li>8. 加耶諸国と倭</li> <li>9. 統一新羅とその虚構性</li> <li>10. 渤海の領域と対外関係</li> <li>11. 高麗社会の展開と外交</li> <li>12. 朝鮮前期の政治構造と国際関係</li> <li>13. 朝鮮後期の社会変動</li> <li>14. まとめ1-韓国前近代史と現代韓国社会</li> <li>15. まとめ2-韓国前近代史と現代の日本</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定箇所を事前に読んでおく。また授業中に配布したプリントは自分なりに整理しておくこと。		
<b>テキスト</b>	田中俊明編『朝鮮の歴史：先史から現代』昭和堂, 2008年		
<b>参考文献</b>	李成市, 宮嶋博史, 糟谷憲一 編『朝鮮史 1: 先史・朝鮮王朝 (世界歴史大系)』山川出版社, 2017年		
<b>評価方法</b>	授業に対する積極的参加度(20%), レポート(30%), 期末試験(50%)		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	歴史と文化1(韓国史)	担当者	佐藤 厚
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ここ数年、日本と韓国の関係は必ずしも良いとは言えない状況が続いている。その原因は近代の歴史に関する問題である。これに関連してインターネットサイトの中には様々な見解が溢れ、中には極端なものも多い。いま必要なのは、韓国(朝鮮半島)の歴史についてのバランスのとれた理解である。そこで本講義では韓国の通史を講義し、東アジアの中での韓国の位置および日韓関係について学ぶ。</p> <p>講義は、事前の予習を前提とし、ポイントを記したプリントを配布し、それに基づいて話をする。</p> <p>知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。</p> <p>なお不定期にレポートを課す場合がある。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：古代から統一新羅へ(1) 三国時代</p> <p>第3回：古代から統一新羅へ(2) 統一新羅時代</p> <p>第4回：高麗時代(1) 建国から武臣政権の誕生</p> <p>第5回：高麗時代(2) モンゴル支配から高麗の滅亡</p> <p>第6回：朝鮮時代(1) 建国から豊臣秀吉の侵略</p> <p>第7回：朝鮮時代(2) 後金の侵攻から正祖の治世</p> <p>第8回：朝鮮時代(3) 西欧勢力の進出への対応</p> <p>第9回：植民地時代(1) 日韓併合から満洲事変</p> <p>第10回：植民地時代(2) 太平洋戦争と朝鮮</p> <p>第11回：現代(1) 1945年から1960年</p> <p>第12回：現代(2) 1960年から1980年</p> <p>第13回：現代(3) 1980年から2000年</p> <p>第14回：現代(4) 2000年以後</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テキストを読んでくること。事後学修：小テストに備え、テキストとプリントを見直すこと。		
<b>テキスト</b>	水野俊平著『韓国の歴史<増補改訂版>』(河出書房新社、2017年)		
<b>参考文献</b>	授業時に指示する		
<b>評価方法</b>	授業冒頭に行う小テスト(30%)、小レポート(20%)、期末試験(50%)。※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化1(カリブ海域研究)	担当者	工藤 多香子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カリブ海域といっても、日本から遠く、あまりなじみのない場所かもしれません。しかし、砂糖やタバコ、そしてサルサやレゲエといった音楽を通じてカリブ海域と私たちの社会は密接につながっています。この講義では、なぜ砂糖がこの地域で栽培されるようになったのか、また、どうして多様な音楽がこの地域から生まれるのかを歴史的背景にさかのぼりながら解説します。</p> <p>具体的には2015年に米国と国交再開したばかりのキューバを中心に人々の暮らしなどを紹介しながら、広くカリブ海域の人々の経験について文化人類学的に考察します。コロンブスの「発見」以来、独特の歴史を背負うこととなったこの地域の社会や人々の考え方に、遠い日本に住む私たちにもきっと学ぶべきことが多くあるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論 「ヨーロッパの闘技場」としてのカリブ海域</li> <li>2. コロンブスと「カリブ」の出会い</li> <li>3. ヨーロッパと砂糖</li> <li>4. 砂糖が生んだ社会</li> <li>5. タバコの文化史</li> <li>6. 海賊とラム酒</li> <li>7. 奴隷制度の実態</li> <li>8. 奴隷制度の爪痕</li> <li>9. 人種と民族</li> <li>10. クレオール文化</li> <li>11. カリブ海域の音楽</li> <li>12. カリブ海域の宗教</li> <li>13. キューバ革命</li> <li>14. キューバのいま</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。ふだんからカリブ海域のニュースなどに関心をもつようにしてください。		
テキスト	特に指定なし		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	レポート 60%、リアクションペーパー40%		

08年度以降	歴史と文化1(恐怖の日本文学)	担当者	佐藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わい、恐怖の構造の理解まで到達させる。</p> <p>現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の日本文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察し、日本文化論まで思考を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 恐怖の現代文学のアウトライ</li> <li>2. ①伝統的手法による恐怖の造形、荒俣宏「帝都物語」</li> <li>3. ② 同上 京極夏彦「魍魎の匣」</li> <li>4. ③ 同上 坂東眞砂子「死国」</li> <li>5. ①超自然的事象からの造形 「二重螺旋の悪魔」</li> <li>6. ② 同上 鈴木光司「リング」</li> <li>7. ③ 同上 瀬名秀明「パラサイトイヴ」</li> <li>8. ①心理学的な題材からの造形</li> <li>9. ② 同上 貴志祐介「黒い家」</li> <li>10. ③ 同上 桐野夏生「OUT」</li> <li>11. ①社会派ミステリーの造形 宮部みゆき「模倣犯」</li> <li>12. ② 同上 東野圭吾「容疑者Xの献身」</li> <li>13. ①原作を映像で見る</li> <li>14. ② 同上</li> <li>15. まとめ（総集編）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	その都度紹介する		
<b>評価方法</b>	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%		

08年度以降	歴史と文化1(日本文学現代)	担当者	佐藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察し、現代文学思潮論まで理解させる。</p> <p>現代文学のベストセラーを詳細に分析する。「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫り、癒しの構造を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ①人間関係からの癒し 重松清「ビタミンF」</li> <li>3. ② 同上 恩田陸「夜のピクニック」</li> <li>4. ③ 同上 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」</li> <li>5. ①時間からの救い 浅田次郎「地下鉄に乗って」</li> <li>6. ② 同上 北村薫「スキップ」</li> <li>7. ③ 同上 佐藤正午「Y」</li> <li>8. ①笑いの持つ救い 奥田英朗「インザプール」</li> <li>9. ② 同上 佐藤多佳子「しゃべれどもしゃべれども」</li> <li>10. ①美しい生き方 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎</li> <li>11. ② 同上 有川浩「阪急電車」</li> <li>12. ③ 同上 天童荒太「悼む人」</li> <li>13. ①原作を映像で見る</li> <li>14. ② 同上</li> <li>15. まとめ（総集編）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	その都度紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて解明する。</p> <p>後半では「負け犬」だったユダヤ人たちがアメリカで迎った苦難の歴史と、多数派からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきた姿を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中世英国のユダヤ人金融</li> <li>2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る —1290年のイングランド—</li> <li>3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656</li> <li>4. 千年王国思想とユダヤ人再入国</li> <li>5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人</li> <li>6. 英国人地主貴族社会への同化現象</li> <li>7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム</li> <li>8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ</li> <li>9. 現代英国のユダヤ人社会</li> <li>10. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色</li> <li>11. 植民地時代、建国初期における反ユダヤ主義の不在</li> <li>12. 南北戦争期における反ユダヤ主義の出現</li> <li>13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破</li> <li>14. 1970年代以後の反ユダヤ主義</li> <li>15. 閉ざされた象牙の塔、高等教育におけるユダヤ人排斥</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
<b>テキスト</b>	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行(2000年 集英社新書 740円) 『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年 講談社選書 1600円)		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	評価は筆記試験によって決定する(100%)。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。12択20問のQuiz形式。		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生みだしたメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユダヤの経済力はなぜ解明されなかったのか</li> <li>2. 情報・通信産業のユダヤ人</li> <li>3. メディア産業のユダヤ人</li> <li>4. 小売業のユダヤ人</li> <li>5. 不動産業のユダヤ人</li> <li>6. 伝統的ユダヤ・ビジネス</li> <li>7. ウォール街のユダヤ人</li> <li>8. ユダヤ系投資銀行の興亡</li> <li>9. ユダヤ人企業家成功の原因とは</li> <li>10. 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト</li> <li>11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン</li> <li>12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義</li> <li>13. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色</li> <li>14. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
<b>テキスト</b>	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行(2000年 集英社新書 740円) 仮題『アメリカのユダヤ大富豪』佐藤唯行(2018年 PHP 研究所電子書籍版 1120～560円)		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	春学期と同じ。		

08年度以降	歴史と文化1(都市と建築1)	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることが目的とする。</p> <p>西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。</p> <p>なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 古代エジプトの建築(1)</li> <li>3. 古代エジプトの建築(2)</li> <li>4. 古代メソポタミアの建築(1)</li> <li>5. 古代メソポタミアの建築(2)</li> <li>6. 古代ペルシャの建築</li> <li>7. ユーゲ海建築</li> <li>8. 中間のまとめ(テスト)</li> <li>9. 古代ギリシャの建築(1)</li> <li>10. 古代ギリシャの建築(2)</li> <li>11. 古代ギリシャの建築(3)</li> <li>12. 古代ローマの建築(1)</li> <li>13. 古代ローマの建築(2)</li> <li>14. 古代ローマの建築(3)</li> <li>15. まとめ(テスト)</li> </ol> <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に講義対象の地域や時代についてある程度の知識をもつことが望ましい。事後に講義で得た知見や問題意識を掘り下げてみることを望ましい。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	まとめのテストの結果によって評価する。		

08年度以降	歴史と文化1(都市と建築2)	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることが目的とする。</p> <p>西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。</p> <p>なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 初期キリスト教建築</li> <li>3. ビザンチン建築</li> <li>4. イスラム建築</li> <li>5. プレ・ロマネスク建築</li> <li>6. ロマネスク建築(1)</li> <li>7. ロマネスク建築(2)</li> <li>8. ロマネスク建築(3)</li> <li>9. 中間のまとめ(テスト)</li> <li>10. ゴシック建築(1)</li> <li>11. ゴシック建築(2)</li> <li>12. ゴシック建築(3)</li> <li>13. ルネサンス建築(1)</li> <li>14. ルネサンス建築(2)</li> <li>15. まとめ(テスト)</li> </ol> <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に講義対象の地域や時代についてある程度の知識をもつことが望ましい。事後に講義で得た知見や問題意識を掘り下げてみることを望ましい。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	まとめのテストの結果によって評価する。		

08年度以降	歴史と文化1(韓国文学史)	担当者	沈元燮
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義目的) 文学とは一国の文化の核心を集約した言語芸術である。本講座は、韓国文学史を代表する作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して、韓国人の心の原風景を巨視的・通史的に把握しようとする韓国研究企画の一つである。</p> <p>(講義概要)</p> <p>1) 古代・中世：古朝鮮から三国時代、高麗、朝鮮時代に至る文学の流れを世界観を中心に考察する。代表的な庶民芸術で、韓国人の愛情心理の原型をなしている「春香伝」は映画で鑑賞する。</p> <p>2) 近現代：近代国民国家建設が植民地化とともに進まざるをえなかった近代韓国文学の特殊性を把握した上で、植民地時代、新自由主義時代を生き抜く韓国近代文学の流れを代表作を中心に考察する。最近人気を博しているSNS詩や新世代ネット小説の世界も積極的に取り扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学とは何か。世界文学の流れ。</li> <li>2. 建国神話と古歌謡</li> <li>3. 新羅、百済の歌と仏教説話</li> <li>4. 古代の韓国人が憧れていた「美しい顔」</li> <li>5. 高麗の流行歌</li> <li>6. 朝鮮時代の詩と歌</li> <li>7. 朝鮮時代の庶民小説ーパンソリ映画「春香伝」1</li> <li>8. パンソリ映画「春香伝」2</li> <li>9. 前半まとめ/中間テスト</li> <li>10. 韓国近代文学の明暗：歴史と課題</li> <li>11. 「万歳前」が描いた植民地下の朝鮮</li> <li>12. 「あなた」を呼ぶ詩人たち：「躑躅の花」、「服従」</li> <li>13. 空と風と星と詩：詩人尹東柱の生涯と詩</li> <li>14. ネット及びSNS文学：青少年作家、ネット詩の世界</li> <li>15. まとめ(*差し替えの可能性あります)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ネット検索などを通して、各テキストに関する事前調査を行ってください。授業後にポイントとなるところを文章として整理し、記述式のテストに備えてください。		
<b>テキスト</b>	沈元燮編、『1冊で読む韓国文学テキスト、2018年度版』(冊子) 配布		
<b>参考文献</b>	申明直、権昶奎、『韓国文学ノート』白帝社、2009		
<b>評価方法</b>	中間テスト・期末テスト 80%、感想文・授業への参加度：20%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	歴史と文化1(日本文化論)	担当者	城崎 陽子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>人生儀礼</b> <p>人の一生には節目ごとに様々な儀礼が行われます。これを「人生儀礼」とか「通過儀礼」と呼び、属する集団での身分の変化や新しい役割の獲得が行われます。</p> <p>本講義では人が生まれて成長する過程で迎えるいくつかの儀礼（生誕、成人、婚姻、葬送など）を取り上げ、これを通史的に学習することで、日本文化における様々な伝統行事の成立や展開、そして人生儀礼の意義について理解することを講義の目的とします。</p>		1 ガイダンスー人生儀礼とはー 2 生活習俗ー衣ー 3 生活習俗ー食・その1ー 4 生活習俗ー食・その2ー 5 生活習俗ー住ー 6 人生儀礼ー生誕・その1ー 7 人生儀礼ー生誕・その2ー 8 人生儀礼ー成人・その1ー 9 人生儀礼ー成人・その2ー 10 人生儀礼ー婚姻・その1ー 11 人生儀礼ー婚姻・その2ー 12 人生儀礼ー葬送・その1ー 13 人生儀礼ー葬送・その2ー 14 人生儀礼ー葬送・その3ー 15 まとめ	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。		
<b>テキスト</b>	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	レポート70%、課題を含めた授業への参加度30%		

08年度以降	歴史と文化1(日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	城崎 陽子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>日本の年中行事</b> <p>日本文化の基点ともいえるべき「年中行事」を中心に文学作品にうかがえる様々な行事を通史的に追いつつ、日本文化について学び、各国の文化との比較を通じてそれぞれの文化への理解を深めることを本講義の目的とします。</p> <p>特に「五節供」とその周縁の行事をとりあげてこれを概説し、それらの行事に関する現代の様態をレポートしたり、各国の行事を紹介したりする時間をとり、ディスカッションする場を設けます。</p>		1 ガイダンスー一年中行事とは・アンケートー 2 日本文化の基点ー暦の概念ー 3 日本文化の基点ー儀式書の概説ー 4 年中行事ー正月行事・その1ー 5 年中行事ー正月行事・その2ー 6 年中行事ー正月行事・その3ー 7 年中行事ー上巳の儀礼・その1ー 8 年中行事ー上巳の儀礼・その2ー 9 年中行事ー端午の儀礼・その1ー 10 年中行事ー端午の儀礼・その2ー 11 年中行事ー七夕の儀礼・その1ー 12 年中行事ー七夕の儀礼・その2ー 13 年中行事ー重陽の儀礼ー 14 年中行事ー新嘗祭・大嘗祭ー 15 まとめ	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。		
<b>テキスト</b>	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	レポート60%、リアクションペーパーや課題を含めた授業への参加度40%		

08年度以降	歴史と文化1(日本文学論・中世I)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>古今集の世界—中世和歌史と古今伝授—</b></p> <p>わが国の勅撰集の第一にあげられる『古今和歌集』は、後代にわたって「注釈」されつつ、さらには「本説」と呼ばれる歌に関するエピソードなどを伴って享受されています。</p> <p>本講義では、『古今和歌集』に関する様々な「注釈」や「古今伝授」と呼ばれる学習パターンが盛んとなる中世期から近世期にかけての和歌文学史の様態をいくつかの文献を読み解き、中世から近世にかけての和歌文学史の流れを理解することを講義の目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス—勅撰集とは—</li> <li>2 古今集仮名序の世界—『古今和歌集』仮名序を読む—</li> <li>3 『古今和歌集』の注釈—その1・『俊頼髓脳』—</li> <li>4 『古今和歌集』の注釈—その2・『奥義抄』—</li> <li>5 『古今和歌集』の注釈—その3・『古今集注』—</li> <li>6 六條藤家の登場—柿本人麿影供—</li> <li>7 御子左家の登場—藤原俊成・『古来風体抄』—</li> <li>8 御子左家の登場—藤原定家・『頭注密勘』—</li> <li>9 御子左家の分裂—二条家・『六卷抄』—</li> <li>10 二条家の流れ—頓阿・『頓阿序注』—</li> <li>11 反御子左家の誕生—為頭流・『古今和歌集聞書三流抄』</li> <li>12 為頭流からの展開—謡曲への影響—</li> <li>13 古今伝授の世界—その1・御所伝授の成立—</li> <li>14 古今伝授の世界—その2・地下伝授への展開—</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。		
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	レポート70%、課題を含めた授業への参加度30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化1(歴史学1)(文明史研究 a)	担当者	高橋 裕子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 講義全体をとおして、文明とは何かを考えていくことを目的とします。多彩な文明を作り出してきた人類の歴史について、はば広く学んでいきます。それにより多角的な視野を獲得し、現代社会を生きていく上で求められる国際的な教養や自らの価値観、世界観を築き上げていくことを目指します。</p> <p>【講義概要】 ヨーロッパに焦点を当て、その歴史や文明を学んでいきます。講義のみならず、映像資料も使用します。 また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケルト</li> <li>2. 古代ギリシア</li> <li>3. 古代ローマ</li> <li>4. キリスト教の誕生</li> <li>5. 中世</li> <li>6. 大航海時代</li> <li>7. ルネサンス</li> <li>8. オランダの繁栄</li> <li>9. ヨーロッパ諸国の海外進出と奴隷制</li> <li>10. 革命の時代</li> <li>11. 第一次世界大戦</li> <li>12. 第二次世界大戦</li> <li>13. 戦後の世界</li> <li>14. ヨーロッパの統合とそれからの離脱</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。		
<b>テキスト</b>	特になし。		
<b>参考文献</b>	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。		
<b>評価方法</b>	レポート 100%		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学2)(文明史研究 b)	担当者	高橋 裕子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 同上。</p> <p>【講義概要】 前半は、文明や人間というものについて、自ら考えるためのヒントとなる様々な課題やテーマを取り上げていきます。映像資料も使用する予定です。 後半は、日本について語るができるようになることを目指して、日本に的を絞ります。古墳時代にいたるまでの社会の変遷を講義していきます。 また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 人類の誕生</li> <li>3. 創造力と芸術の誕生</li> <li>4. 農業の誕生と発展</li> <li>5. 国家と支配</li> <li>6. お金の誕生と発展</li> <li>7. 旧石器時代 (1) 氷河期の日本列島</li> <li>8. 旧石器時代 (2) 社会と生活</li> <li>9. 縄文時代 (1) 土器の発明</li> <li>10. 縄文時代 (2) 定住と社会</li> <li>11. 弥生時代 (1) 稲作と社会の発展</li> <li>12. 弥生時代 (2) 金属器の発展と戦争</li> <li>13. 古墳時代 (1) 巨大墳墓と支配の確立</li> <li>14. 古墳時代 (2) 一般人の生活</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。		
<b>テキスト</b>	特になし。		
<b>参考文献</b>	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。		
<b>評価方法</b>	レポート 100%		

08年度以降	歴史と文化1(中国史 a)	担当者	張 士陽
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。</p> <p>清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 清朝体制：皇帝支配</li> <li>3 清朝体制：科挙と地方統治</li> <li>4 アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺</li> <li>5 太平天国</li> <li>6 体制の反撃</li> <li>7 回民反乱</li> <li>8 万国公法と西学受容</li> <li>9 開港場の社会と経済</li> <li>10 農村社会の変容</li> <li>11 朝鮮半島をめぐる日清対立</li> <li>12 台湾事件と台湾出兵</li> <li>13 新疆をめぐる紛争</li> <li>14 清末新宗教の活動</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと		
<b>テキスト</b>	並木頼寿・井上裕正『世界の歴史19 中華帝国の危機』（中公文庫S22-19）中央公論新社、2008年。		
<b>参考文献</b>	授業時に紹介する		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、平常点 20%		

08年度以降	歴史と文化1(中国史 b)	担当者	張 士陽
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>19世紀後半、清朝はベトナム・ビルマ・琉球などの宗主権を喪失する一方、朝鮮半島ではその主導権をめぐる日本と対立し日清戦争が勃発します。その敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 周辺地域の宗主権の喪失</li> <li>3 清仏戦争</li> <li>4 劉銘伝の台湾近代化政策</li> <li>5 日清戦争</li> <li>6 台湾民主国の抵抗</li> <li>7 変法改革</li> <li>8 戊戌の政変</li> <li>9 キリスト教と反キリスト教暴動</li> <li>10 義和団の蜂起</li> <li>11 纏足問題と天足運動</li> <li>12 革命派の台頭</li> <li>13 地方自治の試み</li> <li>14 王朝体制の崩壊と中華民国の誕生</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと		
<b>テキスト</b>	並木頼寿・井上裕正『世界の歴史19 中華帝国の危機』（中公文庫S22-19）中央公論新社、2008年。		
<b>参考文献</b>	授業時に紹介する		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、平常点 20%		

08年度以降	歴史と文化1(スペイン研究入門)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。ただし、<u>スペイン語を学んでいる必要はない</u>。</p> <p>講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。</p> <p>なお、「ラテンアメリカ研究概論」と関連性・連続性が強いので、左記授業も選択することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界のスペイン語</li> <li>2. イベリア半島の地理・言語状況</li> <li>3. カタルーニャの言語</li> <li>4. カタルーニャの文化</li> <li>5. バスク、ガリシアの言語文化</li> <li>6. アンダルシーアの言語文化</li> <li>7. イスラム・スペイン</li> <li>8. 1492</li> <li>9. フラメンコ・闘牛</li> <li>10. スペイン黄金世紀</li> <li>11. 18, 19世紀のスペイン</li> <li>12. 19, 20世紀のスペイン</li> <li>13. スペイン内戦とフランコ体制</li> <li>14. スペインの民主化とヨーロッパ統合、現代スペイン</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。		
テキスト	適宜プリントを配布		
参考文献	授業で紹介		
評価方法	定期試験によって評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化1(日本における死生学)	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人は必ず死にます。そして「死」と直面したときに「生」を意識します。そのために儀礼が行なわれてきました。「死生学」は「死」と「生」をめぐる研究の1つです。</p> <p>本講座で扱う問題は、決して過去の問題ではなく、現在、そして未来の問題です。現在では葬儀価格の高騰と葬儀の簡略化、一方で、格安葬儀社の社会問題化。そして墓地不足から墓地の変化、また限界集落では墓地管理者不足の問題を抱えています。なんのために葬儀をするのか、墓はなぜあるのか、葬儀や墓の形が多様化してきている現在ですが、いずれ我々が直面する問題であり、「死」を考えることは、現在の「生」の意味にも関わってくる問題だと思えます。日本人が「死」をどのように捉え、儀礼を行ってきたのか。さらに、儀礼や墓制から死生観や靈魂観・先祖観を見ることで、未来を考えたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 講義の概説</li> <li>2、 「死」と葬送</li> <li>3、 日本の葬法の時代的変遷</li> <li>4、 「死」の確認と直後の儀礼</li> <li>5、 葬送儀礼次第1</li> <li>6、 葬送儀礼次第2</li> <li>7、 墓地・墓石の意味／両墓制</li> <li>8、 近代以降の葬法の変化</li> <li>9、 火葬受容への抵抗と受容1</li> <li>10、 火葬受容への抵抗と受容2</li> <li>11、 火葬の受容と儀礼変化（現代の葬儀とその意味）</li> <li>12、 葬儀から見える靈魂観・死生観</li> <li>13、 墓・儀礼から見る「先祖観」</li> <li>14、 「雨乞い」と葬儀の関連</li> <li>15、 葬送儀礼と誕生儀礼の類似性/ペット・ロボットの死</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布		
<b>参考文献</b>	参考・関連文献は授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。		

08年度以降	歴史と文化1(日本における世間学)	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「今日は何を着て学校へ行こうか、この恰好で変に思われなだろうか」と考えたことはないでしょうか。日本人はとかく「主体」的にではなく、「まわりの目」によって行動が、良くも悪くも規制される傾向にあります。それが「世間」であり、日本独特のものと言われています。現代において、「社会」の枠組みの中で生きている私たちですが、それとは別に、同時に「世間」の中を生きています。西洋的価値観の基に「社会」が成り立ち、ネットの発達で世の中が大きく変化していますが、「世間」が無くなることはなさそうです。</p> <p>本講座が、我々をとりまく「世間」の構造を捉えることで、「主体」である「私」を「世間」の中でどのように位置づけ、どのように生きるのかを考える礎になればと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 講義の概説</li> <li>2、 「ウチ」なる世界1</li> <li>3、 「ウチ」なる世界2</li> <li>4、 「ウチ」なる世界と「ソト」なる世界の関係</li> <li>5、 「世間」とは何か</li> <li>6、 「世間」の特質1</li> <li>7、 「世間」の特質2</li> <li>8、 「世間」の特質3</li> <li>9、 世間話にみる「世間」</li> <li>10、 祭祀組織構造を「世間」から読み解く</li> <li>11、 「恥」の文化</li> <li>12、 「社会」と「世間」1</li> <li>13、 「社会」と「世間」2</li> <li>14、 庶民感覚と政治</li> <li>15、 現代の「世間」的世界（SNSの向こう側）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します		
<b>参考文献</b>	参考・関連文献は授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。		

08年度以降	歴史と文化1(民俗学)	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>民俗学は、庶民生活を考える学問です。庶民は何を語り、どのような生活を送ってきたのでしょうか。高度経済成長期を境に、生活様式が大きく変化しました。しかし今、我々が「普通」に行っていることは、かつて行われてきたことの延長線上に位置づけることができます。そして、その多くは文字化されずに「伝承」されてきました。「伝承」されてきた庶民生活にスポットをあてたのは柳田國男です。民俗学は「伝承」されてきた庶民生活を研究する学問として発展してきました。そのために前近代的な事象への関心が高くなっていますが、民俗学は現在の学問です。現在の我々の生活様式も研究対象になります。</p> <p>本講座では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの対象を取り出して、これまでの研究成果を学び、またそれを土台にして「現在」をも視野にいれ、我々の生活とは何か、どのように過去とつながり、また未来へ続くのか考えたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 講義の概説</li> <li>2、 民俗学の研究対象（民俗誌にみる分類を中心に）</li> <li>3、 国学と民俗学</li> <li>4、 日本の信仰</li> <li>5、 国家神道</li> <li>6、 異界の存在1（妖怪・幽霊とは何か）</li> <li>7、 異界の存在2（『東海道四谷怪談』）</li> <li>8、 異界の存在3（妖怪と神の関係）</li> <li>9、 昔話とその背景1（桃太郎はなぜ英雄か）</li> <li>10、 昔話とその背景2（浦島の話）</li> <li>11、 災害伝承と伝説</li> <li>12、 年中行事1（正月を中心に）</li> <li>13、 年中行事2（盆行事を中心に）</li> <li>14、 現代の年中行事</li> <li>15、 人の一生（人生儀礼）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布		
<b>参考文献</b>	授業中で一覧を配布		
<b>評価方法</b>	定期試験 100%ですが、授業への参加度を加味します。		

08年度以降	歴史と文化1(地域文化)	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>地域による「生活」の在り方を「地域文化」として捉えます。本講座ではこの「地域文化」について考えます。方言や雑煮からもわかるように、「地域」による生活文化に異なりが見られます。地域差と言われるものです。しかし、「地域文化」は、ミクロの視点から見る「地域」と、類似文化の広がりから捉えられるマクロ的「地域」があります。前者は、そこに生活する人々の繋がりによって成り立ち、これは担い手の側面から見れば、基本的な「地域」ということになります。一方、後者は類似の文化の広がりとして見られ、文化圏として捉えられます。これらの「地域文化」を踏まえるだけでなく、過疎地と都市部の文化的問題を「地名」や「祭り」を中心にして捉え、さらにボーダレスとなっている今日でありながら、「郷土」意識が強く残っていることなど、これらを現代的な問題として捉え、今後のあり方について考えたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 講義の概説</li> <li>2、 地名の成立ちと地域</li> <li>3、 地域と生活構造1（村の成立と地域）</li> <li>4、 地域と生活構造2（「地域」を捉える）</li> <li>5、 結（白川郷の屋根葺きのDVDから）</li> <li>6、 地域認識の問題（地名と地域の関係）</li> <li>7、 地域の祭り（具体的に）</li> <li>8、 地域と祭りの関係</li> <li>9、 地域の重層性</li> <li>10、 伝統的祭りの方向性1（過疎地域の問題）</li> <li>11、 伝統的祭りの方向性2（都市部の問題）</li> <li>12、 フォークロリズム（「伝統」とは何か）</li> <li>13、 新興の祭り（山鹿踊りのDVDとよさこい祭り）</li> <li>14、 ボーダレス社会と地域文化</li> <li>15、 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読し、自分の住む「地域」を学んでください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します		
<b>参考文献</b>	参考・関連文献は授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。		

08年度以降	歴史と文化1(日本文学古典)	担当者	福沢 健
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>奈良時代の文学・及び宮崎駿監督「もののけ姫」を取り扱いながら、講義概要にあるような能力の習得を目指す。</p> <p>①神話とは何かを説明できる。</p> <p>②世界各地に類似する神話が分布する理由が説明できる。</p> <p>③ヤマタノオロチ退治神話について、神話的な意味を説明できる。</p> <p>④近代と前近代の「神殺し」の違いについて説明できる。</p> <p>⑤近代と前近代の労働観の違いについて説明することができる。</p> <p>⑥「もののけ姫」と環境思想との関わりについて説明することができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神話とは何か</li> <li>2. ペルセウス・アンドロメダ型神話について</li> <li>3. 日本人遙かな旅</li> <li>4. 同時発生説・伝播説</li> <li>5. エリアーデの神話論</li> <li>6. パルトの神話作用</li> <li>7. ヤマタノオロチ退治神話の意味</li> <li>8. 日本神話ともののけ姫</li> <li>9. アシタカの神殺し</li> <li>10. エボシのタタラ場の近代性</li> <li>11. 前近代と近代の労働観</li> <li>12. エボシの神殺しと近代合理主義</li> <li>13. ギルガメシュ叙事詩ともののけ姫</li> <li>14. もののけ姫と環境思想</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布		
<b>参考文献</b>	プリントを配布		
<b>評価方法</b>	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70% 授業への積極的参加：30%		

08年度以降	歴史と文化1(平安時代の文学を読む)	担当者	福沢 健
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>奈良・平安時代の文学及び宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。</p> <p>①原質神話の基本的な構成を説明することができる。</p> <p>②主人公の特徴として、「越境性」「非対称性」の概念を説明することができる。</p> <p>③根の国訪問神話の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。</p> <p>④伊勢物語の主人公「昔男」の二つの罪を、非対称性の観点から説明することができる。</p> <p>⑤源氏物語第一部の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。</p> <p>⑥「千と千尋の神隠し」のカオナシの役割について、移行対象の観点から説明することができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原質神話とは何か</li> <li>2. 根の国訪問神話</li> <li>3. 主人公の特徴</li> <li>4. 魔女の宅急便と原質神話</li> <li>5. 在原業平の犯した二つの罪</li> <li>6. 業平像の変容</li> <li>7. 源氏物語第一部のあらすじ</li> <li>8. 須磨・明石の巻と原質神話</li> <li>9. 桐壺帝と父親との対決</li> <li>10. 千尋の越境生・非対称性</li> <li>11. 援助者としてのハク・カオナシ</li> <li>12. カオナシと貨幣</li> <li>13. カオナシと移行対象</li> <li>14. ヒーローとヒロインの飛翔</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布		
<b>参考文献</b>	プリントを配布		
<b>評価方法</b>	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70% 授業への積極的参加：30%		

08年度以降	歴史と文化1(文化史入門)	担当者	古川 堅治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。その時、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれらを含めつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているか古代ギリシア・ローマ世界を例に取り上げ、自己の帰属意識や自己認識にとつていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的としています。授業は講義形式で行いますが、討議形式になるテーマもあるので積極的に参加して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに (講義の目的、概要、その他)</li> <li>2. 技術文化：動力とエネルギー源 (奴隷労働の意義)</li> <li>3. 技術文化：水の供給と浴場 (テルマエ・ロマエ)</li> <li>4. 運送手段：船と海上輸送 (三段櫂船と商船)</li> <li>5. 輸送手段：陸上輸送 (一般道と高速道)</li> <li>6. 造形芸術：建築と彫刻 (アルカイック・スマイル)</li> <li>7. 文学の世界：叙事詩と演劇 (ギリシア悲劇の普遍性)</li> <li>8. 宗教と祭祀：神々と人間 (ギリシア神話とは何か?)</li> <li>9. 性愛の諸相 (1) 男と女 (同性愛)</li> <li>10. 性愛の諸相 (2) 男と女 (結婚と異性愛)</li> <li>11. 競技 (アゴン) 的人間類型：理想的人間とは?</li> <li>12. クリエンテラ・パトロネージ関係</li> <li>13. 民主政の中の人間関係 (1)：デマゴグの意味</li> <li>14. 民主政の中の人間関係 (2)：ポピュリズム?</li> <li>15. 討論会：総括と展望</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。毎回出される課題に答えて授業後、あるいは次回に提出して下さい。		
<b>テキスト</b>	テキストは使用せず、プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際に、追加の参考文献を紹介することがあります。		
<b>評価方法</b>	定期のレポート60%、毎回の課題20%、授業の参加度20%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	歴史と文化1(文化人類学 a)	担当者	井垣 昌
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文化人類学への入門授業である。学問としての成り立ちや、主な関心事に触れながら、人びとの間で文化がなぜ、どのように異なるのかについて、常識にとらわれず、体系的に知る力を身につけ、また、そのための基本的な概念を理解することを目的とする。</p> <p>本授業は講義形式で行なう。履修生は、質問など、授業に積極的に参加すること。授業中に知識や概念の理解度を試す小テストや、概念を用いた思考力を試す課題を出す。課題を全て提出しない学生は、成績評価の対象としない。</p> <p>※上記の概要や授業計画は、履修生の興味・関心、授業の進捗などに応じて、変更する場合がある。</p> <p>※授業の進め方については、初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p> <p>※文化人類学IIとは開講時限が異なっていることに注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス／文化人類学の学問的な位置付け</li> <li>2. 未開と野蛮</li> <li>3. 自民族中心主義と文化相対主義</li> <li>4. 言語と文化</li> <li>5. 境界と分類</li> <li>6. 人種と民族</li> <li>7. 通過儀礼</li> <li>8. しきたりとタブー</li> <li>9. 宗教と祝祭</li> <li>10. 家族と親族</li> <li>11. 性とジェンダー</li> <li>12. 縁とコミュニティ</li> <li>13. 贈与と交換</li> <li>14. 伝統と文化変容</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各授業のテーマについて、①関連する概念および用語を調べ、②日常生活における見聞や体験から、文化人類学的に捉えなおして描写、分析、批判する練習を積むこと。これらの成果を課題に反映させること。		
<b>テキスト</b>	斗鬼正一著『目からウロコの文化人類学入門―人間探検ガイドブッカー』（ミネルヴァ書房、2014年）		
<b>参考文献</b>	授業内で指示する。		
<b>評価方法</b>	平常点（授業への参加度等）[25%]、小テスト[25%]、課題[50%、実施する場合は期末試験を含む]を評価対象の目安とする。課題の期限内の全提出および一定回数以上の出席を成績評価の必須条件とする。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化1(文化人類学 b)	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化人類学に関わる応用的で現代的なトピックを扱うとともに調査を実践することで、人類学の方法論と考え方を学ぶ。</p> <p>本授業は講義形式を中心に行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には教員の解説する概念や視点について理解を深めるために簡単な調査を行ってもらふ。主体的に課題をこなすことが重要となる。また、授業中に小課題の提出を課す。</p> <p>※授業の進め方、履修に関わる注意については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p> <p>※文化人類学 I を履修していなくても、本授業を履修することは可能である。ただし、履修に関する条件がある。ガイダンスで行う説明をよく聞くこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文化とは何か</li> <li>3. 食と政治</li> <li>4. 自然とは何か</li> <li>5. 可視化・単純化</li> <li>6. 調査実習1：可視化</li> <li>7. 可視化：再説</li> <li>8. 調査実習2：文化</li> <li>9. 可視化と地域知</li> <li>10. 調査実習3：地域知</li> <li>11. 地域知と実践知</li> <li>12. 調査実習4：実践知</li> <li>13. 地域の中の多様なアクター</li> <li>14. 政策への多様な評価</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト	教材は教員が用意するが、調査用ノートを持参する必要がある（詳しくは授業内で指示する）。		
参考文献	山下晋司等著『文化人類学キーワード 改訂版』（有斐閣）		
評価方法	平常点（授業への参加度等）[30%]、調査課題と小課題[70%]を評価対象とする。調査課題・小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

08年度以降	歴史と文化1 (歴史学1)「15年戦争」をどうとらえるか	担当者	丸浜 昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1945年に終わった戦争は太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを事実に見直したい。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。</p> <p>中高での学習では原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、映像をかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中で、「対立」がつけられている。この戦争はどういうものだったか的事实はしっかり知っておきたい。</p> <p>なお、秋学期と連動させており、できればあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって</li> <li>2 1941年12月8日—真珠湾からコタバルから</li> <li>3 被害の問題①—空襲は何を示すか</li> <li>4 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか</li> <li>5 日中戦争をとらえる①—満州事変から日中戦争へ</li> <li>6 日中戦争をとらえる②—対米英戦争とのかわり</li> <li>7 加害の問題①—731部隊とは何か</li> <li>8 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか</li> <li>9 治安戦としての日中戦争—「尽滅掃討」作戦</li> <li>10 日本の戦争と植民地朝鮮</li> <li>11 日本軍隊の特徴をみる</li> <li>12 戦時下の社会—戦争への動員・女性と戦争他</li> <li>13 敗戦をめぐって①—本土決戦体制の構築と沖縄</li> <li>14 敗戦をめぐって②—ポツダム宣言とその受諾</li> <li>15 「15年戦争」を振り返る</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に吉田裕『アジア・太平洋戦争』（岩波新書）の通読を勧める。事後はプリントを見直して欲しい。		
<b>テキスト</b>	毎時間プリントを配布する		
<b>参考文献</b>	上記のほかは、講義の中で紹介する		
<b>評価方法</b>	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90% 平常時の意見・感想など 10%		

08年度以降	歴史と文化1(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	担当者	丸浜 昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1945年8月15日に敗戦を迎えた戦争は、戦後70年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。その背景には、占領そして講和や賠償問題等を通してアメリカの強い関わりがある。トランプ政権が誕生し日米関係見直しが必至となる今、この歩みを知ることは重要である。沖縄のことを日本の問題としてしっかり考えたい。</p> <p>中国や韓国などでは、この2、30年間で民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、同時に日本とも民衆同士の交流が進んできた。戦後補償や戦争認識をめぐる問題は、やっとそれを民衆が議論できるようになったと捉えたい。きちんと論議できる知識をもつ若者でいて欲しい。</p> <p>2011年の3・11を経て、原発がどのように導入されどのような問題を持つかを学ぶこともあらためて欠かせないことになった。取り上げていきたい。</p> <p>なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「15年戦争」の終わり方をふりかえる。</li> <li>2 「民主化」と日本国憲法</li> <li>3 東京裁判と日本の戦争責任をめぐって</li> <li>4 朝鮮戦争とサンフランシスコ講和のもった問題</li> <li>5 日本の国内での補償をめぐって</li> <li>6 日本のアジアへの補償をめぐって</li> <li>7 日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか</li> <li>8 日中国交回復を考える</li> <li>9 「戦後」の沖縄の歩み</li> <li>10 ベトナム戦争と沖縄の日本復帰</li> <li>11 米軍基地問題と日本の安全保障を考える</li> <li>12 原発をめぐって①—「ビキニ被曝」と原子力平和利用</li> <li>13 原発をめぐって②—3.11から何を学ぶか</li> <li>14 戦後50年の国会決議をめぐって—政治家の戦争認識</li> <li>15 「戦後70年」を超えて</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ぜひ毎日、新聞に目を通すことを勧める。事後はプリントを見直して欲しい。		
<b>テキスト</b>	毎時間プリントを配布する		
<b>参考文献</b>	講義の中で紹介する		
<b>評価方法</b>	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90% 平常時の意見・感想など 10%		

08年度以降	歴史と文化1(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口 章
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、交易や人の移動によって生じる文化変化について概括的な知識の習得を到達目標とします。</p> <p>授業内容は、東西交易と国際移民に関する歴史について解説します。その上で、21世紀型市民社会における移民、難民について論理的に理解し、実生活において対応できるようにします。</p> <p>授業の進め方は講義形式です。理解度を確認するためにグループ討論も行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (多文化共生・文化変容から考える)</li> <li>2. 古代の交易： 地中海世界の交易について</li> <li>3. 中世の交易： イスラムと世界交易について</li> <li>4. 新大陸発見の時代： ヨーロッパ人と世界システムについて</li> <li>5. 帝国時代の交易： 大西洋の三角交易について</li> <li>6. 世界大戦と交易： 交易停滞と大恐慌について</li> <li>7. 移動する人々： エスニック・マイノリティについて</li> <li>8. 移民から市民へ： シティズンシップについて</li> <li>9. 移民と経済発展： 移民労働者について</li> <li>10. 大戦後の国際移民(1)： ヨーロッパの復興と移民について</li> <li>11. 大戦後の国際移民(2)： 高度成長期の移民について</li> <li>12. 大戦後の国際移民(3)： グローバル化と移民について</li> <li>13. 国民国家と国際移民： 入国管理について</li> <li>14. 移民と政治： 日本の移民政策について</li> <li>15. まとめ： 文化変容と共生社会 (討論)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学習：予習資料を事前に熟読(30分程度)、不明な用語の調べ(60分程度)を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください(90分程度)。		
<b>テキスト</b>	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	S・カスルズ/M・J・ミラー『国際移民の時代』名古屋大学出版会、杉村美紀編『移動する人々と国民国家』明石書店		
<b>評価方法</b>	学習態度(10%)、課題(30%)、最終レポート(60%)で総合的に評価します。		

08年度以降	歴史と文化1(グローバル化と情報・通信の文化史)	担当者	水口 章
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、メディアの発達史を通し、情報と社会の関係についての概括的な知識を習得することを到達目的とします。</p> <p>講義内容は、通信技術の発達史を振り返り、人類がどのような工夫をして情報を伝達してきたか、それが社会形成にどう結びついたかを解説します。さらに、現代の市民生活と情報がどのように関係しているかについて、メディアと公共性の観点から討論を行うことを通し、理解を深められるようにします。</p> <p>授業の進め方は講義形式です。理解度を確認するためにグループ討論も行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (情報伝達と時空の制約について考える)</li> <li>2. 歴史的情報伝達制度： 駅制について</li> <li>3. 印刷メディアの発達： 新聞、雑誌について</li> <li>4. 有線通信メディア： 電話の発達について</li> <li>5. 映画メディア： 大衆娯楽の発展について</li> <li>6. ラジオ・メディア： 無線通信の発達について</li> <li>7. テレビ・メディア： ナショナル・メディアについて</li> <li>8. パソコンとネットワーク化： 新たなコミュニティについて</li> <li>9. モバイルメディアの発達： 歴史的なメディアの変容について</li> <li>10. グローバル・メディア： コミュニケーション空間の変容</li> <li>11. メディアの公共性(1)： 世論形成について</li> <li>12. メディアの公共性(2)： 公共サービス放送について</li> <li>13. メディアの公共性(3)： 災害報道について</li> <li>14. メディアの公共性(4)： 人権について</li> <li>15. まとめ： グローバルメディアと市民社会</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学習：予習資料を事前に熟読(30分程度)、不明な用語の調べ(60分程度)を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください(90分程度)。		
<b>テキスト</b>	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	大石雄ほか『メディアの公共性』慶義義塾出版会、吉見俊哉『メディア文化論 [改訂版]』有斐閣		
<b>評価方法</b>	学習態度(10%)、課題(30%)、最終レポート(60%)で総合的に評価します。		

08年度以降	歴史と文化1(アラブ文化・芸術 a)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか。石油や砂漠、テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラームや女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、テレビで報道されるアラブ像はアラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。</p> <p>アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、みなさん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：アラブ人とは？</li> <li>2. 「イスラム」と「イスラーム」</li> <li>3. 「イスラム」と「イスラーム」</li> <li>4. ムスリムにとって「クルアーン」とは</li> <li>5. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭</li> <li>6. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性</li> <li>7. アラブ音楽入門 I</li> <li>8. アラブ音楽入門 II</li> <li>9. パレスチナ問題と芸術 1) ドキュメンタリー「五つのカメラが壊された」鑑賞・ディスカッション</li> <li>10. 2) ドキュメンタリー「レインボー」</li> <li>11. 3) 演劇「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞</li> <li>12. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション</li> <li>13. 4) 小説 ガッサーン・カナファーニ著 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」</li> <li>14. 5) 詩人 「パレスチナの声」M・ダルウィーシュ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ガッサーン・カナファーニの課題図書をできるだけ早く 図書館で入手して読み始めてください		
<b>テキスト</b>	課題図書：ガッサーン・カナファーニ著 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 読後レポート提出・ディスカッションが評価の大きなポイントになります		
<b>参考文献</b>	テーマが多岐にわたるため、その都度、講義で紹介します。		
<b>評価方法</b>	演劇鑑賞後レポート、小説読後レポートに重点を置く(70%)ほか、積極的な授業参加(30%)も考慮に入れます。		

08年度以降	歴史と文化1(アラブ文化・芸術 b)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マフフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説も交えながら、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。</p> <p>ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期イントロダクションーアラブの日常</li> <li>2. アラブの芸能界と歌謡曲 (1)</li> <li>3. アラブの芸能界と歌謡曲 (2)</li> <li>4. ノーベル賞作家 N.マフフーズの小説「バイナル・カスライン（「張り出し窓の街）」を理解するためのエジプト近代史</li> <li>5. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」</li> <li>6. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性</li> <li>7. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション</li> <li>8. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学</li> <li>9. マルコ・ポーロよりすごい中世アラブの旅行家</li> <li>10. イスラームというファクターを正しく理解する</li> <li>11. アラブ文化は詩の文化：イスラームより古いアラブの詩</li> <li>12. 詩の文化（続き）：中世ヒップホップと恋愛歌</li> <li>13. 詩の文化（続き）：映像で見る現代のアイドル詩人</li> <li>14. 小説「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）読後レポート提出</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ナギーブ・マフフーズの課題図書をできるだけ早く 図書館で入手して読み始めてください		
<b>テキスト</b>	課題図書：ナギーブ・マフフーズ著「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）		
<b>参考文献</b>	テーマが多岐にわたるため、その都度、講義で紹介します。		
<b>評価方法</b>	演劇鑑賞後レポート、小説読後レポートに重点を置く(70%)ほか、積極的な授業参加(30%)も考慮に入れます。		

08年度以降	歴史と文化1(在外日本人研究)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。</p> <p>明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270万人にのぼる。</p> <p>授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。</p> <p>ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。</p> <p>この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 夢のハワイへ</li> <li>3. ポリネシアハワイの生活</li> <li>4. アメリカ西海岸への移動</li> <li>5. 敵意のはじまり</li> <li>6. 差別のメカニズム―</li> <li>7. 日本人の完全排除</li> <li>8. 日米戦争と強制収容</li> <li>9. 収容キャンプの生活</li> <li>10. アメリカへの忠誠と従軍</li> <li>11. 二世部隊</li> <li>12. 帰米二世</li> <li>13. 中南米へ渡った日本人</li> <li>14. 戦後の人権獲得と汚名返上</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする		
<b>テキスト</b>	『ハワイの日本人移民』明石書店		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、課題提出 20%		

08年度以降	歴史と文化1(異文化間コミュニケーションb)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言うは易く行は難し」のフレーズ通りなのである。</p> <p>本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。</p> <p>価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。</p> <p>苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷から「解放」、そして真の「解放」への闘争を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. モザイク国家アメリカ</li> <li>3. 最近の黒人暴動にみる共生の現実</li> <li>4. 奴隷制とは</li> <li>5. 奴隷解放？現実とは？</li> <li>6. 自由と平等への戦いのはじまり</li> <li>7. バスボイコット事件</li> <li>8. 公民権運動の共生理念</li> <li>9. 非暴力不服従 ガンジーとキング</li> <li>10. 迷える北部の黒人たち</li> <li>11. 急進派ブラック・パワーとは</li> <li>12. ベトナム反戦と黒人運動</li> <li>13. モハメッド・アリ</li> <li>14. 最近の人種関係</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	『アメリカ黒人の歴史』岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇 講談社現代新書		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、課題提出 20%		

08年度以降	歴史と文化1(英語圏の文化)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>年間、60数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには5割を切るという。</p> <p>国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ(WASP&lt;White Anglo-Saxon Protestant&gt;)社会を創造した。19世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。</p> <p>冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。</p> <p>近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ワスプ主義とは</li> <li>3. 新しい白人移民の流入</li> <li>4. 多民族社会の問題</li> <li>5. 異文化と差別</li> <li>6. メルティングポット論</li> <li>7. ビートニックス</li> <li>8. 冷戦とベトナム戦争</li> <li>9. カウンターカルチャー I</li> <li>10. カウンターカルチャー II</li> <li>11. ロックミュージックの誕生</li> <li>12. 文化多元論</li> <li>13. アフターマティブアクション</li> <li>14. 多文化主義</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献を読み、講義理解の補助とする		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	『アメリカの反知性主義』みすず書房、2016年		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、課題提出など 20%		

08年度以降	歴史と文化1(英語圏事情)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバル化の理想は、世界の共生のはずである。しかし、テロの脅威が世界を不安に陥れている。力を武器に富の眠る第三世界を思うままに支配してきた欧米への反撃が収まらない。</p> <p>授業では経済と軍事の頂点に君臨してきたアメリカをとり上げて、その価値観と行動様式を見ていき、平和に資する多国間の共生のあり方を探っていこう。キーワードは「力の支配」である。</p> <p>① 銃社会アメリカで起こる惨劇はたびたび報道される。銃を所持しようとするアメリカ人の価値観とはいったいなんなのか、検証する。</p> <p>② アメリカと日本は第二次大戦以降、緊密な関係を築いてきたのだが、問題はないのか？日米は互いに敬い、果たして平等なのだろうか</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 銃社会アメリカ</li> <li>3. なぜ、銃が必要か</li> <li>4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える</li> <li>5. アメリカの占領</li> <li>6. 日米による安全保障とは</li> <li>7. 米兵事件の実相</li> <li>8. 湾岸戦争</li> <li>9. 911</li> <li>10. アフガン/イラク戦争</li> <li>11. もう一つの911</li> <li>12. 映像</li> <li>13. ソフト・パワー</li> <li>14. アメリカンポップカルチャーの力</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	指定された参考文献などを熟読し、授業理解の補助とする		
<b>テキスト</b>	『米兵犯罪と日米密約』明石書店		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、課題提出など 20%		

08年度以降	歴史と文化1(教育の歴史1)	担当者	萩原 真美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義概要</b> 本講義では、日本の教科書の歴史から、日本がどのような教育の歴史を歩んできたかをみていく。毎回の授業の前半は、江戸時代以降現代に至る教科書の歴史に関する講義を行い、後半は、履修者が調べた当該時期に作成された教科書について報告し、それに関するグループ討議を行いながら理解を深めていく。教科書自体の検討に時間を割きたいため、当該時期の教育の歴史については、事前にテキストの当該箇所を読んで予習しておくこと。教育の歴史Ⅱと合わせて通年で履修することが望ましい。		第1回：オリエンテーション（日本の教科書変遷の概観） 第2回：江戸時代の教科書／教科書の内容分析の方法 第3回：近代学校の発足と翻訳教科書（1870年代～） 第4回：検定教科書と国家統制（1880年代～） 第5回：国定教科書の成立（1900年代～） 第6回：教科書の全国的普及（1910年代～） 第7回：大正新教育期の教科書（1910年代後半～1920年代） 第8回：戦時下体制の教科書（1930年代～） 第9回：国民学校の成立と教科書（1940年代前半） 第10回：戦後教育改革と新教科書の作成（1940年代後半） 第11回：米軍占領下沖縄の教科書（1940年代後半） 第12回：教科書検定の強化（1950年代～1960年代） 第13回：現代の教科書とその特徴1（1970～1990年代） 第14回：現代の教科書とその特徴2（2000年代～） 第15回：まとめ	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	（事前学修）テキストの指定箇所を読む。課題がある場合はそれをやって授業に臨む。 （事後学習）講義を振り返り、授業レポートを作成する。		
<b>テキスト</b>	古沢常雄・米田俊彦編『教師教育テキストシリーズ3 教育史』学文社、2009年。		
<b>参考文献</b>	授業時に指示		
<b>評価方法</b>	授業内での課題50%（発表、授業レポート、グループ討議等）、最終レポート50%		

08年度以降	歴史と文化1(教育の歴史2)	担当者	萩原 真美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義概要</b> 本講義では、諸外国の歴史教科書から、その国がどのような教育の歴史を歩んできたかをみていく。毎回の授業の前半は、諸外国の歴史教科書に関する講義を行い、後半は履修者が調べた当該諸国の教科書について報告し、それに関するグループ討議を行いながら理解を深めていく。教科書自体の検討に時間を割きたいため、諸外国の教育の歴史については事前にテキスト（資料を配布）を読んで予習しておくこと。教育の歴史Ⅰと合わせて通年で履修することが望ましい。※対象とする国は、履修者の希望等に鑑みて変更する可能性がある。		第1回：オリエンテーション（世界の歴史教科書をみる） 第2回：世界の教科書制度／教科書の内容分析の方法 第3回：韓国の歴史教科書 第4回：中国の歴史教科書 第5回：シンガポールの歴史教科書 第6回：ベトナムの歴史教科書 第7回：インドネシアの歴史教科書 第8回：ドイツの歴史教科書 第9回：ポーランドの歴史教科書 第10回：イギリスの歴史教科書 第11回：フランスの歴史教科書 第12回：フィンランドの歴史教科書 第13回：アメリカ合衆国の歴史教科書 第14回：ブラジルの歴史教科書 第15回：まとめ	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	（事前学修）テキストの指定箇所を読む。課題がある場合はそれをやって授業に臨む。 （事後学習）講義を振り返り、授業レポートを作成する。		
<b>テキスト</b>	こちらで資料を用意する予定。		
<b>参考文献</b>	石渡延男・越田稔編著『世界の歴史教科書 11カ国の比較研究』明石書店、2002年ほか。授業時に指示		
<b>評価方法</b>	授業内での課題50%（発表、授業レポート、グループ討議等）、最終レポート50%		

08年度以降	現代社会 1(ブラジル研究)	担当者	E. ウラノ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、受講生がブラジルについて積極的に考え、独自の視点を身につけることである。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースとした思考能力を高めることを目指す。</p> <p>この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や社会政策が必要なのか。</p> <p>近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。</p> <p>講義形式の授業ではあるが、双方向のコミュニケーション、学生のプレゼンテーションなどを通じて積極的な参加が期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：世界のなかのブラジル</li> <li>2. 「失われた 80 年代」、90 年代、インフレーション、経済安定化</li> <li>3. 2000 年代、経済成長への道。2010 年代の成長と停滞</li> <li>4. 格差社会の是正に向けて：Bolsa Família、新中間層の誕生 (1)</li> <li>5. 格差社会の是正に向けて：Bolsa Família、新中間層の誕生 (2)</li> <li>6. 人種による不平等：クォーター制度と是正の試み</li> <li>7. 持続可能な成長への課題：教育・インフラ整備・新たな政治経済危機</li> <li>8. 映像から見たブラジル</li> <li>9. 映像から見たブラジル</li> <li>10. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住 (1)</li> <li>11. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住 (2)</li> <li>12. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住 (3)</li> <li>13. 学生のプレゼンテーション</li> <li>14. 学生のプレゼンテーション</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	書籍、新聞、ニュースなどからブラジル関連の情報を自分でピックアップして、内容について予習をすること		
<b>テキスト</b>	テキストはなし。文献は授業時に紹介する。		
<b>参考文献</b>	参考文献：堀坂浩太郎 (2012) 『ブラジル—跳躍の軌跡』、岩波新書		
<b>評価方法</b>	平常授業における課題レポート(20%)、プレゼンテーション(20%)、期末試験 (60%)		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会1（日本国憲法）	担当者	L. ペドリサ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ほとんどの国には「憲法」という法がある。憲法は最高法規の性質を有し、国法の上位に位置ものとして、すべての法規範の根拠となる。最近、新聞、テレビ、インターネットなどで、盛んに憲法が話題になっている。憲法改正が妥当かどうかとか、集団的自衛権が国防の観点から必要かどうか、天皇陛下の退位を認めるべきかどうかなど。このような話題を手がかりに、憲法学の基礎を学び、その構成をよく理解した上で、日本国憲法を身近に考えることがこの講義の目的である。日本国憲法の重要な規定の解釈を中心に、統治構造および人権保障の仕組みを学ぶ。また、日常生活とは程遠い法分野と思われるがちではあるものの、憲法はどれほど我々の毎日に深くかかわることを認識する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 憲法とは</li> <li>2. 国民主権と象徴天皇制</li> <li>3. 平和主義</li> <li>4. 基本的人権の尊重</li> <li>5. 法の下での平等</li> <li>6. 精神的自由</li> <li>7. 経済的自由</li> <li>8. 人身の自由</li> <li>9. 社会権</li> <li>10. 参政権・国務請求権</li> <li>11. 国会</li> <li>12. 内閣</li> <li>13. 裁判所</li> <li>14. 地方自治</li> <li>15. 憲法改正</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する 授業中の小テストを5回ほど行う		
テキスト	毛利透『グラフィック憲法入門』（新世社、2016年）		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	定期試験 70%、授業課題 30%		

08年度以降	現代社会1(地理学1)(自然環境と文化)	担当者	秋本 弘章
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。春学期は自然環境の成り立ちと熱帯地域および砂漠地域の諸相を検討する</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 自然と人間とのかかわり</li> <li>3 環境の諸要素 (1) 地球の特質</li> <li>4 環境の諸要素 (2) 地形環境</li> <li>5 環境の諸要素 (3) 気候環境</li> <li>6 環境の諸要素 (4) 植生と土壌 生態系</li> <li>7 熱帯地域 (1) 自然的特質と伝統的農業</li> <li>8 熱帯地域 (2) アジアの稲作</li> <li>9 熱帯地域 (3) 熱帯の開発と問題 (マレーシアの例)</li> <li>10 熱帯地域 (4) 熱帯の開発と問題 (アマゾンの例)</li> <li>11 砂漠地域 (1) 自然的特質と伝統的生業</li> <li>12 砂漠地域 (2) イスラムの世界</li> <li>13 砂漠地域 (3) 石油資源と近代化</li> <li>14 砂漠地域 (4) アラブとイスラエル</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。その地域のニュースを地理的な視点から読み解く。		
<b>テキスト</b>	授業中に示す		
<b>参考文献</b>	山本他『自然環境と文化』他授業中に示す		
<b>評価方法</b>	定期考査 100%		

08年度以降	現代社会1(地理学2)(自然環境と文化)	担当者	秋本 弘章
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。秋学期は、温帯地域、冷帯地域、寒帯地域および世界の環境問題について扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 温帯地域 (1) 自然的特質</li> <li>2 温帯地域 (2) 地中海地域</li> <li>3 温帯地域 (3) 西ヨーロッパ (歴史と文化)</li> <li>4 温帯地域 (4) 西ヨーロッパ (産業と経済)</li> <li>5 温帯地域 (5) 北米の温帯地域 (歴史と文化)</li> <li>6 温帯地域 (6) 北米の温帯地域 (産業と経済)</li> <li>7 温帯地域 (7) アジアの温帯地域 (歴史と文化)</li> <li>8 温帯地域 (8) アジアの温帯地域 (産業と経済)</li> <li>9 冷帯地域 (1) 北欧諸国・ロシア</li> <li>10 冷帯地域 (2) カナダ</li> <li>11 寒帯地域</li> <li>12 世界の環境問題 (1) 人口と食料</li> <li>13 世界の環境問題 (2) 酸性雨と公害問題</li> <li>14 世界の環境問題 (3) 地球の温暖化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。その地域のニュースを地理的な視点から読み解く。		
<b>テキスト</b>	授業中に示す		
<b>参考文献</b>	山本他『自然環境と文化』他授業中に示す。		
<b>評価方法</b>	定期考査 100%		

08年度以降	現代社会1(シネマで学ぶ法律学)	担当者	新井 剛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>法律学というと、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。</p> <p>しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。</p> <p>それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。</p> <p>同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「依頼人」－法の世界の登場人物（前編）</li> <li>2. 「依頼人」－法の世界の登場人物（後編）</li> <li>3. 「禁じられた遊び」－国民権・平和主義（前編）</li> <li>4. 「禁じられた遊び」－国民権・平和主義（後編）</li> <li>5. 「レオン」－契約は守らなければならない（前編）</li> <li>6. 「レオン」－契約は守らなければならない（後編）</li> <li>7. 「エリン・プロコピッチ」－不法行為（前編）</li> <li>8. 「エリン・プロコピッチ」－不法行為（後編）</li> <li>9. 「レインマン」－相続問題（前編）</li> <li>10. 「レインマン」－相続問題（後編）</li> <li>11. 「それでもボクはやってない」－刑事裁判（前編）</li> <li>12. 「それでもボクはやってない」－刑事裁判（後編）</li> <li>13. 「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論（前編）</li> <li>14. 「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論（後編）</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	学んだ法律問題の内容を復習しておくこと。受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。		
<b>テキスト</b>	特になし。		
<b>参考文献</b>	野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』（有斐閣、2014年）		
<b>評価方法</b>	定期試験100%		

08年度以降	現代社会1(続・シネマで学ぶ法律学)	担当者	新井 剛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>法律学というと、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。</p> <p>それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。</p> <p>なお、本講義は、春学期に開講した「現代社会1(シネマで学ぶ法律学)」のアドバンスト科目であるが、本科目のみの受講でも一向に差し支えない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「独裁者」－平和主義・基本的人権（前編）</li> <li>2. 「独裁者」－平和主義・基本的人権（後編）</li> <li>3. 「評決」－医療過誤（前編）</li> <li>4. 「評決」－医療過誤（後編）</li> <li>5. 「クレーマー、クレーマー」－離婚問題（前編）</li> <li>6. 「クレーマー、クレーマー」－離婚問題（後編）</li> <li>7. 「チャイナ・シンドローム」－不法行為等（前編）</li> <li>8. 「チャイナ・シンドローム」－不法行為等（後編）</li> <li>9. 「真実の行方」－罪と罰（前編）</li> <li>10. 「真実の行方」－罪と罰（後編）</li> <li>11. 「ショーシャンクの空に」－冤罪（前編）</li> <li>12. 「ショーシャンクの空に」－冤罪（後編）</li> <li>13. 「この自由な世界で」－労働問題（前編）</li> <li>14. 「この自由な世界で」－労働問題（後編）</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	学んだ法律問題の内容を復習しておくこと。受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。		
<b>テキスト</b>	特になし。		
<b>参考文献</b>	野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』（有斐閣、2014年）		
<b>評価方法</b>	定期試験100%		

08年度以降	現代社会1(暮らしの中の民法入門)	担当者	新井 剛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>民法とは、一般市民が社会生活を送る際に生じた問題を解決するための法律である。たとえば、お金を貸す、お金を借りる、スマホを買う、ワンルームマンションを借りる。このような行為の際に生じた問題を解決するための法律が民法である。したがって、民法は皆さんにとって、最も身近な法律であり、また最も重要な法律でもあるといえよう。</p> <p>そこで、本講義は、皆さんが社会生活を送る上で、法律問題に直面した場合に、当惑することの無いよう、必要な法的知識を伝授することを目的とする。</p> <p>国際教養学部 of 学生はもちろん、外国語学部や経済学部、法学部の学生も、本講義で扱う法的知識はしっかり身に付けて、社会に巣立ってほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. お金の貸し借りに関する法律－消費貸借契約</li> <li>2. 債権の回収法－担保法</li> <li>3. 債権の回収の際の注意点－消滅時効</li> <li>4. 借金返済に関する法律①－貸金業法</li> <li>5. 借金返済に関する法律②－自己破産</li> <li>6. お金の紛失・盗難・詐欺に関する法律</li> <li>7. 人に関する法律</li> <li>8. 不動産に関する法律①－登記、取得時効等</li> <li>9. 不動産に関する法律②－相隣関係</li> <li>10. 動産に関する法律</li> <li>11. 契約とは何か</li> <li>12. 各種の契約の問題点①－贈与</li> <li>13. 各種の契約の問題点②－売買</li> <li>14. 各種の契約の問題点③－請負</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、講義で学んだ内容を必ず復習すること。		
<b>テキスト</b>	石原豊昭監修『生活実用法律事典〔第4版〕』（自由国民社、2017年）		
<b>参考文献</b>	適宜、指示する。		
<b>評価方法</b>	定期試験100%		

08年度以降	現代社会1(続・暮らしの中の民法入門)	担当者	新井 剛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>民法とは、一般市民が社会生活を送る際に生じた問題を解決するための法律である。たとえば、自動車事故にあう、結婚する、離婚する、財産を相続する。このような行為の際に生じた問題を解決するための法律が民法である。したがって、民法は皆さんにとって、最も身近な法律であり、また最も重要な法律でもあるといえよう。</p> <p>そこで、本講義は、皆さんが社会生活を送る上で、法律問題に直面した場合に、当惑することの無いよう、必要な法的知識を伝授することを目的とする。国際教養学部 of 学生はもちろん、外国語学部や経済学部、法学部の学生も、本講義で扱う法的知識はしっかり身に付けて、社会に巣立ってほしい。</p> <p>なお、本講義は、春学期に開講した「総合科学特殊研究(暮らしの中の民法入門)」の続編であるが、本科目のみの受講でも差し支えない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 損害賠償の法律①－総論</li> <li>2. 損害賠償の法律②－債務不履行</li> <li>3. 損害賠償の法律③－不法行為の要件・効果</li> <li>4. 損害賠償の法律④－特殊不法行為</li> <li>5. 損害賠償の法律⑤－交通事故</li> <li>6. 結婚の法律</li> <li>7. 夫婦の法律</li> <li>8. 親子の法律</li> <li>9. 離婚の法律</li> <li>10. 相続に関する法律①－相続財産、相続人</li> <li>11. 相続に関する法律②－相続分</li> <li>12. 相続に関する法律③－相続の承認・放棄</li> <li>13. 相続に関する法律④－遺言</li> <li>14. 最近の判例</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、講義で学んだ内容を必ず復習すること。		
<b>テキスト</b>	石原豊昭監修『生活実用法律事典〔第4版〕』（自由国民社、2017年）		
<b>参考文献</b>	適宜、指示する。		
<b>評価方法</b>	定期試験100%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会1(不動産取引と法)	担当者	新井 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>賃貸マンションを借りる、分譲マンションを買う、一戸建てを買う。人が生活をするにあたって、「住むところ」の存在は必要不可欠なものである。したがって、ほとんど全ての人は、一生のうちに、一度は不動産取引を経験することになる。しかしながら、その不動産取引の際に法律問題が生じた場合、どうすれば良いのかを学んでいる人は、ほとんどいない。そのため、欠陥住宅問題などの社会問題が絶えず生じているのである。</p> <p>そこで、本講義は、獨協大学で学ぶ全学生に向けて、不動産取引の際に法律問題が生じた場合に、どのように対処すれば良いのか、そのために必要な法的知識を伝授することを目的とする。同時に、本講義は、不動産という物の見方や注意点をも講義することで、法的問題が生じるのを未然に防止する方法も伝授しようと考えている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不動産建築の法律①－市街化区域と用途地域</li> <li>2. 不動産建築の法律②－建ぺい率と容積率</li> <li>3. 不動産売買の法律①－契約書の作成</li> <li>4. 不動産売買の法律②－手付、欠陥住宅問題</li> <li>5. 不動産売買の法律③－欠陥住宅問題（承前）</li> <li>6. 不動産登記の法律①－甲区と乙区</li> <li>7. 不動産登記の法律②－共同申請主義</li> <li>8. マンションの法律①－専有部分と共用部分</li> <li>9. マンションの法律②－管理組合と総会</li> <li>10. マンションの法律③－修繕と建替え</li> <li>11. 借地借家の法律①－借地契約の期間と更新</li> <li>12. 借地借家の法律②－定期借地権</li> <li>13. 借地借家の法律③－賃借権の登記と特則</li> <li>14. 借地借家の法律④－借家権</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学んだ内容を復習しておくこと。		
テキスト	木島康雄監修『最新不動産の法律と手続きがわかる事典』（三修社、2017年）		
参考文献	適宜、指示する。		
評価方法	定期試験100%		

08 年度以降	現代社会 1(ドイツ地域論)	担当者	伊豆田 俊輔
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ語圏とEU（ヨーロッパ連合）について、歴史的な背景から考察します。</p> <p>春学期では、二つの世界大戦と冷戦が、ヨーロッパ統合（現在のEU, 欧州連合）に決定的な役割を果たしたことに留意し、ドイツ語圏とEUの歴史を重点的に論じます。この中でも、ヨーロッパ統合のはじまりから現在のEUに至るまで、中心的役割を果たしている「ドイツ」の歴史に的を絞り、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。</p> <p>なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに基づいた授業ガイダンス</li> <li>2. ドイツ帝国と第一次世界大戦</li> <li>3. ヴァイマル共和国とヨーロッパ</li> <li>4. ナチ・ドイツと第二次世界大戦</li> <li>5. ドイツの敗戦と第二次世界大戦の帰結</li> <li>6. 占領時代のドイツと冷戦のはじまり</li> <li>7. 西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり</li> <li>8. アーデナウアーと西欧結合路線の推進</li> <li>9. 西ドイツの「長い60年代」と西欧社会</li> <li>10. ブラントの東方外交とヨーロッパ</li> <li>11. 東ドイツ国家とヨーロッパ1949-1985</li> <li>12. 1960-80年代の欧州統合の危機と進展</li> <li>13. 冷戦終結と1989年の東欧革命</li> <li>14. 東西ドイツ統一</li> <li>15. 統一ドイツとEUの課題</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	常に復習を心がけてください。また授業中に文紹介した文献を読み進めることが求められます。		
<b>テキスト</b>	教科書は指定しない。		
<b>参考文献</b>	参考文献は毎回レジュメに記載する。		
<b>評価方法</b>	大よそ、期末テスト 70%、授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。		

08 年度以降	現代社会 1(ヨーロッパ地域論)	担当者	伊豆田 俊輔
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ヨーロッパ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ連邦共和国とEU（ヨーロッパ連合）はどのような特徴を備えており、また、現在どのような課題を抱えているのかを考える講義です。講義は4部構成です。最初に、ドイツとEUの基本的な政治制度について概説します（1-4回）。続いて、EUを結びつけている価値観や文化的な連帯について考察します（5-6回）。三番目に、冷戦終結以後の「ドイツ」と欧州の変容について学び（7-10回）、最後に、現在EUの「危機」と呼ばれている諸現象を取り扱います（11-15回）。</p> <p>なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに基づいた授業ガイダンス</li> <li>2. 概説①—ドイツの政治制度</li> <li>3. 概説②—EUの制度と課題</li> <li>4. 概説③—ドイツのEU内における「大国化」？</li> <li>5. 「ソフト」な統合①—教育と歴史</li> <li>6. 「ソフト」な統合②—EU市民権</li> <li>7. ドイツとEUの変容①—東ドイツ問題</li> <li>8. ドイツとEUの変容②—ドイツの移民国化</li> <li>9. ドイツとEUの変容③—EUの拡大</li> <li>10. ドイツとEUの変容④—EUの対外政策</li> <li>11. EUの「危機」①—「統合」の終焉</li> <li>12. EUの「危機」②—ユーロ危機</li> <li>13. EUの「危機」③—Brexit</li> <li>14. EUの「危機」④—「欧州難民危機」</li> <li>15. EUの「危機」⑤—ポピュリズム</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	常に復習を心がけてください。授業中に文紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
<b>テキスト</b>	教科書は指定しない。		
<b>参考文献</b>	参考文献は毎回レジュメに記載する。		
<b>評価方法</b>	大よそ、期末テスト 70%、授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。		

08年度以降	現代社会1(教育法1)	担当者	市川 須美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>教育法は、教育の場で生じる様々な問題を、法的視点から、つまり、権利義務関係の視点から整理して問題の分析・解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもの人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例も後を絶たないし、一部の部活動では一定程度の体罰・暴力を当然視している場合もあります。また、いじめについては対策法も制定されるほど学校では常態化しており、いじめ自殺報道も続いており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判例を、体罰、いじめ、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校における子どもの人権侵害と裁判</li> <li>2 学校事故裁判と子どもの人権裁判</li> <li>3 体罰裁判とその特徴</li> <li>4 天草市体罰事件最高裁判決</li> <li>5 生活指導とその限界(指導死事件)</li> <li>6 いじめ裁判とその論点</li> <li>7 いじめ自殺と予見可能性</li> <li>8 いじめ対策推進法と課題</li> <li>9 丸刈り訴訟と校則裁判の論点</li> <li>10 パーマ校則裁判</li> <li>11 学校教育措置と原級留置き訴訟</li> <li>12 信教の自由と学習権(エホバの証人信徒退学事件)</li> <li>13 教育個人情報保護(指導要録開示請求事件)</li> <li>14 学力テスト学校別結果公開請求事件</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。		
<b>テキスト</b>	教育関係6法		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	試験		

08年度以降	現代社会1(教育法2)	担当者	市川 須美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>教育法の現代的状況把握(教育法a)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、歴史的アプローチとして簡略な戦後教育法史を解説し、教育法の基礎概念である教育人権の理解を深めます。まず、戦後教育改革の法制とその変質過程(教育法の生成過程でもあります)を、代表的な自主性擁護的教育裁判を通じて通覧し、国家と教育のかかわり方を考察します。次に、主要な教育人権である学習権、親の教育の自由、教師の教育の自由を教育判例によって考察します。最後に、地方教育行政のあり方、2006年教育基本法改正とその後の教育法制の展開を分析します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 戦後教育改革と憲法・教育基本法法制</li> <li>2 逆コースの教育改革</li> <li>3 教科書裁判(1)</li> <li>4 教科書裁判(2)</li> <li>5 最高裁学テ判決</li> <li>6 障害児の学習権(特殊学級入級処分訴訟)</li> <li>7 子どもの市民的自由(内申書裁判)</li> <li>8 親の教育の自由の歴史的展開(日曜日訴訟)</li> <li>9 道徳教育債務履行請求事件</li> <li>10 親の教育情報請求権</li> <li>11 教師の教育の自由(伝習館高校事件)</li> <li>12 教師の教育の自由と日の丸・君が代強制</li> <li>13 教育委員会制度の変遷</li> <li>14 (教育基本法改正とその後の教育法制)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。		
<b>テキスト</b>	教育関係6法		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	試験		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会1（非正規雇用を考える）	担当者	市原 博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年仕事にかかわる問題としてもっとも注目を集めているのは、非正規で働く人々、特に若者が増えていることです。バブル崩壊後の長期不況の中で、コスト削減のために非正規社員による正社員の置き換えが広く行われてきました。最近の雇用情勢の好転によってもこの問題は解決されておらず、むしろ、中高年となった非正規の方々の貧困問題＝格差拡大が注目されるようになってきました。この授業では、そうした事態がどのように生じたのか、その実態はどのようなものであり、企業は彼ら・彼女らをどのように使用しているのか、また、非正規雇用に対する法的規制はどのようになっており、最近政府が取り組んでいる「働き方改革」で何が変わるのかを考えます。</p> <p>また、非正規雇用とともに近年関心を集めている「ブラック企業」問題も取り上げます。</p> <p>非正規雇用をめぐる問題を正しく理解し、自らの働き方を考え直す機会を提供するのがこの授業の目的です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクションー正社員と非正規とは何か</li> <li>2. パート労働ー基幹パート</li> <li>3. パート従業員の活用策</li> <li>4. パート労働法による規制とその変化</li> <li>5. フリーターの増加とその理由</li> <li>6. 中高年フリーターの実態</li> <li>7. フリーターから正社員への移行の条件</li> <li>8. 派遣労働の法的規制とその変化</li> <li>9. 派遣労働者の属性</li> <li>10. 男女雇用機会均等法の変化</li> <li>11. 女子社員の職務配分と均等処遇</li> <li>12. 女子社員の活用策</li> <li>13. ブラック企業の見分け方</li> <li>14. ブラック企業への対処法</li> <li>15. 「働き方改革」の内容</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献をよく読んでください。		
テキスト	ありません		
参考文献	毎回紹介します。		
評価方法	小レポート 10%、定期試験 90%		

08年度以降	現代社会1 (History of International Relations I)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the 16<sup>th</sup> century to the end of World War II.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. The Rise of Sovereign States and Europe</li> <li>3. Revolutions and the Congress of Vienna</li> <li>4. The Age of Pax Britannica</li> <li>5. The Emergence of Imperialism</li> <li>6. Emerging New Alliances and Imperialism</li> <li>7. Interim Course Review</li> <li>8. Midterm Examination/ World War I: A Brief Introduction</li> <li>9. The Path to World War I</li> <li>10. The End of World War I</li> <li>11. The Resurgence of Peace and Stability</li> <li>12. The Path to World War II</li> <li>13. The Outbreak of World War II</li> <li>14. The End of World War II</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%).		

08年度以降	現代社会1 (History of International Relations II)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the beginning of the Cold War to the early 21<sup>st</sup> century.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. The Beginning of the Cold War</li> <li>3. The Outbreak of the Korean War</li> <li>4. The Cold War in Europe</li> <li>5. The Cold War in the Middle East</li> <li>6. The Vietnam War and the Bipolar Structure</li> <li>7. Interim Course Review</li> <li>8. Midterm Examination/ The Cold War in South Asia: A Brief Introduction</li> <li>9. The Cold War in South Asia</li> <li>10. The End of the Cold War</li> <li>11. The Post-Cold War World</li> <li>12. The End of Pax Americana</li> <li>13. Changing Global Order I</li> <li>14. Changing Global Order II</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%).		

08年度以降	現代社会1(国際法1)(国際社会と私たち)	担当者	一之瀬 高博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。</p> <p>〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。また、海洋についての国際制度を概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 国際法の形成と発展</li> <li>3 国際社会と国際法</li> <li>4 国際法の存在形態</li> <li>5 条約法</li> <li>6 国際法と国内法</li> <li>7 国際法の基本的法原則</li> <li>8 国際法における国家</li> <li>9 主権免除</li> <li>10 国家領域</li> <li>11 国家領域としての海洋</li> <li>12 沿岸国の海洋管轄権の拡大</li> <li>13 国際公域としての海洋</li> <li>14 講義のまとめ</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。		
<b>テキスト</b>	杉原高嶺『基本国際法』第2版有斐閣2014年。		
<b>参考文献</b>	『国際条約集』有斐閣2018年、横田洋三編『国際社会と法』有斐閣2010年。		
<b>評価方法</b>	期末試験の成績(70%)により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果(30%)も評価対象にする。		

08年度以降	現代社会1(国際法2)(国際紛争を考える)	担当者	一之瀬 高博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。</p> <p>〔講義概要〕 国際社会のさまざまな分野で発展しつつある国際法を概観するとともに、国際社会に生じる紛争が、集団安全保障や裁判を通じてどのように解決が図られているかについて考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 宇宙空間と国際法</li> <li>3 環境の国際的保護</li> <li>4 個人の地位</li> <li>5 難民の保護</li> <li>6 国際犯罪</li> <li>7 国際人権法</li> <li>8 外交・領事関係法造</li> <li>9 国家の国際責任</li> <li>10 平和の維持と国際連合</li> <li>11 紛争の司法的解決</li> <li>12 国際安全保障</li> <li>13 武力紛争法</li> <li>14 講義のまとめ</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。		
<b>テキスト</b>	杉原高嶺『基本国際法』第2版有斐閣2014年。		
<b>参考文献</b>	『国際条約集』有斐閣2018年、横田洋三編『国際社会と法』有斐閣2010年。		
<b>評価方法</b>	期末試験の成績(70%)により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果(30%)も評価対象にする。		

08 年度以降	現代社会 1 (東南アジアの開発と社会)	担当者	江藤 双恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 東南アジアの開発／発展がもたらした社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。東南アジアの人々について、よその地域の他人ごとの話ではなく、さまざまな形で自分とつながる人々であることを理解し、この講義で学びを自分自身の今後の生き方を考える機会とする。</p> <p><b>講義概要</b> 東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から学習し、望ましい発展とは何か、また、今日のグローバルな発展／開発に対して、自分自身のとるべきスタンスを考える。また、主としてタイを事例に、1、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、2、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。</p>		<p>第1回：地域研究的な思考方法について 第2回：東南アジアの地域的特徴 第3回：東南アジア地域研究の課題 第4回：東南アジア社会の多様性 第5回：東南アジアにおける都市-農村間の格差 第6回：東南アジアと私たちの関わり 第7回：東南アジアにおける開発政策の展開 第8回：オルタナティブな開発／発展観／思想 第9回：タイにおける開発／発展と宗教 第10回：タイにおける開発／発展と環境 第11回：タイにおける開発／発展と労働力 第12回：タイにおける開発／発展と家族・子ども 第13回：タイにおける開発／発展と女性 第14回：タイにおける社会保障／福祉 第15回：まとめ／試験</p>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献を読んでおく。講義中に示された資料をヒントに、さらに関連事項を調べる。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>	地域研究』(JCAS Review) Vol.7 No.1 (2005年6月発行) 『老いてゆくアジア』(中公新書) 大泉啓一郎著		
<b>評価方法</b>	定期試験が60パーセント、授業中に提出された課題を40パーセントとして総合的に判断する。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	現代社会1(韓国政治論)	担当者	呉 吉煥 (ホ・ギルハ)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、韓国の政治と政治史についての基礎的な知識を習得して、朝鮮半島の政治と社会に対する理解を深めることが目的である。</p> <p>韓国政治の理解には、朝鮮半島における政治文化の形成・展開を検討することがとりわけ重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことで、朝鮮半島ではそれが近代以後に大きく変貌したとされる。だが、その根幹となるものはすでに前近代に形成されており、政治文化の正確な把握には、前近代朝鮮の政治の展開過程を検討する必要がある。</p> <p>講義では、朝鮮王朝が成立した一四世紀末から二一世紀初めまでの朝鮮半島・韓国の政治史を概観しつつ、各時期における政治の様子とその特徴を明らかにしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、韓国政治史の時期区分</li> <li>2. 朝鮮王朝の成立と両班支配体制の確立</li> <li>3. 支配体制の再編</li> <li>4. 開国と近代社会の形成</li> <li>5. 大韓帝国と植民地化</li> <li>6. 日本の植民地時期</li> <li>7. 解放と「分断体制」の成立(第1共和国)</li> <li>8. 学生革命(第2共和国)</li> <li>9. 軍事政権の成立(第3共和国)</li> <li>10. 「維新体制」(第4共和国)</li> <li>11. 軍事政権と韓国社会</li> <li>12. 「光州民主化運動」と新軍部政権(第5共和国)</li> <li>13. 民主化と文民政権の誕生(第6共和国)</li> <li>14. 二一世紀の韓国政治</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に朝鮮史の概説書を1冊以上読んでおくこと。		
<b>テキスト</b>	テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。		
<b>参考文献</b>	初回の授業時に紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度(授業態度、コメントペーパーの内容など):50%、期末試験:50%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	現代社会1（地誌学1）（世界の自然環境と文化）	担当者	大竹 伸郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。</p> <p>講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 我々の暮らしと自然環境</li> <li>3 環境の諸要素①（地球の成り立ちと地形）</li> <li>4 環境の諸要素②（地球の周りの気団と気候）</li> <li>5 環境の諸要素③（地球の植生と土壌）</li> <li>6 環境の諸要素④（地球に暮らす様々な生き物）</li> <li>7 熱帯地域①（熱帯地域の人々の暮らしと文化）</li> <li>8 熱帯地域②（焼畑農業と熱帯の稲作）</li> <li>9 熱帯地域③（東南アジアの熱帯開発と環境問題）</li> <li>10 熱帯地域④（アマゾンニアの熱帯開発と環境問題）</li> <li>11 乾燥帯地域①（乾燥帯地域の人々の暮らしと文化）</li> <li>12 乾燥帯地域②（一神教と自然環境）</li> <li>13 乾燥帯地域③（資源ナショナリズムの台頭）</li> <li>14 乾燥帯地域④（中東問題の遠因と現状）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。		
<b>テキスト</b>	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	定期試験の結果に（80％）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20％）も評価対象とする。		

08年度以降	現代社会1（地誌学2）（世界の自然環境と文化）	担当者	大竹 伸郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。</p> <p>講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 温帯地域①（温帯地域の特徴と人々の暮らし）</li> <li>3 温帯地域②（地中海性気候の人々の暮らしと文化）</li> <li>4 温帯地域③（大陸西岸気候の人々の暮らしと文化）</li> <li>5 温帯地域④（モンスーン気候の人々暮らしと文化）</li> <li>6 温帯地域⑤（北米西部地域の人々の暮らしと文化）</li> <li>7 温帯地域⑥（北米東部地域の人々の暮らしと文化）</li> <li>8 冷帯地域（冷帯地域の人々の暮らしと文化）</li> <li>9 寒帯地域（寒帯地域の人々の暮らしと文化）</li> <li>10 山地地域（山地地域の暮らしと文化）</li> <li>11 世界の環境問題①（人口問題と食料）</li> <li>12 世界の環境問題②（越境する大気汚染）</li> <li>13 世界の環境問題③（増え続ける廃棄物と地球環境）</li> <li>14 世界の環境問題④（我々の暮らしと地球温暖化）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。		
<b>テキスト</b>	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	定期試験の結果に（80％）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20％）も評価対象とする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会1（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業経営」に関する経営学の基礎的知識を学ぶ。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機になるような講義を意図している。講義はテキスト、配布資料を使いつつ進める。なお講義と並行して日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つことを勧める。</p> <p>出席は不可欠です。また大幅な遅参や途中退出は原則として認めません（交通事情によるものは除く）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代企業のビジネス</li> <li>2 会社制度</li> <li>3 会計と業績評価（1）</li> <li>4 会社の目的と業績評価（2）</li> <li>5 経営組織</li> <li>6 経営戦略の策定（1）</li> <li>7 経営戦略の策定（2）</li> <li>8 マーケティング戦略</li> <li>9 人的資源戦略（1）</li> <li>10 人的資源戦略（2）</li> <li>11 財務戦略（1）</li> <li>12 財務戦略（2）</li> <li>13 スタートアップ企業</li> <li>14 経営倫理</li> <li>15 まとめ ※テキストにより前後することがある</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学修としてテキストの該当章に目を通し当該テーマの概略を理解しておくこと。事後学修としては、講義のノートの整理とポイントを自分が理解できるような形式でまとめておくこと		
テキスト	テキスト：授業開始後に指定する予定（出版事情を確認したのち）。また参考資料を毎回配布する		
参考文献	テキストを参照のこと		
評価方法	定期試験による。追試、レポートは行わない（4年生は注意すること）		

08年度以降	現代社会1(地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Think Globally, Act locallyというフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。それに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには現代の環境問題や社会福祉のあり方を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。</p> <p>本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌やフリーペーパー、コミュニティFMなどである。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。学期のさいごには、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらおう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. グローバル化とローカル・コミュニティ</li> <li>3. 地域・地方文化の復権とメディア</li> <li>4. 各地の地域メディア (1)</li> <li>5. 各地の地域メディア (2)</li> <li>6. メディアによる地域文化の創造 (1)</li> <li>7. メディアによる地域文化の創造 (2)</li> <li>8. メディアによる地域文化の創造 (3)</li> <li>9. 災害と地域メディア (1)</li> <li>10. 災害と地域メディア (2)</li> <li>11. 多文化共生と地域メディア (1)</li> <li>12. 多文化共生と地域メディア (2)</li> <li>13. 受講者による発表 (1)</li> <li>14. 受講者による発表 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	自分がよく読んだり視聴したりするローカル・メディアについて調べておく。		
テキスト	岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房		
参考文献	授業の中で指定する		
評価方法	授業時間内での発表・質問など (50%)、期末試験 (50%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会1(社会学 a)	担当者	岡村 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちの周りには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては、私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえて、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 社会学的視座とは</li> <li>3. 社会学の歴史(1) —A.コント、H.スペンサー</li> <li>4. 社会学の歴史(2) —E.デュルケム</li> <li>5. 社会学の歴史(3) —M.ウェーバー</li> <li>6. 社会の種類(1) —コミュニティとアソシエーション</li> <li>7. 社会の種類(2) —ゲマインシャフトとゲゼルシャフト</li> <li>8. 社会の種類(3) —第一次集団</li> <li>9. Identity形成と社会(1) —鏡に映った自己</li> <li>10. Identity形成と社会(2) —重要な他者</li> <li>11. Identity形成と社会(3) —マージナル・マン</li> <li>12. Identity形成と社会(4) —未定</li> <li>13. 補完的アイデンティティについて</li> <li>14. 他者と自己の社会学</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	身分証明書以外に私が私であることを証明するものはなにか、考えておく。		
<b>テキスト</b>	授業内で指示する		
<b>参考文献</b>	授業内で指示する		
<b>評価方法</b>	授業への積極性(小レポートや提出物) 50%、 期末試験 50%		

08年度以降	現代社会1(社会学 b)	担当者	岡村 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。</p> <p>本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 社会的性格と「自由からの逃走」 —E.フロム</li> <li>3. 同調様式の3種類 —D.リースマン</li> <li>4. 都市化と移民 —W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ</li> <li>5. 同心円地帯説 —E.パーゼス</li> <li>6. シカゴ学派と都市問題 —R.パーク</li> <li>7. 予言の自己成就 —R.K.マートン</li> <li>8. 誇示的消費 —T.ヴェブレン</li> <li>9. 認知的不協和の理論 —L.フェスティンガー</li> <li>10. 文化的再生産 —P.ブルデュー</li> <li>11. コンフルエント・ラブ —A.ギデンズ</li> <li>12. 現代社会を社会学的にみる(1) 情報技術とメディア</li> <li>13. 現代社会を社会学的にみる(2) グローバル化</li> <li>14. 現代社会を社会学的にみる(3) ローカル化</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	グローバル化と都市化がもたらす光と影について考えておく。		
<b>テキスト</b>	授業内で指示する		
<b>参考文献</b>	授業内で指示する		
<b>評価方法</b>	授業への積極性(小レポートや提出物) 50%、 期末試験 50%		

08年度以降	現代社会1（民法1）	担当者	小川 佳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>法とはなにか。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接な関わりを持ちながら生きているが、そもそも法とはなにか。何のためにあるのか。さらに、裁判とは何か。これらについて解説した後、民法についての講義を行う。後半では、典型的なケースについて説明を行う。なお、講義を通し、その都度、ニュースとなった裁判や法律問題についても解説を行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法とは何か。</li> <li>2 法と裁判</li> <li>3 生活関係と法</li> <li>4 民法とは（1）概説</li> <li>5 民法とは（2）財産編</li> <li>6 民法とは（3）家族編</li> <li>7 ケース：金銭消費貸借</li> <li>8 ケース：建物貸借</li> <li>9 ケース：不動産明渡</li> <li>10 ケース：売買</li> <li>11 ケース：婚姻関係</li> <li>12 ケース：相続関係</li> <li>13 ケース：親子関係</li> <li>14 ケース：成年後見</li> <li>15 その他</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	シラバス及び直前の講義においてテーマとして指定された論点につき、考察しておくこと。		
<b>テキスト</b>	最新版の六法		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	期末試験で評価する。なお、答案作成は黒または青のペン書きに指定する（鉛筆で作成された答案は成績評価の対象としない）。		

08年度以降	現代社会1（民法2）	担当者	小川 佳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるかについてまず解説し、その後、春学期では触れられなかった種類の民事事件につき解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 民事紛争と民法</li> <li>2 民事紛争の解決：裁判（1）</li> <li>3 民事紛争の解決：裁判（2）</li> <li>4 民事紛争の解決：裁判以外の方法（1）</li> <li>5 民事紛争の解決：裁判以外の方法（2）</li> <li>6 ケース：債権回収</li> <li>7 ケース：労働事件</li> <li>8 ケース：損害賠償</li> <li>9 ケース：医療関係事件</li> <li>10 ケース：交通事故事件</li> <li>11 ケース：時効</li> <li>12 ケース：保証</li> <li>13 裁判例（1）</li> <li>14 裁判例（2）</li> <li>15 その他</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	シラバス及び直前の講義においてテーマとして指定された論点につき、考察しておくこと。		
<b>テキスト</b>	最新版の六法		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	期末試験で評価する。なお、答案作成は黒または青のペン書きに指定する（鉛筆で作成された答案は成績評価の対象としない）。		

08年度以降	現代社会1(社会保障論a)	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>年金や医療などの社会保障制度のあり方は、人々の生活、企業の活動、政府の財政に対して大きな影響を与えます。この講義では、社会保障とは何か、なぜ必要とされてきたのかについて考えることから始め、続いて現在の日本の社会保障制度とそれが直面している課題について解説します。日本の置かれている状況の理解を深めるために、随時外国との比較を行います。</p> <p>とりあげる予定のテーマは「授業計画」の通りです。学期末までに、今後の社会保障のあり方について、意見を形成できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義目的・概要・評価方法の説明</li> <li>2. 社会保障とは何か</li> <li>3. 経済と社会の変化：低成長、少子高齢化他</li> <li>4. 年金制度(1)</li> <li>5. 年金制度(2)</li> <li>6. 中間まとめ&amp;年金制度(3)</li> <li>7. 医療保険制度(1)</li> <li>8. 医療保険制度(2)</li> <li>9. 医療保険制度(3)</li> <li>10. 介護保険制度</li> <li>11. 公的扶助(生活保護)</li> <li>12. 子育て支援政策</li> <li>13. 障害者福祉</li> <li>14. 社会保障財政</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	椋野美智子、田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣アルマ他、授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	中間テスト30%、期末テスト70%。テストの無断欠席は0点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

08年度以降	現代社会1(社会保障論b)	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ジェンダーから見た社会保障」がテーマです。第二次世界大戦後の先進諸国では、年金や医療などの社会保障制度が大きく発展しましたが、こうした社会保障制度は往々にして「男性はお金を稼ぎ、女性は家で家事やケアをする」といった性別役割分業やジェンダー・バイアスを前提としていました。</p> <p>しかし、こうした性別役割分業には、男性は家庭生活や地域社会との交流に時間を割きにくく、女性は男性に経済的に依存せざるを得ず、男性がいない家庭は貧困に陥りやすいといった側面もあります。</p> <p>この講義では、ジェンダーの視点から日本や諸外国の社会保障制度を捉え直し、今後の社会のあり方について考えていきます。</p> <p>「社会保障論a」の履修は前提としませんが、両方履修することで理解が深まると思われます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義目的・概要・評価方法の説明</li> <li>2. ジェンダーから見た社会保障(1)：歴史の変遷</li> <li>3. ジェンダーから見た社会保障(2)：現在の課題</li> <li>4. 出産に関する社会保障</li> <li>5. 子育てに関する社会保障</li> <li>6. ジェンダーから見た雇用と税制</li> <li>7. 中間まとめ</li> <li>8. ジェンダーから見た年金</li> <li>9. ジェンダーから見た介護</li> <li>10. シングルマザーと社会保障(1)：日本の状況</li> <li>11. シングルマザーと社会保障(2)：海外の状況</li> <li>12. ジェンダーから見た生活保護(1)：問題</li> <li>13. ジェンダーから見た生活保護(2)：対策</li> <li>14. ジェンダーから見た海外の社会保障</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介。		
<b>評価方法</b>	中間テスト30%、期末テスト70%。テストの無断欠席は0点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

08年度以降	現代社会1（日本国憲法）	担当者	加藤 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本国憲法の入門講義を行う。半期完結講義なので、ポイント的に日本の人権問題を扱うことになる。</p> <p>毎回、判例を読みながら、この国の人権状況を考えてみたい。</p> <p>指定した教科書の他、『六法』と判例は必ず持参すること。『六法』については初回、講義で説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 『六法』の使い方／憲法総論</li> <li>3. 憲法概念</li> <li>4. 立憲主義</li> <li>5. 日本国憲法制定過程</li> <li>6. 法の下での平等</li> <li>7. 精神的自由：信教の自由</li> <li>8. 精神的自由：学問の自由</li> <li>9. 精神的自由：表現の自由／報道の自由</li> <li>10. 精神的自由：表現の自由／プライバシーの権利</li> <li>11. 人身の自由と被疑者の人権</li> <li>12. 社会権：生存権</li> <li>13. 社会権：教育権</li> <li>14. 法律学的答案の書き方</li> <li>15. 総評とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：教科書を通読しておくこと。事後：講義中あげた参考文献を下に「憲法復習ノート」を必ず作成すること。		
<b>テキスト</b>	加藤一彦『教職教養憲法15話 [改訂3版]』（北樹出版）		
<b>参考文献</b>	柏崎・加藤編『新憲法判例特選 [第2版]（敬文堂）』		
<b>評価方法</b>	定期試験：100%		

08年度以降	現代社会1（日本国憲法）	担当者	加藤 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本国憲法の入門講義を行う。半期完結講義なので、ポイント的に日本の人権問題を扱うことになる。</p> <p>毎回、判例を読みながら、この国の人権状況を考えてみたい。</p> <p>指定した教科書の他、『六法』と判例は必ず持参すること。『六法』については初回、講義で説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 『六法』の使い方／憲法総論</li> <li>3. 憲法概念</li> <li>4. 立憲主義</li> <li>5. 日本国憲法制定過程</li> <li>6. 法の下での平等</li> <li>7. 精神的自由：信教の自由</li> <li>8. 精神的自由：学問の自由</li> <li>9. 精神的自由：表現の自由／報道の自由</li> <li>10. 精神的自由：表現の自由／プライバシーの権利</li> <li>11. 人身の自由と被疑者の人権</li> <li>12. 社会権：生存権</li> <li>13. 社会権：教育権</li> <li>14. 法律学的答案の書き方</li> <li>15. 総評とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：教科書を通読しておくこと。事後：講義中あげた参考文献を下に「憲法復習ノート」を必ず作成すること。		
<b>テキスト</b>	加藤一彦『教職教養憲法15話 [改訂3版]』（北樹出版）		
<b>参考文献</b>	柏崎・加藤編『新憲法判例特選 [第2版]（敬文堂）』		
<b>評価方法</b>	定期試験：100%		

08年度以降	現代社会1（経済学1）（はじめての経済学）	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>本講義の目的は、経済学の基本的な考え方をマクロ経済学を中心に紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。</p> <p>講義の概要</p> <p>テキストのPart2に沿って下記のテーマについて講義する。</p> <p>I. マクロ経済学の基本：GDPを理解する  II. 貨幣の機能および金融・財政政策の役割  III. 経済発展と経済成長の関係  IV. 国際経済学の基本：為替レートと比較優位</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス——経済学とはどのような学問か</li> <li>2. GDPを中心にマクロ経済を考える</li> <li>3. 需要と供給で考える</li> <li>4. 有効需要の理論</li> <li>5. 貨幣の定義と機能</li> <li>6. マネー・ストックと信用乗数</li> <li>7. 通貨供給と物価</li> <li>8. インフレーションとデフレーション</li> <li>9. 金融政策と財政政策</li> <li>10. 失業問題：自然失業率および効率的賃金仮説</li> <li>11. 日本の政策課題</li> <li>12. 経済成長と開発投資および資本蓄積</li> <li>13. 変動相場制と為替レート</li> <li>14. 比較優位——国際的な自由貿易の恩恵</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回授業時に強調するポイントや次回の講義箇所の指摘等による教科書ないし参考文献の復習および予習		
テキスト	伊藤元重『入門 経済学 第4版』日本評論社.		
参考文献	伊藤元重『はじめての経済学（下）』日本経済新聞社.		
評価方法	レポートや試験答案の内容による評価が100%		

08年度以降	現代社会1（経済学2）（はじめての経済学）	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>本講義の目的は、経済学の基本的な考え方をミクロ経済学を中心に紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。</p> <p>講義の概要</p> <p>テキストのPart1に沿って下記のテーマについて講義する。</p> <p>I. 需要と供給の理論：ミクロ経済学の基本  II. 独占と競争の理論および市場の失敗  III. 不確実性と不完全競争の理論  IV. ゲームの理論入門</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス——経済学とはどのような学問か</li> <li>2. 基本手法としての需要・供給分析</li> <li>3. 需要曲線と消費者行動</li> <li>4. 供給曲線と企業の費用構造および利潤最大化行動</li> <li>5. 完全競争と独占的競争</li> <li>6. 独占の理論</li> <li>7. 市場の失敗</li> <li>8. 公共財の理論</li> <li>9. 不確実性と経済現象</li> <li>10. 不完全情報の経済学</li> <li>11. エージェンシー関係とモラルハザード</li> <li>12. 囚人のジレンマ</li> <li>13. 繰り返しゲームと協調のメカニズム</li> <li>14. コミットメント戦略</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回授業時に強調するポイントや次回の講義箇所の指摘等による教科書ないし参考文献の復習および予習		
テキスト	伊藤元重『入門 経済学 第4版』日本評論社.		
参考文献	伊藤元重『はじめての経済学（上）』日本経済新聞社.		
評価方法	レポートや試験答案の内容による評価が100%		

08年度以降	現代社会1(家族と法)	担当者	齋藤 哲
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この授業は、世間で話題になっている家族と法にまつわる様々な件や全く話題になっていない件に対して、ちょっとだけ首を突っ込んだり、突っ込まなかったり、深入りしたりする授業です。すべて講義形式で行います。動画の提供予定はありません。		第1回 開講にあたり 第2回 家族法の話し 第3回 婚姻の話し 第4回 婚姻解消の話し(1) 第5回 婚姻解消の話し(2) 第6回 親子の話し 第7回 養子の話し 第8回 親権の話し 第9回 後見の話し 第10回 相続の話し(1) 第11回 相続の話し(2) 第12回 遺言の話し 第13回 ストーカー防止法の話し 第14回 DV防止法の話し 第15回 まとめ	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書を読んで受講することが望ましい		
<b>テキスト</b>	齋藤哲・家族と法(信山社)、六法全書		
<b>参考文献</b>	開講時に適宜紹介する。		
<b>評価方法</b>	期末試験 100% *期末試験の受験資格として11回以上出席していること		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	現代社会1(政治思想と理論、制度)	担当者	大串 敦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、政治学の基礎概念の習得が狙いになるが、概念をただ理解するという無味乾燥なものから離れて、概念が成立する過程にも注目する。ある新しい概念が生み出されるのは、多くの場合、既成の概念ではとらえきれない現実の展開があるときである。研究者が把握した現実からの挑戦によって、どのように政治学の概念が成立するのか、一連の過程を理解することによって、政治学の概念を生きたものとして理解できるようになることが最終的な目的となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序：講義の概要の説明と方法論的考察</li> <li>2. 国家：近代国家とは何か</li> <li>3. 権力：権力と権威、権力を握っているのは誰か？</li> <li>4. 支配の正当性：支配の正当性とは何か。</li> <li>5. 官僚制：ウェーバーの理解、合法的支配と官僚制。</li> <li>6. 民主制1</li> <li>7. 民主制2</li> <li>8. 全体主義体制</li> <li>9. 権威主義体制</li> <li>10. 競争的権威主義体制</li> <li>11. 民主化・体制転換1</li> <li>12. 民主化・体制転換2</li> <li>13. 民主化・体制転換3</li> <li>14. 日本政治と政治学の諸概念</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献リストを配布するので、できるだけ目を通してください。		
<b>テキスト</b>	特になし。		
<b>参考文献</b>	授業で文献リストを配布します。		
<b>評価方法</b>	期末試験による。		

08年度以降	現代社会1(政策と政治過程)	担当者	大串 敦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、国際政治学の基礎を扱う。国際政治学の基礎概念と、国際政治史の展開を大まかにつかむことが目的となる。国際政治の概念を用いて歴史を分析的に理解できるようになれば、目的は達せられる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに、国際政治とは何か</li> <li>2. 国際政治の主体</li> <li>3. 国際政治における力</li> <li>4. 国際政治における秩序1</li> <li>5. 国際政治における秩序2</li> <li>6. 主権国家体系の成立</li> <li>7. フランス革命・ナポレオン戦争・ウィーン体制</li> <li>8. ビスマルク体制</li> <li>9. 第一次世界大戦</li> <li>10. 戦間期の世界</li> <li>11. 第二次大戦・冷戦の開始</li> <li>12. 冷戦の展開</li> <li>13. 冷戦の終結</li> <li>14. 冷戦後の世界</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献リストを配布するので、できるだけ目を通してください。		
<b>テキスト</b>	特になし。		
<b>参考文献</b>	授業で文献リストを配布します。		
<b>評価方法</b>	期末試験による。		

08年度以降	現代社会1（歴史の中のメディア）	担当者	柴崎 信三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディアの歴史は人間のコミュニケーションを巡る技術の歴史であるとともに、情報が人間と社会や政治経済、国際関係などを結び、その時代の共通する価値を作り出す、すぐれて文明的な営みの歴史である。</p> <p>人の肉声のやりとりが文字で記録され、さらに活字印刷が同時大量伝達を可能にして近代社会への道筋ができた。やがて新聞雑誌など活字媒体から電信、映像、電波へ技術革新によるコミュニケーションの広がり、情報伝達のスピードと規模を飛躍させただけでなく、知識の価値や人間の感覚の拡張などの新たな地平を広げた。その究極がインターネットによってあらゆる情報が瞬時にやりとりされる今日の情報社会であろう。春の授業ではこうした歴史を通してメディアが取り結ぶ人間と情報のかかわりと、その時代の社会システムの形成について学んでゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. グーテンベルクの革命</li> <li>3. ピュリツァーと〈新聞戦争〉</li> <li>4. ロイターと大英帝国</li> <li>5. 視覚の20世紀</li> <li>6. プロパガンダとメディア</li> <li>7. 戦争と国民国家とメディア</li> <li>8. グローバリゼーションと情報</li> <li>9. メディア複合体のゆくえ</li> <li>10. テレビとネット</li> <li>11. エンターテインメントとメディア</li> <li>12. 民主主義とメディアモデルの揺らぎ</li> <li>13. 情報は有償か無償か</li> <li>14. メディアのなかの人間</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点整理を心がける。		
<b>テキスト</b>	各回配布する資料をテキストとする。		
<b>参考文献</b>	ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする		
<b>評価方法</b>	定期試験の評価（80%）に加えて、授業内で課すりポート（20%）を勘案して評価する		

08年度以降	現代社会1（メディアと現代社会）	担当者	柴崎 信三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>新聞、雑誌、放送、出版などは広く「マスメディア」と呼ばれてきたが、その発展と社会的な機能は近代の民主主義と市場経済という仕組みと密接にかかわってきた。これらは公権力のような力の裏付けを持たず、一般の企業体のような利益動機だけで動くのでもないが、国民の代理人というべき立場から、自由な言論表現を通して広く民主主義社会の公益に資するというが、その存在理由であった。</p> <p>それが現在、大きな曲がり角にあるのはなぜなのか。権力化とジャーナリズムの衰弱、インターネットの台頭に伴う言論機能の後退、フェイクニュースの蔓延にみるような民主主義というシステムの機能不全など、いくつかの要因が浮かび上がる。世界のメディアを取り巻く問題点を具体的な事例に沿って検証しながら、今日の社会に求められるメディアの機能とは何か、を改めて考えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. ジャーナリズムとはなにか</li> <li>3. 調査報道と「知る権利」</li> <li>4. 「表現の自由」と現代社会</li> <li>5. 誤報・虚報はなぜ生まれるのか</li> <li>6. 「世論」とメディア</li> <li>7. 情報操作はなぜ行われるのか</li> <li>8. メディアの倫理と「公益性」の行方</li> <li>9. 放送と通信の融合とテレビ</li> <li>10. 外交と情報摩擦</li> <li>11. メディアの再編とネット</li> <li>12. 国家機密保護と情報漏洩</li> <li>13. メディアと文化</li> <li>14. フェイクニュース—ネット社会と「公共圏」</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点整理を心がける。		
<b>テキスト</b>	各回配布する資料をテキストとする。		
<b>参考文献</b>	佐藤卓己『メディア社会』（岩波新書）		
<b>評価方法</b>	定期試験の評価（80%）に加えて、授業内で課すりポート（20%）を勘案して評価する。		

08年度以降	現代社会1（グローバルゼーションを巡って）	担当者	柴崎 信三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「近代」を特徴づける市場経済システムと民主主義という政治の仕組みが、情報のアドバンテージ（優越性）によって欧米などに根付き、文明の覇権を獲得していった理由はどこにあったのか。こうした問いを先行した欧州と米国、そして後発地域のアジアから抜け出して「脱亜入欧」を果たした日本の歩みの中から考えてゆく。</p> <p>経済成長のエンジンともいべき科学技術の発展と情報を駆使して支配した市場の拡大は、欧米が近代社会をリードする大きな要因であり、民主主義など政治や社会のシステムもその産物といえよう。情報技術（IT）をこうした市場化や民主化を拡大してグローバルゼーションを進める力として歴史の中に位置づける一方、それが米国の覇権の揺らぎと中国など新興国の台頭、国内の格差の拡大や排外主義などの反作用を生んでいる現実にも目を向けて、近代から現代への歴史の道筋を捉えなおしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>文化と文明</li> <li>三つの波</li> <li>情報と近代社会①ルネサンスと科学技術</li> <li>情報と近代社会②プロテスタントと富の蓄積</li> <li>情報と近代社会③産業革命と大英帝国</li> <li>情報と覇権国家①米国と市場経済の発展</li> <li>情報と覇権国家②冷戦と豊かな社会</li> <li>情報と覇権国家③米国の覇権と揺らぎ</li> <li>情報と日本の近代①キャッチアップ</li> <li>情報と日本の近代②孤立と破綻</li> <li>情報と日本の近代③成長とその翳り</li> <li>情報とグローバルゼーション①変容</li> <li>情報とグローバルゼーション②展望</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>自己点検運営委員会で承認された到達目標を教務課で入力しますので、記入不要です。 各自参考文献の通読とともに、授業で扱ったキーワードを調べなおして各回の論点整理を心がけたい。</p>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自参考文献の通読とともに、講義の中のキーワードを調べなおして論点の整理を心がけること。		
<b>テキスト</b>	各回配布する資料をテキストとする		
<b>参考文献</b>	佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波新書）を参考文献とする。		
<b>評価方法</b>	定期試験の実績（80%）に加えて、授業内で課すレポートの実績（20%）を勘案して評価する。		

08年度以降	現代社会1（日本の表象と世界）	担当者	柴崎 信三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>情報社会は国際競争や企業システムから民主主義や法など統治の仕組み、社会の「公」と「私」の関係や固有の文化のありようなど、「近代」が自明としてきたさまざまなシステムや制度、ルール、価値観を大きく変えている。</p> <p>米国の一極支配に覆われてきた前世紀の経済社会がその覇権の凋落と新興国の著しい台頭へ局面を転換させ、文明の正統性を担ってきた欧州が混迷する一方で異文化のイスラムが激しい反抗を広げているのも、情報化によるグローバルゼーションの一断面であろう。</p> <p>ネット世論が台頭する一方で仮想通貨が貨幣システムを揺るがす。知的財産の価値が企業の秩序を変える一方、グローバルゼーションはローカルな文化の反発も呼び起こす。情報技術によって激しい変化の波に洗われている近代社会のシステムや価値観をさまざまな領域に探り、これからの社会が共有すべき新たな秩序形成の条件を探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>ソフトパワーの時代</li> <li>「表現の自由」の二律背反</li> <li>選挙と「炎上」－民主主義の逆説</li> <li>フラットな企業と尖った人材</li> <li>ビットコイン－貨幣とは何か</li> <li>社会リスク－ネット犯罪と安全</li> <li>知的財産 保護と利用－著作権・特許権</li> <li>国際分業と競争力</li> <li>レクサスとオリーブの木</li> <li>規制緩和と派遣労働</li> <li>エンロン破綻－金融化と市場の失敗</li> <li>ニューエコノミーと「成長」の神話</li> <li>フェアとシェア－互酬社会と格差社会</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>自己点検運営委員会で承認された到達目標を教務課で入力しますので、記入不要です。</p>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自参考文献の通読とともに、講義の中のキーワードを調べなおして論点の整理を心がけること。		
<b>テキスト</b>	各回配布する資料をテキストとする。		
<b>参考文献</b>	石田英敬『大人のためのメディア論講義』（ちくま新書）を参考文献とする。		
<b>評価方法</b>	定期試験の実績（80%）に加えて、授業内で行うレポートの実績（20%）を勘案して評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会1 (NGO 論)	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。</p> <p>この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。</p> <p>この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。</p> <p>また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NGO論オリエンテーション</li> <li>2.～3. 「対テロ戦争」と市民社会I/アフガニスタンの現状とNGOの活動</li> <li>4.～5. 「対テロ戦争」と市民社会II/イラクの現状とNGOの活動</li> <li>6. パレスチナ問題とNGOの取り組み</li> <li>7. NGOの安全対策（講義と演習）</li> <li>8. 東アジアの平和と市民交流</li> <li>9. 「貧困対策」と持続的開発目標（SDGs）。ラオスにおける森林保全から考える。</li> <li>10. アフリカにおけるHIV/AIDSの原状とNGOの取り組み</li> <li>11. NGOの組織運営と人材、資金について</li> <li>12.～13. 非人道兵器の禁止と市民社会I対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク</li> <li>14. 非人道兵器の禁止と市民社会IIクラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割</li> <li>15. 理解度の確認</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に政府開発援助（ODA）や国連などの国際機関の概要について予習をしておくこと、そして事後には様々なNGOが主催するセミナーに参加したり、インターンとして関わることを薦める。		
テキスト	特になし		
参考文献	・日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年・清水俊弘著『クラスター爆弾なんてもういらぬ』合同出版 2008年		
評価方法	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはレポート）の結果（70%）を評価対象とする。		

08年度以降	現代社会 1 (社会生活と犯罪)	担当者	関根 徹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>法律は社会を規律するルールです。しかし、我々は特にそのルールを意識することなく、日常生活を送っています。我々が法律を意識するようになるのは、何らかのトラブルが発生した時です。そのトラブルの最たるものが犯罪です。本授業では、社会生活の中で生じている主な犯罪を題材にして、それがどのように解決されるのかということを見て、法律の運用の感覚をつかんでもらいたいと思います。</p> <p>本授業は、実際に発生した事件を題材にして、どのようなことが問題となったのか、その事件の解決方法には、どのようなものがあるのかということを見ることを内容とし、講義形式で行います。</p> <p>なお、途中でレポートを課します。詳しくは授業で説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 刑法の基礎1</li> <li>3. 刑法の基礎2</li> <li>4. 殺人と同意殺人</li> <li>5. 錯誤</li> <li>6. 臓器移植</li> <li>7. 責任</li> <li>8. 罪刑法定主義</li> <li>9. 胎児傷害</li> <li>10. 窃盗</li> <li>11. 詐欺</li> <li>12. 強盗</li> <li>13. 共同正犯</li> <li>14. 文書偽造</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業前に授業で必要な法律の条文を読んできてください。授業後に問題となる条文を読みながら、事件がどのように解決されているのかということを確認してください。		
<b>テキスト</b>	テキストは特に指定しません。資料を配布し、それに基づいて授業を進めます。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて紹介します。		
<b>評価方法</b>	試験 (80%) レポート (20%)		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	現代社会1（ビジネス法務）	担当者	高橋 均
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. 講義目的 株式会社の仕組みや特徴、企業活動の内容の学修を通じて、ビジネス法務として最も重要な会社法の理解を深めます。また、企業戦略として、近年その重要度を増している企業買収や合併・分割についても、実際の企業間の攻防の実例を通して、知見を深めます。 会社に入社後、又は将来、起業化する際にも役立つ内容となります。</p> <p>2. 授業の実施要領 講義形式ですが、双方向や学生相互のディスカッションを積極的に取り入れる予定です。企業の最前線の様子も紹介するために、DVDの鑑賞も行います。</p> <p>3. 履修対象者 全学部の学生諸君が履修できます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入（授業の進め方、会社組織について）</li> <li>2. 会社の種類と会社の利害関係者</li> <li>3. 会社機関と企業自治</li> <li>4. 欧米の会社の機関設計とその特色</li> <li>5. 会社の資金調達</li> <li>6. 会社役員の法的責任</li> <li>7. 企業買収</li> <li>8. 敵対的買収への防衛（経営者の決断）</li> <li>9. 買収戦略の是非</li> <li>10. 会社の合併と分割</li> <li>11. 会社の設立と準備</li> <li>12. 会社の倒産・会社更正</li> <li>13. コーポレート・ガバナンスの概念と対応</li> <li>14. 企業不祥事の防止と内部統制システムの整備</li> <li>15. 企業の社会的責任と役割</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前の学修としては、教科書の該当頁に予め目を通しておくこと、事後の学修としては、個別企業に関するマスコミ報道に関心を持つことにより、授業との関連を意識すること		
<b>テキスト</b>	高橋均『実務の視点から考える会社法』中央経済社（2017年）		
<b>参考文献</b>	企業法学会編『企業責任と法～企業の社会的責任と法の役割・在り方』文眞堂（2015年）		
<b>評価方法</b>	期末試験 70% 平常授業の取り組み（質疑の様子、授業中での課題提出） 30%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	現代社会1（現代の企業経営）	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらい、企業経営の面白さと難しさを体感できるとともに、グループワークを通じて徹底的に考え抜く力もつくと思われる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ビジネスプラン作成（基本となるケースの熟読）</li> <li>3. ビジネスプラン作成（初期投資額の算出準備）</li> <li>4. ビジネスプラン作成（初期投資額の算出完了）</li> <li>5. ビジネスプラン作成（企業理念の設定準備）</li> <li>6. ビジネスプラン作成（企業理念の設定完了）</li> <li>7. ビジネスプラン作成（事業内容の考案準備）</li> <li>8. ビジネスプラン作成（事業内容の考案完了）</li> <li>9. ビジネスプラン作成（広告宣伝方法の考案）</li> <li>10. ビジネスプラン作成（広告宣伝内容の考案）</li> <li>11. ビジネスプラン作成（売上予測と月次利益の考案）</li> <li>12. ビジネスプラン作成（資金調達額の考案）</li> <li>13. ビジネスプラン作成（資金調達方法の考案）</li> <li>14. ビジネスプラン作成（レポート作成）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義時間はあくまでもグループワークが優先であり、事前事後に下調べが必要となる。		
テキスト	適宜プリントを配布する		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	グループへの参加度・貢献度 30%、期末レポート 70%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会1(ジェンダーとメディア表象)	担当者	西山 千恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的	<p>私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての「知識」を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。</p> <p>この講義では、ジェンダー概念を理解したうえで、ジェンダーの視点からメディアを批評的に読み解く力をはぐくむことを目的とします。</p>		
講義概要	<p>講義の前半はジェンダー概念の基礎的理解を図り、後半はメディア・リテラシーの基礎を踏まえたうえで、メディアをジェンダーの視点で検討していきます。また既存の固定的な男女のイメージに対抗する表現についても考察していきます。授業の終わりにはコメントカードの提出があります。一部、性的表現や暴力的表現を含む映像等もありますので、ご了承ください。</p>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 現代日本の男女の統計</li> <li>2. 国連の「男女平等」に向けての動き</li> <li>3. 日本の「男女平等」に向けての動き</li> <li>4. 日本のジェンダーに関わる諸問題</li> <li>5. ジェンダーとジェンダーの周辺概念</li> <li>6. セクシュアル・マイノリティの主張・運動</li> <li>7. セクシュアル・マイノリティとメディア表現</li> <li>8. メディアとジェンダー</li> <li>9. ジェンダー視点のメディア・リテラシー</li> <li>10. 広告における性表現とジェンダー</li> <li>11. 映画における女性・男性</li> <li>12. ポルノメディアとジェンダー</li> <li>13. 行政広報とジェンダー</li> <li>14. 「芸術」とジェンダー</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業後、配布したプリントやノートを確認し、講義内容を復習すること。また日常接するメディアに描かれた人物の表象について、「作られた男女イメージ」などの観点から意識して見直してみること。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は授業中に指示します。		
評価方法	学期末試験100% 特にすぐれたコメントはこれを加点要素とする。		

08年度以降	現代社会1(中東の社会空間)	担当者	水口 章
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、西アジア・北アフリカ両地域に暮らす人々の社会について学び、グローバル化社会で活躍するために必要な異文化理解力を習得することを目的とします。</p> <p>講義内容は、生活規範としての宗教、慣習、立法、制度などの基礎的な知識を解説します。そのことで、人々の行動および思考と社会との関係について理解を深め、異なる文化を持つ人々との共生方法について、自分の意見を述べるができるようになります。</p> <p>授業は、基本的に講義形式をとりますが、授業の後半では各自の理解した内容についてグループ討論を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (市民社会と生活規範を考える)</li> <li>2. 地域概念： 中東の誕生について</li> <li>3. 地域の多様性： 宗教、民族、言語について</li> <li>4. 一神教の基礎知識： 啓典の民について</li> <li>5. イスラムの基礎知識： 共同体と生活規範について</li> <li>6. イスラム法学： 法根源と法学派</li> <li>7. イスラム史の展開： 国家と制度について</li> <li>8. イスラムの拡大： 商業ネットワークと都市について</li> <li>9. 中東の社会正義： 契約と裁判について</li> <li>10. 中東の経済格差： 貧困と互助について</li> <li>11. 中東の差別： 部族制とジェンダーについて</li> <li>12. 中東の統合化： 教育とメディアについて</li> <li>13. 中東の移民： 出稼ぎ労働者について</li> <li>14. 中東の社会運動： イスラム復興運動について</li> <li>15. まとめ (現代の中東の社会空間の特性)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学習：予習資料を事前に熟読(30分程度)、不明な用語の調べ(60分程度)を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください(90分程度)。		
<b>テキスト</b>	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	エマニュエル・トッド『家族システムの起源－Iユーラシア 下』、ロバート・N・ベラー『宗教とグローバル市民社会』		
<b>評価方法</b>	学習態度(10%)、課題(30%)、最終レポート(60%)で総合的に評価します。		

08年度以降	現代社会1(中東政治と市民社会)	担当者	水口 章
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、21世紀型市民社会における市民の政治・社会運動を理解するための知識を習得することを到達目的とします。</p> <p>講義内容は、社会が大きく変動している西アジア・北アフリカ両地域の紛争や革命の事例分析を通し、社会運動や帰属意識について解説します。そのことで、国際情勢を理解し、分析する力を身につけるようになります。</p> <p>授業は、5回目までは講義形式で社会変動についての基礎知識を学びます。6回目以降は、具体的事例の解説、その次の授業でその事例にかかわる具体的な概念の確認と理解を深めるためのグループ討論という形式で授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (市民社会における統治を考える)</li> <li>2. 社会変動と社会運動： 社会変動について</li> <li>3. 国境を超える社会運動： 運動の広がりについて</li> <li>4. 現代中東と市民社会： 国家統合について</li> <li>5. 現代中東と政治： 民主化と政党について</li> <li>6. イラン革命と社会発展： パーラビ体制の改革について</li> <li>7. 規範と制度： 討論 (イラン革命からの考察)</li> <li>8. イスラエルとパレスチナ： 紛争と抵抗について</li> <li>9. 支配と権力： 討論 (中東和平プロセスからの考察)</li> <li>10. 社会運動「アラブの春」： 市民連帯について</li> <li>11. 機械的連帯から有機的連帯へ： 討論 (アラブの春からの考察)</li> <li>12. 国際テロ組織「イスラム国」： イスラム復興運動について</li> <li>13. エスニシティとナショナリズム： 討論 (国際テロからの考察)</li> <li>14. 集団と帰属意識： 地域社会の形成について</li> <li>15. まとめ (中東地域の市民社会の行方)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学習：予習資料を事前に熟読(30分程度)、不明な用語の調べ(60分程度)を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください(90分程度)。		
<b>テキスト</b>	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	エマニュエル・トッド『アラブ革命はなぜ起きたか』藤原書店、松尾昌樹他『中東の新たな秩序』ミネルヴァ書房		
<b>評価方法</b>	学習態度(10%)、課題(30%)、最終レポート(60%)で総合的に評価します。		

08年度以降	現代社会1 (社会科学概論1)	担当者	嶋津 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前後期を通じて、私の能力の許す限りで、自分が18歳だったらこんな授業が聴きたかったな、と思えるような授業をしたいと考えています。講義の目的は、これから社会科学上の様々な議論を学ぶ諸君に対して、全体の地図として使えるような大まかな地図を与えること、です。もちろんそれは、私の個人としての偏りから自由ではありませんが、後で学生諸君が自由に訂正・批判してゆくための手始めとして役立てばよいのです。何の先入観ももたずに大海原の航海に乗り出すのは、あまりにも無謀、いやむしろ不可能なことです。</p> <p>社会科学概論1では、私がこれまで影響を受けてきた何人かの思想家の思想を紹介しながら、自分の学問史の要素も含めて講義します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケルゼン (相対主義、法実証主義)</li> <li>2. マルクス (民主主義批判)</li> <li>3. レーニン (社会主義とその崩壊)</li> <li>4. ポパー1 (科学哲学)</li> <li>5. ポパー2 (開かれた社会論)</li> <li>6. ハイエク1</li> <li>7. ハイエク2</li> <li>8. ロールズ1</li> <li>9. ロールズ2 (とクカタス)</li> <li>10. ノージック1.</li> <li>11. ノージック2.</li> <li>12. オークショット (保守主義)</li> <li>13. ファインバーグ</li> <li>14. 丸山真男他</li> <li>15. 日本の保守主義</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	HomePage で挙げる文献に目を通してみよう。質問や自分の意見を書いたメールを出してみよう。		
テキスト	全体のテキストはなし。		
参考文献	各回について、嶋津の HomePage で指示する。password は授業で開示する。		
評価方法	期末試験 (短答式) による。質問等のメールは加点 (最大 10 点) 方向にのみ評価する。		

08年度以降	現代社会1 (社会科学概論2)	担当者	嶋津 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>後半の社会科学概論2では、我々が直面している時事的諸問題を、世界と日本の近現代史の流れの中に置いて、社会科学の問題として理解する試みを行います。目標となるのは、ややもすると日本のメディアで常識として流通しているが実は日本語の言語空間の中でしか通用しないような視点を相対化することです。そしてできるだけ国際的な視野から日本の問題を捉えて考えることです。それでももちろん、授業で提示される視点は「正解」ではなく一つのとらえ方にすぎません。結局は学生諸君が自分で考えることになるのですが、その際に、できるだけ基本的な歴史の事実や社会科学の理論を踏まえてそれをしてほしい、と思います。その役に立つような講義にしたいものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論：全体の見通し、その他</li> <li>2. 第1次世界大戦と平和主義</li> <li>3. (世界的視野から見た) 第2次世界大戦</li> <li>4. 米軍の占領政策と日本の戦後体制</li> <li>5. 冷戦の開始と定着</li> <li>6. 日本の中の反体制運動</li> <li>7. 冷戦終焉と自由民主主義の多幸症</li> <li>8. 「終わ」らなかつた歴史と文化対立</li> <li>9. 多元主義またはdiversity論の諸相</li> <li>10. 宗教対立と国家</li> <li>11. 国家と国民 (米国の場合)</li> <li>12. もう一つのフェミニズム (iFeminism)</li> <li>13. 秩序の希少性論</li> <li>14. ナショナリズム論</li> <li>15. 全体を振り返って (まとめ)</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	HomePage で挙げる文献に目を通してみよう。質問や自分の意見を書いたメールを出してみよう。		
テキスト	全体のテキストはなし。		
参考文献	各回について、嶋津の HomePage で指示する。password は授業で開示する。		
評価方法	期末のレポートによる。質問等のメールは加点 (最大 10 点) 方向にのみ評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(数学a)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。</p> <p>なお、2017年度以前の数学Ⅱと同じ内容になります。制度上数学Ⅰの既修者は履修できませんが、聴講することは可能です。また、2017年度以前の数学Ⅱ履修者は履修することができません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>場合の数と集合</li> <li>順列・組合せ</li> <li>標本空間と事象</li> <li>確率</li> <li>余事象の確率、独立試行の確率</li> <li>条件付確率と事象の独立</li> <li>確率変数と確率分布</li> <li>確率密度関数</li> <li>確率変数の期待値</li> <li>確率変数の分散</li> <li>二項分布</li> <li>正規分布</li> <li>問題演習</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。		
<b>テキスト</b>	授業最初にプリント配布		
<b>参考文献</b>	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001年）		
<b>評価方法</b>	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価		

08年度以降	自然・環境・人間1(数学b)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、自然や社会において存在するまとまった数値や符号の集合体の性質を解析する「統計学」の基本的な考え方を学び、大学での学習や社会に出てからの仕事で必要となる統計処理の初歩を身につけることを目的とします。</p> <p>最初に、集合体の性質を決める情報がすべて得られる場合の「記述統計」、次に、情報がすべて得られない場合の「推測統計」を扱います。推測統計では確率の考え方が応用されますので、まず、そこで使われるいくつかの確率分布について解説し、その後、それらを基にした推定や検定といった解析手法を紹介し、同時に課題演習も行います。</p> <p>計算はコンピュータで行いますが、統計処理された数値の意味を把握するため、統計解析ソフトは使いません。</p> <p>なお、2017年度以前の数学Ⅱ既修者は制度上履修できませんが、聴講することは可能です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>1変量データーデータの整理</li> <li>1変量データーデータの特徴</li> <li>2変量データ</li> <li>母集団と標本</li> <li>確率分布ー連続型確率分布</li> <li>確率分布ー<math>\chi^2</math>分布</li> <li>確率分布ーt分布、F分布</li> <li>不偏推定量</li> <li>母平均の区間推定</li> <li>母分散の区間推定</li> <li>母平均の検定</li> <li>母平均の差の検定</li> <li>等分散性の検定</li> <li>問題演習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題の解答をポータルサイトで確認、復習しておいてください。		
<b>テキスト</b>	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001年）		
<b>参考文献</b>	なし		
<b>評価方法</b>	授業中出された課題の評価を総合して評価する		

08年度以降	自然・環境・人間1(物理学Ⅰ)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つげられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。</p> <p>本講義では、物理学の中でも20世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>力と運動1－物体の運動</li> <li>力と運動2－物体に働く力</li> <li>力と運動3－運動の法則</li> <li>力と運動4－万有引力</li> <li>熱1－温度と熱</li> <li>熱2－熱と分子運動</li> <li>波動1－媒質の振動と波</li> <li>波動2－音波と光波</li> <li>電磁気1－電気と磁気</li> <li>電磁気2－電流と磁場</li> <li>電磁気3－電磁誘導</li> <li>電磁気4－電磁波</li> <li>問題演習</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(物理学Ⅱ)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つげられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。</p> <p>本講義では、20世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。</p> <p>なお、春学期開講「物理学Ⅰ」の授業で学習した知識があることを前提とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>時間と空間1－電磁気学と相対性原理</li> <li>時間と空間2－ローレンツ変換</li> <li>時間と空間3－4次元不変量</li> <li>時間と空間4－等価原理</li> <li>時間と空間5－時空の歪み</li> <li>時間と空間6－ブラックホール</li> <li>物質の究極像1－元素と原子</li> <li>物質の究極像2－原子の構造</li> <li>物質の究極像3－前期量子論</li> <li>物質の究極像4－量子力学</li> <li>物質の究極像5－素粒子論</li> <li>物質の究極像6－統一理論</li> <li>問題演習</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(宇宙論 a)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。</p> <p>「宇宙論 a」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、近代的宇宙観の成立と現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>近代科学以前の宇宙論</li> <li>天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生</li> <li>ガリレイによる動力学の発見と相対性原理</li> <li>ニュートン力学とニュートンの宇宙観</li> <li>ニュートンの宇宙観の発展と電磁気学の成立</li> <li>ニュートンの宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立</li> <li>同時概念・時間概念の相対性</li> <li>空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立</li> <li>等価原理と一般相対性理論の成立</li> <li>アインシュタイン方程式と時空の歪み</li> <li>宇宙の時間的・空間的広がりや宇宙の均一性・等方性</li> <li>膨張宇宙論</li> <li>ビッグバン宇宙論</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008年）		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(宇宙論 b)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。</p> <p>「宇宙論 b」では、現代宇宙論において近年得られた知見について解説します。</p> <p>なお、春学期開講「宇宙論 a」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>宇宙論が対象とする宇宙</li> <li>宇宙の階層構造</li> <li>物質の階層構造</li> <li>膨張宇宙の観測</li> <li>膨張宇宙の理論</li> <li>ビッグバン理論と物質の形成</li> <li>宇宙の構造形成</li> <li>物質の究極像</li> <li>宇宙の進化</li> <li>ビッグバン理論の問題点</li> <li>インフレーション宇宙</li> <li>宇宙の特異点と量子宇宙論</li> <li>超ひも理論と膜宇宙</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008年）		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(天文学 a)	担当者	内田 俊郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、恒星や太陽、惑星の見かけの運動のような肉眼で観察できる現象から話を始め、ケプラーの法則、太陽系の様々な天体、太陽系・惑星の形成と話を進める。</p> <p>身近な天文現象をとおして宇宙に興味を持ってもらうこと、広大な宇宙の中で太陽系とはどのような天体なのかを理解することが講義の目標である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容の紹介、天文学の紹介</li> <li>2. 宇宙観の変遷と現代の太陽系像</li> <li>3. 天球と日周運動</li> <li>4. 太陽の年周運動</li> <li>5. 惑星の見かけの運動</li> <li>6. 会合周期と惑星の公転周期</li> <li>7. ケプラーの法則の概要とケプラーの第一法則</li> <li>8. ケプラーの第2法則と第3法則</li> <li>9. ニュートンの万有引力の法則</li> <li>10. 太陽系の天体1 太陽</li> <li>11. 太陽系の天体2 惑星とその衛星</li> <li>12. 太陽系の天体3 小惑星と彗星、太陽系の外縁</li> <li>13. 太陽系の形成</li> <li>14. 太陽系外惑星</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。		
<b>テキスト</b>	教科書は使用しない。資料をPDFファイルで配布する。		
<b>参考文献</b>	小森長生著 新版地学教育講座12『太陽系と惑星』（東海大出版会）		
<b>評価方法</b>	試験 90%，授業への貢献 10%		

08年度以降	自然・環境・人間1(天文学 b)	担当者	内田 俊郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目標は、恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解することと、我々と恒星の関係を理解することである。</p> <p>天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点のひとつは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容の紹介</li> <li>2. 星の見かけの明るさ</li> <li>3. 星までの距離</li> <li>4. 星の光度と絶対等級</li> <li>5. 星のスペクトルと表面温度</li> <li>6. ヘルツシュプルング・ラッセル図（HR図）</li> <li>7. 星の半径と質量</li> <li>8. 星のエネルギー源</li> <li>9. 星の誕生</li> <li>10. 主系列星の性質</li> <li>11. 主系列星以後の変化</li> <li>12. 惑星状星雲と白色矮星</li> <li>13. 超新星</li> <li>14. 中性子星とブラックホール</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。		
<b>テキスト</b>	教科書は使用しない。資料をPDFファイルで配布する。		
<b>参考文献</b>	米山忠興著『教養のための天文学講』、中嶋浩一著『天文学入門 星とは何か』		
<b>評価方法</b>	試験 90%，授業への貢献 10%		

08年度以降	自然・環境・人間1 (歴史における科学技術1：西洋近代科学技術の起源)	担当者	内田 正夫
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>～ルネサンスから啓蒙主義時代まで～</p> <p>私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は私たちすべての市民に求められる。そこで、「科学技術とはなにか」ということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。</p> <p>この授業では、西洋のルネサンスから近代社会の形成と、その中で近代科学が生み出されてきた過程を概観し、それが人々の自然世界に対する近代的な認識を形づくった道筋を考察する。私たちはどのようにして近代的な自然の見方を獲得してきたのか。その起源を考察することを通して現代科学に基づく私たちの世界観をあらためて振り返ってみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション "科学革命"の時代</li> <li>2. 旧世界と新世界(1) 中世からの流れ ルネサンス</li> <li>3. 旧世界と新世界(2) 印刷術 大航海</li> <li>4. 繋がりあった世界(1) 世界の連関・学問の連関</li> <li>5. 繋がりあった世界(2) 自然魔術</li> <li>6. 天上世界(1) 惑星の見かけの運動 地動説</li> <li>7. 天上世界(2) 宇宙の調和 望遠鏡 地球の運動</li> <li>8. 月下世界(1) 地球 地上の物体の運動 水と空気</li> <li>9. 月下世界(2) 錬金術 原子とメカニズム</li> <li>10. 生き物の世界(1) 医学 解剖</li> <li>11. 生き物の世界(2) 新しい医薬 動植物</li> <li>12. 新しい科学と技術の体制(1) 建築・鉱山冶金・時計</li> <li>13. 新しい科学と技術の体制(2) 科学術情報の流通システム</li> <li>14. 啓蒙主義(Enlightenment)と科学・技術</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自教科書を読んで下さい。日本語訳でもよいが、できれば原書で。		
<b>テキスト</b>	Lawrence M. Principe, <i>The Scientific Revolution: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press 2011)		
<b>参考文献</b>	上記テキストには Kindle 版も、日本語訳書もあります『科学革命』丸善出版。担当者による日本語訳も配付します。		
<b>評価方法</b>	定期試験 (60%)、中間小レポート (40%)		

08年度以降	自然・環境・人間1 (歴史における科学技術2：日本の近代化と科学技術)	担当者	内田 正夫
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>～西欧科学技術の導入から現代の諸問題まで～</p> <p>私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は私たちすべての市民に求められる。そこで、科学技術のありようを歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。</p> <p>西洋において近代科学が生み出されてきた時代、日本はいわゆる鎖国体制によって西洋近代科学技術から隔絶されてきたが、その間にも蘭学という形でそれを取り入れ、やがて明治維新以後、急速にそれを導入し、消化し、我がものとしてきた。このような歴史は日本の科学技術に特殊な性格を刻印し、さらに戦争の時代と戦後の高度成長を経て、現代に到る科学技術のありようを形成してきた。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋学の時代(1)日本の伝統技術と伝統的自然観</li> <li>2. " (2)蘭学の興り</li> <li>3. " (3)幕末の洋学</li> <li>4. 明治維新から帝国大学まで(1)殖産興業と科学技術政策</li> <li>5. " (2)社会インフラの整備、帝国大学の設立</li> <li>6. "から敗戦まで (1)理化学研究所の設立</li> <li>7. " (2)大正～昭和初期の科学</li> <li>8. " (3)戦争と科学技術</li> <li>9. 戦後復興と高度成長 (1)産業と科学の戦後復興</li> <li>10. " (2)技術革新と高度成長</li> <li>11. 現代科学技術の諸問題 (1)先端科学技術の特性</li> <li>12. " (2)公害・環境問題の歴史①</li> <li>13. " (3)公害・環境問題の歴史②</li> <li>14. " (4)核エネルギー利用の歴史①</li> <li>15. " (5)核エネルギー利用の歴史②</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で示した参考文献を学習すること		
<b>テキスト</b>	テキストなし。必要に応じてプリントを配布する。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	定期試験 (60%)、中間小レポート (40%)		

08年度以降	自然・環境・人間1(地球環境の変化とその要因)	担当者	鈴木 滋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。</p> <p>この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのかを考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：授業概要等の説明</li> <li>2 地球環境とは何か？ 今、何が起っているのか？</li> <li>3 地球環境の歴史 (I)</li> <li>4 地球環境の歴史 (II)</li> <li>5 地球環境の構造等：地球という惑星について</li> <li>6 地球環境と地球システム (I)：物質圏の相互関係</li> <li>7 地球環境と地球システム (II)：炭素循環など</li> <li>8 地球環境と資源 (I)：資源の特性</li> <li>9 地球環境と資源 (II)：エネルギー</li> <li>10 地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは</li> <li>11 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？</li> <li>12 環境：地球環境と広域・地域環境との比較</li> <li>13 環境と共生：人間活動・物質循環との関係</li> <li>14 地球環境問題概論</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>備考：授業の進度により若干の変更がある。</p>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。		
<b>テキスト</b>	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。		
<b>参考文献</b>	講義内容によって、適時指示する。		
<b>評価方法</b>	基本的には定期試験の結果（100%）による。		

08年度以降	自然・環境・人間1(地球環境問題と環境保全)	担当者	鈴木 滋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。</p> <p>この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的な現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：授業概要等の説明</li> <li>2 地球環境問題各論 (I)：地球温暖化 (a)</li> <li>3 地球環境問題各論 (I)：地球温暖化 (b)</li> <li>4 地球環境問題各論 (I)：オゾン層破壊 (a)</li> <li>5 地球環境問題各論 (I)：オゾン層破壊 (b)</li> <li>6 地球環境問題各論 (II)：酸性雨</li> <li>7 地球環境問題各論 (II)：海洋汚染</li> <li>8 地球環境問題各論 (II)：有害廃棄物の越境移動</li> <li>9 地球環境問題各論 (III)：砂漠化</li> <li>10 地球環境問題各論 (III)：森林減少</li> <li>11 地球環境問題各論 (III)：野生生物（種）の減少</li> <li>12 地球環境問題各論 (III)：開発途上国等の環境（公害）問題など</li> <li>13 地球環境の保全 (I)：環境と開発</li> <li>14 地球環境の保全 (II)：文化・経済・社会等との関係</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>備考：授業の進度により若干の変更がある。</p>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。		
<b>テキスト</b>	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。		
<b>参考文献</b>	講義内容によって、適時指示する。		
<b>評価方法</b>	基本的には定期試験の結果（100%）による。		

08年度以降	自然・環境・人間1(科学技術基礎論Ⅰ)	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在の科学技術は、専門分化が極度に進行しているため、科学技術の専門家さえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。だが、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。</p> <p>この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働することの意義を理解することを目的とする。</p> <p>春学期は主として生命に関する事例を取り上げて考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、生命とは何か</li> <li>2. いつから生命か</li> <li>3. タームペーパーの書き方について</li> <li>4. いつまで生命か</li> <li>5. 遺伝とはなにか</li> <li>6. 品種改良と遺伝子</li> <li>7. 進化・遺伝・優生学</li> <li>8. 病気とは何かー正常と異常を考える</li> <li>9. 感染と免疫</li> <li>10. 生命と食品</li> <li>11. 食のリスクと安全</li> <li>12. 生命から見た環境</li> <li>13. 環境問題とは何かーオゾンホール問題を例に</li> <li>14. 環境の持続可能性と不確実性</li> <li>15. 先端の科学技術と生命</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。		
<b>テキスト</b>	なし。		
<b>参考文献</b>	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。		
<b>評価方法</b>	タームペーパー（期末レポート）（約8割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約2割）により評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(科学技術基礎論Ⅱ)	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家さえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。</p> <p>この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働の意義を理解することを目的とする。</p> <p>秋学期は主として物質や情報に関する事例を取り上げて考察する</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、科学と不確実性</li> <li>2. 科学的予測の原理と現状</li> <li>3. タームペーパーの書き方について</li> <li>4. 事故と科学技術</li> <li>5. 「情報」とは何か</li> <li>6. プライバシーと科学技術</li> <li>7. デジタルディバイドと科学技術</li> <li>8. 科学技術における安全</li> <li>9. 科学技術とリスク</li> <li>10. 科学技術と確率</li> <li>11. 科学技術と統計</li> <li>12. 物質とは何か</li> <li>13. 物質が存在するとはどういうことか</li> <li>14. 物質とエネルギー</li> <li>15. 物質から見た環境</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。		
<b>テキスト</b>	なし。		
<b>参考文献</b>	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。		
<b>評価方法</b>	タームペーパー（期末レポート）（約8割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約2割）により評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間1(科学技術と社会 b)	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我々は科学技術に囲まれて生きている。科学技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵のゲノム編集のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。2011年3月11日の東日本大震災と、その後に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我々が科学技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。</p> <p>この講義では、科学技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解し、科学技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学技術を生かにはどうしたらよいかを考えることを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、科学、技術、社会とは</li> <li>2. 科学技術とイノベーション</li> <li>3. タームペーパーの書き方について</li> <li>4. 科学技術の発達とは人々の仕事を奪うか</li> <li>5. 公害と科学技術</li> <li>6. 気候変動問題と科学技術</li> <li>7. 気候変動問題の解決に向けて</li> <li>8. 知的財産と科学技術</li> <li>9. 製造物責任と科学技術</li> <li>10. 研究不正を考える</li> <li>11. 科学者の社会的責任</li> <li>12. 巨大科学技術と社会</li> <li>13. なぜ理系に進む女性は少ないのか</li> <li>14. 専門家と市民との関係</li> <li>15. 科学技術政策</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。		
テキスト	なし。		
参考文献	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。		
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（約 8 割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約 2 割）により評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(文化としての科学 a)	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>科学はどのような文化なのだろうか。科学を生み出すのは人間である以上、科学は文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすればわれわれは科学の成果ばかりに目を奪われて、科学が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだとすることをなかなか実感できないのではなかろうか。</p> <p>この講義では、映像資料などを活用しながら、科学における基本的で重要ないくつかの概念（考え方）を取り上げるとともに、科学研究に関わる人々の人生や考え方を知ることによって、科学を文化として捉えることを目的とする。</p> <p>春学期は、科学が人間をどのように捉えてきたのかについて考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、人間機械論とは何か</li> <li>2. 人間機械論の誕生と展開</li> <li>3. タームペーパーの書き方について</li> <li>4. 文芸作品の中の人間機械論</li> <li>5. 知性は人間と機械を分けるものか</li> <li>6. なぜ人間には知性があるのか—近代以前の知性論</li> <li>7. 知性は人間の本質か—近代における知性論</li> <li>8. 考える機械—計算機の登場</li> <li>9. 「人工知能」の誕生と展開</li> <li>10. 機械は考えることができるか</li> <li>11. ゲノムは生命の設計図か</li> <li>12. 遺伝子からゲノムへ—分子生物学の展開</li> <li>13. ゲノム編集時代の到来</li> <li>14. 科学から見た人間と倫理</li> <li>15. 文化としての科学と人間</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。		
<b>テキスト</b>	なし。		
<b>参考文献</b>	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。		
<b>評価方法</b>	タームペーパー（期末レポート）（約 8 割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約 2 割）により評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(文化としての科学 b)	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>科学はどのような文化なのだろうか。科学を生み出すのは人間である以上、科学は文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすればわれわれは科学の成果ばかりに目を奪われて、科学が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだとすることをなかなか実感できないのではなかろうか。</p> <p>この講義では、映像資料などを活用しながら、科学における基本的で重要ないくつかの概念（考え方）を取り上げるとともに、科学研究に関わる人々の人生や考え方を知ることによって、科学を文化として捉えることを目的とする。</p> <p>秋学期は、科学者の研究活動について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、「自然の言葉」としての数学</li> <li>2. 古代世界と数学</li> <li>3. タームペーパーの書き方について</li> <li>4. 数学記号の形成—<math>+</math>、<math>-</math>、<math>\times</math>、<math>\div</math>はどこから来たか</li> <li>5. ニュートンとライプニッツの数学論争（1）背景</li> <li>6. ニュートンとライプニッツの数学論争（2）経過</li> <li>7. ニュートンとライプニッツの数学論争（3）検証</li> <li>8. 未解決問題への挑戦（1）ポアンカレ予想の誕生</li> <li>9. 未解決問題への挑戦（2）研究者たちの苦闘</li> <li>10. 未解決問題への挑戦（3）失踪した数学者</li> <li>11. 近世日本の数学文化—和算について</li> <li>12. 和算とその時代—芸事としての数学</li> <li>13. 和算の関連分野（1）暦の作成</li> <li>14. 和算の関連分野（2）地図の作成</li> <li>15. 文化としての科学と自然</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。		
<b>テキスト</b>	なし。		
<b>参考文献</b>	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。		
<b>評価方法</b>	タームペーパー（期末レポート）（約 8 割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約 2 割）により評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(科学史 a)	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。</p> <p>春学期は、古代から17世紀の科学革命を経て、「科学者 (scientist)」という言葉が登場した19世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、科学とはなにか</li> <li>2. 科学的な考え方の始まり (古代)</li> <li>3. タームペーパーの書き方について</li> <li>4. 古代世界の宇宙観</li> <li>5. 地中海世界からアラビア世界へ</li> <li>6. アラビア世界からヨーロッパ世界へ</li> <li>7. 宇宙観の転換—天動説から地動説へ</li> <li>8. 魔術と科学</li> <li>9. 機械論的自然観の登場</li> <li>10. ニュートンと科学革命</li> <li>11. 科学アカデミーの誕生と展開</li> <li>12. 科学史における女性</li> <li>13. 産業革命と科学</li> <li>14. フランス革命と科学</li> <li>15. 「科学者 (Scientist)」の誕生</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	タームペーパー (期末レポート) 作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。		
<b>テキスト</b>	なし。		
<b>参考文献</b>	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。		
<b>評価方法</b>	タームペーパー (期末レポート) (約 8 割) と、獨協大学レポート用紙の記述 (約 2 割) により評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(科学史 b)	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。</p> <p>秋学期は、「科学者 (scientist)」という言葉が登場した19世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得していく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、“Scientist”とは誰か</li> <li>2. 蒸気機関と熱力学の誕生</li> <li>3. タームペーパーの書き方について</li> <li>4. 科学の制度化と専門職業化</li> <li>5. 科学の産業化</li> <li>6. 公害の発生と科学</li> <li>7. 進化論と社会</li> <li>8. 帝国主義と科学</li> <li>9. 研究所の誕生</li> <li>10. 科学と国家</li> <li>11. 現代科学の登場と自然観の転換</li> <li>12. 科学と戦争</li> <li>13. ビッグサイエンスの誕生</li> <li>14. 環境科学の誕生と展開</li> <li>15. 科学の過去・現在・未来</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	タームペーパー (期末レポート) 作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。		
<b>テキスト</b>	なし。		
<b>参考文献</b>	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。		
<b>評価方法</b>	タームペーパー (期末レポート) (約 8 割) と、獨協大学レポート用紙の記述 (約 2 割) により評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間1(スポーツ科学概論)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリーの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されている。また健康の維持増進にも寄与する実験科学的データや、社会科学的分野でも日々新たな知見が得られており、私たちの生活にもスポーツ科学は貢献している。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目標とする。</p> <p>【講義概要】</p> <p>スポーツ生理学を中心に競技スポーツ、健康維持増進にかかわる内容を概説する。映像等も視聴する。</p> <p>2020年に開催される東京でオリンピック・パラリンピックを今までとは違った視点から見よう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. スポーツの起源と歴史</li> <li>3. 世界のスポーツ</li> <li>4. 筋の科学－基礎</li> <li>5. 筋の科学－発展</li> <li>6. 持久力の科学－基礎</li> <li>7. 持久力の科学－発展</li> <li>8. メンタルトレーニング</li> <li>9. スポーツテクノロジー</li> <li>10. コンディショニング</li> <li>11. 競技スポーツの科学－陸上</li> <li>12. 競技スポーツの科学－野球</li> <li>13. 競技スポーツの科学－サッカー</li> <li>14. オリンピック・パラリンピック</li> <li>15. 東京オリンピック・パラリンピック</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞やメディアなどで取り上げられるスポーツ科学の情報を収集し、講義で得た知識をもとに新たに分析すること		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	『イラスト運動生理学』『スポーツ科学事典』『コーチング学への招待』		
評価方法	授業内レポート（40％）と定期試験（60％）により評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間1(私の自由時間設計)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の2割から3割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1割です。あなたは1割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」(生きがい)とするために、自由時間についてももっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずですよ。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。</p> <p>この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目的にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。</p> <p>秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 自由時間とは</li> <li>3 生活時間の構成</li> <li>4 自由時間の推移と現状</li> <li>5 自由時間「三つの意味」その1</li> <li>6 自由時間「三つの意味」その2</li> <li>7 少子化とライフスタイル</li> <li>8 古典的解釈から知るレジャー</li> <li>9 「スコレー」とは</li> <li>10 余暇享受能力を開発していますか</li> <li>11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力</li> <li>12 クオリティオブライフ</li> <li>13 環境と健康</li> <li>14 幸福感</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、大講義室での授業をより活性化するためにぜひご協力をお願いします。</p>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	身近な社会人の労働と余暇について時間配分、余暇享受能力という観点で観察しておくこと。学習後は授業内で考えたことを実践するための自らの自由時間設計を行う。		
<b>テキスト</b>	講義支援システムまたはPortaに授業資料をアップロードしますので、授業前に印刷してお持ちください。		
<b>参考文献</b>	ミヒヤエル・エンデ、モモ、岩波書店。		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・授業内レポート(50%)、学期末試験(50%)により評価します。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	ことばと思想2(日本語教育研究法)	担当者	瀬尾 悠希子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 日本語教育研究を行うために必要な、基礎的な知識と技術を身につけること。</p> <p>【講義概要】 自らの経験を振りかえったり、先行研究を批判的に読み、研究の問いにつながる問題意識を深めます。 また、質問紙調査、インタビュー調査、参与観察を実際に体験しながら、それぞれの調査方法の基本的な特徴と方法、注意点を理解することを目指します。 ほぼ毎週課題が出るので、事前・事後学修をきちんと行う必要があります。その点を留意の上、受講してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、日本語教育研究とは</li> <li>2. 問いを立てる、先行研究を読む①</li> <li>3. 先行研究を読む②</li> <li>4. 質問紙調査①</li> <li>5. 質問紙調査②</li> <li>6. 質問紙調査③</li> <li>7. 量的研究と質的研究</li> <li>8. インタビュー調査①</li> <li>9. インタビュー調査②</li> <li>10. インタビュー調査③</li> <li>11. インタビュー調査④</li> <li>12. 参与観察①</li> <li>13. 参与観察②</li> <li>14. 参与観察③</li> <li>15. その他の研究法、まとめ</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：出された課題を行うこと。 事後学修：出された課題を行うこと。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	ドルニェイ『外国語教育学のための質問紙調査入門』松柏社、フリック『新版質的研究入門』春秋社、その他適宜紹介		
評価方法	最終レポート 50%、課題 50%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想2(日本語学の諸問題)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>日本語を対象に、生成文法分析を行う。授業の目的は、生成文法の考え方を理解するとともに、それによる言語分析について基本的な方法を獲得すること、および日本語の構造について一定の知見をえることである。</p> <p>【講義概要】</p> <p>授業前に教科書の相当箇所を読了し、教員から提示される問題への解答を準備してくることが求められる。</p> <p>授業自体は、その問題への議論を中心に行われる。よってできるかぎり、日本語文法論1および2を既習しているか、それに相応する言語学の初歩を終了していることが望まれる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンスと日本語学概論</li> <li>2. 日本語の基本構造</li> <li>3. 文</li> <li>4. 句構造</li> <li>5. 語彙範疇と機能範疇</li> <li>6. 自他の対応と非対格</li> <li>7. 「する」動詞構文</li> <li>8. 主語主題と移動</li> <li>9. 機能範疇CP</li> <li>10. 補文構造</li> <li>11. VP補文と格交替</li> <li>12. 複合述語と結果句</li> <li>13. 述語の意味と概念構造</li> <li>14. VPシェル構造</li> <li>15. 日本語と生成文法</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の毎回の指定箇所を読了するとともに、配布課題への解答を準備してくること。毎回3～4時間の学習が必要となる。		
テキスト	長谷川信子(1999)『生成日本語学入門』大修館書店		
参考文献	大津由紀雄ほか(2002)『言語研究入門』研究社		
評価方法	授業内の小テスト(40%) レポート(40%) 授業活動への積極性(20%)		

08年度以降	ことばと思想2(日本語口頭表現の実践的研究)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：現代の日本社会で日本語による真摯なコミュニケーションを実現させる方法と理論を会得し、より豊かな言語生活を獲得するための基礎力を養う。</p> <p>講義概要：日本では「読む・書く」に比べると日本語の「聞く・話す」の訓練はほとんどなされていない。学校教育には「読む・書く」のみが期待され、「聞く・話す」は「世間」(会社などの働く場も含む)や「家」での訓練で充分と考えられてきたからである。しかし、グローバル化を迎えた現代は「世間」や「家」でのみ通じる日本語(聞く・話す)だけでは通用しない。かといってディベートやプレゼンテーション等の技術が万能なわけでもない。この授業では、「聞く・話す」に関する基礎的訓練を、講義と課題と実践を毎回組み合わせて実施する。課題が多く、毎回参加しないと意味がないので、そのつもりで履修すること。欠席・遅刻が多い者はグループ活動への参加を許可しない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・導入</li> <li>2. 概説①(「話す・聞く」の理論、意思疎通のサイクル)</li> <li>3. 概説②(私達はなぜ「話す」のか?なぜ「聞く」のか?)</li> <li>4. アイ・コンタクトの重要性、「向い合い」の意味</li> <li>5. 「私は〇〇です」を伝える、受け止める</li> <li>6. 「本当に伝えたいこと」とは何か?</li> <li>7. 「本当に伝えたいこと」を伝える、受け止める</li> <li>8. 伝わるように伝える、受け止める</li> <li>9. 聞いたことをそのまま書く①</li> <li>10. 聞いたことをそのまま書く②</li> <li>11. 書いてあることを話す、表現する、受け止める①</li> <li>12. 書いてあることを話す、表現する、受け止める②</li> <li>13. 書いてあることを話す、表現する、受け止める③</li> <li>14. 書いてあることを話す、表現する、受け止める④</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、次回に向けての課題を出すので、それを忘れずに実施すること。 事後学修：毎回の課題は「振り返り」を含むので、課題を忘れずに実施すること。		
テキスト	特になし。		
参考文献	特になし。		
評価方法	課題の提出 60%、後半に予定されているグループ実習での成果 40%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想2(碑文を読む)	担当者	飯島 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。</p> <p>講義概要：現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。</p> <p>今年度は草加周辺の旧日光街道に焦点を当てて、フィールドワークを増やし、読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。</p> <p>変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。</p> <p>全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・導入</li> <li>2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達）</li> <li>3. フィールドワーク、草加宿</li> <li>4. フィールドワーク、草加市民俗資料館</li> <li>5. フィールドワーク、大学周辺</li> <li>6. フィールドワーク、草加茶屋町周辺</li> <li>7. フィールドワーク、蒲生茶屋町周辺</li> <li>8. 道標・講中碑を読む</li> <li>9. 日本漢文体の読解、梵字の読解</li> <li>10. 墓碑銘・供養碑を読む</li> <li>11. 学生諸君の報告と検討①</li> <li>12. 学生諸君の報告と検討②</li> <li>13. 学生諸君の報告と検討③</li> <li>14. 学生諸君の報告と検討④</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	前：身の周りの石碑に注意を払っておくこと。事後：調査報告書の内容の充実に努めること。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	授業中に示す。		
<b>評価方法</b>	フィールドワーク参加 10%。各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、およびその内容 40%。授業中に検討した上で手直しの後、調査報告書 2 点の提出、その内容 50%。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津 正樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。本講義では各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう、実践を重視した講義を行う。話し手・聴き手それぞれに個性があり価値観が異なる。「言葉」に対する解釈や認識も異なる。正しいと言われる言葉を使い、整然と話しても正しく伝わるとは限らないし 相手の心に響くとは限らない。聴き手の判断力・察する力も重要であり、話し手は、それらを考慮する必要もある。</p> <p>この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながら、理論ではなく実践によってコミュニケーションの方法論を考える。毎時間「話す」「読む」「説明する」「察する」などの実践を行い、それが評価に繋がる。したがって出席することが最低条件となる。秋学期に履修した者も実践を積み場として活用できる講義になる</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション「日本人と言葉」</li> <li>2. 自然な発声・発音「発声発音トレーニング」</li> <li>3. 実践スピーチⅠ「人前で話す（自分を表現する）」</li> <li>4. 実践スピーチⅠ「人前で話す（自分を表現する）」</li> <li>5. 伝わる文章と音声表現「言葉の選択・構文」</li> <li>6. 実践・説明Ⅰ「具体的な説明」・的確な言葉と表現</li> <li>7. 実践スピーチⅡ「課題に即した話をする」</li> <li>8. 実践スピーチⅡ「課題に即した話をする」</li> <li>9. 実践・説明Ⅱ「抽象的な表現」・察しあうこと</li> <li>10. 曖昧表現・方言と若者言葉</li> <li>11. 実践スピーチⅢ「聴き手を納得させる」</li> <li>12. 実践スピーチⅢ「聴き手を納得させる」</li> <li>13. 敬語の基本「敬語の五分類と用法」</li> <li>14. 敬語の応用Ⅰ「尊敬語・謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ」</li> <li>15. 敬語の応用Ⅱ「内と外との関係」・ミニテスト</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	個々に指摘された音声表現の注意点を改善するよう努力してください（毎回 確認します） 実践スピーチは 事前指導に沿った 文章作成の準備と音声表現を求めます		
<b>テキスト</b>	文化庁・国立国語研究所・NHK等が発表した資料・拙著の抜粋をプリントして配付		
<b>参考文献</b>	文化庁『国語に関する世論調査』国立国語研究所『言葉に関する問答集』NHK放送文化研究所『月報』		
<b>評価方法</b>	授業参加度（毎回の音声トレーニング）45%      実践スピーチ 35%      ミニテスト 20%		

08年度以降	ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津 正樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎と応用を学ぶ。本講義では各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう、実践を重視した講義を行う。話し手・聴き手それぞれに個性があり、価値観が異なる。「言葉」に対する解釈や認識も異なる。正しいと言われる言葉を駆使し、整然と話しても、正しく伝わるとは限らないし、相手の心に響くとは限らない。聴き手の判断力・察する力も重要であり、話しては、それらを考慮する必要もある。この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながら、理論ではなく実践によってコミュニケーションの方法論を考える。春学期を履修した者には、更に実践を積み場となる。秋学期から履修する者には、基本から始めるので、問題はない。基本的な言葉遣いや敬語、話し方についても具体的な実例を挙げて説明するので、面接試験にも参考になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション「ことばと人間」</li> <li>2. 自然な発声・発音「発声・発音トレーニング」</li> <li>3. 実践スピーチⅠ「自己PR」</li> <li>4. 実践スピーチⅠ「自己PR」</li> <li>5. 読んで伝えるⅠ「意味通りのイントネーション」</li> <li>6. 読んで伝えるⅡ「話し口調と読み口調」</li> <li>7. 実践スピーチⅡ「聴き手を説得する」</li> <li>8. 実践スピーチⅡ「聴き手を説得する」</li> <li>9. 簡潔に伝えるためのスピーチ文</li> <li>10. 言葉ゲーム「他人の感性を察する」</li> <li>11. 実践スピーチⅢ「想いを伝える」</li> <li>12. 実践スピーチⅢ「想いを伝える」</li> <li>13. 敬語の基本と応用Ⅰ・ミニテスト</li> <li>14. 敬語の基本と応用Ⅱ・ミニテスト</li> <li>15. まとめ「社会人としての言葉の使い方」</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	個々に指摘された音声表現の注意点を改善するよう努力してください（毎回 確認します） 実践スピーチは 事前指導に沿った 文章作成の準備と音声表現を求めます		
<b>テキスト</b>	文化庁・国立国語研究所・NHK等が発表した資料・拙著の抜粋をプリントして配付します		
<b>参考文献</b>	文化庁『国語に関する世論調査』国立国語研究所『言葉に関する問答集』NHK放送文化研究所『月報』		
<b>評価方法</b>	授業参加度（毎回の音声トレーニング）45%      実践スピーチ 35%      ミニテスト 20%		

08年度以降	ことばと思想2(ラテン語 Ia)	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラテン語とは今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したもののなです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。</p> <p>教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行ないます。</p>		<p>1: 第一課 文字と発音・音韻組織・音節 2: 第一課 アクセント・母音の長音化と短音化 3: 第一課 直説法現在能動相・接続詞の例 4: 第二課 第一変化名詞・名詞の性と格・不規則動詞 5: 第二課 第二変化名詞・erで終わる第二変化男性名詞 6: 第三課 第一・第二変化形容詞・前置詞 7: 第三課 人称代名詞・再帰代名詞 8: 第四課 未完了過去・未来 9: 第四課 第三変化名詞 10: 第五課 完了・過去完了・未来完了 11: 第五課 第三変化形容詞・場所の表現 12: 第六課 指示代名詞・idemとipse 13: 第六課 直説法受動相未完了系三時称・受動文 14: 第七課 疑問代名詞と疑問形容詞・関係代名詞 15: 第七課 第四変化名詞・第五変化名詞・ローマ人の名前</p>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めしておきます		
テキスト	中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社）		
参考文献			
評価方法	課ごとのラテン語作文を提出してもらい、20点満点で平均12点以上を合格とします。		

08年度以降	ことばと思想2(ラテン語 Ib)	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じです。ただし、秋学期から受講するという場合は、春学期で学ぶ内容を終えている必要があります。</p>		<p>1: 第八課 目的分詞・動詞の基本形・完了受動分詞・ 2: 第八課 命令法能動相・命令法受動相 3: 第九課 不規則動詞・形容詞の比較 4: 第九課 副詞の比較・部分を表す述語的同格 5: 第十課 形式受動相動詞・分詞 6: 第十課 接合分詞・絶対的奪格 7: 第十一課 不定法 8: 第十一課 対格＋不定法 9: 第十二課 代名詞型形容詞・不定代名詞・nemoとnihil 10: 第十二課 二重否定・動名詞・動形容詞 11: 第十三課 非人称動詞・属格の用法 12: 第十三課 与格の用法 13: 第十四課 対格の用法・奪格の用法 14: 第十五課 接続法の活用 15: 第十五課 接続法の用法</p>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めします		
テキスト	春学期と同じです。		
参考文献			
評価方法	春学期と同じです。		

09年度以降	ことばと思想2(ラテン語IIa)	担当者	小倉 博行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。</p> <p>ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そのため続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。</p>		<p>I『ガリア戦記』教材プリント配布、ガイダンス。 II第1巻第1章 III第3巻第1章 IV第3巻第2章 V第3巻第3章 VI第3巻第4章 VII第3巻第5章 VIII第3巻第6章 IX第3巻第7章 X第3巻第8章 XI第3巻第9章 XII第3巻第10章 XIII第3巻第11章 XIV第3巻第12章 XV第3巻第13章</p>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習は必須です。		
<b>テキスト</b>	テキストはプリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	初級で使った教科書を参考書とします。		
<b>評価方法</b>	平常点で評価します。毎回の予習と、授業への意欲的な参加を望みます。		

09年度以降	ことばと思想2(ラテン語IIb)	担当者	小倉 博行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じです。		<p>Iカエサル『ガリア戦記』第3巻第13章 II第3巻第14章 III第3巻第15章 IV第3巻第16章 V第3巻第17章 VI第3巻第18章 VII第3巻第19章 VIII第3巻第20章 IX第3巻第21章 X第3巻第22章 XI第3巻第23章 XII第3巻第24章 XIII第3巻第25章 XIV第3巻第26章 XV第3巻第29章</p>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習が必須です。		
<b>テキスト</b>	春学期と同じですが、受講生のリクエストがあれば他のテキストも検討します。		
<b>参考文献</b>	春学期と同じです。		
<b>評価方法</b>	春学期と同じです。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想2(韓国の言語文化)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、韓国語文法体系をより深く勉強していきます。受講生はテキストの内容を理解し、レジュメの提出と共に発表します。韓国語についてテーマを決め、グループ理解し、韓国語についてテーマを決め、グループでプレゼンテーションを行います。毎回精読の上、サマリーを必ずやって来てください。</p> <p>授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス①</li> <li>2. ガイダンス②</li> <li>3. 第2章文字①－発表</li> <li>4. 第3章音韻①－発表</li> <li>5. 第3章音韻②－発表</li> <li>6. 第4章単語と品詞①－発表</li> <li>7. 第4章造語②－発表</li> <li>8. 第5章文構造①－発表</li> <li>9. 第5章文構造②－発表</li> <li>10. 第5章文構造③－発表</li> <li>11. 第6章敬語法－発表</li> <li>12. プレゼンテーション①</li> <li>13. プレゼンテーション②</li> <li>14. プレゼンテーション③</li> <li>15. 総まとめ</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト	李翊燮他『韓国語概説』大修館		
参考文献	授業内に指示します		
評価方法	翻訳(30%)、レジュメの提出および発表(20%)、プレゼンテーション(40%)、書評(10%)		

08年度以降	ことばと思想2(書き言葉の問題)	担当者	佐藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文章は読み手を意識して、初めて成立する。文章作法の基本から応用までが、手紙(メールも含む)作成に凝縮されているので、実際に作成しながら問題点及び留意事項を確認する。</p> <p>SNSの進歩はその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングする。また、心を打つ文章とはどのようなものかを意識的に考える。</p> <p>手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス コミュニケーションの本義</li> <li>2. 文章によるコミュニケーション</li> <li>3. ポジティブ言語とネガティブ言語</li> <li>4. 手紙文の約束① 拝啓—時候の挨拶</li> <li>5. 手紙文の約束② 本文—敬具—(追伸)まで</li> <li>6. 時候の挨拶と季節感① 1月～12月</li> <li>7. 著名人の手紙鑑賞、解説①</li> <li>8. 著名人の手紙鑑賞、解説②</li> <li>9. 著名人の手紙鑑賞、解説③</li> <li>10. 手紙を題材にした小説の鑑賞</li> <li>11. 手紙文添削指導①</li> <li>12. 手紙文添削指導②</li> <li>13. メール作成の出し方、メール作成の問題点</li> <li>14. メール文添削指導</li> <li>15. まとめ(総集編)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題出題→課題提出→添削指導→完成のサイクルをもって、事前事後学修をする		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	課題及び添削指導50%。定期レポート50%		

08年度以降	ことばと思想2(話し言葉の問題)	担当者	佐藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて、理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を理解する。</p> <p>流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。3分間スピーチ(自己紹介)を具体的にやってみることから、気付きの講義となる</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コミュニケーション能力について</li> <li>3. 日本型コミュニケーションについて</li> <li>4. 流行語の変遷(流行語大賞の分析)</li> <li>5. 若者言葉の問題(世代語についての考察)</li> <li>6. ポジティブ言語とネガティブ言語</li> <li>7. 話材集めのテクニック①</li> <li>8. 話材集めのテクニック②</li> <li>9. スピーチの実践(スピーチ原稿の添削開始)</li> <li>10. 心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い</li> <li>11. 3分間スピーチの実践① 全員から講評</li> <li>12. 3分間スピーチの実践② 全員から講評</li> <li>13. 3分間スピーチの実践③ 全員から講評</li> <li>14. 3分間スピーチの実践④ 全員から講評</li> <li>15. まとめ(総集編)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題を提示し、その都度添削指導を行うので、①課題を受ける→②課題を提出→③添削返却→④完成の流れを事前事後学修とする		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	添削指導歴50%。単位レポート50%		

08年度以降	ことばと思想2(ロマンス語研究入門1)	担当者	島津 寛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(対象となる受講者)</p> <p>仏語、西語、葡語、伊語(以下「主要ロマンス語」と呼びます)のいずれか一つ以上について一年以上学んだ方(以下既習の言語を「専攻ロマンス語」と呼びます)を対象とします。</p> <p>(目的)</p> <p>非専攻ロマンス語に関する幅広い知識、および専攻ロマンス語に関するより深い知識・理解の獲得とします。</p> <p>(概要)</p> <p>前期は主要ロマンス語文法を伝統的な文法項目毎に並行整理し、主要ロマンス語比較文法表(ノート)の作成を目指します。同時にテキストの読解練習および音読のための発音練習を積み重ねることで、テキスト分析のための基礎力を養成し、後期の授業に備えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) 発音</li> <li>3) 発音</li> <li>4) 冠詞、前置詞+定冠詞縮約形</li> <li>5) 所有形容詞、指示形容詞、人称代名詞</li> <li>6) 不定詞形、分詞形、現在形</li> <li>7) 過去形(1)</li> <li>8) 過去形(2)</li> <li>9) 未来形、条件法形</li> <li>10) 接続法(1)</li> <li>11) 接続法(2)</li> <li>12) 助動詞</li> <li>13) テキスト分析</li> <li>14) テキスト分析</li> <li>15) テキスト分析</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキスト読解の予習復習、発表の準備、ノート作成		
<b>テキスト</b>	教科書に相当する資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	ガイダンスの際に案内します。		
<b>評価方法</b>	平常点(発表、ノート作成等)50%、課題提出 50%		

08年度以降	ことばと思想2(ロマンス語研究入門2)	担当者	島津 寛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(概要)</p> <p>コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬』の主要ロマンス語版を並行して精読しながら、各テキストの対応部分を主に文法的な観点から比較検討し、観察結果、問題点を発表、レポートに仕上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) テキスト分析</li> <li>3) テキスト分析</li> <li>4) テキスト分析</li> <li>5) テキスト分析</li> <li>6) テキスト分析</li> <li>7) テキスト分析</li> <li>8) テキスト分析</li> <li>9) テキスト分析</li> <li>10) テキスト分析</li> <li>11) テキスト分析</li> <li>12) テキスト分析</li> <li>13) テキスト分析</li> <li>14) 課題発表</li> <li>15) 課題発表</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキスト読解の予習復習、発表の準備		
<b>テキスト</b>	教科書に相当する資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	ガイダンスの際に案内します。		
<b>評価方法</b>	平常点(発表)40%、課題提出 40%、レポート 20%		

08年度以降	ことばと思想 2(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各3~4人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 大学で学ぶ目的 1</li> <li>3. 大学で学ぶ目的 2</li> <li>4. 大学で学ぶ目的 3</li> <li>5. 第2-4回目までのまとめ</li> <li>6. 「幸せ」の定義 1</li> <li>7. 「幸せ」の定義 2</li> <li>8. 「幸せ」の定義 3</li> <li>9. 第6-8回目までのまとめ</li> <li>10. 感性と理性 1</li> <li>11. 感性と理性 2</li> <li>12. 感性と理性 3</li> <li>13. 第9-12回目までのまとめ</li> <li>14. 講義総まとめ 1</li> <li>15. 講義総まとめ 2</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振り返り、改善点等を確認しておいて下さい。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	講義内で配布します。		
<b>評価方法</b>	平常点(20%)、授業への参加度(20%)、最終レポート(60%)		

08年度以降	ことばと思想 2(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各3~4人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 大学で学ぶ目的 1</li> <li>3. 大学で学ぶ目的 2</li> <li>4. 大学で学ぶ目的 3</li> <li>5. 第2-4回目までのまとめ</li> <li>6. 「幸せ」の定義 1</li> <li>7. 「幸せ」の定義 2</li> <li>8. 「幸せ」の定義 3</li> <li>9. 第6-8回目までのまとめ</li> <li>10. 感性と理性 1</li> <li>11. 感性と理性 2</li> <li>12. 感性と理性 3</li> <li>13. 第9-12回目までのまとめ</li> <li>14. 講義総まとめ 1</li> <li>15. 講義総まとめ 2</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振り返り、改善点等を確認しておいて下さい。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	講義内で配布します。		
<b>評価方法</b>	平常点(20%)、授業への参加度(20%)、最終レポート(60%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想2(日本文学作品研究e)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>本居宣長の世界</b>  本居宣長は伊勢・松阪に生まれた江戸時代の国学者です。国学者とは、日本の古典を研究対象とし、日本固有の「道」を明らかにしようとした人々を指しています。宣長の残した古事記の注釈書である『古事記伝』や源氏物語の注釈書である『紫文要領』などは現代でも重要視されている文献です。  本講義では、宣長の師である賀茂真淵のものをはじめ、本居宣長の残した随筆や注釈書から宣長の言葉に表されている「思想」をいくつかのキーワードとして取り上げ、研究者として、また、教育者として活躍した「宣長の思想」を理解し、「生きるとは」「学ぶとは」といったことを考えることを講義の目的とします。		1 ガイダンスー本居宣長とはー 2 生きる力ー『排蘆小船』をよむ・その1ー 3 生きる力ー『排蘆小船』をよむ・その2ー 4 物学びー『玉勝間』をよむ・その1ー 5 物学びー『玉勝間』をよむ・その2ー 6 物学びー『玉勝間』をよむ・その3ー 7 物学びー賀茂真淵『万葉考』をよむ・その1 8 物学びー賀茂真淵『万葉考』をよむ・その2 9 「心」と「詞」ー『石上私淑言』をよむ・その1 10 「心」と「詞」ー『石上私淑言』をよむ・その2 11 「心」と「事」と「言葉」ー『うひ山ふみ』①ー 12 「心」と「事」と「言葉」ー『うひ山ふみ』②ー 13 「心」と「事」と「言葉」ー『うひ山ふみ』③ー 14 宣長の思考 15 まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。		
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	試験70%、課題を含めた授業への参加度30%		

08年度以降	ことばと思想2(日本文学作品研究 a)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>日本の芸能</b> 奈良時代に渡来した伎楽、雅楽、散楽のうち、「舞」や「滑稽な物真似」、「対話」といったいくつかの要素が特徴的に発展、形成されて中世の能や狂言となりました。 本講義では、古代の芸能としての伎楽、雅楽、散楽から猿楽を経て、能や狂言が分化していくわが国の芸能史を様々な文献からたどり、さらには、演じられる物語のベースになる文献を解説し、理解することを講義の目的とします。		1 ガイダンス—芸能とは— 2 伎楽・雅楽・散楽—伝来と定着・その1— 3 伎楽・雅楽・散楽—伝来と定着・その2— 4 伎楽・雅楽・散楽—芸能・その1 5 伎楽・雅楽・散楽—芸能・その2— 6 猿楽への分岐—藤原明衡『新猿楽記』をよむ・その1 7 猿楽への分岐—藤原明衡『新猿楽記』をよむ・その2 8 大和・近江四座の成立とその展開 9 古典との融合—その1・三輪— 10 古典との融合—その2・井筒— 11 古典との融合—その3・俊寛 12 民衆と芸能—その1・歌舞伎の歴史— 13 民衆と芸能—その2・忠臣蔵— 14 民衆と芸能—その3・世話物— 15 まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。		
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	試験70%、課題も含めた授業への参加度30%		

08年度以降	ことばと思想2(写本を読む)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>くずし字で読む「百人一首」</b> 『小倉百人一首』は、もともと平安時代の歌人を中心に、奈良時代から鎌倉時代初期に至る歌人の秀歌を集めたもので、藤原定家の撰とされています。当初は二条家の和歌の秘伝として伝授されたりしていましたが、近世期に入って、北村季吟や契沖、賀茂真淵など、様々な人々が注釈書を記しました。 江戸時代中期ごろから、特に女子の古典入門書として取り上げられ、古典教材の他に、家庭遊戯の「かるた」として普及しました。本講座では、『百人一首一夕話』をもとに、日本文化の一端としての百人一首を、歌にまつわるエピソードとともにくずし字の習得も含めて学ぶことを目的とします。		1 ガイダンス—『百人一首』の成立— 2 天智天皇①—私の袖は露に濡れたよ— 3 天智天皇②—天智天皇のエピソード— 4 持統天皇①—香具山に夏が来た— 5 持統天皇②—持統天皇のエピソード— 6 柿本人麿①—長き夜を独りで寝るか— 7 柿本人麿②—柿本人麿のエピソード— 8 山部赤人—富士の高嶺に雪が降っている— 9 中納言家持—カササギの橋に霜が置くよ— 10 安倍仲麿—三笠の山に月が— 11 喜撰法師—宇治山の庵に住む— 12 小野小町①—花の色は移ろうもの— 13 小野小町②—小野小町のエピソード— 14 陽成院—恋は積もって淵となるよ— 15 まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストのくずし字部分を事前に学習することを課題とします。		
テキスト	『くずし字で読む「百人一首一夕話」』武蔵野書院、2018年		
参考文献	児玉幸多編『くずし字解説辞典』東京堂出版		
評価方法	試験60%、課題も含めた授業への参加度40%		

08年度以降	ことばと思想2(日本文学作品研究c)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>富士山の伝承と文学</b>  『万葉集』に「奇しくもいます神」と詠まれ、古来から霊山として讃えられてきた富士山は、一方で山容の美しさ、雄大さが様々な文学作品に表現された山でもあります。 本講義では、「伝承」と「文学」の二つの視点から世界文化遺産にも登録された「富士山」を解き明かすことを目的とします。「富士山」をキーワードに、通史としての日本文学史を学び、日本人の志向を文学作品から読み解くことをします。		1 ガイダンスーパワースポット「富士山」ー 2 富士に抱く思いー『万葉集』『古今和歌集』ー 3 富士山の伝説ーその1・『富士山記』ー 4 富士山の伝説ーその2・『更級日記』ー 5 富士山の伝説ーその3・『竹取物語』ー 6 伝説のクライマーーその1・『日本霊異記』ー 7 伝説のクライマーーその2・『聖徳太子伝暦』ー 8 富士山の神ーその1・『人穴草子』ー 9 富士山の神ーその2・『富士山縁起』ー 10 もう一つのかぐや姫伝説ー『皇国地誌』ー 11 室町将軍富士山を見るー『覧富士記』ー 12 富士信仰の歴史と伝承ーその1・古代から中世ー 13 富士信仰の歴史と伝承ーその2・中世から近世ー 14 富士信仰の歴史と伝承ーその3・近世ー 15 まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。		
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	試験70%、課題も含めた授業への取り組み30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想2(古典ギリシア語I a)	担当者	高橋 裕子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt;春・秋1年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきます。</p> <p>&lt;講義概要&gt;授業は毎回各単元1～2つずつ学習するペースで進みます。時間に余裕がある場合には、古代や現代のギリシアの社会や文化等を映像を交えて紹介します。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。また、この講座の学修後、II abにステップアップしてギリシア古典を原文で読み、深い教養に親しむことをお勧めします</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 字母・発音・音韻などの分類（自分の名前を書く）</li> <li>2. 音節・アクセント・句読点（ギリシア語が読める）</li> <li>3. 動詞の変化・直説法能動相現在（単文の理解が可能）</li> <li>4. 名詞の第一変化（名詞の格変化の理解が可能）</li> <li>5. 動詞の変化・直説法能動相未来（未来形の文章理解）</li> <li>6. 同・直説法能動相未完了過去（動詞の3時制の理解）</li> <li>7. 名詞の第二変化</li> <li>8. 形容詞の第一・第二変化</li> <li>9. 前置詞（格支配する前置詞の理解）</li> <li>10. 動詞の変化・アオリスト（動詞の過去時制の理解）</li> <li>11. 同・現在完了と過去完了（加音と畳音の理解）</li> <li>12. 指示代名詞と強意代名詞（新約聖書が読める）</li> <li>13. 直説法能動相本時称の人称語尾</li> <li>14. 直説法能動相副時称の人称語尾</li> <li>15. 春学期まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストで指定された箇所を事前に予習をして、練習問題をやっておき、授業中にその正誤を確認し、授業後は単語帳や文法事項を整理しておいてください。毎週、宿題をきちんとやってきてください。		
<b>テキスト</b>	田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』（岩波書店、2012年）（2200円＋税）		
<b>参考文献</b>	特になし。必要に応じて、プリントを配布します。		
<b>評価方法</b>	平常点50%、授業への参加度30%、小テスト20%		

08年度以降	ことばと思想2(古典ギリシア語I b)	担当者	高橋 裕子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt;</p> <p>同上</p> <p>&lt;講義概要&gt;</p> <p>同上</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ε ι μ ι (ある) 動詞およびφ η μ ι (言う) 動詞</li> <li>2. 疑問代名詞と不定代名詞</li> <li>3. 動詞の変化・直説法中動相の各時制（1）</li> <li>4. 動詞の変化・直説法中動相の各時制（2）</li> <li>5. 人称代名詞とその代用表現</li> <li>6. 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞</li> <li>7. 第二アオリストの用法（動詞の不規則変化）</li> <li>8. 動詞の変化・直説法受動相</li> <li>9. 名詞の第三変化（名詞の不規則変化）（1）</li> <li>10. 名詞の第三変化（名詞の不規則変化）（2）</li> <li>11. 能相欠如動詞と約音動詞</li> <li>12. 形容詞の第三変化</li> <li>13. 不定法（1）</li> <li>14. 不定法（2）</li> <li>15. 秋学期まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	同上		
<b>テキスト</b>	同上		
<b>参考文献</b>	同上		
<b>評価方法</b>	同上		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想2(心理検査法と自己理解)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後は、結果をレポートにまとめてもらう。</p> <p>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理検査とは？</li> <li>2. 心理検査の種類と理論</li> <li>3. Y-G性格検査（理論的背景と検査の実施）</li> <li>4. Y-G性格検査（検査結果の分析・解釈）</li> <li>5. ストレス・コーピング</li> <li>6. 職業への興味</li> <li>7. 知能検査</li> <li>8. EQS</li> <li>9. 性格5因子</li> <li>10. TEG</li> <li>11. グループ・ワークによる自己理解（非言語的理解）</li> <li>12. グループ・ワークによる自己理解（言語的理解）</li> <li>13. グループ・ワークによる自己理解（他者と自己）</li> <li>14. テスト・バッテリーに基づく自己理解</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあつては、心理検査の結果を踏まえて授業で指示した課題をおこないレポートにより提出する。		
テキスト	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。		
参考文献	各回で参考文献は異なるので、各回の授業にて紹介する		
評価方法	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらおう(50%)。また、最終レポートを課す(50%)。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。		

08年度以降	ことばと思想2(生活文化の発見)	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「生活文化」とは人々の日常の行いであり、何気ない日常生活も、先人たちによって築かれた、あるいは知恵の上に成り立っているだけではなく、何等かの意味を持っています。このような日常生活の様子を「生活文化」として捉え、具体的にみていきます。文化は時代の環境や価値観を背景にして成り立ちます。それゆえに環境や価値観が変化すれば、生活文化も変わります。文化は常に流動的です。</p> <p>本講座では、「生活文化」の成立の要因、「地域的差異」生活を成り立たせる「社会組織」がどのようになっていたのかだけでなく、「変化」にも着目して、環境や価値観の変化を背景とした、生活様式・文化の変化、生活文化に根差す社会意識の要因や背景についても見ていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 講義の概説</li> <li>2、 「生活」とは何か</li> <li>3、 地域差の問題（周圏論）</li> <li>4、 地域差が広がる要因1</li> <li>5、 地域差が広がる要因2</li> <li>6、 生活様式を捉える1（家を中心に）</li> <li>7、 生活様式を捉える2（社会システムを中心に）</li> <li>8、 生活様式を捉える3（社会システムの機能1）</li> <li>9、 生活様式を捉える4（社会システムの機能2）</li> <li>10、 生活様式の変化1（明治維新）</li> <li>11、 生活様式の変化2（生活改善運動・第二次世界大戦）</li> <li>12、 生活様式の変化3（高度経済成長）</li> <li>13、 生活様式の変化4（IT革命・現代の様相1）</li> <li>14、 生活様式の変化4（IT革命・現代の様相2）</li> <li>15、 異形への眼差し</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布、		
<b>参考文献</b>	参考・関連文献は授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	試験 100%、授業参加度を加味する。		

08年度以降	ことばと思想2(生活文化の記述)	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「生活文化」は日常生活であるので、わざわざ記録することは少ないです。現在はSNSでの投稿が当たり前のように行われていますが、「インスタ映え」との言葉が示すように、特別なことを記録しています。本講座では、「書く」ことの意味をまず、幕末・明治期の日記から考えます。「生活文化」の記述に着目するならば、地方自治体による「記録」を目的として発行された「民俗誌」をあげることができます。さらには番組として作られた映像も「記録（記述）」です。本講座では「民俗誌」の記述や映像を見つつ、意見交換しながら、記録することの意味について考えていきたいと思えます。さらに「文化財指定」の問題にまで踏み込んでいきたいと考えております。これら、生活文化の「記録」の意味は、自分の問題に還元されます。それが本講座の大きな目的です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 講義の概説</li> <li>2、 生活を記述すること（日記）</li> <li>3、 生活を記述すること（備忘録として1）</li> <li>4、 生活を記述すること（備忘録として2）</li> <li>5、 情報としての記録</li> <li>6、 記録のための記録（民俗誌）</li> <li>7、 民俗誌に記されたもの</li> <li>8、 民俗誌の記述</li> <li>9、 民俗誌の意義と問題点</li> <li>10、 映像記録を見る1（「ふるさとの伝承」）</li> <li>11、 映像記録を見る2（「日本は森の国」）</li> <li>12、 映像記録を見る3（「日本風景遺産」）</li> <li>13、 映像記録の意義と問題点</li> <li>14、 文化財としての「保存」</li> <li>15、 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布		
<b>参考文献</b>	参考・関連文献は授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	試験 70%、授業への参加度・発言 30%。		

08年度以降	ことばと思想2(論文を書く)	担当者	福沢 健
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本科目は、大学生活において、学習・調査・発表・レポート作成を行うのに必要な日本語の基礎的な能力の習得を目指す。</p> <p>①基本的な語彙力についての問題を解くことができる。</p> <p>②簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。</p> <p>③論題に対する基本的な調査ができる。</p> <p>④調べた詳しい内容を、分かりやすいかたちで発表することができる。</p> <p>⑤論文の基本的な構成ができる。</p> <p>⑥論文の構成に従って、分かりやすい論文を書くことができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 社会貢献活動の基本的概念を知る。</li> <li>3. 発表①</li> <li>4. 論文を読む①</li> <li>5. 発表②</li> <li>6. 発表③</li> <li>7. 論点の整理</li> <li>8. 三角ロジック</li> <li>9. 論文の構成</li> <li>10. 資料の検索</li> <li>11. 発表③</li> <li>12. 発表④</li> <li>13. 論文作成①</li> <li>14. 論文作成②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布		
<b>参考文献</b>	プリントを配布		
<b>評価方法</b>	①発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容 60% ②授業中の取り組み 40%		

08年度以降	ことばと思想2(口頭発表を行う)	担当者	福沢 健
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本科目では、日本語の基礎能力を、具体的な発表などを通して、さらに高いレベルで身につけることをねらいとする。</p> <p>①基本的な語彙力についての問題を解くことができる。</p> <p>②簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。</p> <p>③論題に対する基本的な調査ができる。</p> <p>④調べた詳しい内容を、効果的な方法で発表することができる。</p> <p>⑤論文の基本的な構成ができる。</p> <p>⑥論文の構成に従って、分かりやすい論文を書くことができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 論文を読む①</li> <li>3. 論文を読む②</li> <li>4. 発生・発音</li> <li>5. 発表①</li> <li>6. リサーチ</li> <li>7. 発表②</li> <li>8. プレゼンテーションの理論①</li> <li>9. プレゼンテーションの理論②</li> <li>10. 発表③</li> <li>11. 発表④</li> <li>12. 論文の構成</li> <li>13. 論文作成①</li> <li>14. 論文作成②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布		
<b>参考文献</b>	プリントを配布		
<b>評価方法</b>	①発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容 60% ②授業中の取り組み 40%		

08年度以降	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱa)	担当者	古川 堅治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、1年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的としています。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会と文化にも触れることしたいと考えます。</p> <p>授業では、毎回、楽しい読み物をごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識、裏話やエピソード、関連する映像などを交えて解説していきます。受講者は初級文法を修了していることがよいけれど、必ずしも拘りません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに（辞書の引き方、ノートの作り方の指導）</li> <li>『イソップ物語』の教訓：鶏と泥棒（その1）</li> <li>鶏と泥棒（その2）</li> <li>きつねとつる（その1）</li> <li>きつねとつる（その2）</li> <li>かめとそのねぐら（その1）</li> <li>かめとそのねぐら（その2）</li> <li>おおかみの叫び（その1）</li> <li>おおかみの叫び（その2）</li> <li>猿のものまね上手（その1）</li> <li>猿のものまね上手（その2）</li> <li>最古のギリシア碑文を読む（「ネストルの杯」より）</li> <li>ギリシア大理石碑文（「民会決議碑文」より）</li> <li>クセノポン『ソクラテスの思い出』より</li> <li>春学期まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に予習をし、自分で理解できる所とそうでない所を確認しておき、授業後は正しい日本語の訳を付け、単語帳や文法事項を整理しておいて、次回の授業の際、提出して下さい。		
<b>テキスト</b>	市販のテキストは使用せず、こちらで用意したプリント（テキスト、語彙集、文法一覧表付）を使用します。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	平常点50%、授業への参加度50%		

08年度以降	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱb)	担当者	古川 堅治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同 上		<ol style="list-style-type: none"> <li>『人さまざまだ』(テオフラストスの鋭い人間観察の妙)</li> <li>おべっか使い（その1）</li> <li>おべっか使い（その2）</li> <li>不平たらたらの人（その1）</li> <li>不平たらたらの人（その2）</li> <li>他人を信じられない人（その1）</li> <li>他人を信じられない人（その2）</li> <li>田舎もの（その1）</li> <li>田舎もの（その2）</li> <li>プラトン『ソクラテスの弁明』より</li> <li>プラトン『饗宴』より（その1）</li> <li>プラトン『饗宴』より（その2）</li> <li>アリストテレス『政治学』より</li> <li>ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より</li> <li>秋学期まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	同 上		
<b>テキスト</b>	同 上		
<b>参考文献</b>	同 上		
<b>評価方法</b>	同 上		

08年度以降	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳の仕事)	担当者	矢田 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、通訳・翻訳とは如何なるものなのかを学びながら、言葉の相違、文化の相違を超えて私達の言語コミュニケーションが真に可能なのかを考え、その対策を考えていく視点を養成することをゴールとします。</p> <p>文学、映画、演劇といった媒体資料を使い、英語と日本語間での翻訳ケースを比較しながら基礎的翻訳理論を学び、なぜ日本語に訳すとそのような形になるのかを、英語と日本語の間にある言語文化や考え方の違い踏まえて考察していきます。</p> <p>後半には、BBCニュースを訳し放送通訳の基礎力を、また最新米国映画の字幕を分析していきます。</p> <p>この授業では、英国・米国の映画や文学を扱うため、高い英語力を必要とします。英語が好きであることは最低条件ですが、TOEICのスコアが550点以上であることが望ましい。</p>		<p>Week 1 イントロダクション「翻訳とは？」</p> <p>Week 2～Week5「高慢と偏見 Pride and Prejudice」の翻訳比較分析と翻訳理論を学ぶ：意味の等価、翻案理論、機能的翻訳理論ほか。</p> <p>Week 6：シェークスピアの世界「ハムレット：翻訳比較分析（1）」</p> <p>Week7：シェークスピアの世界「ハムレット：翻訳比較分析(2)」</p> <p>Week 8～Week10：実践：BBCニュースやオバマ大統領演説（広島）の逐次通訳に挑戦。</p> <p>Week11～Week15「翻訳実践」米国映画「ドリーム」の字幕実践と原作「Hidden Figures」の翻訳に挑戦。</p>	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教員から次週の授業のための準備をと指示がある場合は必ずしてこること。		
テキスト	教員がプリントを配布		
参考文献	「翻訳学入門（みすず書房）」、「翻訳の原理（大修館書店）」「高慢と偏見（ちくま文庫）」		
評価方法	レポート提出(字幕翻訳実践等) (70%)、授業参加度 (30%)		

08年度以降	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳の仕事)	担当者	矢田 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。</p> <p>This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each topic will be introduced through imagery and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance.</p> <p>Course Objectives:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths</li> <li>To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged</li> <li>To learn and discuss the expression of these legends/tales /myths in the context of performance, ritual, and art</li> <li>To learn and discuss how this selection of legends/tales/ myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people</li> </ul>		<p>1 Introduction</p> <p>2~5 Animal/Creature Tales, Symbolism and Superstitions: Tiger, Monkey, Fox, Ox, Rooster, Crane, Hawk, etc.</p> <p>6~9 Otsu-e Folk Painting: <i>Oni no Nenbutsu</i> 鬼の念仏 (Praying Goblin), <i>Fuji Musume</i> 藤娘 (Wisteria Maiden), <i>Zatō</i> 座頭 (Blind Man), <i>Gehō no Hashigozori</i> 外法梯子剃 (Daikoku Shaving Fukurokuju), etc.</p> <p>10~13 <i>Yōkai</i> Illustrated: Key <i>Yōkai</i>-related Imagery, from the Medieval Period to the Present Day</p> <p>14 Class Excursion</p> <p>15 Review and Final Assessment</p>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.		
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).		

08年度以降	歴史と文化2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。</p> <p>This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each topic will be introduced through imagery and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance.</p> <p>Course Objectives:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths</li> <li>To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged</li> <li>To learn and discuss the expression of these legends/tales /myths in the context of performance, ritual, and art</li> <li>To learn and discuss how this selection of legends/tales/ myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people</li> </ul>		<p>1 Introduction: Tales of Possessed Women and Vengeful Female Ghosts - <i>Ikiryō</i> 生霊 and <i>Yūrei</i> 幽霊</p> <p>2~8 Female Ghost Tales and Associated Beliefs: <i>Ubume</i> 産女 (Child-bearing ghost), <i>Chi-no-ike jigoku</i> 血の池地獄 (Blood Pool Hell), <i>Yotsuya Kaidan</i> 四谷怪談 (The Yotsuya Ghost Story), <i>Sarayashiki</i> 皿屋敷 (Dish Mansion)</p> <p>9-13 Women Possessed: Legends from Noh - <i>Dōjōji</i> 道成寺 (Dōjōji Temple), <i>Kanawa</i> 鉄輪 (The Iron Crown), <i>Aoi-no-Ue</i> 葵上 (Lady Aoi)</p> <p>14 Class Excursion</p> <p>15 Review and Final Assessment</p>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.		
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).		

08年度以降	歴史と文化2 (Overview of Japanese History and Culture, Part I)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is an introductory course to Japanese history and culture, focusing on the years through to the Meiji Restoration of 1868: prehistoric and ancient Japan (to 538), classical Japan (538-1185), medieval Japan (1185-1600), Edo period (1660-1868).</p> <p>Students will be asked to read various scholarly and general writings, watch related documentaries, listen to lectures, and discuss them in class. The course will be conducted largely in English, so no advanced knowledge of Japanese is necessary.</p> <p>Assessment will be made according to the criteria below.</p> <p>There is the possibility of a field trip to Tokyo one weekend, either to a cultural venue (kabuki, bunraku or Noh), sports event (sumo or baseball), or festival.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Prehistoric and ancient Japan</li> <li>3. Prehistoric and ancient Japan</li> <li>4. Classical Japan</li> <li>5. Classical Japan</li> <li>6. Classical Japan</li> <li>7. Medieval Japan</li> <li>8. Medieval Japan</li> <li>9. Medieval Japan</li> <li>10. Medieval Japan</li> <li>11. Edo period</li> <li>12. Edo period</li> <li>13. Edo period</li> <li>14. Edo period</li> <li>15. Final overview</li> </ol> <p>(Course schedule tentative, can change at any time)</p>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト	Books, readings to be announced in class.		
参考文献			
評価方法	Class Participation (1/3), Short Essays (1/3), Final Report (1/3) Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

08年度以降	歴史と文化2 (Overview of Japanese History and Culture, Part II)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is an introductory course to Japanese history and culture, focusing on the years following the Meiji Restoration of 1868: Meiji period (1868-1912), Taisho period (1912-26), Showa period (1912-89), Heisei period (1989-present).</p> <p>Students will be asked to read various scholarly and general writings, watch related documentaries, listen to lectures, and discuss them in class. The course will be conducted largely in English, so no advanced knowledge of Japanese is necessary.</p> <p>Assessment will be made according to the criteria below.</p> <p>There is the possibility of a field trip to Tokyo one weekend, either to a cultural venue (kabuki, bunraku or Noh), sports event (sumo or baseball), or festival.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Meiji period</li> <li>3. Meiji period</li> <li>4. Meiji period</li> <li>5. Meiji period</li> <li>6. Taisho period</li> <li>7. Taisho period</li> <li>8. Showa period</li> <li>9. Showa period</li> <li>10. Showa period</li> <li>11. Showa period</li> <li>12. Heisei period</li> <li>13. Heisei period</li> <li>14. Heisei period</li> <li>15. Final overview</li> </ol> <p>(Course schedule tentative, can change at any time)</p>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト	Books, readings to be announced in class		
参考文献			
評価方法	Class Participation (1/3), Short Essays (1/3), Final Report (1/3) Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化2(日本文化研究 a)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：民俗芸能を通して、日本の民衆生活の基盤に潜む概念や価値観・世界観を認識し、理解する。</p> <p>講義概要：日本の民俗芸能は世界にもまれに見る多様さと濃厚さで民衆生活と結びつき、いまだに多数残存している。いわゆる先進国としては唯一と言って良い。</p> <p>そこにははっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義する。</p> <p>具体的には「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料も用いて、概念や価値観・世界観の実際がどう機能しているかに留意する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・導入</li> <li>2. 日本文化と「見えないもの」、境界領域の存在</li> <li>3. 神の来訪と芸能①…春日若宮の「おん祭」</li> <li>4. 神の来訪と芸能②…八重山の祭と芸能</li> <li>5. 異人の出現と芸能①…「異人」と日本全国の祭・芸能</li> <li>6. 異人の出現と芸能②…異類の代表、獅子</li> <li>7. 異人の出現と芸能③…岩手県の鹿踊</li> <li>8. 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植</li> <li>9. 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り</li> <li>10. 稲作の習俗と芸能③…能登の「アエノコト</li> <li>11. 年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？</li> <li>12. 年齢階梯と芸能②…福島県の若衆組と成人儀礼</li> <li>13. 境界領域の時空①…異人の出現する領域と年齢階梯</li> <li>14. 境界領域の時空②…日常とは別の時間・空間・社会</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：特に必要はない。授業の内容（特に映像）に集中すること。 事後学修：授業の内容に沿った課題の提出を求める。		
テキスト	特に使わない。		
参考文献	授業中に適宜示す。		
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績 50%。課題の提出 50%。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化2(日本文化研究 d)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：日本文化全般に潜む「境界領域」の問題を、様々な視点から考える。</p> <p>講義概要：概説では、耳慣れない概念であろう「境界領域」の存在を明らかにしていく。</p> <p>第4回以降は「祭り」「物語」「歌謡」等の表現分野において「境界領域観」が、どのように発揮されているか、諸相を見ていく。そして、境界領域の認識が作り上げる世間（人間関係）観・世界観と周辺諸国の文化のそれとの違いを明確にしていく。</p> <p>文化とは目に見える物の世界だけではなく、目に見えない価値観・世界観・振る舞いまで含むのである。人との関わりの中で、どこにどのように目に見えない「境界線」を引いて、どのように物事を考えているのか、ということまでも明らかにしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・導入</li> <li>2. 概説①（境界領域とは何か？）</li> <li>3. 概説②（国境・境界・境界領域）</li> <li>4. 祭りと境界領域①</li> <li>5. 祭りと境界領域②</li> <li>6. 祭りと境界領域③</li> <li>7. 「異界」「異人」と境界領域①</li> <li>8. 「異界」「異人」と境界領域②</li> <li>9. 物語と境界領域①</li> <li>10. 物語と境界領域②</li> <li>11. 歌謡と境界領域①</li> <li>12. 歌謡と境界領域②</li> <li>13. 「世界」「世間」の構造と境界領域①</li> <li>14. 「世界」「世間」の構造と境界領域②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：参考文献の該当部分を読んでくること。事後学修：身近に潜む「境界領域」を考えること。		
テキスト	授業中に適宜示す		
参考文献	授業中に適宜示す		
評価方法	授業期間中数回課す予定の課題（50%）とレポートまたは試験の成果（50%）による。		

08年度以降	歴史と文化2(ドイツ語圏の歴史・文化史散策 a)	担当者	渡部 重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 右記の通り、ドイツ語圏の歴史に関する一般的な時代区分に沿って、18世紀末頃までの歴史や文化を概観することを目的とします この授業が、ドイツ語圏の歴史・文化に対するみなさんのさらなる興味を喚起できれば幸いです。</p> <p>講義概要： 若干のwarming upの後、右記の通り3つの時代の歴史と文化について、それぞれ①講師による講義→②参加学生による調査・研究(グループ単位で)→③発表(1グループあたり10分程度)という形で、4回の授業を1セットとして授業を進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業の進め方について、グループ分けなど</li> <li>2. warming up～中世の宮廷文化～</li> <li>3. warming up～中世の宮廷文化～</li> <li>4. 宗教改革の時代①講義</li> <li>5. 同上②調査・研究</li> <li>6. 同上②調査・研究</li> <li>7. 同上③発表</li> <li>8. バロックの時代①講義</li> <li>9. 同上②調査・研究</li> <li>10. 同上②調査・研究</li> <li>11. 同上③発表</li> <li>12. 啓蒙の時代①講義</li> <li>13. 同上②調査・研究</li> <li>14. 同上②調査・研究</li> <li>15. 同上③発表</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツの歴史を概観しておくといいいでしょう。 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ―ドイツ的とはなにか―』中公新書		
<b>テキスト</b>	必要に応じて、その都度指示します。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて、その都度指示します。		
<b>評価方法</b>	普段の授業における調査・研究および発表に積極的に参加していたかどうかで60パーセント、学期末レポートで40パーセント		

08年度以降	歴史と文化2(ドイツ語圏の歴史・文化史散策 b)	担当者	渡部 重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 右記の通り、ドイツ語圏の歴史に関する一般的な時代区分に沿って、18世紀以降20世紀前半までの歴史や文化を概観することを目的とします この授業が、ドイツ語圏の歴史・文化に対するみなさんのさらなる興味を喚起できれば幸いです。</p> <p>講義概要： 若干のwarming upの後、右記の通り3つの時代の歴史と文化について、それぞれ①講師による講義→②参加学生による調査・研究(グループ単位で)→③発表(1グループあたり10分程度)という形で、4回の授業を1セットとして授業を進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業の進め方について、グループ分けなど</li> <li>2. warming up～ゲーテの時代～</li> <li>3. warming up～ゲーテの時代～</li> <li>4. フランス革命の時代①講義</li> <li>5. 同上②調査・研究</li> <li>6. 同上②調査・研究</li> <li>7. 同上③発表</li> <li>8. 世紀末の文化を中心に①講義</li> <li>9. 同上②調査・研究</li> <li>10. 同上②調査・研究</li> <li>11. 同上③発表</li> <li>12. ナチズムの時代①講義</li> <li>13. 同上②調査・研究</li> <li>14. 同上②調査・研究</li> <li>15. 同上③発表</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツの歴史を概観しておくといいいでしょう。 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ―ドイツ的とはなにか―』中公新書		
<b>テキスト</b>	必要に応じて、その都度指示します。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて、その都度指示します。		
<b>評価方法</b>	普段の授業における調査・研究および発表に積極的に参加していたかどうかで60パーセント、学期末レポートで40パーセント		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化2(日本文化研究 b)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>和本リテラシー—写本から版本へ—</b>  わが国における文学研究は「訓む」「写す」「使う」「解く」のおよそ4つのキーワードによってその歴史を紡いできました。「和本リテラシー」とは、「和本」に特化した理解力を示しています。 本講義では、現存最古の歌集である『万葉集』をテーマに取り上げ、この作品を各時代の人々がどのように訓み、写し、使い、解いてきたかを文化史的に理解することを講義の目的とします。また、実際に和本に触れたり、これを作ってみたりもします。		1 ガイダンス—『万葉集』あれこれ— 2 訓む—梨壺の五人の奮闘— 3 訓む—道長も訓んだ『万葉集』— 4 写す—『万葉集』の写本あれこれ— 5 使う—藤原敦隆の試み— 6 使う—歌聖の創始・「人麿影供」— 7 使う—印刷の歴史— 8 解く—北村季吟『万葉拾穂抄』— 9 解く—契沖『万葉代匠記』— 10 解く—賀茂真淵『万葉考』— 11 解く—本居宣長『万葉集玉の小琴』— 12 解く—鹿持雅澄『万葉集古義』— 13 和本を作る—その1— 14 和本を作る—その2— 15 まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。		
テキスト	城崎陽子『万葉集を訓んだ人々—「万葉文化学」のこころみ—』2010年、新典社。		
参考文献	参考文献は授業時間内に紹介します。		
評価方法	試験70%、課題も含めた授業への参加度30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化2(日韓比較文化論 a)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑 (김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。</p> <p>●参加型授業による人数制限をする。(50名まで)</p> <p>◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓比較文化概説 ガイダンス</li> <li>2. 韓日の建国神話</li> <li>3. 韓日の国土構造</li> <li>4. 韓日の村落</li> <li>5. 韓日の産育習俗</li> <li>6. 韓日の歳時風俗</li> <li>7. 韓日の冠婚葬祭</li> <li>8. 韓日の宗教(民俗信仰)</li> <li>9. 韓日の家族</li> <li>10. 韓日の食文化</li> <li>11. 韓日の食事の作法</li> <li>12. 韓日の住生活</li> <li>13. 韓日の服飾</li> <li>14. 韓国人と日本人のコミュニケーションの取り方</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	文化比較を行う意味は何か		
テキスト	適宜プリントを配布する。		
参考文献	参考文献：講義においてその都度紹介する。		
評価方法	課題レポート(講義内容から一つのテーマを選ぶ)70%、授業への参加度30%(グループディスカッション、毎回提出するコメントペーパー等)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化2(楽典(中級))	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「歴史と文化2(楽典(音楽通論)—楽譜を読み・書くために」単位取得済みの方、および同等の学習を済ませている方(初回授業時に必ずレベルチェックテストを受けてください)を対象に、楽しみながら楽譜を読んだり書いたりする授業にしたいと思います。</p> <p>初級では扱えなかった和音連結や楽式(音楽の形式)についても説明しますが、自分で短い曲や伴奏を書いたりする実践的な授業にしたいと考えています。各回の授業は、前の回までの授業内容を前提に進めますので、毎回必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は、欠席回の内容を次の回までに自習しておいてください。以上のような内容に本当に興味のある方の積極的な受講を期待します。</p> <p>*人数に対して教室が大きいので、教室の前半分に座ってください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、レベルチェックテスト</li> <li>*レベルチェックテストを初回授業中に受けられない方は、必ず事前に授業担当者にメール連絡して相談してください。</li> <li>2. 和声について、非和声音、四声体、上三声配置など</li> <li>3. 基本形による和声進行</li> <li>4. 第一転回形を用いた和声進行</li> <li>5. 第二転回形を用いた和声進行</li> <li>6. ソプラノ課題、進行のおさらい</li> <li>7. 伴奏づけの基本</li> <li>8. 伴奏づけの発展</li> <li>9. 二部形式</li> <li>10. 三部形式</li> <li>11. 変奏曲形式、変奏主題</li> <li>12. 変奏曲</li> <li>13. 作品制作</li> <li>14. 作品発表会(自分で演奏するか演奏者を同伴すること)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、課題を出します。授業の復習をかねて取り組んでください。		
テキスト	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』の内容を理解していることを前提にします。五線ノート持参。		
参考文献	柳田孝義『名曲で学ぶ和声法』ほか		
評価方法	課題・平常点 50%、作品発表 50%		

08年度以降	歴史と文化2(楽典(音楽通論)—楽譜を読み・書くために)	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>多くの実習を行い、楽譜の読み方・書き方の基本を学んでいきます。音楽を学びたい人のみならず、音楽を聴くのが好きな人や耳の感覚に注意を向けてみたい人などにも参加してもらいたいと考えています。</p> <p>具体的には、『改訂 音楽通論』(教育芸術社)を教材として、音の長さ、音の高さ、記号、音程、音階などについて学びます。短い楽譜を見て歌ったり、リズム打ちをしたり、書きとりをしたりすることもあります。各回の授業は前の回までの授業内容を前提に進めますので、よく復習して、内容を理解してください。また、やむを得ず欠席する場合は、欠席回の内容を次の回までに自習しておいてください。</p> <p>人数に対して教室が大きいので、前半分の席に座ってください。毎回宿題を出します。本気で楽譜に親しみたいと考えている方、積極的に参加できる方の受講を期待しています。</p> <p>*春学期・秋学期はほぼ同一内容で行います(重複履修不可)。楽典を勉強したことのある方は、「歴史と文化2(楽典(中級))」のシラバスもご覧ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、レヴェルチェック</li> <li>2. 音の長さ(各種の音符) *教科書を持参</li> <li>3. 音の長さ(連符、拍子など)</li> <li>4. 音の高さ(譜表、音名、変化記号など)</li> <li>5. 音の高さ(楽譜の書き方など)</li> <li>6. 記号</li> <li>7. 音程(度数)</li> <li>8. 音程(幹音間の音程)</li> <li>9. 音程(派生音を含む音程など)</li> <li>10. 音階(長音階)</li> <li>11. 音階(短音階)</li> <li>12. 和音とは</li> <li>13. 和音連結入門</li> <li>14. 復習</li> <li>15. まとめ・授業内試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業の復習。毎回、宿題を出しますので、復習をかねて解き、次の回の授業で提出してください。		
<b>テキスト</b>	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社、2009年(本体934円)を購入すること。五線ノート持参。		
<b>参考文献</b>	必要に応じ、授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	平常点(宿題含む)50%、試験50%。全授業回数数の3分の2以上の出席が評価の前提です。		

08年度以降	歴史と文化2(楽典(音楽通論)—楽譜を読み・書くために)	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>多くの実習を行い、楽譜の読み方・書き方の基本を学んでいきます。音楽を学びたい人のみならず、音楽を聴くのが好きな人や耳の感覚に注意を向けてみたい人などにも参加してもらいたいと考えています。</p> <p>具体的には、『改訂 音楽通論』(教育芸術社)を教材として、音の長さ、音の高さ、記号、音程、音階などについて学びます。短い楽譜を見て歌ったり、リズム打ちをしたり、書きとりをしたりすることもあります。各回の授業は前の回までの授業内容を前提に進めますので、よく復習して、内容を理解してください。また、やむを得ず欠席する場合は、欠席回の内容を次の回までに自習しておいてください。</p> <p>人数に対して教室が大きいので、前半分の席に座ってください。毎回宿題を出します。本気で楽譜に親しみたいと考えている方、積極的に参加できる方の受講を期待しています。</p> <p>*春学期・秋学期はほぼ同一内容で行います(重複履修不可)。楽典を勉強したことのある方は、「歴史と文化2(楽典(中級))」のシラバスもご覧ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、レヴェルチェック</li> <li>2. 音の長さ(各種の音符) *教科書を持参</li> <li>3. 音の長さ(連符、拍子など)</li> <li>4. 音の高さ(譜表、音名、変化記号など)</li> <li>5. 音の高さ(楽譜の書き方など)</li> <li>6. 記号</li> <li>7. 音程(度数)</li> <li>8. 音程(幹音間の音程)</li> <li>9. 音程(派生音を含む音程など)</li> <li>10. 音階(長音階)</li> <li>11. 音階(短音階)</li> <li>12. 和音</li> <li>13. 復習</li> <li>14. まとめ・授業内試験</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業の復習。毎回、宿題を出しますので、復習をかねて解き、次の回の授業で提出してください。		
<b>テキスト</b>	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社、2009年(本体934円)を購入すること。五線ノート持参。		
<b>参考文献</b>	必要に応じ、授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	平常点(宿題含む)50%、試験50%。全授業回数数の3分の2以上の出席が評価の前提です。		

08年度以降	歴史と文化2(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、スペインとその旧植民地ラテンアメリカのパフォーミングアーツ(音楽・ダンス・演劇)および映像ほか視聴覚メディアを扱います。欧米や日本の事情と比較することで、背景となる社会や時代の諸相を考察します。</p> <p>この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから、まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混雑がキーワードとなるため、まず個別の構成要素を検討します。グローバルなポピュラー音楽市場に影響を与えたキューバの事例中心です。次にジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルに目を向け、ドキュメンタリーを観ながら、クラブカルチャーの源流を探ります。随時、ローカルな民俗芸能が国民文化として戦略的に広報される経緯を追います。芸術はサブカルチャーから流行に至る場合が多い。映画の動向やガウディの商標化も取りあげます。ルーツとは何か。学問的に論じましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. VTRを交えたイントロダクション</li> <li>2. カリブ海地域における混血主義とシンクレティズム</li> <li>3. スペイン系弦楽器にみる口頭メディア的な弾き語り</li> <li>4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&amp;レスポンス</li> <li>5. フォルクローレ(民俗)をめぐる身体技法とグローカル化</li> <li>6. メインストリームと対象化(オブジェクティブフィケーション)</li> <li>7. 映画の媒介: ICAICからエリセやアルモドールまで</li> <li>8. 世界を席卷するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化</li> <li>9. マス対象の文化産業とサルサほか移民の市場細分化</li> <li>10. 黒塗りとブラックアトランティック: ラップ・レゲトン....</li> <li>11. カット&amp;ミックス: ジャマイカ発のスカ・レゲエ・ダブ...</li> <li>12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリヤや農民の祝宴</li> <li>13. 日本の「大衆演劇」、創られた「ラテン歌謡」やJポップ</li> <li>14. 国際的なマーケットでブランド化された建築家ガウディ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	講義が軸となるため、特に事前学修は必要ないが、関心を抱いたジャンルや実践者については、事後に自分でPVほかのコンテンツを検索するなどして、最終レポートの下準備につなげること。		
<b>テキスト</b>	適宜プリント配布し、参考書を紹介するが、地域文化的な各論に関しては以下をあげる。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版、2010、978-4490206678)		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績および聴講姿勢(35%)と期末レポート(65%)		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	歴史と文化2(韓国の宗教)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くある。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっている。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とする。</p> <p>講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。</p> <p>なお不定期にレポートを課す場合がある。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：韓国宗教の構造</p> <p>第3回：民間信仰</p> <p>第4回：葬儀と墓地</p> <p>第5回：仏教(1) 仏教略史</p> <p>第6回：仏教(2) 韓国史の中での仏教</p> <p>第7回：仏教(3) 現代韓国の中の仏教</p> <p>第8回：儒教(1) 儒教略史</p> <p>第9回：儒教(2) 韓国史の中の儒教</p> <p>第10回：儒教(3) 現代韓国の中の儒教</p> <p>第11回：キリスト教(1) キリスト教略史</p> <p>第12回：キリスト教(2) 韓国史の中でのキリスト教</p> <p>第13回：キリスト教(3) 現代韓国のキリスト教</p> <p>第14回：現代韓国と宗教</p> <p>第15回：まとめ</p>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：プリントを読んでくること。事後学修：小テストに備え、プリントを見直すこと。		
テキスト	プリントを使用		
参考文献	授業中に指示		
評価方法	授業冒頭に行う小テスト(30%)、小レポート(20%)、期末試験(50%)。※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。		

08年度以降	歴史と文化2(イタリアの音楽史)	担当者	園田 みどり
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと導入</li> <li>2. 古代ギリシアの音楽と西洋音楽</li> <li>3. グレゴリオ聖歌</li> <li>4. グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展</li> <li>5. 「イタリア音楽」の誕生</li> <li>6. メディチ家の芸術後援活動</li> <li>7. 宗教改革と音楽</li> <li>8. バロック音楽の誕生</li> <li>9. ヴァイオリンの誕生と器楽の発展</li> <li>10. ヴィヴァルディとヴェネツィア</li> <li>11. パガニーニと超絶技巧</li> <li>12. ヴェルディとイタリア国家統一運動</li> <li>13. レスピーギと古楽復興運動</li> <li>14. イタリア映画と音楽</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>	藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』(中公新書 1045)		
<b>評価方法</b>	授業内に複数回行う小テスト(持ち込み不可)の結果によって評価する(100%)。小テストの時期は授業中に指示する。		

08年度以降	歴史と文化2(イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
イタリアの声楽曲の歴史をオペラに焦点を絞って概観する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜</li> <li>2. オペラ誕生の経緯</li> <li>3. フィレンツェにおける初期の試み</li> <li>4. バロック・オペラの台本</li> <li>5. バロック・オペラの音楽的特徴:カストラートの魅力</li> <li>6. オペラ・セリアとオペラ・ブッフア</li> <li>7. バロック・オペラと劇場</li> <li>8. ロッシーニの世界</li> <li>9. ベッリーニ</li> <li>10. ドニゼッティ</li> <li>11. ヴェルディ</li> <li>12. フランス・オペラとイタリア・オペラ</li> <li>13. ヴェリズモ・オペラの誕生</li> <li>14. プッチーニ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業内に行う小テスト(持ち込み不可)(50%)、および授業終了時に提出してもらう「まとめ」(50%)を集計して評価する。小テストの時期は授業中に指示する。		

08年度以降	歴史と文化2(詩と音楽2)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ギリシア神話におけるオルペウスの物語は、何人もの作曲家によってさまざまな時代にオペラ化されており、音楽の世界において最も馴染み深い題材の1つである。本講義では、ギリシア神話および西洋古典文学におけるオルペウス像を概観したのち、この神話がどのように音楽史とかわりを持ち、オペラ化されるようになったのか、またこれらの作品の中でオルペウスの物語がどのように描かれているのかを、実際に作品を鑑賞しながら観察する。なお、オペラ以外の作品(映画)も適宜取り上げて比較・考察する。</p> <p>なお、本講義は「詩と音楽2」であるので、昨年度までに「詩と音楽1」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽5」「詩と音楽6」の単位を取得した学生も履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスと導入</li> <li>2 オルペウスとアルゴ号伝説</li> <li>3 西洋古典文学とオルペウス</li> <li>4 初期のオペラとオルペウス</li> <li>5 モンテヴェルディ『オルフェオ』(オペラ) 前半</li> <li>6 モンテヴェルディ『オルフェオ』(オペラ) 後半</li> <li>7 グルック『オルフェオとエウリディーチェ』(オペラ) 前半</li> <li>8 グルック『オルフェオとエウリディーチェ』(オペラ) 後半</li> <li>9 オッフェンバック『地獄のオルフェ』(オペレッタ) 前半</li> <li>10 オッフェンバック『地獄のオルフェ』(オペレッタ) 後半</li> <li>11 コクトー『オルフェ』(映画) 前半</li> <li>12 コクトー『オルフェ』(映画) 後半</li> <li>13 マルセル・カミュ『黒いオルフェ』(映画) 前半</li> <li>14 マルセル・カミュ『黒いオルフェ』(映画) 後半</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で鑑賞する映像ソフトには、本学図書館でも利用可能なものがあるので、それらも積極的に活用することが望ましい。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	授業中に紹介する。		
評価方法	期末レポート(50点満点)の他、授業終了時に提出してもらう「まとめ」(各5点)を集計して評価する。		

08年度以降	歴史と文化2(詩と音楽6)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ジュゼッペ・ヴェルディ(1813~1901)のオペラ《トラヴィアータ》(1853)は、アレクサンドル・デュマ・フィスが処女作として発表した小説『椿姫』(1848)を、作家本人が舞台化した戯曲『椿姫』(1852初演)に基づいて制作されたものである。</p> <p>授業では、まずオペラ《トラヴィアータ》を注意深く鑑賞した上で、オペラ台本と戯曲『椿姫』との比較を試みる。また、小説および戯曲『椿姫』の中で重要な役割を果たすアベ・プレヴォの小説『マノン・レスコー』についても学ぶ。</p> <p>なおオペラとは直接関係ないが、小説『椿姫』は、20世紀にノイマイヤーという振付師がクラシック・バレエに翻案している。授業ではそれも鑑賞し、『椿姫』の物語の広がりを確認したい。</p> <p>なお、本講義は「詩と音楽6」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽5」「詩と音楽7」の単位を取得した学生も履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと導入</li> <li>2. 《トラヴィアータ》第1幕の聞きどころ</li> <li>3. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第1幕の違い</li> <li>4. 《トラヴィアータ》第2幕前半の聞きどころ</li> <li>5. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第2幕前半の違い</li> <li>6. 《トラヴィアータ》第2幕後半の聞きどころ</li> <li>7. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第2幕後半の違い</li> <li>8. 《トラヴィアータ》第3幕の聞きどころ</li> <li>9. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第3幕の違い</li> <li>10. 『椿姫』とアベ・プレヴォ『マノン・レスコー』(前半)</li> <li>11. 『椿姫』とアベ・プレヴォ『マノン・レスコー』(後半)</li> <li>12. 小説『椿姫』との比較/バレエ『椿姫』(前半)</li> <li>13. バレエ『椿姫』(後半)</li> <li>14. 《トラヴィアータ》: 作曲の舞台裏と「色合い」</li> <li>15. 《トラヴィアータ》: 1853年稿と1854年稿</li> </ol>	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2回目の授業時に《トラヴィアータ》のオペラ台本の翻訳を配布するので、あらかじめよく読んだうえで授業に臨むこと。小説『椿姫』についても、できるだけ早い段階で読了するように心がけること。		
テキスト	デュマ・フィスの小説『椿姫』は必ず購入すること。戯曲『椿姫』とオペラ台本は、プリントを配布する。		
参考文献	授業中に紹介する。		
評価方法	学期途中に課すレポート(50点満点)の他、授業終了時に提出してもらう「まとめ」(各5点)を集計して評価する。		

08年度以降	歴史と文化2（近代世界システム論）	担当者	野澤 丈二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 イマニュエル・ウォーラーステインが提唱した「近代世界システム」論を足がかりとして、今日にいたる世界の一体化の歴史を、主に経済史的な観点から検討する。</p> <p>【講義概要】 人、モノ、金の動きは国民国家の枠を越えてますます世界を巡っている。そして世界のほとんどの地域は、資本主義を原理とした経済で動いている。この授業では、現代のグローバルな世界経済システムについて、その歴史的な形成過程をさまざまな角度から検討する。そのうえで、現代の社会が直面する地球規模の課題（環境、格差、移民など）についても考えていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 「近代世界システム」論とは？</li> <li>3. なぜヨーロッパだったのか？</li> <li>4. ポルトガルのアジア圏への進出</li> <li>5. スペインの興隆と衰退</li> <li>6. なぜ中国ではなかったのか？</li> <li>7. 最初のヘゲモニー国家、オランダ</li> <li>8. イギリスとフランスの抗争</li> <li>9. 西ヨーロッパにおける日常生活の変化</li> <li>10. 近代世界システムと奴隷制</li> <li>11. 近代世界システムとアジア</li> <li>12. 近代世界システムと日本</li> <li>13. アメリカのヘゲモニー</li> <li>14. 「成長パラノイア」</li> <li>15. 試験とまとめ</li> </ol> <p>*授業内容や順番は、一部変更になる可能性もあります。</p>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	高校世界史Bの教科書のうち16-19世紀のヨーロッパに関する箇所を読んでおくことが望ましい。		
<b>テキスト</b>	川北稔『世界システム論講義 ヨーロッパと近代世界』（筑摩書房 2016）		
<b>参考文献</b>	イマニュエル・ウォーラーステイン『近代世界システム』1-3（名古屋大学出版会 2013）		
<b>評価方法</b>	平常点（授業内課題、リアクション・ペーパー）と期末試験の結果で総合的に判断し、評価する。		

08年度以降	歴史と文化2（食の歴史と文化）	担当者	野澤 丈二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 食は食べることはあまりにも日常的な行為であるがゆえに、その重要性はしばしば見落とされがちです。この授業では、15世紀以降のヨーロッパ、とりわけフランスを中心として、食という切り口から歴史や文化について考えていきます。食は特定の時代や地域の社会を理解するための格好の方法であることを学びます。</p> <p>【講義概要】 フランスのアナール学派が開拓した「食の歴史学」をひとつの手がかりとして、人文社会系のさまざまな分野（社会学、文化人類学、民俗学、経済学、地理学、言語学、哲学など）で領域横断的に広く扱われている食についても考えていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 歴史学における食</li> <li>3. 中世ヨーロッパにおける食</li> <li>4. コロンブスの交換</li> <li>5. 食のグローバル化</li> <li>6. 他者の眼差し</li> <li>7. 料理と国民の形成</li> <li>8. フランスとイギリスの比較</li> <li>9. レストランと美食の大衆化</li> <li>10. 食と観光</li> <li>11. 戦争と食</li> <li>12. 料理とメディア</li> <li>13. 食の無形文化遺産</li> <li>14. 近年の研究動向</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>*授業内容や順番は、一部変更になる可能性もあります。</p>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	高校世界史の教科書などに目を通し、大雑把な時代背景を踏まえておくことが望ましい。		
<b>テキスト</b>	教科書は特に定めない。各回のテーマについての関連図書は、授業中に適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>	J-L.フランドラン、M.モンタナーリ編『食の歴史』（藤原書店、2006年）全3巻		
<b>評価方法</b>	平常点（積極的な参加、授業内課題、リアクション・ペーパー）と期末レポートで総合的に評価する。		

08年度以降	歴史と文化2(日本事情1)	担当者	堀川 徹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的に捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができます。こうした研究状況をふまえ、古代・中世に焦点をあて、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきます。</p> <p>極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め承しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の導入—学問としての歴史学(1)特徴</li> <li>2. 学問としての歴史学(2)目的</li> <li>3. 学問としての歴史学(3)対象と事実</li> <li>4. 卑弥呼と邪馬台国</li> <li>5. 倭の五王の時代</li> <li>6. 大化改新</li> <li>7. 天智天皇と天武天皇</li> <li>8. 平城京の時代</li> <li>9. 帰化人・渡来人と地域社会</li> <li>10. 平安京の時代と院政</li> <li>11. 源平の争乱と鎌倉幕府</li> <li>12. 鎌倉幕府と蒙古襲来</li> <li>13. 室町幕府の成立</li> <li>14. 室町幕府の衰退と戦国大名</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に配布資料などに目を通し日本史の基礎的知識を補って講義に臨んでください。事後学習として参考文献を読み、講義内容を整理してください。		
<b>テキスト</b>	使用しません。毎回プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	参考文献は講義のなかで紹介いたします。高等学校の日本史の教科書や概説書があれば参考になります。		
<b>評価方法</b>	レポート100% なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。		

08年度以降	歴史と文化2(日本事情2)	担当者	堀川 徹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本史Ⅰに続くこの講義では、近世から近現代を素材とします。その際、対外関係に重点をおいて考察しますが、その前提となる政治や社会経済についても触れることになります。この講義を通じて、近世社会を経て近・現代日本における国民国家形成の過程とその展開について考えていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 織豊政権と江戸幕府の成立</li> <li>3. 江戸時代初期の政治と外交</li> <li>4. 幕藩社会とその構造</li> <li>5. 幕政の安定と経済の発展</li> <li>6. 幕政の改革</li> <li>7. 幕府の衰退と近代化への道</li> <li>8. 開国と幕末の動乱</li> <li>9. 明治維新と富国強兵</li> <li>10. 立憲国家の成立</li> <li>11. 日清・日露戦争と国際関係</li> <li>12. ワシントン体制と軍部の台頭</li> <li>13. 第2次世界大戦</li> <li>14. 冷戦と講和</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に配布資料などに目を通し日本史の基礎的知識を補って講義に臨んでください。事後学習として参考文献を読み、講義内容を整理してください。		
<b>テキスト</b>	使用しません。毎回プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	参考文献は講義のなかで紹介いたします。高等学校の日本史の教科書や概説書があれば参考になります。		
<b>評価方法</b>	レポート100% なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会 2(Future Skills Program)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般社団法人Future Skills Project研究会の指針に基づいたProject Based Learningの授業を行う。チームで課題を解決することによって、論理的思考力とコミュニケーション力を養成することが目的である。</p> <p>具体的には、大学外の企業または団体から「上司」となるべき講師を迎え、企業（団体）活動としての現実の課題を提示してもらう。履修者は授業内でグループを作り、その課題に対する解決策や企画案を発表する。「上司」はそれを社会人視点で厳しく指導し、修正と再度の発表を求める。こうした活動が2セット繰り返される。</p> <p>これによって履修者には、学生の思考や行動と社会人としての思考や行動との差を認識し、4年間の大学生活での学修についての目的意識や主体性、および今後の授業選択の意味付けが獲得できるようになるということが期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マインドセット</li> <li>2. 課題とは？ディスカッションとは？</li> <li>3. 1番目の企業／団体からの課題提示</li> <li>4. グループ活動</li> <li>5. 中間プレゼンテーション</li> <li>6. グループ活動</li> <li>7. 最終プレゼンテーション・評価</li> <li>8. 振り返り・スキル学習の紹介・チーム再編</li> <li>9. 2番目の企業／団体からの課題提示</li> <li>10. グループ活動</li> <li>11. 中間プレゼンテーション</li> <li>12. グループ活動</li> <li>13. 最終プレゼンテーション・評価</li> <li>14. 振り返り・スキル学習の紹介</li> <li>15. まとめ、大学での学修の意味</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前事後：要求される2つの課題に対する準備と反省、5週間を目途とする課題ごとに約20～30時間		
テキスト	<i>Project Support Notebook</i> (¥1,543)		
参考文献	授業内で指示する		
評価方法	プレゼンへの評価 (50%)、活動参加への積極性 (20%)、最終報告書 (30%)		

08年度以降	現代社会2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、日頃見聞きするドイツ語圏の事柄について、それぞれの参加者が関心を持つ領域を中心に、様々な文献資料、データに当たって、より深く、アクチュアルな姿を探ります。</p> <p>これらを実践することを通じて、日本の状況をも比較対照するなど、複眼的なものを見方を身につけ、調査・分析・検証・発表する力を養うことを目的とします。</p> <p>その際、グループ形式での調査、検討の共同作業、全体発表、ディスカッションを経て、その分野の総括・今後の展望をすることができることが重要です。</p> <p>春学期は主として文化的テーマ(芸術・言語文化・日常・伝統・風習など)を中心に進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要の目的。グループ形成</li> <li>2. グループ内討論・ブレインストーミング・文献調査法</li> <li>3. 各グループの発表の趣旨と目標を提示。質疑応答。</li> <li>4. グループ発表 1 ディスカッション</li> <li>5. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>6. グループ発表 2 ディスカッション</li> <li>7. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>8. グループ発表 3 ディスカッション</li> <li>9. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>10. グループ発表 4 ディスカッション</li> <li>11. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>12. グループ発表 5 ディスカッション</li> <li>13. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>14. 「これがドイツ語圏だ！」プレゼンテーション</li> <li>15. 総括・今後の展望</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	発表に向けてのグループ内での検討・準備を十分に行い、発表後にきちんとした検証をすること。		
<b>テキスト</b>	特に指定しませんが、適宜指示します。		
<b>参考文献</b>	授業内で指示します。		
<b>評価方法</b>	平常授業における発表の充実度(70%)と、ディスカッション等授業への参加度(30%)。		

08年度以降	現代社会2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、日頃見聞きするドイツ語圏の事柄について、それぞれの参加者が関心を持つ領域を中心に、様々な文献資料、データに当たって、より深く、アクチュアルな姿を探ります。</p> <p>これらを実践することを通じて、日本の状況をも比較対照するなど、複眼的なものを見方を身につけ、調査・分析・検証・発表する力を養うことを目的とします。</p> <p>その際、グループ形式での調査、検討の共同作業、全体発表、ディスカッションを経て、その分野の総括・今後の展望をすることができることが重要です。</p> <p>秋学期は主として社会的なテーマ(政治・経済・歴史・環境・技術など)を中心に進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要の目的。グループ形成</li> <li>2. グループ内討論・ブレインストーミング・文献調査法</li> <li>3. 各グループの発表の趣旨と目標を提示。質疑応答。</li> <li>4. グループ発表 1 ディスカッション</li> <li>5. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>6. グループ発表 2 ディスカッション</li> <li>7. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>8. グループ発表 3 ディスカッション</li> <li>9. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>10. グループ発表 4 ディスカッション</li> <li>11. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>12. グループ発表 5 ディスカッション</li> <li>13. 検証(問題点の整理・提案・展望)</li> <li>14. 「これがドイツ語圏だ！」プレゼンテーション</li> <li>15. 総括・今後の展望</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	発表に向けてのグループ内での検討・準備を十分に行い、発表後にきちんとした検証をすること。		
<b>テキスト</b>	特に指定しませんが、適宜指示します。		
<b>参考文献</b>	授業内で指示します。		
<b>評価方法</b>	平常授業における発表の充実度(70%)と、ディスカッション等授業への参加度(30%)。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会2(韓国研究情報収集法)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3-4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。</p> <p>研究テーマ→政治、経済、宗教、教育、文学、言語、歴史問題、大衆文化(マンガ、マナー、恋愛事情、就職、お風呂、マスメディア、トイレ文化等)自由に選択</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 研究課題の設定方法</li> <li>3. 体系的な情報収集方法</li> <li>4. 情報収集の手順</li> <li>5. 情報を精選する方法</li> <li>6. 資料収集方法</li> <li>7. 現地調査の方法</li> <li>8. 研究成果のまとめ方</li> <li>9. プレゼンテーションの方法</li> <li>10. 研究発表①</li> <li>11. 研究発表②</li> <li>12. 研究発表③</li> <li>13. 研究発表④</li> <li>14. 研究発表⑤</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>注意:「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。</p>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	研究テーマを決め発表するまでのプロセスを考える		
テキスト	レジュメを配布する。		
参考文献	授業時に指示する。		
評価方法	課題レポート 50%、発表内容、質疑応答、コメントパーパー50%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会2(家族と法・実践編)	担当者	齋藤 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、世間で話題になっている家族と法にまつわる様々な件や全く話題になっていない件に関する事例を教材(資料)として、その問題解決を演習形式で検討する。なお、春期講義の単位取得者を対象とする。</p>		<p>第1回 開講にあたり 第2回 家族法の話し 第3回 婚姻の話し 第4回 婚姻解消の話し(1) 第5回 婚姻解消の話し(2) 第6回 親子の話し 第7回 養子の話し 第8回 親権の話し 第9回 後見の話し 第10回 相続の話し(1) 第11回 相続の話し(2) 第12回 遺言の話し 第13回 ストーカー防止法の話し 第14回 DV防止法の話し 第15回 まとめ</p>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	春期受講者を対象に演習形式で家族と法に関する事例を検討する。そのため担当者は事前の準備が必要になる。		
テキスト	齋藤哲・家族と法(信山社)、六法全書		
参考文献	開講時に適宜紹介する。		
評価方法	レポート及び報告 100%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会2（社会生活と犯罪・実践編）	担当者	関根 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法律は社会を規律するルールです。しかし、我々は特にそのルールを意識することなく、日常生活を送っています。我々が法律を意識するようになるのは、何らかのトラブルが発生した時です。そのトラブルの最たるものが犯罪です。本授業では、社会生活の中で生じている主な犯罪を題材にして、それがどのように解決されるのかということを見て、法律の運用の感覚をつかんでもらいたいと思います。</p> <p>授業は演習形式で行い、2回1セットで1つのテーマを検討することになります。2回のうち、1回目は担当教員が問題のとらえ方、問題に対する解決方法などを解説し、2回目に皆さんに問題の解決方法について考えてもらうことにします。その際、検討結果を簡単なレポートにまとめて提出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 刑法の基礎</li> <li>3. 殺人と同意殺人1</li> <li>4. 殺人と同意殺人2</li> <li>5. 臓器移植1</li> <li>6. 臓器移植2</li> <li>7. 過失往来危険1</li> <li>8. 過失往来危険2</li> <li>9. 正当防衛・詐欺1</li> <li>10. 正当防衛・詐欺2</li> <li>11. 共同正犯・強盗1</li> <li>12. 共同正犯・強盗2</li> <li>13. 文書偽造1</li> <li>14. 文書偽造2</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	1回目の解説を聞いて自分で問題について考えてみてください。		
テキスト	テキストは特に指定しません。解説のプリントを配布します。		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
評価方法	試験は行いません。出席及び2回に1回行うレポートにより評価します。		

08年度以降	現代社会2(韓国社会論I)	担当者	羅 一等
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、韓国社会の教育問題を中心に韓国社会を取り巻く事象に対する理解を深めることである。受講生は、韓国社会に関する専門的知識を得ると同時に、それを論理的に分析、提示する能力を修得することを目標とする。</p> <p>授業は、教員による講義と受講生による発表で構成される。受講生は、予め決められたテーマの中から一つを選んで調査を行い、その内容をまとめて報告、ディスカッションを行う。</p> <p>前半の授業では、調査方法の説明、および韓国の歴史と韓国の学校の歴史を概観し、韓国社会と韓国の教育問題を考えるために必要な基礎知識を修得する。後半の授業では、韓国社会の教育問題を、校内暴力問題、学生人権問題、教育熱の三つのテーマに分けて発表と講義を行う。そして最後に、韓国の代案教育運動とMOOCについて紹介し、未来の学校のあり方について考える。</p> <p>本講義は、受講生の調査とディスカッションを重視しているので、授業の全過程において受講生の積極的な参加が求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 社会について考えるための質的調査法：聞き取り調査</li> <li>3. 韓国の歴史1：朝鮮時代末期から朝鮮戦争まで</li> <li>4. 韓国の歴史2：朝鮮戦争から民主化まで</li> <li>5. 韓国の学校の歴史1：宗教改革から産業革命まで</li> <li>6. 韓国の学校の歴史2：日本統治時代から新自由主義時代まで</li> <li>7. 韓国の校内暴力問題1：調査報告とディスカッション</li> <li>8. 韓国の校内暴力問題2：既存の議論の批判的検討</li> <li>9. 韓国の学生人権問題1：調査報告とディスカッション</li> <li>10. 韓国の学生人権問題2：既存の議論の批判的検討</li> <li>11. 韓国の教育熱1：調査報告とディスカッション</li> <li>12. 韓国の教育熱2：既存の議論の批判的検討</li> <li>13. 韓国の代案教育1：意義と現状</li> <li>14. 韓国の代案教育2：事例紹介</li> <li>15. 学校の未来：MOOC時代の到来と展望</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：配布するプリントを精読してください。担当するテーマの調査と発表を準備してください。 事後：毎回出される課題で復習をしてください。		
<b>テキスト</b>	プリントで配布する。		
<b>参考文献</b>	授業で随時紹介する。		
<b>評価方法</b>	期末試験 50% 発表 40% 平常点 10%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	現代社会2 (市民社会と法)	担当者	花本 広志
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちが生きるこの社会は「市民社会」です。「民法は、「市民社会の基本法である」と言われます。この授業では、そのこの意味を具体的な民事紛争事例の解決策を検討することを通じて学んでいきたいと思ひます。そのために、「民法の意義と機能」、「契約の自由とその限界」、「過失責任主義とその限界」の3つのテーマを取り上げ、各テーマに関する具体的な紛争事例の解決に向けて、受講者がグループで活動をしながら、必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。</p> <p>その結果、受講者が、『民法は市民社会の基本法である』ということの意味を、家族・友人など民法を学習したことのない人が理解できるように分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）説明できる」ようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。</p> <p>具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで、履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. PBLガイダンス</li> <li>3. PBL練習</li> <li>4. 民法の意義と機能（1）</li> <li>5. 民法の意義と機能（2）</li> <li>6. 民法の意義と機能（3）</li> <li>7. 契約の自由とその限界（1）</li> <li>8. 契約の自由とその限界（2）</li> <li>9. 契約の自由とその限界（3）</li> <li>10. 過失責任主義とその限界（1）</li> <li>11. 過失責任主義とその限界（2）</li> <li>12. 過失責任主義とその限界（3）</li> <li>13. 口頭発表会の準備</li> <li>14. 口頭発表会</li> <li>15. まとめと振り返り</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業3回に2回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表します。		
<b>テキスト</b>	特になし。学習に必要な文献・資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集します。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	出席率、宿題提出率、口頭発表・最終レポート提出の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は、複雑でこの欄に書き切れないため、第1回目のオリエンテーションで説明します。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会2（自己表現の技法）	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学では（ひいては社会人となれば）、客観的な事実や信頼できる情報に基づいて主張を展開するタイプの文章を作成することが要求されます。ところが、そのような論証型のレポートの作成方法や、口頭発表の方法について、キチンと学習する機会はいまだあまり多くなかったのではないのでしょうか？ そこで、この授業では、論証型レポートの作成方法と（それを基にした）口頭発表の方法を仲間同士の協力的な活動（ピア活動）を通じて学んでいきたいと思ひます。その結果、①論証型レポートの作成と口頭発表を協力して1人でできるようになること、②「自ら問いを發し、自ら学び、議論を通じて理解を深めていくこと」ができるようになること、③互いに学びあう仲間と学びあう学習環境を作ることの3つの目標を受講者には獲得してほしいと思ひます。</p> <p>授業の対象としては、レポート作成を初めて体験する大学1年生を念頭に置いています、「レポートの作成方法がいまいちよく分からなくて困っている」という2年生以上の人もご遠慮なく！なお、第1回目の授業では、授業の内容や運営方法、成績評価の方法などについてより詳しく説明しますので、受講希望者は、可能な限り出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業で何を学ぶかを知る。</li> <li>2. レポートの形を知り、アイデアを練る。</li> <li>3. 構想を練り、情報を調べる。</li> <li>4. テーマを絞り込み、目標を規定する。</li> <li>5. 文章を組み立てる。</li> <li>6. 組み立てを再検討する。</li> <li>7. パラグラフを書く。</li> <li>8. 本文を書き込んでいく。</li> <li>9. 引用しながら書く。</li> <li>10. 文章・表現・形式を点検する。</li> <li>11. 発表を準備する。</li> <li>12. 口頭発表をする。</li> <li>13. 学んだことを振り返る。</li> <li>14. ラーニング・ポートフォリオのピア評価</li> <li>15. 授業全体のまとめ</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内ではピア・レスポンスの活動が中心となりますので、事前には、授業での活動の前提となるような宿題・課題が、事後には、授業で学習したことを確認したり練習したりするための課題やレポート作成に向けての課題などが、毎回課されます。		
テキスト	大島弥生ほか『ピアで学ぶ大学生の日本語表現〔第2版〕』（ひつじ書房） * 提出用シートはテキスト付属のものに限る（コピー不可）ので必ず購入のこと。		
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。		
評価方法	出席率、宿題提出率、口頭発表の有無、最終レポート提出の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は複雑でこの欄に書き切れないため、第1回目のオリエンテーションで説明します。		

08年度以降	現代社会2(経理入門1)	担当者	原 郁代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>会計の知識は、営業など経理・財務以外の仕事をする者にとっても必要不可欠なスキルである。従って、会計を専門領域としない学生にもぜひ学修して欲しい。</p> <p>一般的に簿記は難しいイメージがある。しかし、この授業では、簿記の基本からじっくり基本的なスキルが身に付けられることを目指して講義を進めていきたい。</p> <p>講義の進め方としては、春学期では、まず何故会計を学ぶ必要があるのか、学んだ知識をどのように生かせるのかといったアウトラインを最初の講義で示した後、簿記の意義と仕組み、各論を扱っていくこととする。講義で基礎知識を学んだ後、練習問題で知識の定着を図っていく。</p> <p>なお、春学期又は秋学期にデータベースの使い方の解説を行う予定である。</p> <p>授業の内容をしっかり復習し、分からないことがあったら、恥ずかしがらずに積極的に質問して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会計を学ぶ意義</li> <li>2. 財務諸表の読み方、簿記の意義としくみ</li> <li>3. 現金・預金の取引</li> <li>4. 現金・預金の取引</li> <li>5. 売上・仕入の取引</li> <li>6. 売上・仕入の取引</li> <li>7. 売掛金・買掛金の取引</li> <li>8. 第1講から第7講の復習及び小テスト</li> <li>9. 売掛金・買掛金の取引</li> <li>10. その他の債権・債務、受取手形・支払手形の取引</li> <li>11. 固定資産の取引</li> <li>12. 貸倒引当金、資本金・引出金等の取引</li> <li>13. 伝票会計</li> <li>14. 決算整理仕訳・総復習</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業前にテキスト及び配布資料を一読し、授業後に配布した資料とテキストの例題等の復習を行うこと。		
<b>テキスト</b>	渡部裕垣・片山覚・北村敬子編著『検定 簿記講義 3級 平成30年度版』（中央経済社、2018年）		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	小テスト20点(1回)、期末試験80点により評価する。		

08年度以降	現代社会2(経理入門2)	担当者	原 郁代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>会計の知識は、営業など経理・財務以外の仕事をする者にとっても必要不可欠なスキルである。従って、会計を専門領域としない学生にもぜひ学修して欲しい。</p> <p>一般的に簿記は難しいイメージがある。しかし、この授業では、簿記の基本からじっくり基本的なスキルが身に付けられることを目指して講義を進めていきたい。</p> <p>講義の進め方としては、秋学期では、春学期で修得した基礎知識の確認作業をじっくりと行った後に、精算表の記入及び財務諸表の作成方法について学んでいく。講義で基礎知識を学んだ後、例題を解いていくことによって知識の定着を図っていく。</p> <p>授業の内容をしっかり復習し、分からないことがあったら、恥ずかしがらずに積極的に質問して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財務諸表の読み方、簿記の意義としくみ</li> <li>2. 現金・預金の取引</li> <li>3. 現金・預金の取引</li> <li>4. 売上・仕入の取引</li> <li>5. 売掛金・買掛金の取引</li> <li>6. その他の債権・債務、受取手形・支払手形の取引</li> <li>7. 固定資産の取引</li> <li>8. 第1講から第7講の復習及び小テスト</li> <li>9. 貸倒引当金・決算整理仕訳</li> <li>10. 精算表の記入</li> <li>11. 財務諸表の作成</li> <li>12. 総合問題</li> <li>13. 総合問題</li> <li>14. 総合問題・総復習</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業前にテキスト及び配布資料一読し、授業後に配布した資料とテキストの例題等の復習を行うこと。		
<b>テキスト</b>	渡部裕垣・片山覚・北村敬子編著『検定 簿記講義 3級 平成30年度版』（中央経済社、2018年）		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	小テスト20点(1回)、期末試験80点により評価する。		

08年度以降	現代社会2(英文会計入門1)	担当者	原 郁代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>会計の知識は、営業など経理・財務以外の仕事をする者にとっても必要不可欠なスキルである。従って、会計を専門領域としない学生にもぜひ学修して欲しい。</p> <p>一般的に英文会計は、難しいイメージがある。しかし、この授業では、会計を専門領域としない学生でも英文会計の基本を学べるように講義を進めていきたい。</p> <p>春学期では、英文財務諸表作成の基礎である簿記の基本を英語で学んでいく。テキストやレジュメで内容理解を図り、問題演習で知識の定着を図っていく。</p> <p>なお、春学期又は秋学期にデータベースの使い方について解説を行う予定である。</p> <p>授業の内容をしっかり復習し、分からないことがあったら、恥ずかしがらずに積極的に質問して欲しい。</p> <p>この授業は、高大連携対象授業です。高校生の履修も待っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・会計の基礎知識</li> <li>2. 財務諸表の読み方</li> <li>3. Journalizing and posting (仕訳と転記)</li> <li>4. Journalizing Business Transactions (取引の仕訳)</li> <li>5. Journalizing Business Transactions (取引の仕訳)</li> <li>6. Journalizing Business Transactions (取引の仕訳)</li> <li>7. Journals and Ledgers (仕訳帳と元帳)</li> <li>8. 第1講から第7講の復習及び小テスト</li> <li>9. Journals and Ledgers (仕訳帳と元帳)</li> <li>10. Trial Balance (試算表)</li> <li>11. Adjusting Entries (決算整理仕訳)</li> <li>12. Adjusting Entries (決算整理仕訳)</li> <li>13. Adjusting Entries (決算整理仕訳)</li> <li>14. Closing Entries (締切仕訳)</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業前にテキスト及び配布資料を一読し、授業後に授業中に取り上げた練習問題等の復習を行うこと。		
<b>テキスト</b>	清村英之『英文会計が基礎からわかる本』(同文館出版, 2015年)		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	小テスト 20点(1回)、期末試験 80点により評価する。		

08年度以降	現代社会2(英文会計入門2)	担当者	原 郁代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>会計の知識は、営業など経理・財務以外の仕事をする者にとっても必要不可欠なスキルである。従って、会計を専門領域としない学生にもぜひ学修して欲しい。</p> <p>この授業では、会計を専門領域としない学生でも英文会計の基本を学べるように講義を進めていきたい。</p> <p>秋学期では、春学期に学修した基礎知識を前提に、実際の財務諸表を題材に英文財務諸表が読めるようになることを目標に講義を進めていく。</p> <p>本講義受講後、授業で修得した知識を発展させ、国際会計検定(BATIC)に挑戦してみたい。</p> <p>授業の内容をしっかり復習し、分からないことがあったら、恥ずかしがらずに積極的に質問して欲しい。</p> <p>この授業は、高大連携対象授業です。高校生の履修も待っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習</li> <li>2. 前期の復習</li> <li>3. Financial Statements(財務諸表)</li> <li>4. Financial Statements(財務諸表)</li> <li>5. Financial Statements(財務諸表)</li> <li>6. Statement of Cash Flows(キャッシュ・フロー計算書)</li> <li>7. Statement of Cash Flows(キャッシュ・フロー計算書)</li> <li>8. 第1講から第7講の復習及び小テスト</li> <li>9. Accounting Policies (会計方針)</li> <li>10. Accounting Policies (会計方針)</li> <li>11. Accounting Policies (会計方針)</li> <li>12. Financial Statement Analysis (財務諸表分析)</li> <li>13. Financial Statement Analysis (財務諸表分析)</li> <li>14. 総復習</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業前にテキスト及び配布資料を一読し、授業後に授業中に取り上げた練習問題等の復習を行うこと。		
<b>テキスト</b>	清村英之『英文会計が基礎からわかる本』(同文館出版, 2015年)		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	小テスト 20点(1回)、期末試験 80点により評価する。		

08年度以降	現代社会2(新聞を読む1)	担当者	半田 滋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>新聞は「社会の公器」と呼ばれています。情報の発信源であり、知識の供給源でもあるからです。ネット社会とはいえ、ネットニュースの多くは新聞記事を情報源としており、新聞の重要性はいささかも揺らいではいません。確かな情報を入手し、知識や判断力を養うのは社会人として欠かせない日常の行動です。一緒に学んで行きましょう。</p> <p>東京新聞記者として36年のキャリアを持つ現役ジャーナリストが新聞の読み方と記事の書き方を指導します。授業は日々の新聞が教科書です。前の授業で示すキーワード(前年春学期は「米中首脳会談」「安倍首相の憲法9条改正案」「加計学園問題」など)が新聞にどのように取り上げられているのか、その記事から何を考えたのか、毎回、5人程度に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス/授業の進め方を説明</li> <li>2. 新聞を読んでみよう①/新聞のキーワードの論評</li> <li>3. 新聞を読んでみよう②/同上</li> <li>4. 新聞を読んでみよう③/同上</li> <li>5. 新聞を読んでみよう④/同上</li> <li>6. 新聞を読んでみよう⑤/同上</li> <li>7. 新聞を読んでみよう⑥/同上</li> <li>8. 新聞を読んでみよう⑦/同上</li> <li>9. 中間まとめ</li> <li>10. 新聞は真実を伝えているか①/示したテーマの論評</li> <li>11. 新聞は真実を伝えているか②/同上</li> <li>12. 新聞は真実を伝えているか③/同上</li> <li>13. 新聞記者の取材とは/記者、講師の講話と感想文作成</li> <li>14. 記事を書いてみよう/模擬会見と記事作成</li> <li>15. まとめ/前回作成した記事の論評</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が必ず発表します。		
<b>テキスト</b>	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の5紙から選び、最低1紙を講読する。電子新聞は不可。必要に応じ、記事、社説などのプリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	とくにありません。		
<b>評価方法</b>	レポートの発表60%、授業への参加度40%		

08年度以降	現代社会2(新聞を読む2)	担当者	半田 滋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>新聞はさまざまな情報を提供してくれます。「1面トップ」という言葉があるように新聞にとっての「売り」はその日の第1面です。きょうの1面トップはなぜ、この記事なのでしょう。あなたにとってこの記事は重要ですか。これらの点を掘り下げることにより、新聞の役割と必要な読み方がはっきり見えてきます。</p> <p>東京新聞記者として36年のキャリアを持つ現役ジャーナリストが新聞の読み方と記事の書き方を指導します。授業は日々の新聞が教科書です。前の授業で示すキーワード(前年秋学期は「衆院解散・総選挙」「沖縄の米軍ヘリ墜落事故」「トランプ米大統領訪日など)が次の授業までの新聞にどのように取り上げられているのか、その記事から何を考えたのか、毎回、5人程度に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞いていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス/授業の進め方を説明</li> <li>2. 第1面を読んでみよう①/朝刊1面の論考</li> <li>3. 第1面を読んでみよう②/同上</li> <li>4. 記事を読んでみよう①/新聞のキーワードの論評</li> <li>5. 記事を読んでみよう②/同上</li> <li>6. 記事を読んでみよう③/同上</li> <li>7. 記事を読んでみよう④/同上</li> <li>8. 記事を読んでみよう⑤/同上</li> <li>9. 中間とりまとめ</li> <li>10. 社説を読んでみよう①/配布する社説の論考を発表</li> <li>11. 社説を読んでみよう②/同上</li> <li>12. 社説を読んでみよう③/同上</li> <li>13. 新聞記者の取材とは/記者、講師の講話と感想文作成</li> <li>14. 記事を書いてみよう/模擬会見を受けて記事作成</li> <li>15. まとめ/前回作成した記事の論評、授業の総評</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が必ず発表します。		
<b>テキスト</b>	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の5紙から選び、最低1紙を講読する。電子新聞は不可。必要に応じ、記事、社説などのプリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	とくにありません。		
<b>評価方法</b>	レポートの発表60%、授業への参加度40%		

08年度以降	現代社会2(インターンシップ)	担当者	森永 卓郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、春学期に開講する講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、自分自身を正確に理解し、進路を真剣に考え、適職を発見する機会を得ることを目的とします。あわせて、コミュニケーション能力や対人関係のスキル、職場でのマナー、時事に関する感性など、社会人に求められる資質も涵養します。</p> <p>本講座のねらいは、断じて小手先の就活対策やノウハウを学ぶことではなく、履修者の皆さんが、狭義のキャリア(=職業)をどのように獲得し、広義のキャリア(=人生)をどのように設計していくかを、色々な角度から模索する場になることを目指します。</p> <p>本講座の内容は、事前指導(春学期の授業)、夏休みに実施する約2週間のインターンシップ実習、および実習後の報告書作成から構成されています。講義は出欠を記録します。</p> <p>1.4月2日(月)15:15~16:00にE-102教室で開催されるガイダンスに必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録して下さい。履修者の定員は150名です。(下欄に続く)</p>		<p>第1回 オリエンテーション:本講座の目的、授業内容、進め方などについて詳しく説明します。また、インターンシップと就職活動の関係、実習先の探し方、R-CAP などについて、キャリアセンターと教務課のスタッフから説明します。</p> <p>第2回 働くということとは何か(講義)</p> <p>第3回 セカンドベストの選択と職業能力開発(講義)</p> <p>第4回 コミュニケーションと面接の技術(講義)</p> <p>第5回 外部講師による業界・業種・職種研究講座</p> <p>第6回 インターンシップ経験者による体験談:インターンシップ経験者である先輩から体験談を話していただきます</p> <p>第7回 R-CAP の講評・分析:Web 上で受験したR-CAP の結果について講評と分析を行い、自分の適職や自分に向けた職場環境を確認します。(R-CAP の担当者から)</p> <p>第8回・9回 時事問題研究:時事問題に関する講義と発表</p>	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

	(上欄からの続き)	担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2.R-CAP施費用(3,200円)が必要です。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第2回目の授業に必ず持参して下さい。</p> <p>3.インターンシップの実習先は、履修者自身が見つかることが原則です。実習先の開拓には単位認定に必要な覚書の締結について、自ら交渉してください。一部、キャリアセンターで選考する大学仲介もありますが、履修者を優先するものではありません。</p> <p>4.インターンシップ実習に参加しなかった場合、所定の研修プログラムを修了しなかった場合は、たとえ授業(事前指導)に出席したとしても単位は認定されません。</p> <p>5.インターンシップを予約した場合は、企業との約束になりますので、よほどの理由がない限り解約はできません。</p> <p>6.実習の条件:マナー講座受講、保険加入、直前指導の出席、実習日誌+報告書の提出、のすべてが必要です。</p> <p>7.実習は1企業・団体で5日以上。親族経営の事業やアルバイト先は選択不可です。</p>		<p>第10回 グループディスカッションの練習①:グループディスカッションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図ります。</p> <p>第11回 外部講師によるマナー講座:インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。</p> <p>第12回 グループディスカッションの練習②</p> <p>第13回・14回 プレゼンテーションの技術のブラッシュアップ 特定のテーマに関して、全員の前で発表してもらいます。</p> <p>第15回 直前指導:インターンシップへの参加に先立ち、キャリアセンターと教務課のスタッフから、重要事項(インターンシップ保険、実習後の提出書類等)について説明していただきます。 ※授業内容と日程は都合により変更する場合があります。 10月4日の昼休みにキャリアセンター主催の報告会を実施しますので、出席して下さい。進行は、森永が行います。</p>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の際に配布するプリントを精読して、主体的にインターンシップに取り組んでください。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。		
参考文献	必要に応じてプリントを配布します。		
評価方法	実習日誌 40%、報告書 40% 授業での貢献 20%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	現代社会2(韓国社会論)	担当者	小宮 秀陵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、韓国現代社会の伝統と変容を世界のコリアンをテーマに読み解いていく。特に韓国のなかの伝統文化が世界各国でどのように変容するのかに焦点をあてながら、韓国社会の特色を考えることが目的である。</p> <p>そのため、世界で活躍するコリアンの生活や、彼ら同士の交流などに関する文献・資料を読みながら議論を行うことにする。前半はおもに日本の中のコリアン社会・後半は世界の中のコリアン社会を読み解いて行く。</p> <p>講義は講義とグループでの議論・発表を中心に行う。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントを配布するようにする。韓国語の最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界のコリアン概説</li> <li>2. 自己・他者理解としてのコリアン</li> <li>3. コリアンの日本定住</li> <li>4. 日本の中のコリアン</li> <li>5. 近代日本とコリアン</li> <li>6. 済州島文化と在日コリアン</li> <li>7. 世界のなかのコリア語</li> <li>8. 中国朝鮮族と国家</li> <li>9. 北朝鮮と移住する人々</li> <li>10. コリアンの食文化</li> <li>11. コリアンと音楽</li> <li>12. コリアンたちの出会い</li> <li>13. コリアン・アメリカンのアイデンティティー</li> <li>14. 現代韓国社会とコリアン文化</li> <li>15. 世界の中のコリアン文化</li> </ol>	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修；毎回与えられたテーマについて自分なりに調べて考えてくること。事後学修；プリント・学習内容を整理し、与えられた参考文献を精読する。		
テキスト	テキスト：授業で配布するレジュメ。		
参考文献	勉誠出版編集部編『アジア遊学 92 世界のコリアン』勉誠出版社, 2006年		
評価方法	授業に対する積極的参加度(30%), レポート(30%), 期末課題(40%)		

08年度以降	現代社会 2 (コンピュータ入門 a)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、コンピュータやネットワークに関連する基礎的な知識を学びます。そして、長いレポートの作成、データの集計および情報を相手に伝える際に必要となるソフトウェアであるワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの利用方法を、実習により身につけます。</p> <p>授業計画の項目が扱われる順序や時間配分は、担当教員により異なることがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとネットワークの利用環境</li> <li>2. コンピュータサイエンスの基礎</li> <li>3. インターネットの利用と注意点</li> <li>4. ワードプロセッサ：機能</li> <li>5. ワードプロセッサ：図、表の作成</li> <li>6. ワードプロセッサ：スタイル設定、数式の入力</li> <li>7. 表計算ソフト：機能</li> <li>8. 表計算ソフト：計算式（相対参照、絶対参照）</li> <li>9. 表計算ソフト：関数</li> <li>10. 表計算ソフト：グラフ、データの並び替え、目的データの抽出</li> <li>11. 表計算ソフト：データ集計 1（ピボットテーブル、小計）</li> <li>12. 表計算ソフト：データ集計 2（ヒストグラム、データテーブル）</li> <li>13. プレゼンテーションソフト：機能</li> <li>14. プレゼンテーションソフト：聞き手に伝わる資料の作成</li> <li>15. プレゼンテーションソフト：効果的なプレゼンテーション方法</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員の指示にしたがって事前、事後の学修をおこなってください。		
<b>テキスト</b>	立田ルミ、今福啓、堀江郁美『実践に役立つ情報処理』 日経 BP 社		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	担当教員の指定する方法によって評価します。		

08年度以降	現代社会 2 (コンピュータ入門 b)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>表計算ソフトを有効活用すると、キャッシュフロー計算や制約のある問題のような、実社会で必要となる計算の答えを容易に求めることが可能となります。</p> <p>また自分で分析して求めた情報を発信するには、ネットワークを活用することが不可欠です。講義では、そのために必要となる Web ページの構成、HTML、CSS と、コンピュータ言語の基礎について学習します。</p> <p>授業計画の項目を扱う順序、時間配分および使用するコンピュータ言語は、担当教員により異なることがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表計算ソフト応用：複利計算</li> <li>2. 表計算ソフト応用：預金の積立</li> <li>3. 表計算ソフト応用：ローン返済計画</li> <li>4. 表計算ソフト応用：What-If分析による利子の計算</li> <li>5. 表計算ソフト応用：ソルバーによるローン返済</li> <li>6. 表計算ソフト応用：年金の積立</li> <li>7. 表計算ソフト応用：効率的な作業配分：0-1整数計画問題</li> <li>8. 表計算ソフト応用：資源の有効活用：線形計画問題</li> <li>9. Web ページ作成：Web ページの構成</li> <li>10. Web ページ作成：HTML と CSS</li> <li>11. プログラミング言語：概要</li> <li>12. プログラミング言語：プログラミングの第一歩</li> <li>13. プログラミング言語：命令の種類</li> <li>14. プログラミング言語：関数</li> <li>15. プログラミング言語：プログラム作成</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員の指示にしたがって事前、事後の学修をおこなってください。		
<b>テキスト</b>	立田ルミ、今福啓、堀江郁美『実践に役立つ情報処理』 日経 BP 社		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	担当教員の指定する方法によって評価します。		

08年度以降	現代社会2（ホームページ作成）	担当者	久東 義典
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。「ホームページを公開する前に準備すること」と「公開してから保守すること」等に関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法（HTML）だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題（サーバ、IP、ドメイン等）にも触れ、自ら情報収集して、（有償・無償も含め）サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTMLファイルを作成するだけでなく、エクセル（表計算ソフト）と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅でPCに触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講を期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページの作成・運用・管理（環境理解）</li> <li>2. ホームページの作成・運用・管理（入門編）</li> <li>3. ホームページの作成・運用・管理（実践編）</li> <li>4. ブログの開設と運用（公開・非公開の理解）</li> <li>5. ホームページ公開と運用（アップロードの実践）</li> <li>6. HTMLの基本のまとめ</li> <li>7. CSSの基本のまとめ</li> <li>8. HTMLとCSSの実践</li> <li>9. Dynamic HTML サンプル</li> <li>10. Java Script 入門</li> <li>11. Dynamic HTML 入門</li> <li>12. 音楽や動画再生の基礎知識</li> <li>13. 私のホームページの公開（トップページ）</li> <li>14. 私のホームページの公開（新規ページの追加）</li> <li>15. 私のホームページの公開（自己紹介ページの追加）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。適宜、熟読する web サイトを紹介しします。		
<b>テキスト</b>	適宜、熟読する web サイトを紹介しします。		
<b>参考文献</b>	適宜、熟読する web サイトを紹介しします。		
<b>評価方法</b>	レポート 20%、小テスト 20%、作品 30%、学期末テスト 30%による総合評価		

08年度以降	現代社会2（ホームページ作成）	担当者	久東 義典
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。「ホームページを公開する前に準備すること」と「公開してから保守すること」等に関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法（HTML）だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題（サーバ、IP、ドメイン等）にも触れ、自ら情報収集して、（有償・無償も含め）サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTMLファイルを作成するだけでなく、エクセル（表計算ソフト）と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅でPCに触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講を期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページの作成・運用・管理（環境理解）</li> <li>2. ホームページの作成・運用・管理（入門編）</li> <li>3. ホームページの作成・運用・管理（実践編）</li> <li>4. ブログの開設と運用（公開・非公開の理解）</li> <li>5. ホームページ公開と運用（アップロードの実践）</li> <li>6. HTMLの基本のまとめ</li> <li>7. CSSの基本のまとめ</li> <li>8. HTMLとCSSの実践</li> <li>9. Dynamic HTML サンプル</li> <li>10. Java Script 入門</li> <li>11. Dynamic HTML 入門</li> <li>12. 音楽や動画再生の基礎知識</li> <li>13. 私のホームページの公開（トップページ）</li> <li>14. 私のホームページの公開（新規ページの追加）</li> <li>15. 私のホームページの公開（自己紹介ページの追加）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。適宜、熟読する web サイトを紹介しします。		
<b>テキスト</b>	適宜、熟読する web サイトを紹介しします。		
<b>参考文献</b>	適宜、熟読する web サイトを紹介しします。		
<b>評価方法</b>	レポート 20%、小テスト 20%、作品 30%、学期末テスト 30%による総合評価		

08年度以降	現代社会2（ホームページ作成）	担当者	和泉 順子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、現代社会における情報発信手段の一つとしてWWW上のホームページ作成に必要な基本的な知識の習得と実習である。最終課題として自分でホームページを作成するために、大まかに以下の知識や技能を学ぶ。</p> <p>1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成（HTML） 3) ホームページのデザイン（CSS） 4) マルチメディアコンテンツ、動的なページ 5) WWWでの情報発信と情報倫理、著作権</p> <p>ホームページ作成の基礎となるHTMLの形式とデザイン定義のためのスタイルシート、および簡単なJavaScriptの知識と技能を習得するだけでなく、WWWやインターネットの仕組みの概要を理解したうえで、不用意なトラブルを避けるために必要な知識や知的所有権（著作権）についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの説明、インターネットの仕組み</li> <li>2. WWWとホームページ</li> <li>3. ホームページ作成の基本</li> <li>4. ホームページの構成、編集方法</li> <li>5. ホームページのデザイン</li> <li>6. 画像、背景、色の作成</li> <li>7. テキスト処理、フォント、リンク</li> <li>8. テーブル、ページのレイアウト</li> <li>9. スタイルシートの基本</li> <li>10. HTMLとCSSの実装</li> <li>11. CSSを使った具体的なレイアウト</li> <li>12. JavaScriptを用いた動的なページ</li> <li>13. マルチメディアコンテンツの取扱い</li> <li>14. 情報発信と情報倫理、知的所有権</li> <li>15. 学期末テスト</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	技術的な専門用語を用いて説明・実習するため、理解度に合わせて適宜復習が必要である。		
<b>テキスト</b>	講義のための補助資料を毎回 Porta 上で配布・公開する。		
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。		
<b>評価方法</b>	平常点 20%、作品（ホームページ）40%、および学期末テスト 40%による総合評価とする。		

08年度以降	現代社会2（ホームページ作成）	担当者	和泉 順子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、現代社会における情報発信手段の一つとしてWWW上のホームページ作成に必要な基本的な知識の習得と実習である。最終課題として自分でホームページを作成するために、大まかに以下の知識や技能を学ぶ。</p> <p>1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成（HTML） 3) ホームページのデザイン（CSS） 4) マルチメディアコンテンツ、動的なページ 5) WWWでの情報発信と情報倫理、著作権</p> <p>ホームページ作成の基礎となるHTMLの形式とデザイン定義のためのスタイルシート、および簡単なJavaScriptの知識と技能を習得するだけでなく、WWWやインターネットの仕組みの概要を理解したうえで、不用意なトラブルを避けるために必要な知識や知的所有権（著作権）についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの説明、インターネットの仕組み</li> <li>2. WWWとホームページ</li> <li>3. ホームページ作成の基本</li> <li>4. ホームページの構成、編集方法</li> <li>5. ホームページのデザイン</li> <li>6. 画像、背景、色の作成</li> <li>7. テキスト処理、フォント、リンク</li> <li>8. テーブル、ページのレイアウト</li> <li>9. スタイルシートの基本</li> <li>10. HTMLとCSSの実装</li> <li>11. CSSを使った具体的なレイアウト</li> <li>12. JavaScriptを用いた動的なページ</li> <li>13. マルチメディアコンテンツの取扱い</li> <li>14. 情報発信と情報倫理、知的所有権</li> <li>15. 学期末テスト</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	技術的な専門用語を用いて説明・実習するため、理解度に合わせて適宜復習が必要である。		
<b>テキスト</b>	講義のための補助資料を毎回 Porta 上で配布・公開する。		
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。		
<b>評価方法</b>	平常点 20%、作品（ホームページ）40%、および学期末テスト 40%による総合評価とする。		

08年度以降	自然・環境・人間2(サイエンスライティング a)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含まれますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。</p> <p>サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出ても役に立つことです。</p> <p>春学期「サイエンスライティング a」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の中のあるテーマについて文章にまとめる作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>「地球外文明」に関する講義内容をまとめる</li> <li>まとめ文の添削・講評・修正</li> <li>「古代の物質観」に関する講義内容をまとめる</li> <li>まとめ文の添削・講評・修正</li> <li>「地球科学」に関するビデオの内容をまとめる</li> <li>まとめ文の添削・講評・修正</li> <li>「生命科学」に関するビデオの内容をまとめる</li> <li>まとめ文の添削・講評・修正</li> <li>「プリンキピア」に関する本の内容をまとめる</li> <li>まとめ文の添削・講評・修正</li> <li>「疑似科学」に関する本の内容をまとめる</li> <li>まとめ文の添削・講評・修正</li> <li>まとめ文全体の講評</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する		

08年度以降	自然・環境・人間2(サイエンスライティング b)	担当者	東 孝博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含まれますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。</p> <p>サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出ても役に立つことです。</p> <p>秋学期「サイエンスライティング b」では、春学期「サイエンスライティング a」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物等の解説文を実際に書くという作業を通して、文章力をさらに高めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>科学に関する講義を聴く</li> <li>科学に関する講義の解説文を書く</li> <li>添削と講評を基に書き直し</li> <li>科学に関する論文形式の文章を読む</li> <li>科学に関する論文形式の文章の解説文を書く</li> <li>添削と講評を基に書き直し</li> <li>科学に関するビデオを見て、その解説文を書く</li> <li>添削と講評を基に書き直し</li> <li>科学者へのインタビューをし、その記事を書く</li> <li>添削と講評を基に書き直し</li> <li>科学に関する本を読む</li> <li>科学に関する本の解説文を書く</li> <li>添削と講評を基に書き直し</li> <li>まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	各テーマにおける「解説文」の完成度を総合的に評価する		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(統計と調査法)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。</p> <p>授業概要 ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活を行うことができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。授業期間の後半は、自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し、前半で学んだ理論の応用を試みる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計量の種類(量的変数・質的変数): 比例変数, 間隔変数, 順位変数, 名義変数</li> <li>2. アンケートの取りかた, クイズ問題作成説明</li> <li>3. 度数分布, 相対度数, 度数分布表</li> <li>4. 量的変数のグラフ表現, 質的変数のグラフ表現</li> <li>5. 代表値(平均値, 中央値, 最頻値), 値の広がり, 能力テストと到達度テスト</li> <li>6. 正規分布, 散布度(標準偏差), 歪度, 尖度, 標準得点, 偏差値</li> <li>7. クイズ問題解答集計</li> <li>8. 信頼性係数, 項目分析, ロジスティック回帰分析</li> <li>9. 記述統計と推測統計, 仮説(帰無仮説, 対立仮説)</li> <li>10. 相関散布図, 相関係数, 回帰直線, 欠損値の推定, 相関検定</li> <li>11. 対応がない場合の検定, 分散分析</li> <li>12. 対応がある場合の検定, プリテスト・ポストテスト, 時系列分析</li> <li>13. クロス集計, カイ二乗検定</li> <li>14. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析</li> <li>15. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析</li> </ol>	
到達目標	自然・環境・人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト	授業において資料を配付する		
参考文献	内田治『数量化理論とテキストマイニング』(日科技連、2010) ISBN 978-4-8171-9292-9		
評価方法	定期試験(授業への積極的参加度により評価を加減する)。		

08年度以降	自然・環境・人間2(基礎生物学実験 a)	担当者	飯泉 恭一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【目的】この授業では、様々な実験と観察を行い生物学の基礎を学びます。さらに、その結果をレポートにまとめる作業を通して、論理的な文章の書き方を学びます。</p> <p>【概要】身近な生物を用いて実験および観察を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがありますので、汚れてもよい服を着用してください。</p> <p>【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。</p> <p>※受講する学生は2回目の授業までに実習費（¥2,000）を支払う必要があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海と生命 ー海水を調べるー</li> <li>2. 細胞分裂の観察 ー植物の根の細胞分裂を観察ー</li> <li>3. 寄生物の観察 ー食べたら痛い!?! 魚に潜む寄生虫ー</li> <li>4. 微生物の有用性 ー味噌造りにおける微生物の役割ー</li> <li>5. 光合成色素の観察 ーペーパークロマトグラフィーー</li> <li>6. 光合成と糖質 ージャガイモからデンプンを精製ー</li> <li>7. タンパク質の性質 ー豆腐造りから考えるー</li> <li>8. 脂質の性質 ーバター造りから考えるー</li> <li>9. 多糖類の性質 ーテングサとカンテンー</li> <li>10. 動物組織の観察（1） ーメダカの色素胞を観察ー</li> <li>11. 動物組織の観察（2） ームラサキイガイの鰓を観察ー</li> <li>12. 動物組織の観察（3） ーイカの神経系を観察ー</li> <li>13. 原生生物の観察 ーアメーバの観察ー</li> <li>14. 発生の観察 ームラサキウニの発生を観察ー</li> <li>15. プレゼンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。		
<b>テキスト</b>	資料を配付します。		
<b>参考文献</b>	授業で紹介いたします。		
<b>評価方法</b>	レポート 50%、期末試験の結果 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。		

08年度以降	自然・環境・人間2(基礎生物学実験 b)	担当者	飯泉 恭一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【目的】この授業では、様々な実験と観察を行い生物学の基礎を学びます。さらに、プレゼンテーション（生物学において興味をもった内容）を実施することで、聴衆が理解しやすい発表方法を身につけます。</p> <p>【概要】身近な生物を用いて実験および観察を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがありますので、汚れてもよい服を着用してください。</p> <p>【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。</p> <p>※受講する学生は2回目の授業までに実習費（¥2,000）を支払う必要があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物の再生 ーブラナリアの再生を観察ー</li> <li>2. 微生物の有用性 ー酵母による発酵を観察ー</li> <li>3. 核酸 ープロコリからDNAを抽出ー</li> <li>4. 刺胞動物 ーヒドラの摂食行動を観察ー</li> <li>5. 光合成 ー葉緑体の観察ー</li> <li>6. 酵素の性質 ー様々な酵素の性質を調べるー</li> <li>7. 微生物の観察 ーカビ（麹）の観察ー</li> <li>8. 染色体の特徴 ーユスリカ唾腺染色体の観察ー</li> <li>9. 節足動物の観察 ークルマエビの心臓と神経系を観察ー</li> <li>10. 魚類 ー魚類の標本作製ー</li> <li>11. 葉の観察 ー葉脈標本の作製ー</li> <li>12. 生体高分子の性質 ーソーセイジ造りで考えるー</li> <li>13. 発生の観察 ーパフンウニの発生を観察ー</li> <li>14. プレゼンテーション</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。		
<b>テキスト</b>	資料を配付します。		
<b>参考文献</b>	授業で紹介いたします。		
<b>評価方法</b>	レポート 50%、期末試験の結果 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。		

08年度以降	自然・環境・人間2(生物学Ⅰ)	担当者	飯泉 恭一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義の目的】生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな問題を生み出しています。クローン人間、出生前診断、遺伝子操作の是非など我々は様々な判断を迫られています。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。新聞やニュースで報道される生命科学の問題に関し、自分自身の頭で判断するための基礎知識を身につけます。</p> <p>【講義の概要】本講義では細胞レベルの生物学を概説します。講義形式の授業ですが、授業の途中に簡単な実験なども組み込みたいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに ー履修の注意・キャンパス内の生物の観察ー</li> <li>2. 生命の誕生 ー生命誕生の謎ー</li> <li>3. 細胞の特徴 ー細胞膜の性質ー</li> <li>4. 細胞の特徴 ー細胞小器官とはー</li> <li>5. 細胞の観察 ー顕微鏡による細胞の観察ー</li> <li>6. 細胞を構成する物質 ー細胞の生存に必要な物質ー</li> <li>7. 細胞の分裂 ー細胞が増えるしくみー</li> <li>8. 染色体 ー顕微鏡による染色体の観察ー</li> <li>9. 遺伝と遺伝子 ー子はなぜ親に似る？ー</li> <li>10. 核酸 ーDNAとRNAー</li> <li>11. DNAを見る ーDNAの抽出ー</li> <li>12. タンパク質と酵素 ーホタルの発光と酵素の関係ー</li> <li>13. プレゼンテーション (1)</li> <li>14. プレゼンテーション (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：指定したテーマに関するレポートを作成し提出してください。		
<b>テキスト</b>	資料を配付します。		
<b>参考文献</b>	授業で紹介いたします。		
<b>評価方法</b>	期末試験 50%、レポート 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。		

08年度以降	自然・環境・人間2(生物学Ⅱ)	担当者	飯泉 恭一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義の目的】「生物学Ⅰ」と同様に、最新の生命科学を理解するために必要な生物学の基礎知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。</p> <p>【講義の概要】「生物学Ⅰ」の知識を基礎に、組織や器官レベルの生物学を学習します。講義形式の授業ですが、簡単な実験なども組み込みたいと考えています。1回目の授業で履修の注意点を話しますので、履修希望者は必ず出席してください。また、本講義は「生物学Ⅰ」の知識を持っていることを前提に実施します。「生物学Ⅰ」を履修していない方は注意して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに ー履修の注意ー</li> <li>2. 身近な生物 ーキャンパス内の生物を観察ー</li> <li>3. 刺激の受容 ー眼の構造と働きー</li> <li>4. 刺激の受容 ー味覚の特徴ー</li> <li>5. 刺激の受容 ー耳、舌、皮膚の構造と働きー</li> <li>6. 神経細胞 ー体の中の情報伝達ー</li> <li>7. 筋収縮 ー体を動かすしくみー</li> <li>8. 病原体から体を守るしくみ (1) ー体液性免疫ー</li> <li>9. 病原体から体を守るしくみ (2) ー細胞性免疫ー</li> <li>10. 寄生生物 ー寄生性の多細胞生物ー</li> <li>11. 寄生生物 ー寄生性の単細胞生物ー</li> <li>12. ウイルス ーインフルエンザー</li> <li>13. プレゼンテーション (1)</li> <li>14. プレゼンテーション (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：指定したテーマに関するレポートを作成し提出してください。		
<b>テキスト</b>	資料を配付します。		
<b>参考文献</b>	授業で紹介いたします。		
<b>評価方法</b>	期末試験 50%、レポート 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。		

08年度以降	自然・環境・人間2(社会のなかの化学物質 a)	担当者	内田 正夫
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。</p> <p>いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに使われているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってみたいと考えます。</p> <p>なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配りありません。高校化学のようなむずかしい理屈はやりません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 金属材料の化学 ①</li> <li>3. 金属材料の化学 ②</li> <li>4. 金属材料の化学 ③</li> <li>5. 金属材料の化学 ④</li> <li>6. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学 ①</li> <li>7. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学 ②</li> <li>8. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学 ③</li> <li>9. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学 ④</li> <li>10. 燃料、エネルギー源の化学 ①</li> <li>11. 燃料、エネルギー源の化学 ②</li> <li>12. 環境保護の化学 ①</li> <li>13. 環境保護の化学 ②</li> <li>14. 環境保護の化学 ③</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。		
<b>テキスト</b>	左巻健男編著『ものづくりの化学が一番わかる—身近な工業製品から化学がわかる』技術評論社、2013年		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	学期末レポート (60%) 授業の参加態度(提出物) (40%)		

08年度以降	自然・環境・人間2(社会のなかの化学物質 b)	担当者	内田 正夫
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。</p> <p>いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに使われているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってみたいと考えます。</p> <p>なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配りありません。高校化学のようなむずかしい理屈はやりません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 農業の化学 ①</li> <li>3. 農業の化学 ②</li> <li>4. 農業の化学 ③</li> <li>5. 食品の化学 ①</li> <li>6. 食品の化学 ②</li> <li>7. 食品の化学 ③</li> <li>8. 食品の化学 ④</li> <li>9. 日用品の化学 ①</li> <li>10. 日用品の化学 ②</li> <li>11. 日用品の化学 ③</li> <li>12. 健康の化学 ①</li> <li>13. 健康の化学 ②</li> <li>14. 健康の化学 ③</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。		
<b>テキスト</b>	左巻健男編著『ものづくりの化学が一番わかる—身近な工業製品から化学がわかる』技術評論社、2013年		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	学期末レポート (60%) 授業の参加態度(提出物) (40%)		

08年度以降	自然・環境・人間2(体育経営スポーツマネジメント)	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。また、昨今の社会情勢から、わが国におけるスポーツ活動の可能性を模索する。1980年から1990年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応じてきた。そこで、わが国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、わが国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。具体的には、アメリカ4大プロスポーツの中でも最も成功していると言われているNFLを中心にプロスポーツのマネジメントを理解する。また、NCAA やヨーロッパサッカーなどのトップ組織を扱うだけではなく、身近な健康問題、アダプテッド・スポーツ、さらには2020年の東京オリンピック等も題材として扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. スポーツマネジメントの概要</li> <li>3. 我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景</li> <li>4. 体育とスポーツ教育学</li> <li>5. チーム・ビルディング</li> <li>6. メディア&amp;コマーシャリズム</li> <li>7. スポーツビジネスのマネジメント</li> <li>8. オリンピックのマネジメント</li> <li>9. スポーツ・マーケティング</li> <li>10. 北米における学生スポーツの発展</li> <li>11. プロスポーツとアマチュアスポーツ</li> <li>12. 我が国における学生スポーツのマネジメント</li> <li>13. アダプテッド・スポーツ</li> <li>14. メンタル・マネジメント</li> <li>15. 高度競技スポーツにおけるマネジメント</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 また、関連するトピックスを調べ、授業内で発言できる準備をすること。		
テキスト	適宜講義内で配布する。		
参考文献	特になし		
評価方法	授業への参加度・貢献度 50% レポート 30% 小テスト 10% 授業での発言 10%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。さらに、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要、データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>2. オペレーティングシステム (OS)</li> <li>3. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>5. プログラム言語</li> <li>6. プログラミングの仕組み</li> <li>7. コンピュータの構成要素</li> <li>8. 自然言語とは</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11. 人工知能と言語処理</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 講義のまとめ</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	学内ネットに開示するテキストを使用します。		
<b>参考文献</b>	特にありません。		
<b>評価方法</b>	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

08年度以降	自然・環境・人間2(自然言語処理 a)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面</li> <li>2. 自然言語処理の予備知識</li> <li>3. 形態素解析(1) 形態素解析の原理と方法</li> <li>4. 形態素解析(2) 日本語と英語の形態素解析実験</li> <li>5. 構文解析(1) 文脈自由文法、句構造文法</li> <li>6. 構文解析(2) 構文解析の原理と実験</li> <li>7. 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出</li> <li>8. コーパス、言語データベースの構造と使い方</li> <li>9. 単語と文の意味処理</li> <li>10. 言語処理とオントロジー</li> <li>11. 人工知能と言語処理</li> <li>12. 自然言語応用の実態</li> <li>13. 総合演習</li> <li>14. 講義のまとめ</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。		
<b>テキスト</b>	最初の講義で指示します。		
<b>参考文献</b>	必要な資料を配布します。		
<b>評価方法</b>	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(コンピュータ構造論)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。(5) コンピュータの最新技術を紹介し、本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンスとコンピュータ技術の概要</li> <li>2. ファイル編成とデータベース</li> <li>3. データベース管理システム (DBMS)</li> <li>4. SQL言語とデータベース演習</li> <li>5. コンピュータ・ネットワーク</li> <li>6. インターネットの仕組みとサービス</li> <li>7. モノのインターネット (IoT) とは</li> <li>8. セキュリティ、暗号システム、電子認証</li> <li>9. コンピュータのハードウェア構造</li> <li>10. マン・マシンインタフェース</li> <li>11. 情報システムを支える技術</li> <li>12. ソフトウェア開発手順</li> <li>13. 人工知能とは</li> <li>14. 総合演習</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト	学内ネットに開示するテキストを使用します。		
参考文献	特にありません。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。		

08年度以降	自然・環境・人間2（情報検索と加工）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使し、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と実習形式で解説する。</p> <p>講義内容は、文系の学生でも理解できるように、情報検索の歴史、情報検索のための情報収集、情報整理、情報抽出、情報評価の順番で説明する。</p> <p>【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界</li> <li>3. 情報検索の基本（2）：情報の表現</li> <li>4. 情報検索の基本（3）：データベース</li> <li>5. 情報検索の種類</li> <li>6. 情報検索システムの構成と役割</li> <li>7. 情報の収集</li> <li>8. 情報の整理（1）</li> <li>9. 情報の整理（2）</li> <li>10. 情報の抽出（1）</li> <li>11. 情報の抽出（2）</li> <li>12. 情報の検索と評価</li> <li>13. 情報検索システムの例：図書検索</li> <li>14. 情報検索システムの例：ネット検索</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する。 また、出される課題やレポートなどを解答して提出する。		
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する。		
参考文献	原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』		
評価方法	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2（データ構造とアルゴリズム論）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが、実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである。情報爆発といわれる現代社会において、いかにデータを構造化し、必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である。本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する。講義内容は、文系の学生でも理解できるように、ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ。</p> <p>【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要、基礎知識、目標</li> <li>2. リスト</li> <li>3. スタックとキュー</li> <li>4. 再帰</li> <li>5. 計算量解析</li> <li>6. 解析木</li> <li>7. 二分探索木</li> <li>8. ソート1</li> <li>9. ソート2</li> <li>10. 二分探索</li> <li>11. 平衡木</li> <li>12. ハッシュ</li> <li>13. グラフ</li> <li>14. 動的計画法</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する。 また、出される課題やレポートなどを完成して提出する。		
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する。		
参考文献	参考サイト： <a href="http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html">http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html</a>		
評価方法	授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(マルチメディア論 a)	担当者	田中 雅英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>マルチメディアというのは、文字だけに限らず画像（写真を含む）や音声もまとめて扱うことを意味しているが、ここでは画像（特に動画）に的を絞る。動画などは今やインターネットの世界では日常的事物になっているが、それはブログなどでただ単に指定通りに張り付けるだけであり、その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理はパラパラ漫画にも見受けられるが、その処理などを理解し、インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようにすることを目指す。もちろんこれは、ソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、自ら作画し、それを動かせるようにすることから始める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. イラストの作成①</li> <li>3. イラストの作成②</li> <li>4. イラストの作成③</li> <li>5. イラストの作品制作</li> <li>6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン</li> <li>7. シンボルの作成、保存。レイヤーの利用</li> <li>8. トゥイーンアニメーション</li> <li>9. シェイプトゥイーン①</li> <li>10. シェイプトゥイーン②</li> <li>11. 作品の制作①</li> <li>12. 作品の制作②</li> <li>13. 作品の制作③</li> <li>14. 作品の制作④</li> <li>15. 作品の制作予備日</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	基本的な図形の処理をマスターしておくこと		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	作成した作品を持って評価する		

08年度以降	自然・環境・人間2(マルチメディア論 b)	担当者	田中 雅英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>研修発表、プレゼンなどにおいて、効果的な方法は、言うまでもなく文字だけではなく、画像、写真などを適宜用いることである。インターネットの世界ではそれこそありとあらゆるものが現れている。それらを有効に利用することにより、アピールの効果は何倍にもなるであろう。</p> <p>ここではインターネット上のHPや、ユーチューブの動画などの取り込みを行うことによって、最終的に発表するという、いわゆるプレゼンをいかに効果的にできるかを学ぶことを主眼とする。そして実際にプレゼンをすることによってその効果を実感することを主眼とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 画像、写真のワードへの取り込み</li> <li>2. HPのワードへの取り込み（スクリーンショット）</li> <li>3. 著作権、肖像権などの注意</li> <li>4. 画像などのパワーポイントへの取り込み</li> <li>5. ユーチューブの動画の取り込み①</li> <li>6. ユーチューブの動画の取り込み②</li> <li>7. ユーチューブの動画の取り込み③</li> <li>8. 動画の取り込みに際してのNG集</li> <li>9. プレゼン実習①</li> <li>10. プレゼン実習②</li> <li>11. プレゼン実習③</li> <li>12. プレゼン実習④</li> <li>13. プレゼン実習⑤</li> <li>14. プレゼン実習予備日</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ワード、エクセルの扱いには習熟しておくことが望ましい		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	プレゼン実習のでき映えによって評価する		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(文化について調べて書く a)	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化に関わる、調査にもとづいたレポートや論文を書くことができる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>ここで言う調査とは、フィールド調査・文献調査を含む。</p> <p>文化人類学や関連の学問（地域研究・社会学・民俗学など）の授業を履修したことがある者の参加を歓迎する。</p> <p>本授業は実践研究形式で行う。履修生には授業への積極的な参加を求める。</p> <p>毎年具体的なテーマを設定して研究・調査をしてもらう。本年度のテーマは「風景・景観」とする予定である。</p> <p>※授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. テーマについての文献学習：文化の概念</li> <li>3. テーマについての文献学習：見ること</li> <li>4. テーマについて文献学習：風景</li> <li>5. 模擬調査準備</li> <li>6. 模擬調査</li> <li>7. 文献調査実習：見ること</li> <li>8. 文献調査実習：風景</li> <li>9. 調査成果報告</li> <li>10. 観察実習</li> <li>11. フィールド調査準備</li> <li>12. フィールド調査実習：中間報告</li> <li>13. フィールド調査実習：データ整理</li> <li>14. 調査成果報告</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を課題に反映させること。		
テキスト	教材は教員が用意するが、調査用に指示したものを持参する必要がある（ノートなど）。		
参考文献	参考文献については授業内で指示する。		
評価方法	平常点（授業への参加度等）[30%]、授業内課題・調査課題[70%]を評価対象とする。調査課題・授業内課題の全提出を成績評価の必須条件とする。一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2（人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	担当者	中村健治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地球環境は人間活動により大きく変化していると同時に人間社会は自然環境に大きく影響を受けています。この自然環境について、日本を中心として講義をします。世界の環境問題の一つは水問題ですが、日本は水に恵まれていると言われています。この水についてその量や水質について講義します。また日本が雨の多いモンスーンアジアの中にあることを理解してもらいます。その後、日本各地の気候について述べます。また、量的な感覚を持ってもらうことも目的としています。このため、講義内容に関わる話題について概算の計算練習も入れます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 日本の水問題</li> <li>3. 川と環境</li> <li>4. 水の管理</li> <li>5. 水と防災</li> <li>6. 水の浄化</li> <li>7. アジアモンスーンと日本</li> <li>8. コメ</li> <li>9. 世界の気候環境（1）</li> <li>10. 世界の気候環境（2）</li> <li>11. 日本の気候（1）</li> <li>12. 日本の気候（2）</li> <li>13. 漁業と海</li> <li>14. 衛星リモートセンシング</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回講義テーマを示すのでそれについて考え、事後は講義資料をポータルに載せるので復習してください。		
テキスト	特に無し。		
参考文献	特に無し。		
評価方法	毎回行う小論文（30%）と試験（70%）で評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(スポーツコーチ学b)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。</p> <p>[概要] アリーナで種目により担当者と受講者に分かれて、コーチングの実践・実習を行う。</p> <p>注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成</li> <li>3. バスケットボール&amp;フットサル研究</li> <li>4. バスケットボール&amp;フットサル実技①</li> <li>5. バスケットボール&amp;フットサル実技②</li> <li>6. バドミントン&amp;卓球研究</li> <li>7. バドミントン&amp;卓球実技①</li> <li>8. バドミントン&amp;卓球実技②</li> <li>9. バレーボール研究</li> <li>10. バレーボール実技①</li> <li>11. バレーボール実技②</li> <li>12. スポーツテスト研究</li> <li>13. スポーツテスト実技①</li> <li>14. スポーツテスト実技②</li> <li>15. スポーツ指導評価</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間2(スポーツコーチ学 a)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕  スポーツ選手の競技力向上には運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへのかかわり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。</p> <p>〔講義概要〕  実際のスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。  ☆35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので室内および屋外用スポーツシューズと運動に相応しい服装を用意すること</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 運動強度測定 (屋内スポーツ)</li> <li>3. 運動強度測定 (屋外スポーツ)</li> <li>4. フィジカルテストの基礎</li> <li>5. フィジカルテストの実践 (グループワーク)</li> <li>6. フィジカルテストの分析 (グループワーク)</li> <li>7. 動作分析の基礎</li> <li>8. 動作分析の実践－屋内 (グループワーク)</li> <li>9. 動作分析の実践－屋外 (グループワーク)</li> <li>10. ゲーム分析の基礎</li> <li>11. ゲーム分析の実践 (グループワーク)</li> <li>12. 成果発表 (グループ①、②)</li> <li>13. 成果発表 (グループ③、④)</li> <li>14. 成果発表 (グループ⑤、⑥)</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各種スポーツに必要な身体能力、技術について調べ、講義内で得られたデータをもとに分析すること		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	『コーチング学への招待』『運動生理学の基礎と発展』		
評価方法	授業への参加態度・貢献度 (50%)、レポート (30%)、発表 (準備を含む：20%) で総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(生理学Ⅰ)	担当者	依田 珠江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理(ことわり)」を考える学問である。私たちのからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能システムの器官と働きを理解することを目指す。</p> <p>〔講義概要〕 本講義では身体の仕組みや機能について概説する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士(グループにわかれて)で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・自己紹介</li> <li>2. 生理学の基礎 - ホメオスタシスって -</li> <li>3. 血液・体液 - 体の中に海? -</li> <li>4. 呼吸・循環 - 息して生きてる・高血圧低血圧 -</li> <li>5. 消化・吸収 - 食べ物の行方 -</li> <li>6. 代謝・体温 - からだを温めると健康によい? -</li> <li>7. 内分泌 - ホルモン、男らしさ女らしさ</li> <li>8. 神経 - 「運動神経」がない人はいない! -</li> <li>9. 感覚 - 第6感? -</li> <li>10. 筋・骨 - からだの屋台骨 -</li> <li>11. 免疫 - からだの防衛隊 -</li> <li>12. 「からだ」の情報交換会 (グループ発表①②③)</li> <li>13. 「からだ」の情報交換会 (グループ発表④⑤⑥)</li> <li>14. 「からだ」の情報交換会 (グループ発表⑦⑧⑨)</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること		
<b>テキスト</b>	特に指定しない(必要に応じてプリント等を配布する)。		
<b>参考文献</b>	『はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ2生理学』『イラストでまなぶ生理学』		
<b>評価方法</b>	授業への参加態度・貢献度(30%)、授業内レポート(20%)、学期末レポート(30%)、発表(準備を含む:20%)により総合的に判断する。		

08年度以降	自然・環境・人間2(生理学Ⅱ)	担当者	依田 珠江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義では、ヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。</p> <p>〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎をもとに、秋学期の生理学Ⅱでは私たちの身体の中核である脳とその機能に焦点をあてて講義する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士(グループに分かれて)で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・自己紹介</li> <li>2. 神経科学の基礎</li> <li>3. 中枢神経系(大脳・小脳・脳幹・脊髄)</li> <li>4. 末梢神経系</li> <li>5. ニューロン・シナプス・神経伝達物質</li> <li>6. 聴覚・平衡感覚・体性感覚</li> <li>7. 味覚・視覚</li> <li>8. 脳・脊髄による運動制御</li> <li>9. 脳と睡眠 - なぜ眠る? -</li> <li>10. 学習と記憶</li> <li>11. 情動 - 好き嫌い -</li> <li>12. 「脳機能」の情報交換会 (グループ発表①②③)</li> <li>13. 「脳機能」の情報交換会 (グループ発表④⑤⑥)</li> <li>14. 「脳機能」の情報交換会 (グループ発表⑦⑧⑨)</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること		
<b>テキスト</b>	特に指定しない(必要に応じてプリント等を配布する)。		
<b>参考文献</b>	『神経科学テキスト 脳と行動』『神経科学-脳の探求-』		
<b>評価方法</b>	授業への参加態度・貢献度(30%)、授業内レポート(20%)、学期末レポート(30%)、発表(準備を含む:20%)により総合的に判断する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	自然・環境・人間2(からだの仕組み)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【講義目的】</b>          普段、何気なく生活している中では気づかないが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が溢れている。まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。</p> <p><b>【講義概要】</b>          講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析し、レポートにまとめることで理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・自己紹介</li> <li>2. 加齢と身体能力</li> <li>3. 棒反応時間測定 - 反応の速さに影響するのは？ -</li> <li>4. 棒反応時間測定 - データのまとめ方（グループワーク）</li> <li>5. 血圧調節の基礎 - 身近な健康のバロメータ -</li> <li>6. 血圧調節実験 - 姿勢変化、運動 -</li> <li>7. 血圧調節 - まとめ（グループでデータの解析）</li> <li>8. 体温調節の基礎 - 冷え症・低体温、熱中症 -</li> <li>9. 体温調節実験 - 寒冷血管拡張反応 -</li> <li>10. 体温調節 - まとめ（グループでデータの解析）</li> <li>11. 運動調節の基礎 - スムーズに動くには -</li> <li>12. 運動調節実験 - プリズム順応 -</li> <li>13. 運動調節 - まとめ（グループでデータの解析）</li> <li>14. 成果発表</li> <li>15. 総合討論</li> </ol>	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各テーマの実験データに関連する論文を調査すること、また生理機能の理解を深めるため実験のレポートを都度作成し、提出すること。		
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。		
参考文献	『生理学実習 NAVI』		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（40%）とレポート（60%）で総合的に評価する。		

08年度以降	自然・環境・人間2(リーダーシップ論)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。</p> <p>グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目的とします。授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。いくつかのグループによって提案された企画は投票によって1位を決定し、1位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。グループでの話し合いと実践を中心としたアクティブラーニングを行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 集団形成：アイスブレイキング</li> <li>3 グループワークによる問題解決活動と発表</li> <li>4 イニシアティブゲームによる問題解決活動1</li> <li>5 イニシアティブゲームによる問題解決活動2</li> <li>6 グループ内での課題についての討論と発表</li> <li>7 リーダーシップ理論</li> <li>8 イベント企画作成の手順</li> <li>9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論</li> <li>10 イベント企画案の作成</li> <li>11 イベント企画プレゼンテーション第1回</li> <li>12 イベント企画プレゼンテーション第2回</li> <li>13 イベントの実施</li> <li>14 イベントの評価とまとめ</li> <li>15 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にリーダーシップ理論について学習し、授業で実践した方法を所属する集団で実施すること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じ資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度 (60%)、小レポート・期末レポート (30%)、企画コンテスト (10%) を評価します。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

(春)	スポーツ・レクリエーション(3 ボールスポーツ a)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 老若男女が一緒になって楽しめるようそれぞれのチームスポーツの特性を理解し、時にはルールを参加者に合わせて変更しながら受講生同士が協力して楽しめるよう工夫し、生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。</p> <p>【講義概要】 キンボール、タグラグビー、ユニホックの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。</p> <p>【受講生への要望】 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、スポーツにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うように。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・自己紹介</li> <li>2. キンボールー基本技術、ルールの確認ー</li> <li>3. キンボールールールを工夫してみようー</li> <li>4. キンボールーチーム戦術ー</li> <li>5. キンボールーリーグ戦</li> <li>6. タグラグビーー基本技術、ルールの確認ー</li> <li>7. タグラグビーールールを工夫してみようー</li> <li>8. タグラグビーーチーム戦術ー</li> <li>9. タグラグビーーリーグ戦</li> <li>10. ユニホックー基本技術、ルールの確認ー</li> <li>11. ユニホックールールを工夫してみようー</li> <li>12. ユニホックーチーム戦術ー</li> <li>13. ユニホックーリーグ戦</li> <li>14. 3種目を復習</li> <li>15. 3種目を発展させる</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にキンボール、タグラグビー、ユニホックの発祥の背景やルールを調べ、必要な技術の習得方法を考え、参加者に応じてルールを変更する等工夫するため、各種目の特性を理解する		
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(3 ボールスポーツ b)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 老若男女が一緒になって楽しめるようそれぞれのチームスポーツの特性を理解し、時にはルールを参加者に合わせて変更しながら受講生同士が協力して楽しめるよう工夫し、生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。</p> <p>【講義概要】 バレーボール、キンボール、バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。</p> <p>【受講生への要望】 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、スポーツにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うように。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バレーボールー基本技術、ルールの確認ー</li> <li>2. バレーボールールールを工夫してみようー</li> <li>3. バレーボールーチーム戦術ー</li> <li>4. バレーボールーリーグ戦ー</li> <li>5. バレーボールー順位決定戦ー</li> <li>6. キンボールー基本技術、ルールの確認ー</li> <li>7. キンボールールールを工夫してみようー</li> <li>8. キンボールーチーム戦術ー</li> <li>9. キンボールーリーグ戦</li> <li>10. キンボールー順位決定戦ー</li> <li>11. バスケットボールー基本技術、ルールの確認ー</li> <li>12. バスケットボールールールを工夫してみようー</li> <li>13. バスケットボールーチーム戦術ー</li> <li>14. バスケットボールーリーグ戦</li> <li>15. バスケットボールー順位決定戦ー</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にバレーボール、キンボール、バスケットボールの発祥の背景やルールを調べ、必要な技術の習得方法を考え、参加者に応じてルールを変更する等工夫するため、各種目の特性を理解する		
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）		

(春)	スポーツ・レクリエーション(インラインスケート a)_火 1、土1、土2	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義の目的】</b> インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全能力とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目的にします。</p> <p><b>【講義概要】</b> 実施場所は室内アリーナです。インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。足首上までのソックスを必ず着用すること。</p>		<p>第1回：オリエンテーションと用具あわせ（更衣不要ですがソックスを準備して下さい）立ち方・歩き方・とまり方 第2回：前進ひょうたん型 第3回：後進ひょうたん型 第4回：前進ツイスト 第5回：後進ツイスト 第6回：カーブと体のコントロール 第7回：片足で長く滑る 第8回：インラインホッケーの基本 第9回：インラインホッケーを楽しもう 第10回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第11回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第12回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第13回：「方向転換」カーブの練習 第14回：「方向転換」スリーターン 第15回：総合滑走</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じプリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(インラインスケート b)_火 1、土1	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義の目的】</b> 春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目的とします。 秋学期からの履修者は、春学期の基本動作および技術を学習します。</p> <p><b>【講義概要】</b> インラインスケートの技術の応用技術であるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーを積極的に行います。学生の技術達成度によって、個々の指導内容を変えていきます。</p>		<p>第1回：インラインホッケーの楽しみ方 第2回：パイロンテクニックその1 大きな動き 第3回：パイロンテクニックその2 小さな動き 第4回：ターン スリーターン 第5回：ターン モホークターン 第6回：基本的なストップ 第7回：ストップのバリエーション 第8回：ジャンプ 第9回：フォワードクロッシング 足運びの練習 第10回：フォワードクロッシング 第11回：バックワードクロッシングの初歩 第12回：インラインホッケーリーグ戦 第1回 第13回：インラインホッケーリーグ戦 第2回 第14回：インラインホッケーリーグ戦 第3回 第15回：インラインホッケーリーグ戦 第4回 インラインホッケーは、毎回授業時間後半で行います。</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じプリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーa)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] インラインホッケーのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。</p> <p>[概要] 色々なメンバーの組み合わせにより簡易ゲームを行う。 男子20名、女子20名を定員とする</p> <p>注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 写真付受講票の作成とスキルテスト</li> <li>3. 個人スキル練習</li> <li>4. 簡易ゲーム練習①</li> <li>5. 簡易ゲーム練習②</li> <li>6. 個人スキル練習</li> <li>7. ゲーム (リーグ戦①)</li> <li>8. ゲーム (リーグ戦②)</li> <li>9. 個人スキル練習</li> <li>10. 2チームでゲーム練習①</li> <li>11. 2チームでゲーム練習②</li> <li>12. 個人スキル練習</li> <li>13. スキル別ゲーム①</li> <li>14. スキル別ゲーム②</li> <li>15. ゲームの進め方のまとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

(春)	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 a)	担当者	依田 珠江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【講義概要】 いつでもどこでも気軽にからだを動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。主にトレーニングルームで行う。</p> <p>【受講生への要望】 各自、室内用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給をこまめに行うように。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 自分の「からだ」をチェックしよう</li> <li>3. 自分の『ウェルネス』について考えてみよう</li> <li>4. からだをほぐしてリラックス (ストレッチポール)</li> <li>5. ストレッチのススメ</li> <li>6. バランスボールを使ったエクササイズ基礎</li> <li>7. バランスボールを使ったエクササイズ応用</li> <li>8. 自分の体重を使って筋力アップ</li> <li>9. きれいな姿勢のためのエクササイズ</li> <li>10. 有酸素運動を理解しよう</li> <li>11. ヨガとは</li> <li>12. ヨガの基本ポーズー座位中心にー</li> <li>13. ヨガの基本ポーズー立位中心にー</li> <li>14. ヨガの基本ポーズー太陽礼拝ー</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	日々の自身の体調をチェックし、授業内で学んだ健康管理の方法を実践するように努めること		
<b>テキスト</b>	特になし (必要に応じてプリント等を配布する)。		
<b>参考文献</b>	授業内で紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業への参加態度・貢献度 (80%)、健康管理方法の理解度 (20%)		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 b)	担当者	依田 珠江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【講義概要】 いつでもどこでも気軽にからだを動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。主にトレーニングルームで行う。</p> <p>【受講生への要望】 各自、室内用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給をこまめに行うように。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏休みの生活を振り返る</li> <li>2. 自分の「からだ」をチェックしよう</li> <li>3. ステップエクササイズ (基本編)</li> <li>4. ステップエクササイズ (基本の復習と応用編)</li> <li>5. ステップエクササイズ (応用編)</li> <li>6. バランスボールを使ったエクササイズ基礎</li> <li>7. バランスボールを使ったエクササイズ応用</li> <li>8. ヨガの基本ポーズー座位中心にー</li> <li>9. ヨガの基本ポーズー立位中心にー</li> <li>10. ヨガでリラックス</li> <li>11. ヨガで元気に</li> <li>12. 正しいウォーキング</li> <li>13. 草加松原を散策</li> <li>14. からだをあたためよう</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	日々の自身の体調をチェックし、授業内で学んだ健康管理の方法を実践するように努めること		
<b>テキスト</b>	特になし (必要に応じてプリント等を配布する)。		
<b>参考文献</b>	授業内で紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業への参加態度・貢献度 (80%)、健康管理方法の理解度 (20%)		

(春)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)_火1、火2	担当者	重藤 誠市郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。</p> <p>授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はダブルスのゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。授業終盤には技術の習熟度を測る実技テストを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 写真付受講票の作成とアイスブレイク</li> <li>3. フォアハンドストロークの基本</li> <li>4. フォアハンドストローク (ドライブ、スライス)</li> <li>5. バックハンドストロークの基本</li> <li>6. バックハンドストローク (ドライブ、スライス)</li> <li>7. サービス&amp;レシーブ</li> <li>8. ボレー&amp;スマッシュ</li> <li>9. サーブ&amp;ボレー</li> <li>10. ダブルスチャンピオンシップゲーム (5分ローテ)</li> <li>11. ダブルスチャンピオンシップゲーム (5分ローテ)</li> <li>12. ダブルスゲーム (3ゲームマッチ)</li> <li>13. ダブルスゲーム (5ゲームマッチ)</li> <li>14. 実技テスト ダブルスゲーム (1セットマッチ)</li> <li>15. 実技テスト (予備日) ダブルスゲーム (1セットマッチ)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。		
<b>テキスト</b>	必要に応じて紹介する。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて紹介する。		
<b>評価方法</b>	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)_火1、火2	担当者	重藤 誠市郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。</p> <p>試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、円滑に進めるためにルールやマナーを理解する。授業終盤に技術の習熟度を測る実技テストとグループワークを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス及び実技</li> <li>2. 写真付受講票の作成とアイスブレイク</li> <li>3. 回り込みフォアハンド</li> <li>4. アングルショット</li> <li>5. ボーチ、ローボレー</li> <li>6. スピンサービス、フラットサービス</li> <li>7. ダブルス雁行陣</li> <li>8. ダブルス平行陣</li> <li>9. ダブルスチャンピオンシップゲーム (3ゲームマッチ)</li> <li>10. ダブルスチャンピオンシップゲーム (5ゲームマッチ)</li> <li>11. 実技テスト、グループワーク①</li> <li>12. 実技テスト (予備日)、グループワーク②</li> <li>13. グループワーク③</li> <li>14. グループワーク④、グループ対抗戦</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。		
<b>テキスト</b>	必要に応じて紹介する。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて紹介する。		
<b>評価方法</b>	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中 茂宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。</p> <p>練習、ゲームにおける trial &amp; error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎技術のトレーニングをおこなう。</li> <li>・ルール戦術について理解を深める。</li> <li>・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。</li> <li>・技能テストをおこなう。</li> <li>・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。</li> <li>・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 体慣らし</li> <li>3 サービス、ストローク、ボレー等の練習</li> <li>4 ルールの確認</li> <li>5 ルールの確認</li> <li>6 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>7 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>8 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>9 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>10 技術練習</li> <li>11 技術練習</li> <li>12 技術練習</li> <li>13 シングルス、ダブルスのゲーム</li> <li>14 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>15 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組む姿勢 50%、レポートの内容 30%、技能の向上 20% で評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中 茂宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。</p> <p>練習、ゲームにおける trial &amp; error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎技術のトレーニングをおこなう。</li> <li>・ルール戦術について理解を深める。</li> <li>・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。</li> <li>・技能テストをおこなう。</li> <li>・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。</li> <li>・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 体慣らし</li> <li>3 サービス、ストローク、ボレー等の練習</li> <li>4 ルールの確認</li> <li>5 ルールの確認</li> <li>6 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>7 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>8 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>9 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>10 技術練習</li> <li>11 技術練習</li> <li>12 技術練習</li> <li>13 シングルス、ダブルスのゲーム</li> <li>14 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> <li>15 シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組む姿勢 50%、レポートの内容 30%、技能の向上 20% で評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)_金 1、土 1	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第1の目的とする。</p> <p>次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上とを図ることを第2の目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>基本的には、初心者から中級レベルが4面にわかれて練習を行う。</p> <p>授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なグループにより行う。</p> <p>受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 写真付受講票の作成とスキルテスト</li> <li>3. フォアハンドストローク</li> <li>4. バックハンドストローク</li> <li>5. ボレー&amp;スマッシュ</li> <li>6. サービス&amp;レシーブ</li> <li>7. サービス&amp;レシーブ&amp;クロスラリー</li> <li>8. ダブルスゲーム①</li> <li>9. ダブルスゲーム②</li> <li>10. ダブルスゲーム③</li> <li>11. ダブルスゲーム④</li> <li>12. ダブルスゲーム⑤</li> <li>13. ダブルスゲーム⑥</li> <li>14. ダブルスゲーム⑦</li> <li>15. ダブルスゲームの進め方のまとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献	適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)_金 1、土 1	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>硬式テニスのシングルス・ダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。</p> <p>[概要]</p> <p>春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。</p> <p>色々な組み合わせによりゲームを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実技とガイダンス</li> <li>2. 写真付受講票作成とスキルテスト</li> <li>3. シングルスゲーム①</li> <li>4. シングルスゲーム②</li> <li>5. ダブルスゲーム①</li> <li>6. ダブルスゲーム②</li> <li>7. ダブルスゲーム③</li> <li>8. ダブルスゲーム④</li> <li>9. ダブルスゲーム⑤</li> <li>10. ダブルスゲーム⑥</li> <li>11. ダブルスゲーム⑦</li> <li>12. ダブルスゲーム⑧</li> <li>13. ダブルスゲーム⑨</li> <li>14. ダブルスゲーム⑩</li> <li>15. シングルスゲーム・ダブルスゲームのまとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献	適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)_金 1、金 2	担当者	小笠原 慶太
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。</p> <p>授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。</p> <p>他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。</p> <p><b>【受講者へ】</b></p> <p>民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。春学期は、登録時にあらかじめ10,000円（入場料、ボール代）を徴収させていただきます。また危険防止の為、練習中のグローブの着用を義務付けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 学内にてスウィング作り</li> <li>3. 学内にてスウィング作り</li> <li>4. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム）</li> <li>5. ゴルフ練習場にて実習（個別指導）</li> <li>6. ゴルフ練習場にて実習（個別指導）</li> <li>7. ゴルフ練習場にて実習（アプローチ）</li> <li>8. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン）</li> <li>9. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン）</li> <li>10. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン）</li> <li>11. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン）</li> <li>12. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド）</li> <li>13. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド）</li> <li>14. ゴルフ練習場にて実技テスト</li> <li>15. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ゴルフの動画をみるなど、イメージトレーニングをして下さい。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	実技テスト 20%、技術の向上度 20%、授業態度及び貢献度 60%で評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)_金 1、金 2	担当者	小笠原 慶太
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。</p> <p>授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。</p> <p>他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。</p> <p><b>【受講者へ】</b></p> <p>民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。秋学期は、登録時にあらかじめ10,000円（入場料、ボール代）を徴収させていただきます。また危険防止の為、練習中のグローブの着用を義務付けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内にてスウィング作り</li> <li>2. 学内にてスウィング作り</li> <li>3. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム）</li> <li>4. ゴルフ練習場にて実習（個別指導）</li> <li>5. ゴルフ練習場にて実習（個別指導）</li> <li>6. ゴルフ練習場にて実習（アプローチ）</li> <li>7. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン）</li> <li>8. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン）</li> <li>9. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン）</li> <li>10. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン）</li> <li>11. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド）</li> <li>12. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド）</li> <li>13. ゴルフ練習場にて実技テスト</li> <li>14. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習）</li> <li>15. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ゴルフの動画をみるなど、イメージトレーニングをして下さい。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	実技テスト 20%、技術の向上度 20%、授業態度及び貢献度 60%で評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング a)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。</p> <p>学生センター2階のトレーニングルームを使用して授業を行い、春学期の受講は男子学生のみとする。</p> <p>毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 写真付登録票の作成</li> <li>3. 現在のコンディションの評価</li> <li>4. 二人組骨盤調整と姿勢①&amp;個別トレーニング</li> <li>5. 二人組骨盤調整と姿勢②&amp;個別トレーニング</li> <li>6. 二人組骨盤調整と姿勢③&amp;個別トレーニング</li> <li>7. 二人組操体法①&amp;個別トレーニング</li> <li>8. 二人組操体法②&amp;個別トレーニング</li> <li>9. 二人組操体法③&amp;個別トレーニング</li> <li>10. 身体の動きとコンディション①</li> <li>11. 身体の動きとコンディション②</li> <li>12. 身体の動きとコンディション③</li> <li>13. 骨格の位置と動き①</li> <li>14. 骨格の位置と動き②</li> <li>15. 自己のコンディションの評価</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をして授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 60%、課題 20%、参加後の変化 20%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング b)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。</p> <p>学生センター2階のトレーニングルームを使用して授業を行い、秋学期の受講は女子学生のみとする。</p> <p>毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 写真付登録票の作成</li> <li>3. 現在のコンディションの評価</li> <li>4. 二人組骨盤調整と姿勢①&amp;個別トレーニング</li> <li>5. 二人組骨盤調整と姿勢②&amp;個別トレーニング</li> <li>6. 二人組骨盤調整と姿勢③&amp;個別トレーニング</li> <li>7. 二人組操体法①&amp;個別トレーニング</li> <li>8. 二人組操体法②&amp;個別トレーニング</li> <li>9. 二人組操体法③&amp;個別トレーニング</li> <li>10. 身体の動きとコンディション①</li> <li>11. 身体の動きとコンディション②</li> <li>12. 身体の動きとコンディション③</li> <li>13. 骨格の位置と動き①</li> <li>14. 骨格の位置と動き②</li> <li>15. 自己のコンディションの評価</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をして授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 60%、課題 20%、参加後の変化 20%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション (コンディショントレーニング a)	担当者	山口 知恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コンディショントレーニングをするにあたって、まずは自分自身の体についてよく理解をし、自分の体力の現状やコンディションを把握します。</p> <p>次に、自分自身の目標を各自設定します。</p> <p>その目標に向かってトレーニングをしていく中で、トレーニング機器の正しい使用法を理解し、安全にトレーニングを行うことができる能力を身につけます。</p> <p>そして、正しいトレーニング法を身につけ、より効果的なトレーニングを行える能力を養うことを目的とします。</p> <p>受講は女子学生のみとします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. トレーニングの基礎知識</li> <li>3. トレーニング機器の使い方</li> <li>4. ストレッチ、自重トレーニングの実際</li> <li>5. トレーニング①</li> <li>6. トレーニング②</li> <li>7. トレーニング③</li> <li>8. トレーニング④</li> <li>9. トレーニング⑤</li> <li>10. 体の動きとコンディション①</li> <li>11. 体の動きとコンディション②</li> <li>12. 体の動きとコンディション③</li> <li>13. 体の動きとコンディション④</li> <li>14. 体の動きとコンディション⑤</li> <li>15. まとめと評価</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自、体調管理をしてこること トレーニングに関する書籍を読むこと、凡そ 30 分		
<b>テキスト</b>	授業中に適宜紹介します		
<b>参考文献</b>	授業中に適宜紹介します		
<b>評価方法</b>	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度 (60%) 積極性、実践力 (20%) 協調性 (20%)		

(秋)	スポーツ・レクリエーション (コンディショントレーニング b)	担当者	山口 知恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コンディショントレーニングをするにあたって、まずは自分自身の体についてよく理解をし、自分の体力の現状やコンディションを把握します。</p> <p>次に、自分自身の目標を各自設定します。</p> <p>その目標に向かってトレーニングをしていく中で、トレーニング機器の正しい使用法を理解し、安全にトレーニングを行うことができる能力を身につけます。</p> <p>そして、正しいトレーニング法を身につけ、より効果的なトレーニングを行える能力を養うことを目的とします。</p> <p>受講は女子学生のみとします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. トレーニングの基礎知識</li> <li>3. トレーニング機器の使い方</li> <li>4. ストレッチ、自重トレーニングの実際</li> <li>5. トレーニング①</li> <li>6. トレーニング②</li> <li>7. トレーニング③</li> <li>8. トレーニング④</li> <li>9. トレーニング⑤</li> <li>10. 体の動きとコンディション①</li> <li>11. 体の動きとコンディション②</li> <li>12. 体の動きとコンディション③</li> <li>13. 体の動きとコンディション④</li> <li>14. 体の動きとコンディション⑤</li> <li>15. まとめと評価</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自、体調管理をしてこること トレーニングに関する書籍を読むこと、凡そ 30 分		
<b>テキスト</b>	授業中に適宜紹介します		
<b>参考文献</b>	授業中に適宜紹介します		
<b>評価方法</b>	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度 (60%) 積極性、実践力 (20%) 協調性 (20%)		

(春)	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目的】</p> <p>1. 好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。</p> <p>2. サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。</p> <p>【講義の概要】</p> <p>授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。</p> <p>天候等によりグラウンドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。</p> <p>【学生への要望】</p> <p>「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 「楽しくプレーする」を考える①</p> <p>3. 「楽しくプレーする」を考える②</p> <p>4. 「シンプルにプレーする」を考える①</p> <p>5. 「シンプルにプレーする」を考える②</p> <p>6. 「プレーへの関わり」を増やす①</p> <p>7. 「プレーへの関わり」を増やす②</p> <p>8. 攻撃に人数をかける①</p> <p>9. 攻撃に人数をかける②</p> <p>10. 動きながらボールを受ける①</p> <p>11. 動きながらボールを受ける②</p> <p>12. 1 つ 2 つ先のプレーを考える①</p> <p>13. 1 つ 2 つ先のプレーを考える②</p> <p>14. 一人で守備はできない①</p> <p>15. 一人で守備はできない②</p>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイトルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。「ポゼッション」、「カウンター」「連動する」、「前から守備をする」などです。		
テキスト	なし		
参考文献	西部謙司・北健一郎「サッカー戦術が簡単に分かる本」(マイナビ文庫)		
評価方法	授業でのトレーニングや試合に積極的に取り組む姿勢 70%、他者を思いやる姿勢・プレーなど 30%、遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目的】</p> <p>1. 好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。</p> <p>2. サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。</p> <p>【講義の概要】</p> <p>授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。</p> <p>天候等によりグラウンドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。</p> <p>【学生への要望】</p> <p>「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 「楽しくプレーする」を考える①</p> <p>3. 「楽しくプレーする」を考える②</p> <p>4. 「シンプルにプレーする」を考える①</p> <p>5. 「シンプルにプレーする」を考える②</p> <p>6. 「プレーへの関わり」を増やす①</p> <p>7. 「プレーへの関わり」を増やす②</p> <p>8. 攻撃に人数をかける①</p> <p>9. 攻撃に人数をかける②</p> <p>10. 動きながらボールを受ける①</p> <p>11. 動きながらボールを受ける②</p> <p>12. 1 つ 2 つ先のプレーを考える①</p> <p>13. 1 つ 2 つ先のプレーを考える②</p> <p>14. 一人で守備はできない①</p> <p>15. 一人で守備はできない②</p>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイトルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。「ポゼッション」、「カウンター」「連動する」、「前から守備をする」などです。		
テキスト	なし		
参考文献	西部謙司・北健一郎「サッカー戦術が簡単に分かる本」(マイナビ文庫)		
評価方法	授業でのトレーニングや試合に積極的に取り組む姿勢 70%、他者を思いやる姿勢・プレーなど 30%、遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	原仲 碧
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的]</p> <p>1. サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関わるための知識や技能の習得。</p> <p>2. サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。</p> <p>[講義概要]</p> <p>受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 観る（何を）トレーニング①</p> <p>3. 観る（いつ）トレーニング②</p> <p>4. ボールを運ぶ技術①（ボールフィーリング、ドリブル）</p> <p>5. ボールを運ぶ技術②（スクリーン、ターン）</p> <p>6. ボールを飛ばす技術①（パス、シュート）</p> <p>7. ボールを飛ばす技術②（ドリブル or パス or シュート）</p> <p>8. ボールを受ける技術①（コントロール）</p> <p>9. ボールを受ける技術②（どこで受けるか）</p> <p>10. ボールを奪う技術①（on the ball の守備）</p> <p>11. ボールを奪う技術②（off the ball の守備）</p> <p>12. オーガナイズを考える①（どうすれば全員楽しめる）</p> <p>13. オーガナイズを考える②（リーグ戦を運営しよう）</p> <p>14. リーグ戦①</p> <p>15. リーグ戦②</p> <p>※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	実践力（50%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（10%）を総合的に評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	原仲 碧
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的]</p> <p>1. サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関わるための知識や技能の習得。</p> <p>2. サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。</p> <p>[講義概要]</p> <p>受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。</p>		<p>1. ガイダンス（ゲーム）</p> <p>2. 基本技術の復習①</p> <p>3. 基本技術の復習②</p> <p>4. 攻撃のグループ戦術①</p> <p>5. 攻撃のグループ戦術②</p> <p>6. 守備のグループ戦術①</p> <p>7. 守備のグループ戦術②</p> <p>8. リーグ戦①</p> <p>9. リーグ戦②</p> <p>10. リーグ戦③</p> <p>11. リーグ戦④</p> <p>12. トーナメント戦①</p> <p>13. トーナメント戦②</p> <p>14. エキシビジョンマッチ①</p> <p>15. エキシビジョンマッチ②</p> <p>※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	実践力（50%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（10%）を総合的に評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(春)	スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックス a)_金 1、金 2	担当者	齋藤 初恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、運動により身体機能の調節を行い、代謝能力を高めるとともに老廃物を排泄しやすい身体づくり、つまりデトックスしやすい身体づくりを目指します。</p> <p>この授業で行う運動は、いずれも自分自身の心身と向き合ったり、楽しんで行うことを目的としていますので、運動の経験が少ない人でも気軽に参加することが出来ます。</p> <p>○コアコンディショニング：ストレッチポールを用いて本来の正しい姿勢へと改善します。また、簡単な運動で体幹を鍛えます。</p> <p>○骨盤調整：骨盤を緩める→整える運動を行い、身体のゆがみを整えます。</p> <p>○ベーシックヨガ：呼吸とポーズを組み合わせることにより、心と体の調和をはかり、心身のリフレッシュを行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要、履修上の諸注意</li> <li>2. コアコンディショニング①</li> <li>3. コアコンディショニング②</li> <li>4. コアコンディショニング③</li> <li>5. コアコンディショニング④</li> <li>6. 骨盤調整①</li> <li>7. 骨盤調整②</li> <li>8. 骨盤調整③</li> <li>9. 骨盤調整④</li> <li>10. 骨盤調整⑤</li> <li>11. ベーシックヨガ①</li> <li>12. ベーシックヨガ②</li> <li>13. ベーシックヨガ③</li> <li>14. ベーシックヨガ④</li> <li>15. ベーシックヨガ⑤</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で行った運動を、自宅でも実践してみてください。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	なし		
<b>評価方法</b>	平常点（90%）、授業への参加態度（10%）により評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックス b)_金 1、金 2	担当者	齋藤 初恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、運動によって身体機能の調整や、代謝機能の向上を目指します。授業で行う運動は、春学期の内容をベースとしながら少しレベルアップして行きますが、秋学期から新たに履修しても十分ついて行ける内容となっています。</p> <p>自分のペースで行うことが可能な運動ばかりなので、運動経験の少ない人、しばらく運動から遠ざかっている人にとっては運動を習慣化するきっかけとして、普段から積極的に運動を行っている人にとっては心身のメンテナンスとして、この授業を活用してほしいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要、履修上の諸注意、コアコンディショニング①</li> <li>2. コアコンディショニング②</li> <li>3. コアコンディショニング③</li> <li>4. コアコンディショニング④</li> <li>5. コアコンディショニング⑤</li> <li>6. 骨盤調整①</li> <li>7. 骨盤調整②</li> <li>8. 骨盤調整③</li> <li>9. 骨盤調整④</li> <li>10. 骨盤調整⑤</li> <li>11. パワーヨガ①</li> <li>12. パワーヨガ②</li> <li>13. パワーヨガ③</li> <li>14. パワーヨガ④</li> <li>15. パワーヨガ⑤</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で行った運動を、自宅でも実践してみてください。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	なし		
<b>評価方法</b>	平常点（90%）、授業への参加態度（10%）により評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a)_木 1、木 2	担当者	萩野 元祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的スキルを高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的スキル練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。</li> <li>2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的スキル練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</li> <li>3. 前回の復習 ゲームの実施</li> <li>4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング） リーグ戦</li> <li>5. 前回の復習。リーグ戦</li> <li>6. リーグ戦</li> <li>7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦</li> <li>8. 前回の復習 リーグ戦</li> <li>9～15. リーグ戦</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ルール、技術面など基本的部分の予習。予習したことが実践できたかの確認。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業態度 40%、取り組み 30%、技術の向上 30%などを総合して評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール b)_木 1、木 2	担当者	萩野 元祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的スキルを高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的スキル練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。</li> <li>2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的スキル練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</li> <li>3. 前回の復習 ゲームの実施</li> <li>4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング） リーグ戦</li> <li>5. 前回の復習。リーグ戦</li> <li>6. リーグ戦</li> <li>7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦</li> <li>8. 前回の復習 リーグ戦</li> <li>9～15. リーグ戦</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ルール、技術面など基本的部分の予習。予習したことが実践できたかの確認。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業態度 40%、取り組み 30%、技術の向上 30%などを総合して評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	神宮司 親治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。</p> <p>〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。</p> <p>〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでほしい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成</li> <li>2. 用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類、持ち方、基本姿勢）</li> <li>3. ボールの打ち方、スイングの基本</li> <li>4. フォアハンド、バックハンドの練習</li> <li>5. サービス、レシーブの練習 簡易ゲーム</li> <li>6. これまでの復習</li> <li>7. カット、スマッシュ</li> <li>8. 審判法とゲームの進め方 シングルスゲーム</li> <li>9. シングルスゲーム</li> <li>10. シングルスゲーム</li> <li>11. ダブルスゲームの進め方</li> <li>12. ダブルスゲーム</li> <li>13. ダブルスゲーム</li> <li>14. まとめ①（シングルスゲーム）</li> <li>15. まとめ②（ダブルスゲーム）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、協調性 20%にて評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	神宮司 親治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。</p> <p>〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。</p> <p>〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでほしい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習 基本練習</li> <li>2. 復習 基本練習</li> <li>3. シングルスゲーム</li> <li>4. シングルスゲーム・リーグ戦</li> <li>5. シングルスゲーム・リーグ戦</li> <li>6. ダブルスゲーム</li> <li>7. ダブルスゲーム・リーグ戦</li> <li>8. ダブルスゲーム・リーグ戦</li> <li>9. シングルス・トーナメント戦</li> <li>10. ダブルス・トーナメント戦</li> <li>11. ミックスダブルス</li> <li>12. ミックスダブルス・リーグ戦</li> <li>13. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム）</li> <li>14. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム・ミックスダブルス）</li> <li>15. 総まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、協調性 20%にて評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	山口 知恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。</p> <p>また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。</p> <p>ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる (ボール遊び)</li> <li>3. 構え、スイングの練習 (フォアハンド、バックハンド)</li> <li>4. シングルスゲーム・ルールの習得</li> <li>5. シングルス・リーグ戦①</li> <li>6. シングルス・リーグ戦②</li> <li>7. シングルス・リーグ戦③</li> <li>8. ダブルスゲーム・ルールの習得</li> <li>9. ダブルスゲーム①</li> <li>10. ダブルスゲーム②</li> <li>11. ダブルスゲーム③</li> <li>12. チーム団体戦・団体戦の形式を習得</li> <li>13. チーム団体戦①</li> <li>14. チーム団体戦②</li> <li>15. チーム団体戦③</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自、体調管理をしてくること 卓球に関する書籍を読むこと、凡そ 30 分		
<b>テキスト</b>	必要に応じて紹介します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて紹介します		
<b>評価方法</b>	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度 (60%) 積極性、実践力 (20%) 協調性 (20%)		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	山口 知恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。</p> <p>また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。</p> <p>ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる (ボール遊び)</li> <li>3. 構え、スイングの練習 (フォアハンド、バックハンド)</li> <li>4. シングルスゲーム・ルールの習得</li> <li>5. シングルス・リーグ戦①</li> <li>6. シングルス・リーグ戦②</li> <li>7. シングルス・リーグ戦③</li> <li>8. ダブルスゲーム・ルールの習得</li> <li>9. ダブルスゲーム①</li> <li>10. ダブルスゲーム②</li> <li>11. ダブルスゲーム③</li> <li>12. チーム団体戦・団体戦の形式を習得</li> <li>13. チーム団体戦①</li> <li>14. チーム団体戦②</li> <li>15. チーム団体戦③</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自、体調管理をしてくること 卓球に関する書籍を読むこと、凡そ 30 分		
<b>テキスト</b>	必要に応じて紹介します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて紹介します		
<b>評価方法</b>	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度 (60%) 積極性、実践力 (20%) 協調性 (20%)		

(春)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)_木 1、 木 2	担当者	今野 廣隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔目的〕 トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてのトレーニングなどがある。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。</p> <p>〔概要〕 授業毎にヘルスチェックと十分な W-up を実施し実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、腰痛及び頸肩腕症候群の予防・改善の為にトレーニング（背そらし、背のばしの運動）、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. フィットネスチェック①</li> <li>3. トレーニングプログラムの作成</li> <li>4. ウォーミングアップの目的と方法</li> <li>5. 有酸素トレーニングの目的と方法</li> <li>6. ウェイトトレーニング（上半身）</li> <li>7. ウェイトトレーニング（下半身）</li> <li>8. 道具を使わない筋力トレーニング</li> <li>9. 体幹筋のトレーニング（背そらし、背のばしの運動）</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. サーキットトレーニングの実際</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 競技力向上を目的としたトレーニング</li> <li>15. フィットネスチェック②</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から体調と健康管理をしてベストコンディションで授業に望み、毎回の実施内容と課題をまとめておくようにする。		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点 60%、授業への参加度・貢献度 40%を基準とし担当者の観察によって総合的に評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)_木 1、 木 2	担当者	今野 廣隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔目的〕 トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてのトレーニングなどがある。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。</p> <p>〔概要〕 トレーニング入門 a と同じ内容で実施する。授業毎にヘルスチェックと十分な W-up を実施し実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、腰痛及び頸肩腕症候群の予防・改善の為にトレーニング（背そらし、背のばしの運動）、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. フィットネスチェック①</li> <li>3. トレーニングプログラムの作成</li> <li>4. ウォーミングアップの目的と方法</li> <li>5. 有酸素トレーニングの目的と方法</li> <li>6. ウェイトトレーニング（上半身）</li> <li>7. ウェイトトレーニング（下半身）</li> <li>8. 道具を使わない筋力トレーニング</li> <li>9. 体幹筋のトレーニング（背そらし、背のばしの運動）</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. サーキットトレーニングの実際</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 競技力向上を目的としたトレーニング</li> <li>15. フィットネスチェック②</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から体調と健康管理をしてベストコンディションで授業に望み、毎回の実施内容と課題をまとめておくようにする。		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点 60%、授業への参加度・貢献度 40%を基準とし担当者の観察によって総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	大森 一伸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。</p> <p>【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選び、毎週トレーニングを実践します。まず、第2週目の授業でトレーニング前の身体組成(体重・体脂肪率)を計測します。その後、毎週、各自でトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。</p> <p>各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康づくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。</p> <p>【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウェアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. トレーニング前計測・講義①</li> <li>3. トレーニング①</li> <li>4. トレーニング②</li> <li>5. トレーニング③</li> <li>6. トレーニング④</li> <li>7. トレーニング⑤</li> <li>8. トレーニング⑥・講義②</li> <li>9. トレーニング⑦</li> <li>10. トレーニング⑧</li> <li>11. トレーニング⑨</li> <li>12. トレーニング⑩</li> <li>13. トレーニング⑪</li> <li>14. トレーニング⑫</li> <li>15. トレーニング後計測とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	石井直方「トレーニングをする前に読む本—最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり」(講談社+α文庫)		
<b>評価方法</b>	トレーニングへ取り組む姿勢 70%、講義後の小テスト 30%、総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	大森 一伸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。</p> <p>【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選び、毎週トレーニングを実践します。まず、第2週目の授業でトレーニング前の身体組成(体重・体脂肪率)を計測します。その後、毎週、各自でトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。</p> <p>各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康づくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。</p> <p>【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウェアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. トレーニング前計測・講義①</li> <li>3. トレーニング①</li> <li>4. トレーニング②</li> <li>5. トレーニング③</li> <li>6. トレーニング④</li> <li>7. トレーニング⑤</li> <li>8. トレーニング⑥・講義②</li> <li>9. トレーニング⑦</li> <li>10. トレーニング⑧</li> <li>11. トレーニング⑨</li> <li>12. トレーニング⑩</li> <li>13. トレーニング⑪</li> <li>14. トレーニング⑫</li> <li>15. トレーニング後計測とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	石井直方「トレーニングをする前に読む本—最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり」(講談社+α文庫)		
<b>評価方法</b>	トレーニングへ取り組む姿勢 70%、講義後の小テスト 30%、総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ a)	担当者	村山 光義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。</p> <p>2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。</p> <p>手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。</p> <p>[受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。</p>		<p>1. インTRODクシヨN (各種スポーツの紹介・説明)</p> <p>2. Flying Disc (フリスビー) を使った競技、投法練習</p> <p>3. // 個人種目 アキュラシー (的通り競技) ほか</p> <p>4. // 集団ゲーム アルティメット</p> <p>5. // ディスクゴルフ ラウンド</p> <p>6. ターゲットバードゴルフ 技術練習</p> <p>7, 8. // ラウンド</p> <p>9. ペタンク</p> <p>10. インディアカ</p> <p>11. フリーテニス</p> <p>12. ユニバーサルホッケー</p> <p>13. ソフトバレーボール</p> <p>14. キンボール</p> <p>15. まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	必要に応じて印刷物を配布します。		
<b>評価方法</b>	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ b)	担当者	村山 光義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。</p> <p>2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。</p> <p>手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。</p> <p>[受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。</p>		<p>1. インTRODクシヨN (各種スポーツの紹介・説明)</p> <p>2. Flying Disc (フリスビー) を使った競技、投法練習</p> <p>3. // 個人種目 アキュラシー (的通り競技) ほか</p> <p>4. // 集団ゲーム アルティメット</p> <p>5. // ディスクゴルフ ラウンド</p> <p>6. ターゲットバードゴルフ 技術練習</p> <p>7, 8. // ラウンド</p> <p>9. ペタンク</p> <p>10. インディアカ</p> <p>11. フリーテニス</p> <p>12. ユニバーサルホッケー</p> <p>13. ソフトバレーボール</p> <p>14. キンボール</p> <p>15. まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	必要に応じて印刷物を配布します。		
<b>評価方法</b>	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa)_月1、月2	担当者	川北 準人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足により、さらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ゲームの特性・ルールの理解</li> <li>3. オフェンス・ファンダメンタル① (ボールハンドリング)</li> <li>4. オフェンス・ファンダメンタル② (ショット)</li> <li>5. オフェンス・ファンダメンタル③ (ドリブル)</li> <li>6. オフェンス・ファンダメンタル④ (パス)</li> <li>7. チーム・オフェンス① (パス及びドリブルからの展開)</li> <li>8. チーム・オフェンス② (ハーフコート2on2/2on2ブレイクダウン)</li> <li>9. チーム・オフェンス③ (ファストブレイク)</li> <li>10. ディフェンス・ファンダメンタル① (オンボールディフェンス)</li> <li>11. ディフェンス・ファンダメンタル② (オフボールディフェンス)</li> <li>12. チーム・ディフェンス</li> <li>13. リーグ編成とイベントマネジメント</li> <li>14. リーグ戦</li> <li>15. リーグ戦</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に次回目標を立てる。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、ルール・テスト 20%		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)_月1、月2、月3	担当者	川北 準人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足により、さらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. オフェンス/ディフェンス・ファンダメンタルの確認①</li> <li>3. オフェンス/ディフェンス・ファンダメンタルの確認②</li> <li>4. パッシング・ゲーム①</li> <li>5. パッシング・ゲーム②</li> <li>6. アーリー・オフェンス①</li> <li>7. アーリー・オフェンス②</li> <li>8. モーション・オフェンス①</li> <li>9. モーション・オフェンス②</li> <li>10. チーム・ディフェンス①</li> <li>11. チーム・ディフェンス②</li> <li>12. リーグ編成とイベントマネジメント</li> <li>13. リーグ戦 (ゲームプランの立案)</li> <li>14. リーグ戦 (スカルセッション)</li> <li>15. リーグ戦 (総括)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に次回目標を立てる		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、ルール・テスト 20%		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa)_木1	担当者	依田 珠江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。</p> <p><b>【講義概要】</b> バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、受講生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。人数によっては男女混合となることもある。</p> <p><b>【受講生への要望】</b> 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、バスケットボールにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うように。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル</li> <li>3. シュートの基礎</li> <li>4. シュート・パスの基礎</li> <li>5. シュート・パス・ドリブルの基礎</li> <li>6. 様々なシュート</li> <li>7. ストップ・ターンの使い方</li> <li>8. パスのもらい方、動きの中でのシュート</li> <li>9. ディフェンスの基本</li> <li>10. 試合への応用</li> <li>11. ゲームの進め方(審判・オフィシャル)</li> <li>12. チーム戦術の基礎</li> <li>13. チーム戦術の発展</li> <li>14. リーグ戦</li> <li>15. 順位決定戦</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ウォームアップの方法やトレーニングなどバスケットボールに必要な情報を調べ、理解を深めること		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への参加態度・貢献度(80%)、技術の向上度(20%)		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)_木1、木2	担当者	依田 珠江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。</p> <p><b>【講義概要】</b> 秋学期はゲーム中心に進める。チームの仲間とコミュニケーションをとり、教えあい、バスケットボールのゲームを楽しみつつ、改善点などを見つけてレベルアップしていこう。人数によっては男女混合となることもある。</p> <p><b>【受講生への要望】</b> 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、バスケットボールにふさわしいウェアで参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファンダメンタルの確認(パス・ドリブル・シュート)</li> <li>2. ファンダメンタルの確認(ディフェンス)</li> <li>3. 1対1</li> <li>4. パス&amp;ラン</li> <li>5. 2対2</li> <li>6. スクリーンを使ってみよう</li> <li>7. 速攻の基本</li> <li>8. リバウンドからの速攻</li> <li>9. チームでオフェンス・ディフェンスを考える</li> <li>10. ルールの確認・ゲーム</li> <li>11. ゲームを楽しもう</li> <li>12. チームの特徴を作る</li> <li>13. チームの特徴を生かす</li> <li>14. リーグ戦</li> <li>15. 順位決定戦</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ウォームアップの方法やトレーニングなどバスケットボールに必要な情報を調べ、理解を深めること		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への参加態度・貢献度(80%)、技術の向上度(20%)		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	田中 茂宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。</p> <p>練習、ゲームにおける trial &amp; error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎技術のトレーニングをおこなう。</li> <li>・ルール戦術について理解を深める。</li> <li>・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。</li> <li>・技能テストをおこなう。</li> <li>・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。</li> <li>・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 体慣らし</li> <li>3 グリップ、スイング等の練習</li> <li>4 ルールの確認、ドライブ、ヘアピン等の練習</li> <li>5 ハイクリヤー、ドロップ等の練習</li> <li>6 サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習</li> <li>7 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>8 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>9 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>10 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>11 ゲーム形式の練習</li> <li>12 ゲーム形式の練習</li> <li>13 シングルス、ダブルスのゲーム</li> <li>14 シングルス、ダブルスのゲーム</li> <li>15 シングルス、ダブルスのゲーム</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組む姿勢 50%、レポートの内容 30%、技能の向上 20%で評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	田中 茂宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。</p> <p>練習、ゲームにおける trial &amp; error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎技術のトレーニングをおこなう。</li> <li>・ルール戦術について理解を深める。</li> <li>・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。</li> <li>・技能テストをおこなう。</li> <li>・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。</li> <li>・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 体慣らし</li> <li>3 グリップ、スイング等の練習</li> <li>4 ルールの確認、ドライブ、ヘアピン等の練習</li> <li>5 ハイクリヤー、ドロップ等の練習</li> <li>6 サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習</li> <li>7 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>8 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>9 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>10 技能テスト 基礎技能の総合的な練習</li> <li>11 ゲーム形式の練習</li> <li>12 ゲーム形式の練習</li> <li>13 シングルス、ダブルスのゲーム</li> <li>14 シングルス、ダブルスのゲーム</li> <li>15 シングルス、ダブルスのゲーム</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組む姿勢 50%、レポートの内容 30%、技能の向上 20%で評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)_水 1、水 2	担当者	藤野 和樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールを理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。</p> <p>[講義概要] 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム</li> <li>3. バックハンドドライブの基本練習</li> <li>4. バックハンドロブの基本練習</li> <li>5. 各種フットワークの基本練習</li> <li>6. フォアハンドドライブの基本練習</li> <li>7. オーバーヘッドストロークの基本練習</li> <li>8. 様々なサーブの基本練習</li> <li>9. ダブルスのゲーム (ルールの理解)</li> <li>10. シングルのゲーム (ルールの理解)</li> <li>11. ダブルスの総合練習</li> <li>12. シングルの総合練習</li> <li>13. 団体戦の実施</li> <li>14. まとめ/テスト</li> <li>15. 授業全体のまとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	a) 身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b) ルールの理解を深めるために映像を視聴すること		
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性 (70%) を総合的に評価するが、授業への参加度 (30%) も評価対象とする。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)_水 1、水 2	担当者	藤野 和樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールを理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。</p> <p>[講義概要] 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム</li> <li>3. バックハンドドライブの基本練習</li> <li>4. バックハンドロブの基本練習</li> <li>5. 各種フットワークの基本練習</li> <li>6. フォアハンドドライブの基本練習</li> <li>7. オーバーヘッドストロークの基本練習</li> <li>8. 様々なサーブの基本練習</li> <li>9. ダブルスのゲーム (ルールの理解)</li> <li>10. シングルのゲーム (ルールの理解)</li> <li>11. ダブルスの総合練習</li> <li>12. シングルの総合練習</li> <li>13. 団体戦の実施</li> <li>14. まとめ/テスト</li> <li>15. 授業全体のまとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	a) 身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b) ルールの理解を深めるために映像を視聴すること		
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性 (70%) を総合的に評価するが、授業への参加度 (30%) も評価対象とする。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	重藤 誠市郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>生涯スポーツとしてバレーボールを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。</p> <p>【講義概要】</p> <p>基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。</p> <p>授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。</p> <p>授業終盤には技術の習熟度を測る実技テストを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 写真付受講票の作成とアイスブレイク</li> <li>3. パスの基本 (オーバー、アンダー)</li> <li>4. サーブ・レシーブ (アンダー、フローター)</li> <li>5. スパークの基本</li> <li>6. オープン攻撃</li> <li>7. ブロックの導入</li> <li>8. 守備のフォーメーション、ポジションと役割</li> <li>9. 攻撃のフォーメーション、ポジションと役割</li> <li>10. 守備から攻撃へ (サーブレシーブから)</li> <li>11. 守備から攻撃へ (スパイクレシーブ、ブロックフォロワーから)</li> <li>12. ゲームの運営・リーグ戦、実技テスト</li> <li>13. ゲームの運営・リーグ戦、実技テスト予備日</li> <li>14. ゲームの運営・リーグ戦</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。		
テキスト	必要に応じて紹介する。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	重藤 誠市郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>生涯スポーツとしてバレーボールを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。</p> <p>【講義概要】</p> <p>春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。</p> <p>試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、円滑に進めるためにルールやマナーを理解する。</p> <p>授業終盤に技術の習熟度を測る実技テストとグループワークを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス及び実技</li> <li>2. 写真付受講票の作成とアイスブレイク</li> <li>3. ウォーミングアップルーティーンの習得</li> <li>4. 前後左右へのオーバーハンドパス</li> <li>5. クイック攻撃</li> <li>6. ジャンプサーブの導入</li> <li>7. 守備フォーメーション、ポジションと役割</li> <li>8. 攻撃フォーメーション、ポジションと役割</li> <li>9. チーム決め、ポジションの固定</li> <li>10. チームビルディング、フォーメーションの確認</li> <li>11. 実技テスト</li> <li>12. 実技テスト (予備日)、リーグ戦</li> <li>13. リーグ戦、ゲーム運営</li> <li>14. リーグ戦、審判法</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。		
テキスト	必要に応じて紹介する。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)_金 3	担当者	佐藤 典子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>バレーボールのルールを理解し、個人及び集团的技術を習得するとともに、それを基にした戦術を行いゲームの展開方法を学習する。</p> <p>また、様々な学部・学年の学生と親睦を深め、チームプレイを通してコミュニケーション力を向上させるとともに、生涯にわたってバレーボールが楽しめるようにバレーボールの特性を理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 基本技術（レシーブ、トス、サーブ）</li> <li>3. 基本技術（サーブ、ブロック）</li> <li>4. 基本技術の確認・ミニゲーム</li> <li>5. フォーマーションの基本・ゲームⅠ</li> <li>6. フォーマーションの基本・ゲームⅡ</li> <li>7. フォーマーションの基本・ゲームⅢ</li> <li>8. 技術および戦術の習得・チーム編成</li> <li>9. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅰ</li> <li>10. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅱ</li> <li>11. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅱ</li> <li>12. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅲ</li> <li>13. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅳ</li> <li>14. ゲームを通して技術および戦術の習得状況の評価</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。		
<b>テキスト</b>	必要に応じて適宜配布		
<b>参考文献</b>	芳田清司著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院		
<b>評価方法</b>	学習意欲を中心に評価（50%）、協調性（20%）、技能取得への努力度（20%）、学習態度（10%）		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)_金 2、金 3	担当者	佐藤 典子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>バレーボールのルールを理解し、個人及び集团的技術を習得するとともに、それを基にした戦術を行いゲームの展開方法を学習する。</p> <p>また、様々な学部・学年の学生と親睦を深め、チームプレイを通してコミュニケーション力を向上させるとともに、生涯にわたってバレーボールが楽しめるようにバレーボールの特性を理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 基本技術（レシーブ、トス、サーブ）</li> <li>3. 基本技術（サーブ、ブロック）</li> <li>4. 基本技術の確認・ミニゲーム</li> <li>5. フォーマーションの基本・ゲームⅠ</li> <li>6. フォーマーションの基本・ゲームⅡ</li> <li>7. フォーマーションの基本・ゲームⅢ</li> <li>8. 技術および戦術の習得・チーム編成</li> <li>9. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅰ</li> <li>10. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅱ</li> <li>11. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅱ</li> <li>12. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅲ</li> <li>13. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題Ⅳ</li> <li>14. ゲームを通して技術および戦術の習得状況の評価</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。		
<b>テキスト</b>	必要に応じて適宜配布		
<b>参考文献</b>	芳田清司著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院		
<b>評価方法</b>	学習意欲を中心に評価（50%）、協調性（20%）、技能取得への努力度（20%）、学習態度（10%）		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ハンドボール a)	担当者	佐藤 典子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ハンドボールは『走る・跳ぶ・投げる』の三要素をバランスよく含み、スピード感あふれる攻防や華麗なシュートが魅力のスポーツである。</p> <p>本授業では、ハンドボールのルールと個人的な技術・チーム戦術を学習し、ゴール型ボールゲームに必要な判断力と行動力を養う。また、様々な学部学年の学生とチームプレイを通して親睦を深め、コミュニケーション力を向上させる機会としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 競技特性 (ルール)・ミニゲーム</li> <li>3. 基本技術 (パス、キャッチ、ドリブル、シュート)</li> <li>4. 基本技術 (フェイント)</li> <li>5. 基本技術 (ディフェンス)</li> <li>6. グループ戦術 I</li> <li>7. グループ戦術 II</li> <li>8. グループ戦術 III</li> <li>9. チーム戦術・ゲーム I</li> <li>10. チーム戦術・ゲーム II</li> <li>11. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題 I</li> <li>12. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題 II</li> <li>13. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題 III</li> <li>14. リーグ戦・ゲーム評価と練習課題 IV</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ハンドボール技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立つ。		
<b>テキスト</b>	必要に応じて適宜配布		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	学習意欲を中心に評価 (50%)、協調性 (20%)、技能取得への努力度 (20%)、学習態度 (10%)		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

(春)	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	神宮司 親治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。</p> <p>〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレイヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。</p> <p>〔受講者への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。</li> <li>・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。</li> <li>・ピラス・指輪などのアクセサリは外すこと。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明 個人資料の作成</li> <li>2. ボールに親しむ 簡易ゲーム</li> <li>3. ボールコントロール ボールタッチ・ドリブル</li> <li>4. ボールコントロール パス</li> <li>5. 1対1の攻防</li> <li>6. GKトレーニング</li> <li>7. 4対2①</li> <li>8. 4対2②</li> <li>9. 4対2③</li> <li>10. ルールの理解とゲームの進め方</li> <li>11. リーグ戦</li> <li>12. リーグ戦</li> <li>13. リーグ戦</li> <li>14. リーグ戦</li> <li>15. リーグ戦</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、チームメイトとの協調性 20%にて評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	神宮司 親治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。</p> <p>〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレイヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。</p> <p>〔受講者への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。</li> <li>・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。</li> <li>・ピラス・指輪などのアクセサリは外すこと。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習 基本技術の確認</li> <li>2. 攻撃のグループ戦術</li> <li>3. 守備のグループ戦術</li> <li>4. 攻守の切りかえ</li> <li>5. 審判法ならびにゲーム運営</li> <li>6. チーム練習①</li> <li>7. リーグ戦</li> <li>8. リーグ戦</li> <li>9. チーム練習②</li> <li>10. リーグ戦</li> <li>11. リーグ戦</li> <li>12. チーム練習③</li> <li>13. リーグ戦</li> <li>14. リーグ戦</li> <li>15. リーグ戦</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、チームメイトとの協調性 20%にて評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	原仲 碧
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的]</p> <p>1. フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。</p> <p>2. フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。</p> <p>[講義概要]</p> <p>フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につける。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ゴールキーパー</li> <li>3. ボールフィーリング</li> <li>4. ドリブル</li> <li>5. パス</li> <li>6. コントロール</li> <li>7. シュート</li> <li>8. ボールを奪う</li> <li>9. ルール・審判法</li> <li>10. リーグ戦①</li> <li>11. リーグ戦②</li> <li>12. リーグ戦③</li> <li>13. トーナメント戦①</li> <li>14. トーナメント戦②</li> <li>15. エキシビジョンマッチ</li> </ol> <p>※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	実践力（50%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（10%）を総合的に評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	原仲 碧
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的]</p> <p>1. フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。</p> <p>2. フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。</p> <p>[講義概要]</p> <p>フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につける。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（ゲーム）</li> <li>2. 基本技術の復習①</li> <li>3. 基本技術の復習②</li> <li>4. 攻撃のグループ戦術①</li> <li>5. 攻撃のグループ戦術②</li> <li>6. 守備のグループ戦術①</li> <li>7. 守備のグループ戦術②</li> <li>8. リーグ戦①</li> <li>9. リーグ戦②</li> <li>10. リーグ戦③</li> <li>11. リーグ戦④</li> <li>12. トーナメント戦①</li> <li>13. トーナメント戦②</li> <li>14. エキシビジョンマッチ①</li> <li>15. エキシビジョンマッチ②</li> </ol> <p>※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	実践力（50%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（10%）を総合的に評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] フットサルのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネジメント能力の向上を図る。</p> <p>[概要] 色々なメンバーの組み合わせによりゲームを行う。 男子20名、女子20名を定員とする。 アリーナで授業を行う。</p> <p>注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 写真付受講票の作成とスキルテスト</li> <li>3. 個人スキル練習</li> <li>4. 簡易ゲーム練習</li> <li>5. ゲーム (リーグ戦①)</li> <li>6. ゲーム (リーグ戦②)</li> <li>7. ゲーム (リーグ戦③)</li> <li>8. ゲーム (リーグ戦④)</li> <li>9. ゲーム (リーグ戦⑤)</li> <li>10. 個人スキル練習</li> <li>11. ゲーム (リーグ戦①)</li> <li>12. ゲーム (リーグ戦②)</li> <li>13. ゲーム (トーナメント①)</li> <li>14. ゲーム (トーナメント②)</li> <li>15. ゲームの進め方のまとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

(春)	スポーツ・レクリエーション(フリスビーa)	担当者	村山 光義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。</p> <p>2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。</p> <p>3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。</p> <p>通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で250mを越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解・吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。</p> <p>[受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。</p>		<p>1. イントロダクション フライングディスクとは</p> <p>2. 基礎投法 技術練習（バックハンド・スロー）</p> <p>3. 基礎投法 技術練習（サイドアーム・スロー）</p> <p>4. 技能記録会 遠投 アキュラシー（的通り競技） セルフコートフライト（滞空時間・距離計測）</p> <p>5. 集団ゲーム アルティメット 導入</p> <p>6. 集団ゲーム アルティメット 基礎</p> <p>7. 集団ゲーム アルティメット 基礎</p> <p>8. 個人種目 ディスクゴルフ 導入</p> <p>9. 個人種目 ディスクゴルフ 展開1</p> <p>10～12. アルティメット 発展</p> <p>13. 個人種目 ディスクゴルフ 展開2</p> <p>14. 個人総合練習</p> <p>15. 技能記録会 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	必要に応じて印刷物を配布します。		
<b>評価方法</b>	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	村山 光義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。</p> <p>2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。</p> <p>3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。</p> <p>通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で250mを越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解・吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。</p> <p>[受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。</p>		<p>1. イントロダクション フライングディスクとは</p> <p>2. 基礎投法 技術練習（バックハンド・スロー）</p> <p>3. 基礎投法 技術練習（サイドアーム・スロー）</p> <p>4. 技能記録会 遠投 アキュラシー（的通り競技） セルフコートフライト（滞空時間・距離計測）</p> <p>5. 集団ゲーム アルティメット 導入</p> <p>6. 集団ゲーム アルティメット 基礎</p> <p>7. 集団ゲーム アルティメット 基礎</p> <p>8. 個人種目 ディスクゴルフ 導入</p> <p>9. 個人種目 ディスクゴルフ 展開1</p> <p>10～12. アルティメット 発展</p> <p>13. 個人種目 ディスクゴルフ 展開2</p> <p>14. 個人総合練習</p> <p>15. 技能記録会 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	必要に応じて印刷物を配布します。		
<b>評価方法</b>	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

(秋)	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常生活で友人に教えたり、家族と楽しんだりするための実力をつけることを目的とします。</p> <p>〔講義概要〕 フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 フリスビーの基本的な技術</li> <li>3 バックハンドスローとキャッチのドリル練習</li> <li>4 バックハンドスローを正確に投げよう</li> <li>5 バックハンドスローを遠くへ投げよう</li> <li>6 サイドアームスローの投げ方</li> <li>7 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう</li> <li>8 他の競技種目の紹介と体験（ガッツ）</li> <li>9 他の競技種目の紹介と体験（ディスクゴルフ）</li> <li>10 アルティメットのルールと楽しみ方</li> <li>11 アルティメットの試合（簡単なルールで楽しむ）</li> <li>12 アルティメットの試合（より高度なルールで楽しむ）</li> <li>13 アルティメットの試合（チーム戦略を練る）</li> <li>14 アルティメットの試合（リーグ戦1）</li> <li>15 アルティメットの試合（リーグ戦2）とまとめ</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
テキスト	必要に応じて印刷物を配布します。		
参考文献	特になし		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス a)_ 水 1、水 2	担当者	内堀 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>欧米では、身近にあるボールルームダンス（社交ダンス）。日本でも、生涯スポーツとして、ジュニア世代から、高齢者まで、幅広く踊られています。</p> <p>目の前の相手とのコミュニケーションの取り方、音楽によって体を動かすことの楽しさを学びながら、社交の場で踊れるようになることを目標にしています。</p> <p>【講義概要】</p> <p>ボールルームダンスを通じて、正しい姿勢及び柔軟な体作りをします。特に体幹、バランスを意識します。</p> <p>踊るための、ステップ・技術を学習します。</p> <p>パーティステップと呼ばれるステップも学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・ボールルームダンスとは</li> <li>2. 正しい姿勢とは。種目別による歩き方</li> <li>3. ラテン種目共通動作・モダン種目共通動作</li> <li>4. 手・腕を中心に、体の各部分の使い方</li> <li>5. ラテン基礎編①、モダン基礎編①</li> <li>6. ラテン基礎編②、モダン基礎編②</li> <li>7. ジルバ編①、ブルース編①</li> <li>8. ジルバ編②、ブルース編②</li> <li>9. サンバ編①、ヴェネーズワルツ編①</li> <li>10. サンバ編②、ヴェネーズワルツ編②</li> <li>11. サンバ編③、ヴェネーズワルツ編③</li> <li>12. ルンバ編①、タンゴ編①</li> <li>13. ルンバ編②、タンゴ編②</li> <li>14. ルンバ編③、タンゴ編③</li> <li>15. 各種目の復習</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習		
テキスト	プリント配布		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	ダンス技術取得度 40%、授業への参加度 60%		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス b)_ 水 1、水 2	担当者	内堀 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>ボールルームダンスaの講義の続きとなります。</p> <p>春学期よりスムーズに踊れることを目標とします。</p> <p>相手とダンスを通じてのコミュニケーションの取り方を学び、どんな場でも気軽に踊れることを目指します。</p> <p>【講義概要】</p> <p>正しい姿勢、柔軟な体、体幹の意識、バランスをさらに深めて学んでいきます。</p> <p>基本姿勢・動作を復習し、さらに高度なステップを学んでいきます。</p> <p>相手との距離の取り方、相手を気遣いながら踊る方法を学びます。</p> <p>ボールルームダンス10種のうち、6種に触れ、いろいろなリズムを体験します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の講義の振り返り</li> <li>2. ジルバ編③、ブルース編③</li> <li>3. サンバ編④、ヴェネーズワルツ編④</li> <li>4. サンバ編⑤、ヴェネーズワルツ編⑤</li> <li>5. ルンバ編④、タンゴ編④</li> <li>6. ルンバ編⑤、タンゴ編⑤</li> <li>7. 立ち位置の確認</li> <li>8. パソドブレ編①、ワルツ編①</li> <li>9. パソドブレ編②、ワルツ編②</li> <li>10. パソドブレ編③、ワルツ編③</li> <li>11. パソドブレ編④、ワルツ編④</li> <li>12. それぞれの種目の表現方法</li> <li>13. 競技としてのボールルームダンス</li> <li>14. 総まとめ①</li> <li>15. 総まとめ②</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習		
テキスト	プリント配布		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	ダンス技術取得度 40%、授業への参加度 60%		

(春)	スポーツ・レクリエーション(マットピラティス a)_金 3、 金 4	担当者	板垣 悦子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。</p> <p>マットエクササイズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体づくり、日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践および自身の身体への気づき。自己目標の設定。</li> <li>2 呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入</li> <li>3 ピラティス初級①</li> <li>4 ピラティス初級②</li> <li>5 ピラティス初級③</li> <li>6 ピラティス初級まとめ</li> <li>7 ピラティス中級①</li> <li>8 ピラティス中級②</li> <li>9 ピラティス中級③</li> <li>10 ピラティス中級まとめ</li> <li>11 ピラティス上級①</li> <li>12 ピラティス上級②</li> <li>13 動きの総まとめ①</li> <li>14 動きの総まとめ②</li> <li>15 まとめ及び自己評価</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習しておくこと。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロール』ジョセフ・H・ピラティス（著）現代書林		
<b>評価方法</b>	①授業への参加態度：積極的な取り組み（50%） ②授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入（30%） 教員による観察（20%）		

(秋)	スポーツ・レクリエーション (マットピラティス b) _ 金 3、金 4	担当者	板垣 悦子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。</p> <p>マットエクササイズ継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体づくり、日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践および自身の身体への気づき。自己目標の設定。</li> <li>2 呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入</li> <li>3 ピラティス初級①</li> <li>4 ピラティス初級②</li> <li>5 ピラティス初級③</li> <li>6 ピラティス初級まとめ</li> <li>7 ピラティス中級①</li> <li>8 ピラティス中級②</li> <li>9 ピラティス中級③</li> <li>10 ピラティス中級まとめ</li> <li>11 ピラティス上級①</li> <li>12 ピラティス上級②</li> <li>13 動きの総まとめ①</li> <li>14 動きの総まとめ②</li> <li>15 まとめ及び自己評価</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習しておくこと。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロール』ジョセフ・H・ピラティス（著）現代書林		
<b>評価方法</b>	①授業への参加態度：積極的な取り組み（50%） ②授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入（30%） 教員による観察（20%）		

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>レクリエーション活動のうち、レクリエーションスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアチブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、frisbee、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。</p> <p>この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずで、この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずで、この点を重要だと思ふ学生に受講してほしいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の内容と計画についての説明</li> <li>2. アイスブレイキングゲーム</li> <li>3. イニシアチブゲーム 1</li> <li>4. イニシアチブゲーム 2</li> <li>5. アウトドアクッキングの計画</li> <li>6. アウトドアクッキングの実践</li> <li>7. ペタンクの紹介と練習</li> <li>8. ペタンクの試合</li> <li>9. frisbeeの練習</li> <li>10. アルティメット (frisbeeを使ったチームゲーム)</li> <li>11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画</li> <li>12. ウォークラリーの実践</li> <li>13. ターゲットバードゴルフの練習</li> <li>14. ターゲットバードゴルフコンペ</li> <li>15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各種目について事前にネット上のビデオを視聴すること、また実践の機会をつくること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じプリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢 (80%)、目標達成度 (20%) で評価します。		

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>滞在型のキャンプ活動を行います。</p> <p>将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。(運動不足ではハードに感じます)</p> <p>皆さんには、キャンプ場を中心とした山間地域に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。</p> <p>毎日の食事はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。</p> <p>合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。このこともこの授業の大切な目的としています。</p> <p>履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。ハイキング用シューズ、ザック (30l以上)、雨具 (上下セパレート) を準備して下さい。</p>		<p>合宿について (予定)</p> <p>場所：栃木県、群馬県、長野県のキャンプ場</p> <p>期日：2018年8月3日 (金) ~8月7日 (火) 4泊5日</p> <p>費用：15000円程度 (宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費)</p> <p>この他に現地までの交通費が別途かかります。</p> <p>合宿日程</p> <p>合宿計画は授業内で学生が計画します。</p> <p>毎日のプログラムは学生が決定します。</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	合宿地域の地理、歴史、自然、観光について学習しておくこと。		
<b>テキスト</b>	必要に応じて資料を配布する。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度 (80%)、目標達成度 (20%) で評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>レクリエーション活動のうち、レクリエーションナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアチブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、frisbee、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思ふ学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の内容と計画についての説明</li> <li>2. アイスブレイキングゲーム</li> <li>3. イニシアチブゲーム1</li> <li>4. イニシアチブゲーム2</li> <li>5. アウトドアクッキングの計画</li> <li>6. アウトドアクッキングの実践</li> <li>7. ペタンクの紹介と練習</li> <li>8. ペタンクの試合</li> <li>9. frisbeeの練習</li> <li>10. アルティメット (frisbeeを使ったチームゲーム)</li> <li>11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画</li> <li>12. ウォークラリーの実践</li> <li>13. ターゲットバードゴルフの練習</li> <li>14. ターゲットバードゴルフコンペ</li> <li>15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようになる。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じ資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度 (80%)、目標達成度 (20%) で評価します。		

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション(ウインドサーフィン)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ウインドサーフィンとは、ボードの上に立ちボードにつながれた帆を操作し、風の力を進行方向への力に変えて進む滑走艇のことで、波を使うサーフィンやヨットとは違うものです。オリンピック種目にもなっているスポーツです。</p> <p>千葉県館山市の獨協学園海の家において、ウインドサーフィン技術の習得を通して海浜環境で安全に楽しく過ごすための知識技術を習得することを目標とします。また、炊事や清掃など共同生活を通じての人間関係の育成も目標としています。</p> <p>初心者から受講できます。</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。</p>		<p>場所：千葉県館山市（現地集合現地解散）</p> <p>期日（予定）：2018年9月10日（月）～14日（金）</p> <p>4泊5日</p> <p>費用（予定）：16000 円（宿泊費、傷害保険料、食費、プログラム費）</p> <p>（内11000円を大学自動発行機で振込、5000円を現地で徴収）</p> <p>この他に現地までの交通費が別途かかります。</p> <p>合宿日程</p> <p>1日目 現地集合・開講式・組み立て・セイルトリム</p> <p>2日目 セイルアップからセイリングポジション</p> <p>3日目 方向転換</p> <p>4日目 いろいろな方向へのセイリング</p> <p>5日目 レース・午後3時解散</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようになる。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じ資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度 (80%)、目標達成度 (20%) で評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>レクリエーション活動のうち、レクリエーションスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアチブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットボードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。</p> <p>この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずで。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずで。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の内容と計画についての説明</li> <li>2. アイスブレイキングゲーム</li> <li>3. イニシアチブゲーム1</li> <li>4. イニシアチブゲーム2</li> <li>5. アウトドアクッキングの計画</li> <li>6. アウトドアクッキングの実践</li> <li>7. ペタンクの紹介と練習</li> <li>8. ペタンクの試合</li> <li>9. フリスビーの練習</li> <li>10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム）</li> <li>11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画</li> <li>12. ウォークラリーの実践</li> <li>13. ターゲットボードゴルフの練習</li> <li>14. ターゲットボードゴルフコンペ</li> <li>15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じ資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>海浜型アウトドアレクリエーションでは、新潟県佐渡島を舞台にスキダイビング（ナイトダイビングも行います）、シーカヤック、星座観察、釣り、調理、地域研究等、良好な自然環境と地域の環境を活かすプログラムを4泊5日の合宿生活の中で体験してもらいます。この授業の特徴はそのプログラムと実施場所にあります。わざわざ新潟県佐渡市という離島で合宿を行う理由は、その美しい自然環境とその中に住む人々がつくる地域社会を知って欲しいからです。また、この授業では特徴的なプログラムとして状況適応能力や判断力を養うためのサバイバルプログラムを取り入れています。自然活動を体験し、活動を安全に楽しむことのできる知識技術を習得すること、及び合宿生活を送る上で必要な良好な人間関係を育成することがこの授業の目標となります。海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。</p>		<p>[集中授業] 「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日（予定）：2018年8月16日（木）～20日（月）4泊5日 費用：20000円程度（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内1000円を大学自動発行機で払込、19000円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 （青春18切符が利用できるスケジュールにしてあります。） 合宿日程 合宿日程は学生が授業内で計画します。 すべて自炊を行います。</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	健康状態の把握、維持増進を継続的に大学トレーニングルーム等を利用して行うこと。		
<b>テキスト</b>	必要に応じ資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(アイススポーツトレーニング)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的と概要]</p> <p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。</p> <p>アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。見るだけではなく体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。</p> <p>アイススケート、カーリング初心者の方から受講できます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (更衣不要)</li> <li>2. 用具あわせ、基本動作</li> <li>3. 基本動作</li> <li>4. フォアストロークとバリエーション その1</li> <li>5. フォアストロークとバリエーション その2</li> <li>6. パイロンを利用した練習</li> <li>7. バックストロークとバリエーション その1</li> <li>8. バックストロークとバリエーション その2</li> <li>9. ホッケーにチャレンジ その1</li> <li>10. フォアクロッシング その1</li> <li>11. フォアクロッシング その2</li> <li>12. バッククロッシング</li> <li>13. バッククロッシング</li> <li>14. ホッケーにチャレンジ その2</li> <li>15. 集中授業についてのオリエンテーション</li> </ol> <p>ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じ資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度 (80%)、目標達成度 (20%) で評価します。		

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション(アイススポーツ)	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。</p> <p>長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3泊4日で合宿を行います。</p> <p>アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進捗度や天候によって内容を変えます。</p> <p>カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。</p> <p>合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。</p> <p>秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講すると合宿での効率的な技術向上ができます。</p>		<p>合宿について (予定)</p> <p>時期： 2018年12月26日(水)～29日(土) 3泊4日</p> <p>場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散</p> <p>宿泊： リゾートイングリーン軽井沢</p> <p>費用： 27500円 (宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代他)</p> <p>(内、20500円を自動発行機で振込、7000円を現地徴収)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1日目 午後： アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜： 講義「アイススケートの楽しみ方」</li> <li>2日目 午前： アイススケート 基本技術と応用 午後： アイススケート 夜： 講義「カーリングの楽しみ方」</li> <li>3日目 午前： カーリング基本練習 午後： カーリング実践練習 夜： ミーティング</li> <li>4日目 午前： カーリング大会 午後： 昼食後解散</li> </ol> <p>施設の予約状況により予定は変更します。</p>	
<b>到達目標</b>	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
<b>テキスト</b>	必要に応じ資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	授業への取り組み姿勢・態度 (80%)、目標達成度 (20%) で評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション (コーディネーショントレーニング b)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>複数の動きを接続してまとめる感覚をトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>授業はグラウンドとアリーナで行う。トランポリン、インラインスケート、ノルディックウォーキング、アルティメット、バレーボール、卓球を行う予定である。</p> <p>注意：スキー&amp;スノーボード合宿とのセット履修となる。受講生の人数、運動経験により授業内容が変更になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 写真付受講票作成・トランポリン</li> <li>3. インラインスケート①</li> <li>4. インラインスケート②</li> <li>5. インラインホッケー①</li> <li>6. インラインホッケー②</li> <li>7. ノルディックウォーキング①</li> <li>8. ノルディックウォーキング②</li> <li>9. アルティメット①</li> <li>10. アルティメット②</li> <li>11. バレーボール①</li> <li>12. バレーボール②</li> <li>13. 卓球①</li> <li>14. 卓球②</li> <li>15. スキー・スノーボードのガイダンス</li> </ol>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション (スキー&スノーボード)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>スキーとスノーボードの基本から応用までを合宿を通じて指導し、ひとりひとりの能力の向上を図る。</p> <p>また、合宿を通じてコミュニケーション能力を高める。</p> <p>[概要]</p> <p>アルペンスキーとスノーボードの班を編成し、各班に指導教員がつき実習を行う。宿泊費予約分として18000円を履修登録と同時に大学に納める。宿泊費以外の必要経費は現地で徴収し精算する。学内のコーディネーショントレーニング授業とのセット履修が原則となっている。</p> <p>(注意) この授業のみを履修したい場合には、E棟1階のスポーツ・レクリエーション教員準備室にて担当者の許可を得てから履修登録と宿泊費予約分18000円を大学に納入すること。月1回の予定で行われる合宿ガイダンスに出席すること。</p>		<p>合宿期間：2019年2月上旬を予定している。</p> <p>合宿場所：秋田県たざわ湖スキー場</p> <p>宿泊場所：秋田県立田沢湖スポーツセンター</p> <p>合宿費用：宿泊費18000円 (3泊9食予定)</p> <p>(大学に履修登録決定次第納入すること)</p> <p>保険500円は現地精算</p> <p>(注意) リフト代(約6000円)・往復交通費・用具のレンタル代等は各自別途負担となる。また、秋学期履修登録時に、期間・場所・宿泊・費用について変更になる可能性もある。</p>	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	合宿授業への参加度 60%、参加中の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。		

08年度以降	English(リーディング Ia) / (Academic Reading Strategies Ia)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。</p> <p>○様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。使用言語は原則として英語です。</p> <p>1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。</p> <p>2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List 学習 (大学HPのMyDOCから各自ダウンロード)。</p> <p>3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。</p> <p>○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. ~15</p> <p>各担当教員が指定した教科書に基づく授業。詳細は、各担当教員から配布される個別シラバスを参照すること。</p> <p>毎回 <i>Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List</i> を範囲とした語彙小テストを実施する。</p> <p>年度末(2019年1月)に全員がTOEICを受験するので、計画的に学習すること。</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員のシラバスを見て予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。授業の後は、教員の指示に従い、課題に取り組む。		
テキスト	1. 教科書は大学 HP, 大学書店の掲示, 授業での指示に従うこと。2. "Dokkyo 1964" (獨協大学全カリ英語語彙リスト・オンライン教材)		
参考文献	各担当教員から指示		
評価方法	1. 初回授業で配布される各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。2. 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(リーディング Ib) / (Academic Reading Strategies Ib)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。</p> <p>○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。使用言語は原則として英語です。</p> <p>1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。</p> <p>2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List 学習 (大学HPのMyDOCから各自ダウンロード)。</p> <p>3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。</p> <p>○リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. ~15</p> <p>各担当教員が指定した教科書に基づく授業。詳細は、各担当教員から配布される個別シラバスを参照すること。</p> <p>毎回 <i>Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List</i> を範囲とした語彙小テストを実施する。</p> <p>年度末(2019年1月)に全員がTOEICを受験するので、計画的に学習すること。</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員のシラバスを見て予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。授業の後は、教員の指示に従い、課題に取り組む。		
テキスト	1. 教科書は大学 HP, 大学書店の掲示, 授業での指示に従うこと。2. "Dokkyo 1964" (獨協大学全カリ英語語彙リスト・オンライン教材)		
参考文献	各担当教員から指示		
評価方法	1. 初回授業で配布される各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。2. 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(リーディング Ia) / (Academic Reading Strategies Ia)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>○ Academic Listening Strategies I とともに、1年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。</p> <p>○ ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科1年生のうち、入学時にTOEICで高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。</p> <p>1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学HPのMyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。</p> <p>【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。</p>		<p>1. オリエンテーション 2. Unit 1 What makes someone admirable? 3. Unit 1 What makes someone admirable? 4. Unit 1 Vocabulary skill &amp; writing 5. Unit 2 What makes you want to buy something? 6. Unit 2 What makes you want to buy something? 7. Unit 2 Vocabulary skill &amp; writing 8. Mid-term exam 9. Unit 3 What important lessons do we learn as children? 10. Unit 3 What important lessons do we learn as children? 11. Unit 3 Vocabulary skill and writing 12. Unit 4 Two styles of writing 13. Unit 4 Two styles of writing 14. Unit 4 Vocabulary skill &amp; writing 15. Spring term wrap-up, Q &amp; A</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバスを参照して予習する。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
テキスト	Q: Skills for Success Book 4 Second Edition (Oxford University Press) 英々辞書を用意すること。電子辞書可		
参考文献	多くの副教材を使用するが、これらは担当者が授業内で配布する。		
評価方法	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15%、課題 10%、中間テスト 25%、期末テスト(ALC 課題を含む)30%。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(リーディング Ib) / (Academic Reading Strategies Ib)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>○ Academic Listening Strategies I とともに、1年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。</p> <p>○ ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科1年生のうち、入学時にTOEICで高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。</p> <p>1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学HPのMyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。</p> <p>【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。</p>		<p>1. Unit 5 Should science influence what we eat? 2. Unit 5 Should science influence what we eat? 3. Unit 5 Vocabulary skill &amp; writing 4. Unit 6 Does school prepare you for work? 5. Unit 6 Does school prepare you for work? 6. Unit 7 Is discovery always a good thing? 7. Unit 7 Is discovery always a good thing? 8. Mid-term exam 9. Mid-term review 10. Unit 7 Vocabulary skill &amp; writing 11. Unit 8 Why is it important to play? 12. Unit 8 Why is it important to play? 13. Unit 8 Vocabulary skill &amp; writing 14. Selected reading material 15. Fall term wrap-up, Q &amp; A</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバスを参照して予習する。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
テキスト	Q: Skills for Success Book 4 Second Edition (Oxford University Press) 英々辞書を用意すること。電子辞書可		
参考文献	多くの副教材を使用するが、これらは担当者が授業内で配布する。		
評価方法	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15%、課題 10%、中間テスト 25%、期末テスト(ALC 課題を含む)30%。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。</p> <p>▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、効果的な主題文(topic sentence)と支持文(supporting sentences)、結論文(concluding sentence)の書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。</p> <p>▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。</p> <p>▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。</p>		<p>各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取る。以下は授業計画の一例です。</p> <p>第1回 ガイダンス・タイピング練習 第2回 英文メールの書き方 第3回 英文メールの書き方 第4回 Punctuation and Capitalization 第5回 Paragraph Organization 第6回 Unity and Coherence 第7回 Brainstorming &amp; Outlining 第8回 Descriptive Paragraphs 第9回 Descriptive Paragraphs 第10回 Process Paragraphs 第11回 Process Paragraphs 第12回 Summary Writing 第13回 Summary Writing 第14回 Summary Writing 第15回 Wrap-up</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。		
<b>テキスト</b>	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。		
<b>参考文献</b>	英文メールの書き方の教材は、各自 My DOC [Academic Writing I Student Community]よりダウンロードすること		
<b>評価方法</b>	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30% (授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です)。		

08年度以降	English(ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。</p> <p>▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目(リーディング、リスニングなど)で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。</p> <p>▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。</p> <p>▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。</p>		<p>各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取る。以下は授業計画の一例です。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Classification Paragraphs 第4回 Classification Paragraphs 第5回 Classification Paragraphs 第6回 Cause and Effect Paragraphs 第7回 Cause and Effect Paragraphs 第8回 Cause and Effect Paragraphs 第9回 Comparison and Contrast Paragraphs 第10回 Comparison and Contrast Paragraphs 第11回 Comparison and Contrast Paragraphs 第12回 Opinion Paragraphs 第13回 Opinion Paragraphs 第14回 Opinion Paragraphs 第15回 Wrap-up</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。		
<b>テキスト</b>	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。		
<b>参考文献</b>	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。		
<b>評価方法</b>	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30% (授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です)。		

08年度以降	English (スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings.</p> <p>Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English.</p> <p>経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略(ストラテジー)に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。</p> <p>評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。</p>		<p>Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 - Mid-term exam; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Speaking practice; final exam review Class 15 - In-class speaking evaluation</p> <p>原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。</p> <p>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, evaluations and exams outside of class time and to speak actively in each class.		
テキスト	Please check the bookstore for details.		
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.		
評価方法	Classroom participation/homework 30%; Mid-term exam 20%; In-class speaking evaluation 20%; Final exam 30%		

08年度以降	English (スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings.</p> <p>Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English.</p> <p>経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略(ストラテジー)に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。</p> <p>評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。</p>		<p>Class 1 - Fall orientation, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 - <b>Mid-term speaking evaluation</b> Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 - <b>Final in-class speaking evaluation</b></p> <p>原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。</p> <p>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, evaluations and exams outside of class time and to speak actively in each class.		
テキスト	Please check the bookstore for details.		
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.		
評価方法	Classroom participation/homework 30%; In-class speaking evaluations 30% (2 x 15%); Final exam 40%		

08年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。</p> <p>高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聞き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。</p> <p>・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Unit 1: Lesson A</li> <li>3. Unit 1: Lesson B</li> <li>4. Unit 1 Video: Unit Test 1</li> <li>5. Unit 2: Lesson A</li> <li>6. Unit 2: Lesson B</li> <li>7. Unit 2: Video: Unit Test 2</li> <li>8. Unit 3: Lesson A</li> <li>9. Unit 3: Lesson B</li> <li>10. Unit 3 Video: Unit Test 3</li> <li>11. Unit 4: Lesson A</li> <li>12. Unit 4: Lesson B</li> <li>13. Unit 4 Video: Unit Test 4</li> <li>14. Review/TOEIC exercises</li> <li>15. Review/TOEIC exercises</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
<b>テキスト</b>	Pathways 1: <i>Listening, Speaking and Critical Thinking</i> . Cengage Learning.		
<b>参考文献</b>	※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		
<b>評価方法</b>	授業参加・課題 20% ユニットテスト 40% (10% x 4回) 統一期末試験 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。</p> <p>高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聞き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。</p> <p>・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unit 5: Lesson A</li> <li>2. Unit 5: Lesson B</li> <li>3. Unit 5 Video: Unit Test 5</li> <li>4. Unit 7: Lesson A</li> <li>5. Unit 7: Lesson B</li> <li>6. Unit 7 Video: Unit Test 7</li> <li>7. Unit 8: Lesson A</li> <li>8. Unit 8: Lesson B</li> <li>9. Unit 8 Video: Unit Test 8</li> <li>10. Unit 9: Lesson A</li> <li>11. Unit 9: Lesson B</li> <li>12. Unit 9 Video: Unit Test 9</li> <li>13. Review/TOEIC exercises</li> <li>14. Review/TOEIC exercises</li> <li>15. Review/TOEIC exercises</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
<b>テキスト</b>	Pathways 1: <i>Listening, Speaking and Critical Thinking</i> . Cengage Learning.		
<b>参考文献</b>	※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		
<b>評価方法</b>	授業参加・課題 20% ユニットテスト 40% (10% x 4回) 統一期末試験 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。</p> <p>高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聞き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。</p> <p>・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Unit 1: Lesson A</li> <li>3. Unit 1: Lesson B</li> <li>4. Unit 1 Video: Unit Test 1</li> <li>5. Unit 2: Lesson A</li> <li>6. Unit 2: Lesson B</li> <li>7. Unit 2: Video: Unit Test 2</li> <li>8. Unit 3: Lesson A</li> <li>9. Unit 3: Lesson B</li> <li>10. Unit 3 Video: Unit Test 3</li> <li>11. Unit 4: Lesson A</li> <li>12. Unit 4: Lesson B</li> <li>13. Unit 4 Video: Unit Test 4</li> <li>14. Review/TOEIC exercises</li> <li>15. Review/TOEIC exercises</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト	Pathways 2: <i>Listening, Speaking and Critical Thinking</i> . Cengage Learning		
参考文献	※教科書購入時は、間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		
評価方法	授業参加・課題 20% ユニットテスト 40% (10% x 4 回) 統一期末試験 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。</p> <p>高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聞き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。</p> <p>・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unit 5: Lesson A</li> <li>2. Unit 5: Lesson B</li> <li>3. Unit 5 Video: Unit Test 5</li> <li>4. Unit 6: Lesson A</li> <li>5. Unit 6: Lesson B</li> <li>6. Unit 6 Video: Unit Test 6</li> <li>7. Unit 7: Lesson A</li> <li>8. Unit 7: Lesson B</li> <li>9. Unit 7 Video: Unit Test 7</li> <li>10. Unit 10: Lesson A</li> <li>11. Unit 10: Lesson B</li> <li>12. Unit 10 Video: Unit Test 10</li> <li>13. Review/TOEIC exercises</li> <li>14. Review/TOEIC exercises</li> <li>15. Review/TOEIC exercises</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト	Pathways 2: <i>Listening, Speaking and Critical Thinking</i> . Cengage Learning.		
参考文献	※教科書購入時は、間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		
評価方法	授業参加・課題 20% ユニットテスト 40% (10% x 4 回) 統一期末試験 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills.</p> <p>In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Chapter 1</li> <li>3. Chapter 1 (continued)</li> <li>4. Chapter 2</li> <li>5. Chapter 2 (continued)</li> <li>6. Chapter 3</li> <li>7. Chapter 3 (continued)</li> <li>8. Review / midterm exam</li> <li>9. Chapter 4</li> <li>10. Chapter 4 (continued)</li> <li>11. Chapter 5</li> <li>12. Chapter 5 (continued)</li> <li>13. Chapter 6</li> <li>14. Chapter 6 (continued)</li> <li>15. Wrap up / Final exam</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.		
テキスト	Listening and Notetaking Skills (Cengage, 2014)		
参考文献	To be announced in class		
評価方法	Class participation (20%), homework assignments (20%), midterm exam (30%), final exam (30%). 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills.</p> <p>In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of spring semester</li> <li>2. Chapter 9</li> <li>3. Chapter 9 (continued)</li> <li>4. Chapter 11</li> <li>5. Chapter 11 (continued)</li> <li>6. Chapter 12</li> <li>7. Chapter 12 (continued)</li> <li>8. Review / midterm exam,</li> <li>9. Chapter 13</li> <li>10. Chapter 13 (continued)</li> <li>11. Chapter 14</li> <li>12. Chapter 14 (continued)</li> <li>13. Chapter 15</li> <li>14. Chapter 15 (continued)</li> <li>15. Wrap up / Final exam</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.		
テキスト	Listening and Notetaking Skills (Cengage, 2014)		
参考文献	To be announced in class		
評価方法	Class participation (20%), homework assignments (20%), midterm exam (30%), final exam (30%). 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(リーディング IIa) / (Academic Reading Strategies IIa)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>◆この科目は、1年生で履修した Academic Reading Strategies I (リーディングI) の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。</p> <p>◆春学期には、大きく以下の2つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。</li> <li>2. 1年次に引き続いて、各自が、MyDOCからダウンロードしたDokkyo 1964 Academic Vocabulary List を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。</li> </ol> <p>◆大学2年生は、英語運用能力を伸ばすのに最もふさわしくまた重要な1年間です。得意・不得意にかかわらず、現在の自分の力を少しでも伸ばす積極的な姿勢を持って取り組みましょう。</p>		<p>第1回 オリエンテーション 第2～14回 ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・Dokkyo 1964 Academic Vocabulary Listの指定箇所を範囲とする語彙小テスト 第15回 春学期のまとめ</p> <p>◆教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆年度末(2019年1月)に全員TOEIC®を受験するので、計画的に学習すること。</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習箇所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
<b>テキスト</b>	1. 教科書は大学 HP, 大学書店の掲示, 授業での指示に従うこと。2. "Dokkyo 1964" (獨協大学全カリ英語語彙リスト・オンライン教材)		
<b>参考文献</b>	各担当教員から指示		
<b>評価方法</b>	○初回授業で配布される各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。○原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(リーディング IIb) / (Academic Reading Strategies IIb)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>◆この科目はAcademic Reading Strategies I (リーディングI) の上位科目です。春学期に引き続き、原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。</p> <p>◆秋学期には、大きく以下の3つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。</li> <li>2. 各自が、MyDOCからダウンロードしたDokkyo 1964 Academic Vocabulary List を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。</li> <li>3. TOEIC対策の副教材(5-minute quizzes for the TOEIC Test Reading 1)を用いて、授業内に短時間のTOEIC対策を行う。(秋学期のみ実施)</li> </ol>		<p>第1回 オリエンテーション 第2～14回 ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・Dokkyo 1964 Academic Vocabulary Listの指定箇所を範囲とする語彙小テスト 第15回 秋学期のまとめ</p> <p>◆教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆年度末(2019年1月)に全員TOEIC®を受験するので、計画的に学習すること。</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習箇所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
<b>テキスト</b>	1. 教科書は大学 HP, 大学書店の掲示, 授業での指示に従うこと。2. "Dokkyo 1964" (獨協大学全カリ英語語彙リスト・オンライン教材)		
<b>参考文献</b>	各担当教員から指示		
<b>評価方法</b>	○初回授業で配布される各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。○原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(リーディング IIa) / (Academic Reading Strategies IIa)	担当者	辻田 麻里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次学生対象のクラス指定科目です。1年修了時のTOEICテストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう5時限に配置されているので、他学科の学生と英語を勉強できる貴重な機会として、積極的に授業に参加してください。</p> <p>ARS Iに引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用能力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも活かせるように、学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用いて、多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。授業は全て英語で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週授業の初めにVocabulary Testを行うので準備しておくこと。</li> <li>・原則として通年で履修すること。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction; Unit 1 Preview</li> <li>2. Unit 1 Global Health (1)</li> <li>3. Unit 1 Global Health (2)</li> <li>4. Unit 1 Global Health (3)</li> <li>5. Unit 1 Global Health (4)</li> <li>6. Unit 1 Global Health (5)</li> <li>7. Unit 1 Test; Unit 2 Preview</li> <li>8. Unit 2 Multicultural Societies (1)</li> <li>9. Unit 2 Multicultural Societies (2)</li> <li>10. Unit 2 Multicultural Societies (3)</li> <li>11. Unit 2 Multicultural Societies (4)</li> <li>12. Unit 2 Multicultural Societies (5)</li> <li>13. Unit 2 Test; Presentation preparation</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Review</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習・復習および語彙の練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
<b>テキスト</b>	Pakenham, K. J., McEntire, J. & Williams, J. (2013) <i>Making Connections, Level 3</i> . Cambridge University Press.		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	授業参加 10% 課題 10% 語彙テスト 15% 章末テスト 20% 期末発表 15% 期末試験 30% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とはならない。		

08年度以降	English(リーディング IIb) / (Academic Reading Strategies IIb)	担当者	辻田 麻里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次学生対象のクラス指定科目です。1年修了時のTOEICテストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう5時限に配置されているので、他学科の学生と英語を勉強できる貴重な機会として、積極的に授業に参加してください。</p> <p>春学期に引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用能力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも活かせるように、学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用いて、多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。授業は全て英語で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週授業の初めにVocabulary Testを行うので準備しておくこと。</li> <li>・原則として通年で履修すること。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction; Unit 3 Preview</li> <li>2. Unit 3 Aspects of Language (1)</li> <li>3. Unit 3 Aspects of Language (2)</li> <li>4. Unit 3 Aspects of Language (3)</li> <li>5. Unit 3 Aspects of Language (4)</li> <li>6. Unit 3 Aspects of Language (5)</li> <li>7. Unit 3 Test, Unit 4 Preview</li> <li>8. Unit 4 Sustaining Planet Earth (1)</li> <li>9. Unit 4 Sustaining Planet Earth (2)</li> <li>10. Unit 4 Sustaining Planet Earth (3)</li> <li>11. Unit 4 Sustaining Planet Earth (4)</li> <li>12. Unit 4 Sustaining Planet Earth (5)</li> <li>13. Unit 4 Test; Presentation preparation</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Review</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習・復習および語彙の練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
<b>テキスト</b>	Pakenham, K. J., McEntire, J. & Williams, J. (2013) <i>Making Connections, Level 3</i> . Cambridge University Press.		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	授業参加 10% 課題 10% 語彙テスト 15% 章末テスト 20% 期末発表 15% 期末試験 30% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とはならない。		

08年度以降	English(ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。</p> <p>本科目の目的は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミック・エッセイ(論文)を書けるようになることです。「和文英訳」ではありません。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、説得力のある論の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習します。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させます。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてください。</p> <p>授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行います。</p>		<p>各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取る。以下は授業計画の一例です。</p> <p>第1回 ガイダンス Review of Paragraph Organization  第2回 Essay Organization  第3回 Listing-Order Essays  第4回 Listing-Order Essays  第5回 Listing-Order Essays  第6回 Listing-Order Essays  第7回 Comparison and Contrast Essays  第8回 Comparison and Contrast Essays  第9回 Comparison and Contrast Essays  第10回 Comparison and Contrast Essays  第11回 Summarizing and Paraphrasing  第12回 Summarizing and Paraphrasing  第13回 Summarizing and Paraphrasing  第14回 Summarizing and Paraphrasing  第15回 Wrap up</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。		
<b>テキスト</b>	担当教員の指示に従うこと。My DOCに補助教材が提示される場合もある。		
<b>参考文献</b>	担当教員の指示に従うこと。My DOCに補助教材が提示される場合もある。		
<b>評価方法</b>	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30% (授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です)。		

08年度以降	English(ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。</p> <p>本科目の目的は、春学期に学んだアカデミック・エッセイライティングの基礎をさらに発展させ、様々な文章構成法と引用文献を使って、説得力のある英語論文を書けるようになることである。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、一貫性のある論の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、信頼できる引用文献の探し方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習する。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させる。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてほしい。</p> <p>授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行う。</p>		<p>各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取る。以下は授業計画の一例である。</p> <p>第1回 ガイダンス・Review of Essay Organization  第2回 Review of Summarizing and Paraphrasing  第3回 Citing Sources  第4回 Citing Sources  第5回 Definition Paragraphs  第6回 Cause and Effect Essays  第7回 Cause and Effect Essays  第8回 Cause and Effect Essays  第9回 Cause and Effect Essays  第10回 Argumentative Essays  第11回 Argumentative Essays  第12回 Argumentative Essays  第13回 Argumentative Essays  第14回 Argumentative Essays  第15回 Wrap-up</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。		
<b>テキスト</b>	担当教員の指示に従うこと。My DOCに補助教材が提示される場合もある。		
<b>参考文献</b>	担当教員の指示に従うこと。My DOCに補助教材が提示される場合もある。		
<b>評価方法</b>	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30% (授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です)。		

08年度以降	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken.</p> <p><u>Main skill objectives</u></p> <p>By the end of the course students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures</li> <li>understand how supporting ideas are related to main ideas</li> <li>take notes effectively as they listen</li> </ul>		<p>各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第一回目の授業でクラスシラバスを受け取る。以下は授業計画の一例です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction to the course</li> <li>Unit 1</li> <li>Unit 1 (continued)</li> <li>Unit 2</li> <li>Unit 2 (continued)</li> <li>Unit 3</li> <li>Unit 3 (continued)</li> <li>Unit 4</li> <li>Unit 4 (continued)</li> <li>Unit 5</li> <li>Unit 5 (continued)</li> <li>Unit 6</li> <li>Unit 6 (continued)</li> <li>Review</li> <li>Wrap up</li> </ol>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week).</p>		
テキスト	<p>教科書は教員によって異なります。DUO (丸善書店) の掲示板を確認すること。</p>		
参考文献	<p>授業中に紹介。</p>		
評価方法	<p>各担当教員のシラバスに掲載。</p>		

08年度以降	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken.</p> <p><u>Main skill objectives</u></p> <p>By the end of the course students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures</li> <li>understand how supporting ideas are related to main ideas</li> <li>take notes effectively as they listen</li> </ul>		<p>各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第一回目の授業でクラスシラバスを受け取る。以下は授業計画の一例です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Review of spring semester</li> <li>Unit 7</li> <li>Unit 7 (continued)</li> <li>Unit 8</li> <li>Unit 8 (continued)</li> <li>Unit 9</li> <li>Unit 9 (continued)</li> <li>Unit 10</li> <li>Unit 10 (continued)</li> <li>Unit 11</li> <li>Unit 11 (continued)</li> <li>Unit 12</li> <li>Unit 12 (continued)</li> <li>Review</li> <li>Wrap up</li> </ol>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week).</p>		
テキスト	<p>教科書は教員によって異なります。DUO (丸善書店) の掲示板を確認すること。</p>		
参考文献	<p>授業中に紹介。</p>		
評価方法	<p>各担当教員のシラバスに掲載。</p>		

08年度以降	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner. These skills will be useful, not just in English, but in any language and in ALL of your classes.</p> <p>While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations.</p> <p>Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <p>Class 1 - Course outline, etc.</p> <p>Classes 2 to 4 - Marketing: Gender and spending habits</p> <p>Classes 5 to 7 - Marketing: Advertisements in everyday life</p> <p>Class 8 - Mid-term Examination</p> <p>Classes 9 to 11 - Science: Diet</p> <p>Classes 12 to 14 - Science: The effects of air pollution</p> <p>Class 15 - Presentations</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the examinations.		
テキスト	<i>Lecture Ready 2</i> (著者 P. Sarosy & K. Sherak; 出版社 Oxford University Press)		
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.		
評価方法	Participation 10%; Presentation 25%; Vocabulary quizzes 20%; Mid-term exam 20%; Final exam 25% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)		

08年度以降	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner. These skills will be useful, not just in English, but in any language and in ALL of your classes.</p> <p>While exploring interesting topics (such as news, television, and the internationalization of English), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations.</p> <p>Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <p>Class 1 - Course outline, etc.</p> <p>Classes 2 to 4 - Media Studies: News and modern technology</p> <p>Classes 5 to 7 - Media Studies: Themes on television</p> <p>Classes 8 to 10 - Linguistics: Slang</p> <p>Classes 11 to 13 - Linguistics: International English</p> <p>Classes 14 to 15 - Presentations / Review</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the final examination.		
テキスト	<i>Lecture Ready 2</i> (著者 P. Sarosy & K. Sherak; 出版社 Oxford University Press)		
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.		
評価方法	Participation 10%; Presentation 30%; Vocabulary quizzes 30%; Final exam 30% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)		

08年度以降	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▼Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として通年履修してください。</p> <p>▼対象：経済学部経済学科および経営学科</p> <p>▼様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は原則として英語です。</p> <p>▼良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション・コース紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。</li> </ul> <p>第2～14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を用いての授業</li> <li>担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。</li> </ul> <p>第15回 春学期のまとめ</p> <p>▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
テキスト	教科書は大学 HP, 大学書店の掲示, 授業での指示に従って購入する。		
参考文献	授業内で指示		
評価方法	初回授業で配布される各担当教員のシラバスに記載。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象としない。		

08年度以降	English(リーディング IIIb) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIb)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▼Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目で、原則として春学期に引き続き通年履修します。</p> <p>▼対象：経済学部経済学科および経営学科</p> <p>▼様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は原則として英語。</p> <p>▼良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション・コース紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。</li> </ul> <p>第2～14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を用いての授業</li> <li>担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。</li> </ul> <p>第15回 秋学期のまとめ</p> <p>▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
テキスト	教科書は大学 HP, 大学書店の掲示, 授業での指示に従って購入する。		
参考文献	授業内で指示		
評価方法	初回授業で配布される各担当教員のシラバスに記載。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象としない。		

08年度以降	English (テーマ研究 a) / (Selected Topics in Social Sciences a)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▼国際環境経済学科3年生のクラス指定科目です。</p> <p>▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。1~2年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。</p> <p>▼春学期は、主に英語での図表の説明のしかたと表現の基礎を学び、グループごとにテーマを決めてアンケートを使ったミニリサーチを行います。データの分析を行い、適切な図表を使って調査結果を発表します。</p> <p>▼原則として授業活動は英語で行います。</p> <p>▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。</p>		<p>1. Course introduction; What is Social Science?</p> <p>2-3. Describing graphs and tables</p> <p>4-5. Preparation for a group presentation</p> <p>6-7. Group presentations and discussions</p> <p>8-9. Designing and conducting a group research (topic, research question, survey questions, data collection, data analysis)</p> <p>10. Designing a graph/table</p> <p>11. Preparation for a group presentation</p> <p>12-13. Group presentations</p> <p>14. Review of group presentations</p> <p>15. Final exam</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。		
テキスト	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) <i>Numbers: Data and statistics for the non-specialist</i> . Collins.		
参考文献	My DOC に参考文献情報、補助教材が提示される。		
評価方法	授業参加度 20%; 小テストと期末試験 30%; グループプロジェクト課題(調査と発表 x2) 50%		

08年度以降	English (テーマ研究 b) / (Selected Topics in Social Sciences b)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▼国際環境経済学科3年生のクラス指定科目です。</p> <p>▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。1~2年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。</p> <p>▼秋学期は、春学期に習得した英語での図表の説明のしかたをさらに発展させます。また、グループごとに国際的な社会問題に関するテーマを選び、文献研究をもとに問題点を整理し、その問題点についてアンケートによる意識調査を行います。研究計画のポスター発表をし、調査報告論文を作成します。</p> <p>▼原則として授業活動は英語で行います。</p> <p>▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。</p>		<p>1. Course introduction</p> <p>2. Introduction to group research project on controversial social issues</p> <p>3-6. Reading literature and developing a research question, Preparing for a poster presentation</p> <p>7. Poster presentations</p> <p>8-9. Designing a survey study and collecting data</p> <p>10-14. Analyzing components of a research paper (e.g., abstract, organization, in-text citations, data analysis, references); Writing a research paper</p> <p>15. Revising and editing a research paper</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。		
テキスト	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) <i>Numbers: Data and statistics for the non-specialist</i> . Collins.		
参考文献	My DOC に参考文献情報、補助教材が提示される。		
評価方法	授業参加度 20%; 小テスト 20%; グループプロジェクト課題 (研究計画ポスター発表と研究報告論文) 60%		

08年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	飯島 優雅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。</p> <p>▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、効果的な主題文 (topic sentence) と支持文 (supporting sentences)、結論文 (concluding sentence) の書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。</p> <p>▼ 課題にはスケジュール通りに取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。</p> <p>▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。</p>		<p>以下は授業計画の一例です。 第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。</p> <p>第1回 ガイダンス・タイピング練習 第2回 英文メールの書き方 第3回 英文メールの書き方 第4回 Punctuation and Capitalization 第5回 Paragraph Organization 第6回 Unity and Coherence 第7回 Brainstorming &amp; Outlining 第8回 Descriptive Paragraphs 第9回 Descriptive Paragraphs 第10回 Process Paragraphs 第11回 Process Paragraphs 第12回 Summary Writing 第13回 Summary Writing 第14回 Summary Writing 第15回 Wrap-up</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。		
<b>テキスト</b>	第1回目の授業で発表する。My DOC に補助教材が提示される。		
<b>参考文献</b>	英文メールの書き方の教材は、各自 My DOC [Academic Writing I Student Community]よりダウンロードすること		
<b>評価方法</b>	積極的な授業活動への参加と宿題 (MyDOC への投稿含む) 30%、小テスト 10%、ライティング課題 60%		

08年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	飯島 優雅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。</p> <p>▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目(リーディング、リスニングなど)で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。</p> <p>▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。</p> <p>▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う。</p>		<p>第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Classification Paragraphs 第4回 Classification Paragraphs 第5回 Classification Paragraphs 第6回 Cause and Effect Paragraphs 第7回 Cause and Effect Paragraphs 第8回 Cause and Effect Paragraphs 第9回 Comparison and Contrast Paragraphs 第10回 Comparison and Contrast Paragraphs 第11回 Comparison and Contrast Paragraphs 第12回 Opinion Paragraphs 第13回 Opinion Paragraphs 第14回 Opinion Paragraphs 第15回 Wrap-up</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。		
<b>テキスト</b>	第1回目の授業で発表する。My DOC に補助教材が提示される。		
<b>参考文献</b>	My DOC に提示される。		
<b>評価方法</b>	積極的な授業活動への参加と宿題 (MyDOC への投稿含む) 30%、小テスト 10%、ライティング課題 60%		

08年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、比較的容易なテキストを使い、英語での理解度を上げること、受講者の英語でのメモリーを上げる、それが目標。授業で具体的に行うことは、担当者が英語を読み上げ、学生が耳で理解し、それをまとめたり、当該箇所についての英語の問いに英語で答えたり、当該箇所に対して、学生が英語での問いを考えてきて、それに対して他の学生が答えたり、といった activity である。ほら、英語のメモリーは上がりそうだ。また、出欠は、授業での質問に答えて出席となる。ひとつの Unit が終われば、150字以上の英作文を課す。そこでは、たんなる英作文ではなく、学術的な論文の書き方のイロハを踏まえた書き方で書いてもらう。もちろん、書き方は、指導する。毎年、学生へと伝えているが、この授業で単位を取れなかったら、どこで単位を取るんだ、と考えている。</p>		1) introduction 2) Unit 1, Reading 1 3) ditto 4) Unit 1, Reading 2 5) ditto 6) Unit 2, Reading 1 7) ditto 8) Unit 2, Reading 2 9) ditto 10) Unit 3, Reading 1 11) ditto 12) Unit 3, Reading 2 13) ditto 14) Unit 4, Reading 1 15) ditto	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習が不要の時もあるが、基本的に予習をしてもらうこと。		
テキスト	<i>Weaving It Together</i> (Cengage Learning)		
参考文献	とくになし		
評価方法	テスト 80%、英作文 20%		

08年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じく、比較的容易な英文テキストを、さまざまな方法で読んでいく。外国語習得は、地道な作業である。それを、春学期から引き続き行っていく。</p>		1) introduction 2) Unit 4, Reading 2 3) ditto 4) Unit 5, Reading 1 5) ditto 6) Unit 5, Reading 2 7) ditto 8) Unit 6, Reading 1 9) ditto 10) Unit 6, Reading 2 11) ditto 12) Unit 7, Reading 1 13) ditto 14) Unit 7, Reading 2 15) ditto	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習が不要の時もあるが、基本的に予習をしてもらうこと。		
テキスト	<i>Weaving It Together</i> (Cengage Learning)		
参考文献	とくになし		
評価方法	テスト 80%、英作文 20%		

08年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	T. マティカイネン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop your writing skills at the sentence and paragraph levels. You will learn how to communicate your ideas in an organized and logical manner, which is necessary in any academic and professional activities. The course focuses on the process of writing to produce a quality paragraph: generate and develop ideas, create a paragraph outline, write and revise multiple drafts, and edit a final draft. While the main focus of the course is on writing, all four language skills are integrated in class activities to develop your overall academic English skills. Class activities include individual and group writing, group discussion, and peer feedback. You are expected to exchange constructive feedback on each other's work.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Formal e-mail writing  Week 3: Formal e-mail writing  Week 4: Describing People  Week 5: Describing People  Week 6: Describing People  Week 7: Listing-Order Paragraphs  Week 8: Listing-Order Paragraphs  Week 9: Listing-Order Paragraphs  Week 10: Review  Week 11: Giving Instructions  Week 12: Giving Instructions  Week 13: Giving Instructions  Week 14: Review  Week 15: Final Writing Assignment</p>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>Students are required to do writing activities at home each week (90 minutes).</p>		
テキスト	<p><i>Longman Academic Writing Series 2: Paragraph</i> by Ann Hogue (Pearson)</p>		
参考文献	<p>N/A</p>		
評価方法	<p>Active participation 20%, Homework 20%, Graded Writing Assignments 60%</p>		

08年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	T. マティカイネン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop your writing skills at the sentence and paragraph levels. You will learn how to communicate your ideas in an organized and logical manner, which is necessary in any academic and professional activities. The course focuses on the process of writing to produce a quality paragraph: generate and develop ideas, create a paragraph outline, write and revise multiple drafts, and edit a final draft. While the main focus of the course is on writing, all four language skills are integrated in class activities to develop your overall academic English skills. Class activities include individual and group writing, group discussion, and peer feedback. You are expected to exchange constructive feedback on each other's work.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Describing with Space Order  Week 3: Describing with Space Order  Week 4: Describing with Space Order  Week 5: Stating Reasons and Using Examples  Week 6: Stating Reasons and Using Examples  Week 7: Stating Reasons and Using Examples  Week 8: Stating Reasons and Using Examples  Week 9: Review  Week 10: Expressing Your Opinion  Week 11: Expressing Your Opinion  Week 12: Expressing Your Opinion  Week 13: Expressing Your Opinion  Week 14: Review  Week 15: Final Writing Assignment</p>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>Students are required to do writing activities at home each week (90 minutes).</p>		
テキスト	<p><i>Longman Academic Writing Series 2: Paragraph</i> by Ann Hogue (Pearson)</p>		
参考文献	<p>N/A</p>		
評価方法	<p>Active participation 20%, Homework 20%, Graded Writing Assignments 60%</p>		

08年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	高畑 哲男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Eメールの普及によってライティングの重要性が高まってきた。この授業では、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。まず、パラグラフの構造を学び、さらにさまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらう。「昼の上の水練」という言葉があるように、ライティングもその方法を理解するだけでなく、実際に書くことではじめて技量が向上する。授業では教科書の英文理解から始めて、プリントも積極的に活用しながら文章の要約、記事の見出し付けも交えてのライティングをおこなう。なお、学期中は頻繁に課題提出と指名発表を求める。熱意のある受講者を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (授業内容と進行計画、その他)</li> <li>2. The Topic Sentence of the Paragraph(1)</li> <li>3. The Topic Sentence of the Paragraph(2)</li> <li>4. The Topic Sentence of the Paragraph(3)</li> <li>5. The Specific Details of the Paragraph(1)</li> <li>6. The Specific Details of the Paragraph(2)</li> <li>7. The Specific Details of the Paragraph(3)</li> <li>8. Time Order(1)</li> <li>9. Time Order(2)</li> <li>10. Time Order(3)</li> <li>11. Space Order(1)</li> <li>12. Space Order(2)</li> <li>13. Space Order(3)</li> <li>14. Process and Direction(1)</li> <li>15. Process and Direction(2)</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の当該箇所を熟読して設問に解答後、英文を作成する。また、加筆修正を加える		
テキスト	<b>Paragraphs That Communicate 2nd edition (Macmillan Language House)</b>		
参考文献	授業時に紹介する		
評価方法	期末試験またはレポート (70%)、提出物 (15%)、板書発表を含む授業参加、貢献 (15%) によって評価する。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象にならない。		

08年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	高畑 哲男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ライティング Ia に続いて、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。</p> <p>さまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらう。「昼の上の水練」という言葉があるように、パラグラフもその方法を理解するだけではなく、実際に書くことではじめて技量が向上することをよく理解してもらいたい。</p> <p>授業では教科書の英文理解から始めて、プリントも積極的に活用しながら文章の要約、記事の見出し付けも交えてのライティングをおこなう。なお、学期中は頻繁に課題提出と指名発表を求める。熱意のある受講者を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (授業内容と進行計画、その他)</li> <li>2. Cause and Effect(1)</li> <li>3. Cause and Effect(2)</li> <li>4. Cause and Effect(3)</li> <li>5. Examples(1)</li> <li>6. Examples(2)</li> <li>7. Examples(3)</li> <li>8. Definition(1)</li> <li>9. Definition(2)</li> <li>10. Definition(3)</li> <li>11. Classification(1)</li> <li>12. Classification(2)</li> <li>13. Classification(3)</li> <li>14. Comparison and Contrast(1)</li> <li>15. Comparison and Contrast(2)</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の当該箇所を熟読して設問に解答後、英文を作成する。また、加筆修正を加える		
テキスト	<b>Paragraphs That Communicate 2nd edition (Macmillan Language House)</b>		
参考文献	授業時に紹介する		
評価方法	期末試験またはレポート (70%)、提出物 (15%)、板書発表を含む授業参加、貢献 (15%) によって評価する。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象にならない。		

08年度以降	English (スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	W. へイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication across a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to:</p> <p>1. Discuss and lead discussions on a variety of social issues.</p> <p>2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts.</p> <p>3. Feel confident giving short presentations to small groups and larger audiences.</p>		<p>1. Course Orientation</p> <p>2. Unit 1: Food</p> <p>3. Unit 1: Food</p> <p>4. Unit 1: Short Presentation</p> <p>5. Unit 2: Festivals</p> <p>6. Unit 2: Festivals</p> <p>7. Unit 2: Midterm Team Presentations</p> <p>8. Unit 3: Cities</p> <p>9. Unit 3: Cities</p> <p>10. 10: Unit 3: Short Presentation</p> <p>11. Unit 4: Jobs</p> <p>12. Unit 4: Jobs</p> <p>13. Unit 4: Short Presentation</p> <p>14. Final Presentation – Group A</p> <p>15. Final Presentation – Group B</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preview the textbook before each class: 30 – 60 minutes. Every 2 weeks students will be required to prepare for a short talk or presentation. Preparation time will range from 4 to 6 hours.		
テキスト	Hartman, P., Douglas, N., & Boon, A. (2014). Inspire 2. National Geographic Learning. Cengage.		
参考文献	In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		
評価方法	Short Presentations: 30%, Midterm Presentation: 20%, Final Presentation: 30%, Participation: 20%		

08年度以降	English (スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	W. へイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to continue to build confidence in your speaking ability and oral communication across a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to:</p> <p>1. Discuss and lead discussions on a variety of social issues.</p> <p>2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts.</p> <p>3. Feel confident giving short presentations to small groups and larger audiences.</p>		<p>1. Unit 5: Music</p> <p>2. Unit 5: Music</p> <p>3. 3: Unit 5: Short Presentation</p> <p>4. Unit 6: Journeys</p> <p>5. Unit 6: Journeys</p> <p>6. Unit 6: Short Presentation</p> <p>7. Unit 7: Families</p> <p>8. Unit 7: Families</p> <p>9. Midterm Team Presentations</p> <p>10. Unit 9: Happiness</p> <p>11. Unit 9: Happiness</p> <p>12. Unit 9: Short Presentation</p> <p>13. Final Presentation – Group A</p> <p>14. Final Presentation – Groups B</p> <p>15. Course reflection and review</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preview the textbook before each class: 30 – 60 minutes. Every 2 weeks students will be required to prepare for a short talk or presentation. Preparation time will range from 4 to 6 hours.		
テキスト	Hartman, P., Douglas, N., & Boon, A. (2014). Inspire 2. National Geographic Learning. Cengage		
参考文献	In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		
評価方法	Short Presentations: 30%, Midterm Presentation: 20%, Final Presentation: 30%, Participation: 20%		

08年度以降	English (スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	エイティム ソイハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to improve your oral communication skills through various group discussion, pair work and individual presentation activities. All activities will be closely linked to your textbook contents to help you gain insights into various global issues around the world. For this purpose, you'll be given numerous opportunities to express yourself, present your ideas, tell stories and ask and answer questions during this course. Our goal is to make every class as interactive and lively as possible.</p> <p>By the end of this course, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Give opinions about passages orally or in writing</li> <li>• Present their ideas effectively Ask and answer questions in complete sentences</li> <li>• Tell stories and share their own experiences</li> </ul>		<p>Week 1: Introduction &amp; Syllabus discussion.  Week 2: Unit 1 Attitudes  Week 3: Unit 2 Money  Week 4: Unit 3 Health  Week 5: Unit 4 Education  Week 6: Review  Week 7: Mid-term Speaking Assessment  Week 8: Unit 5 Crime  Week 9: Unit 6 The Environment  Week 10: Unit 7 The Aliens  Week 11: Unit 8 History  Week 12: Unit 8 History  Week 13: Final Vocabulary Quiz  Week 14: Final Presentation  Week 15: Review</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do pre- and/or post-class assignments or preparation (approx. 1 hour per week)		
テキスト	Communication Strategies II		
参考文献	特になし		
評価方法	Participation- 10%, Assignments – 20%, Presentations – 10%, Mid-term Presentation – 20%, Final Quiz 20%, –Final Presentation – 20%		

08年度以降	English (スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	エイティム ソイハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to improve your oral communication skills through various group discussion, pair work and individual presentation activities. All activities will be closely linked to your textbook contents to help you gain insights into various global issues around the world. For this purpose, you'll be given numerous opportunities to express yourself, present your ideas, tell stories and ask and answer questions during this course. Our goal is to make every class as interactive and lively as possible.</p> <p>By the end of this course, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Make arguments and support their opinions both orally or in writing</li> <li>• Give more detailed answers to questions</li> <li>• Provide greater detail when telling stories</li> </ul>		<p>Week 1: Introduction of the syllabus  Week 2: Unit 9 Women in Society  Week 3: Unit 10 The developing world  Week 4: Unit 11 Violence  Week 5: Unit 12 Politics  Week 6: Review  Week 7: Mid-term Speaking Assessment  Week 8: Unit 13 Economics  Week 9: Unit 14 Happiness  Week 10: Unit 14 Happiness  Week 11: Unit 15 Globalization  Week 12: Unit 15 Globalization (Further discussion and final project)  Week 13: Final Quiz  Week 14: Final Speaking Assessment  Week 15: Review</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do pre- and/or post-class assignments or preparation (approx. 1 hour per week)		
テキスト	Communication Strategies II		
参考文献	特になし		
評価方法	Participation- 10%, Assignments – 20%, Presentations – 10%, Mid-term Presentation – 20%, Final Quiz 20%, –Final Presentation – 20%		

08年度以降	English(スピーキングIa) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	A. キャルコート
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to develop students' ability to speak English in academic contexts. Students will have opportunities to speak about themselves, but will be expected to go beyond that and also discuss academically-oriented topics. Class activities will include pair work and group work, and may also include presentations and/or debates. Active participation by students will be expected.		Week 1: Introduction to the course Week 2: The Guy with Green Hair Week 3: The Shoplifter Week 4: I'm Not Addicted Week 5: Beauty Contest Week 6: Who Pays? Week 7: Practice for speaking evaluations Week 8: Mid-term speaking evaluations Week 9: Saying "I Love You" Week 10: Family Values Week 11: Cyber Love Week 12: A Letter from Grandma Week 13: Fan Worship Week 14: Practice for speaking evaluations Week 15: Final speaking evaluations	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.		
テキスト	<i>Impact Issues 1</i> , Richard R. Day, Joseph Shaules & Yunko Yamanaka (Pearson Longman 2009)		
参考文献			
評価方法	Class performance (40%), in-class speaking evaluations (30% X 2 = 60%)		

08年度以降	English(スピーキングIb) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	A. キャルコート
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to develop students' ability to speak English in academic contexts. Students will have opportunities to speak about themselves, but will be expected to go beyond that and also discuss academically-oriented topics. Class activities will include pair work and group work, and may also include presentations and/or debates. Active participation by students will be expected.		Week 1: Introduction to the course Week 2: Pet Peeve Week 3: Close Your Eyes and See Week 4: Will Children Save the Earth? Week 5: Get a Job! Week 6: To Tell or Not to Tell Week 7: Practice for speaking evaluations Week 8: Mid-term speaking evaluations Week 9: The Dream Week 10: To Have or Have Not Week 11: Are Humans Smart? Week 12: Cloning Cyndi Week 13: Why Learn English? Week 14: Practice for speaking evaluations Week 15: Final speaking evaluations	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.		
テキスト	<i>Impact Issues 1</i> , Richard R. Day, Joseph Shaules & Yunko Yamanaka (Pearson Longman 2009)		
参考文献			
評価方法	Class performance (40%), in-class speaking evaluations (30% X 2 = 60%)		

08年度以降	English(スピーキングIa) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	S. フォー
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be placed on using vocabulary, fun language activities and expressions to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that your conversations will be more attention grabbing.		1. Welcome/Introduction 2-3. Family 4-5. Friends 6-7. Culture 8. Skits/Vocabulary quiz 9-10. Education 11-12. Sports 13-14. Work 15. Skits/Vocabulary quiz	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to write, rehearse and present a skit after every four lessons, through which they show and understanding of the vocabulary, language and key expressions learned.		
テキスト	English Listening and Speaking Patterns 3 by Andrew E. Bennett		
参考文献			
評価方法	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent. Mid-term Speaking evaluations: 30 percent. Final Speaking Evaluation: 30 percent. Attendance and Class participation: 20 percent. <i>NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'</i>		

08年度以降	English(スピーキングIb) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	S. フォー
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be placed on using vocabulary, fun language activities and expressions to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that your conversations will be more attention grabbing.		1-2. Welcome back/Food 3-4. Studying English 4-5. Health 6-7. Clothes 8. Skits/Vocabulary quizzes 9-10. Travelling 11-12. Music 13-14. Movies 15. Skits/Vocabulary quiz	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to write, rehearse and present a skit after every four lessons, through which they show and understanding of the vocabulary, language and key expressions learned.		
テキスト	English Listening and Speaking Patterns 3 by Andrew E. Bennett		
参考文献			
評価方法	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent. Mid-term Speaking evaluations: 30 percent. Final Speaking Evaluation: 30 percent. Attendance and Class participation: 20 percent. <i>NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'</i>		

08年度以降	English(スピーキングIa) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	E. パタソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to help you improve your communication skills. Activities will focus on pair work and small-group discussion of topics chosen to be of interest to people your age. Although there will be some review of basic grammar (verb tenses, subject-verb agreement, etc.), primary emphasis will be placed on practical vocabulary, idiom and common terms and expressions.</p>		<p>1 Orientation 2 Introducing minimal linguistic units 3-4 Clothing 5-6 Video Games 7-8 Advertising 9-10 Mobile phones 11-12 Manners &amp; Etiquette 13-14 Volunteering 15 Review</p>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>This class requires students to complete at least one hour of assigned homework each week.</p>		
テキスト	<p>Communication Strategies 3</p>		
参考文献	<p>(recommended) Basic Grammar in Use Japanese Edition, Raymond Murphy, Cambridge U Press</p>		
評価方法	<p>Grading criteria: Participation: 25%, Speaking Evaluations: 45%, Vocabulary &amp; Listening Tests: 30%. NOTE: Four or more absences will <b>automatically</b> result in an <b>F</b> grade.</p>		

08年度以降	English(スピーキングIb) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	E. パタソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to help you improve your communication skills. Activities will focus on pair work and small-group discussion of topics chosen to be of interest to people your age. Although there will be some review of basic grammar (verb tenses, subject-verb agreement, etc.), primary emphasis will be placed on practical vocabulary, idiom and common terms and expressions.</p>		<p>1 Orientation 2 Introducing minimal linguistic units 3-4 Health &amp; Nature 5-6 Free Education 7-8 Multiple Intelligences 9-10 Gender Roles 11-12 Dating 13-14 Parenting 15 Review</p>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>This class requires students to complete at least one hour of assigned homework each week.</p>		
テキスト	<p>Communication Strategies 3</p>		
参考文献	<p>(recommended) Basic Grammar in Use Japanese Edition, Raymond Murphy, Cambridge U Press</p>		
評価方法	<p>Grading criteria: Participation: 25%, Speaking Evaluations: 45%, Vocabulary &amp; Listening Tests: 30%. NOTE: Four or more absences will <b>automatically</b> result in an <b>F</b> grade.</p>		

08年度以降	English(スピーキングIIa) / (Speaking in Academic Contexts IIa: Presentation)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル人材：英語力、<u>プレゼン力</u>、異文化理解力</p> <p>The purpose of this course is to provide students with skills of giving a presentation in English, which is urgently sought after in many international businesses today. Presentation is a way of giving information to a group of people, usually in a formal way. Therefore, there are some certain techniques to be employed. To learn to make it effective, persuasive and impressive, four projects will be assigned in the spring semester. Two of them will be done by individuals and the other two by groups. Through these projects with a variety of topics, strategies will be learned for improving fluency, accuracy and effectiveness in speaking and giving a presentation.</p>		<p>W1: Orientation; Basics of an English Presentation</p> <p>W2: Mission 1: "INTRODUCE YOURSELF" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W3: Mission 1: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W4: Mission 1: Give a Presentation</p> <p>W5: Mission 2: "GIVE YOUR IDEAS" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W6: Mission 2: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W7: Mission 2: Give a Presentation</p> <p>W8: Review</p> <p>W9: Mission 3: "NICE PLACES IN JAPAN" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W10: Mission 3: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W11: Mission 3: Give a Presentation</p> <p>W12: Mission 4: "SUMMER PLANS" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W13: Mission 4: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W14: Mission 4: Give a Presentation</p> <p>W15: Review</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	1) Preparation: Read sample presentations, study vocabulary and expressions, and prepare your own topic to talk about. 2) Review: Look at your own performance on a recorded video. Self-evaluate and work to improve where you went wrong.		
テキスト、参考文献	<i>One-minute Presentation in English</i> (Noboru Matsuoka & Kazuo Sobajima, 松柏社)		
評価方法	80% from presentation performances; 20% from papers S: 100-90%、A: 89-80%、B: 79-70%、C: 69-60%、Failure: 59% or below		

08年度以降	English(スピーキングIIb) / (Speaking in Academic Contexts IIb: Presentation)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル人材：英語力、<u>プレゼン力</u>、異文化理解力</p> <p>The purpose of this course is to provide students with skills of giving a presentation in English, which is urgently sought after in many international businesses today. Presentation is a way of giving information to a group of people, usually in a formal way. Therefore, there are some certain techniques to be employed. To learn to make it effective, persuasive and impressive, four projects will be assigned in the fall semester. Two of them will be done by individuals and the other two by groups. Through these projects with a variety of topics, strategies will be learned for improving fluency, accuracy and effectiveness in speaking and giving a presentation.</p>		<p>W1: Orientation; Basics of an English Presentation (Review)</p> <p>W2: Mission 5: "CLASSMATES" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W3: Mission 5: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W4: Mission 5: Give a Presentation</p> <p>W5: Mission 6: "JAPANESE CULTURE" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W6: Mission 6: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W7: Mission 6: Give a Presentation</p> <p>W8: Review</p> <p>W9: Mission 7: "SOLVE PROBLEMS" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W10: Mission 7: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W11: Mission 7: Give a Presentation</p> <p>W12: Mission 8: "FUTURE PLANS" (Step 1: Write a Speech)</p> <p>W13: Mission 8: (Step 2: Make PowerPoint Slides)</p> <p>W14: Mission 8: Give a Presentation</p> <p>W15: Review</p>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	1) Preparation: Read sample presentations, study vocabulary and expressions, and prepare your own topic to talk about. 2) Review: Look at your own performance on a recorded video. Self-evaluate and work to improve where you went wrong.		
テキスト、参考文献	<i>One-minute Presentation in English</i> (Noboru Matsuoka & Kazuo Sobajima, 松柏社)		
評価方法	80% from presentation performances; 20% from papers S: 100-90%、A: 89-80%、B: 79-70%、C: 69-60%、Failure: 59% or below		

08年度以降	English(スピーキングIIa) / (Speaking in Academic Contexts IIa: Presentation)	担当者	J. ハサウエイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>We will learn how to make presentations more exciting, more interesting. We will begin with a textbook, then go on our own.</p> <p>We will do and watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc.</p> <p>Students will do 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed.</p> <p>Leaning takes practice. <u>To learn, you must come to class.</u></p> <p>Questions or problems, send me an e-mail: sumiink@hotmail.com</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Chapter 1, A Motto for life</li> <li>3. Ch.1 continued</li> <li>4. Chapter 2, Young people today</li> <li>5. Ch. 2 continued</li> <li>6. Chapter 3 Dream vacation</li> <li>7. Ch. 3 continued</li> <li>8. Midterm presentation</li> <li>9. Chapter 4, How the world works</li> <li>10. Ch. 4 continued</li> <li>11. Chapter 5, In my opinion</li> <li>12. Ch. 5 continued</li> <li>13. Chapter 6, In the News</li> <li>14. Ch. 6 continued</li> <li>15. Final presentation</li> </ol>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>You will compose presentations, and view professional presentations outside of class.</p> <p>A good presentation requires practice.</p>		
テキスト	Present Yourself 2, Viewpoints, Steven Gersgorn, Oxford,		
参考文献	No		
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60% , Homework 15%, Quizzes and examinations 25% 4 absences is, in principle, an automatic F or X		

08年度以降	English(スピーキングIIb) / (Speaking in Academic Contexts IIb: Presentation)	担当者	J. ハサウエイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>We will learn how to make presentations more exciting, more interesting</p> <p>We will do and watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc.</p> <p>Students will do 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed.</p> <p>Leaning takes practice. <u>To learn, you must come to class.</u></p> <p>Questions or problems, send me an e-mail: sumiink@hotmail.com</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. create first presentation</li> <li>3. practice in groups</li> <li>4. present to the class</li> <li>5. Analyze presentations</li> <li>6. Create 2<sup>nd</sup> presentation</li> <li>7. Work in groups, begin debate skills</li> <li>8. Present to the class</li> <li>9. Analyze and review</li> <li>10. begin midterm presentation</li> <li>11. practice debating</li> <li>12. formal debate</li> <li>13. present to full class</li> <li>14. present</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>You will compose presentations, and view professional presentations outside of class.</p> <p>A good presentation requires practice.</p>		
テキスト	No Text		
参考文献	No		
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60% , Homework 15%, Quizzes and examinations 25% 4 absences is, in principle, an automatic F or X		

08 年度以降	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa)	担当者	中西 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目(選択)です。</p> <p>▽ 対象:外国語学部(独・仏)、法学部(法律・総政・国関法)で、<u>TOEICスコアがおおむね500点以上</u>の学生を対象とします。</p> <p>▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年で履修となります。</p> <p>▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、<u>効果的かつ批判的に読む力</u>をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、<u>自分でも書けるようにすること</u>を目的とします。使用言語は英語。</p> <p>▽ 指定図書は“Writing to communicate Book 3”です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Writing in English</li> <li>2. Chapter 1 The process of writing</li> <li>3. Chapter 1 The process of writing</li> <li>4. Chapter 1 The process of writing</li> <li>5. Chapter 2 The cause and effect essay</li> <li>6. Chapter 2 The cause and effect essay</li> <li>7. Chapter 2 The cause and effect essay</li> <li>8. Chapter 3 The problem and solution essay</li> <li>9. Chapter 3 The problem and solution essay</li> <li>10. Chapter 3 The problem and solution essay</li> <li>11. Chapter 4 Summarizing and responding</li> <li>12. Chapter 4 Summarizing and responding</li> <li>13. Chapter 4 Summarizing and responding</li> <li>14. Chapter 4 Summarizing and responding</li> <li>15. Review and Final assignment submission</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。		
テキスト	指定教科書 Writing to communicate. (Pearson) Book 3		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	Active Participation 20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam 30%		

08 年度以降	English(リーディング IIIb) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIb)	担当者	中西 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目(選択)です。</p> <p>▽ 対象:外国語学部(独・仏)、法学部(法律・総政・国関法)で、<u>TOEICスコアがおおむね500点以上</u>の学生を対象とします。</p> <p>▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年で履修となります。</p> <p>▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、<u>効果的かつ批判的に読む力</u>をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、<u>自分でも書けるようにすること</u>を目的とします。使用言語は英語。</p> <p>▽ 指定図書は“Writing to communicate Book 3”です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chapter 5 Responding to a travel story</li> <li>2. Chapter 5 Responding to a travel story</li> <li>3. Chapter 5 Responding to a travel story</li> <li>4. Chapter 6 Two sides of an issue</li> <li>5. Chapter 6 Two sides of an issue</li> <li>6. Chapter 6 Two sides of an issue</li> <li>7. Chapter 7 The first draft</li> <li>8. Chapter 7 The first draft</li> <li>9. Chapter 7 The first draft</li> <li>10. Chapter 8 Doing research</li> <li>11. Chapter 8 Doing research</li> <li>12. Chapter 8 Doing research</li> <li>13. Chapter 9 Revising and editing</li> <li>14. Chapter 9 Revising and editing</li> <li>15. Review and Final assignment submission</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。		
テキスト	指定教科書 Writing to communicate. (Pearson) Book 3		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	Active Participation 20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam 30%		

08年度以降	English(e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL))	担当者	岡田 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ぎゅっとeというオンラインプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、総合的英語力とTOEICスコアの向上を目指します。          受講対象者：短期間でTOEICスコアを向上させたい方。教室外での集中的で継続的な自主学習が必要です。抽選に合格したら必ず履修する意欲のある方だけ登録してください。          受講条件：・現在のTOEICスコアが250点～500点くらい          (現在のスコアが低い方はより大きな努力が必要となります)          重要事項：          ・教室外で、学期中に20時間以上ぎゅっとeを学習          ・学期初めに設定した目標のぎゅっとeユニット数を学習          ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル）          ・学習自己評価（2回）          ・実力診断テスト（4回）          ・毎回の授業内で実力語彙テストを受験</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスとプログラムの説明</li> <li>2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成</li> <li>3. テキストDays 1-2 (listening),</li> <li>4. テキストDay 6 (listening), 語彙実力テスト1</li> <li>5. テキストDays 9-10 (listening), 語彙実力テスト2</li> <li>6. テキストDay 11 (listening), 語彙実力テスト3</li> <li>7. リスニング実力診断テスト</li> <li>8. リーディング実力診断テスト</li> <li>9. テキストDays 3-4 (reading), 語彙実力テスト4</li> <li>10. テキストDay 5(reading), 語彙実力テスト5</li> <li>11. テキストDays 7-8 (reading), 語彙実力テスト6</li> <li>12. テキストDay 9 (reading), 語彙実力テスト7</li> <li>13. テキスト Day 10 (reading),</li> <li>14. リーディング実力診断テスト</li> <li>15. まとめと質疑応答</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自計画を立て、週に2時間以上教室外でe-ラーニングを行う。毎回の授業の最後に出される指示に従って復習し、詳細なジャーナルを作成して次の授業で提出する。授業前後でおよそ4時間の学修時間となる。		
<b>テキスト</b>	1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』（ロバート・ヒルキ他著、アルク）2. ぎゅっとeプログラム		
<b>参考文献</b>	授業内で指示		
<b>評価方法</b>	積極的な授業参加 10%、実力診断テスト 8%、学習記録 12%、学習プランと自己評価レポート 9%、学習プランの実行 21%、授業内語彙実力テスト 10%、期末テスト 30%。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL))	担当者	岡田 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ぎゅっとeというオンラインプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、総合的英語力とTOEICスコアの向上を目指します。          受講対象者：短期間でTOEICスコアを向上させたい方。教室外での集中的で継続的な自主学習が必要です。抽選に合格したら必ず履修する意欲のある方だけ登録してください。          受講条件：・現在のTOEICスコアが250点～500点くらい          (現在のスコアが低い方はより大きな努力が必要となります)          重要事項：          ・教室外で、学期中に20時間以上ぎゅっとeを学習          ・学期初めに設定した目標のぎゅっとeユニット数を学習          ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル）          ・学習自己評価（2回）          ・実力診断テスト（4回）          ・毎回の授業内で実力語彙テストを受験</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスとプログラムの説明</li> <li>2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成</li> <li>3. テキストDays 1-2 (listening),</li> <li>4. テキストDay 6 (listening), 語彙実力テスト1</li> <li>5. テキストDays 9-10 (listening), 語彙実力テスト2</li> <li>6. テキストDay 11 (listening), 語彙実力テスト3</li> <li>7. リスニング実力診断テスト</li> <li>8. リーディング実力診断テスト</li> <li>9. テキストDays 3-4 (reading), 語彙実力テスト4</li> <li>10. テキストDay 5(reading), 語彙実力テスト5</li> <li>11. テキストDays 7-8 (reading), 語彙実力テスト6</li> <li>12. テキストDay 9 (reading), 語彙実力テスト7</li> <li>13. テキスト Day 10 (reading),</li> <li>14. リーディング実力診断テスト</li> <li>15. まとめと質疑応答</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各自計画を立て、週に2時間以上教室外でe-ラーニングを行う。毎回の授業の最後に出される指示に従って復習し、詳細なジャーナルを作成して次の授業で提出する。授業前後でおよそ4時間の学修時間となる。		
<b>テキスト</b>	1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』（ロバート・ヒルキ他著、アルク）2. ぎゅっとeプログラム		
<b>参考文献</b>	授業内で指示		
<b>評価方法</b>	積極的な授業参加 10%、実力診断テスト 8%、学習記録 12%、学習プランと自己評価レポート 9%、学習プランの実行 21%、授業内語彙実力テスト 10%、期末テスト 30%。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08年度以降	English(コンテンツ ii) / (English Explorations)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is an examination of English words from the perspective of applied linguistics.</p> <p>Through lectures, independent research, and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words including:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- What is a word?</li> <li>- How many English words are there?</li> <li>- What does it mean to <i>know</i> a word?</li> <li>- How many English words do you know right now?</li> <li>- How many English words does a Japanese university student need to know?</li> <li>- What is the best way to learn new words?</li> <li>- How is vocabulary organized in the mind?</li> </ul> <p>Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class. Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam.</p> <p>* Note: This course is only one-semester in length.</p>		<p>Tentative Course Contents:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. What is applied linguistics?</li> <li>3. What is a word?</li> <li>4. Types of words: content and function words</li> <li>5. Word families and lemmas</li> <li>6. Vocabulary testing I (This is not a test. This is a lesson about how to measure the number of words someone knows.)</li> <li>7. Vocabulary testing II</li> <li>8. Types of word knowledge</li> <li>9. Semantic relations between words I</li> <li>10. Semantic relations between words II</li> <li>11. Introduction to corpus linguistics I</li> <li>12. Introduction to corpus linguistics II</li> <li>13. Introduction to word association</li> <li>14. Research projects and presentations</li> <li>15. Final exam</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students must conduct a research project outside of class time, prepare a presentation of their findings, and to study vocabulary independently as preparation for in-class quizzes.		
テキスト	<i>Vocabulary for Languages and Linguistics</i> (著者 J. Racine, T. Nakanishi; 出版社 南雲堂)		
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.		
評価方法	Participation 15%; Research project and presentation 20%; Vocabulary quizzes 40%, Final exam 25% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	English(コンテンツ iii) / (English Explorations)	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▼ ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部1~4年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。授業活動はすべて英語です。</p> <p>▼ English Explorationsという科目では、言語や社会に関するひとつのテーマについて1学期間「英語で」学ぶことにより、テーマに関する理解を深め、英語力と思考力を伸ばします。</p> <p>▼ コンテンツiiiのテーマは「Critical Thinking」です。Critical thinkingは毎日の生活でも重要なスキルですが、特に大学での学びと研究、さらに職業生活では不可欠な思考法です。授業では英語でCritical thinking に関する基本用語と概念を理解し、よくメディアに取り上げられる世論調査など身近な題材を使って、議論や主張とその論拠を批判的に分析する練習をします。次のアカデミック英語スキルを伸ばします。(1) academic vocabulary, (2) analytical reading and writing (3) listening, (4) discussion, and (5) group presentation.</p> <p>▼ MyDOCを使って学習活動、資料配布、課題提出をします。</p> <p>▼ TOEIC400点以上を受講生の英語力の目安としますが、積極的に英語を使い授業に参加する努力ができる学生であればその限りではありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. What is critical thinking?</li> <li>3. What is critical thinking?: Facts and opinions</li> <li>4. What is critical thinking?: Putting evaluation into practice</li> <li>5. Assessing arguments: Recognising strong or sound arguments</li> <li>6. Assessing arguments: Strong or sound arguments</li> <li>7. Assessing arguments: Poor argumentation strategies</li> <li>8. Persuasion through language or pressure</li> <li>9. Detecting bias: interviews, researchers, sources of funding</li> <li>10. Detecting bias in research on a controversial issue</li> <li>11. Individual/Group research: Reading and analysing arguments</li> <li>12. Individual/Group research, academic presentation</li> <li>13. Individual/Group research, effective slides and presentation</li> <li>14. Individual/Group presentation &amp; feedback</li> <li>15. Final exam</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回の授業後、次の授業までに教科書・補助教材の指定箇所の学習と課題提出を行う。		
テキスト	Nukui, C. (2015). <i>Critical Thinking: Student's Book</i> . Garnet. Reading: UK		
参考文献	参考文献情報とその他教材は MyDOC で配布。		
評価方法	Participation and homework (blogs & discussions on MyDOC) 30%; Research project and presentation 40%; Final exam 30%		

08 年度以降	English(資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原 伸一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。</p> <p>スコアアップにつながる効果的な学習方法として、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。</p> <p>この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。</p> <p>① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。</p> <p>② 半期完結。通年履修不可。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. G (文法)、R (読解)、L (リスニング)、W (単語)</li> <li>2. G, R, L, W</li> <li>3. G, R, L, W</li> <li>4. G, R, L, W</li> <li>5. まとめと確認テスト (1)</li> <li>6. G, R, L, W</li> <li>7. G, R, L, W</li> <li>8. G, R, L, W</li> <li>9. G, R, L, W</li> <li>10. まとめと確認テスト (2)</li> <li>11. G, R, L, W</li> <li>12. G, R, L, W</li> <li>13. G, R, L, W</li> <li>14. G, R, L, W</li> <li>15. 総括と学習到達度確認テスト</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。		
<b>テキスト</b>	使用しない。		
<b>参考文献</b>	授業において、指示します。		
<b>評価方法</b>	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。		

08 年度以降	English(資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原 伸一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。</p> <p>スコアアップにつながる効果的な学習方法として、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。</p> <p>この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。</p> <p>③ この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。</p> <p>④ 半期完結。通年履修不可。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. G (文法)、R (読解)、L (リスニング)、W (単語)</li> <li>2. G, R, L, W</li> <li>3. G, R, L, W</li> <li>4. G, R, L, W</li> <li>5. まとめと確認テスト (1)</li> <li>6. G, R, L, W</li> <li>7. G, R, L, W</li> <li>8. G, R, L, W</li> <li>9. G, R, L, W</li> <li>10. まとめと確認テスト (2)</li> <li>11. G, R, L, W</li> <li>12. G, R, L, W</li> <li>13. G, R, L, W</li> <li>14. G, R, L, W</li> <li>15. 総括と学習到達度確認テスト</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。		
<b>テキスト</b>	使用しない。		
<b>参考文献</b>	授業において、指示します。		
<b>評価方法</b>	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。		

08年度以降	English(資格II) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
In an increasingly globalizing world, English competence is no longer just a nice skill to have – it is a necessary skill for success in various fields. The purpose of this course is to provide students with good communication skills in English and, as a consequence, help them get a high score of the TOEIC. For this purpose, a TOEIC Listening/Reading workbook will be used as a main textbook, focusing on both listening and reading exercises. The course activities also include intensive and extensive vocabulary-building exercises and quick grammar review to totally strengthen their command of English. Students are expected to work hard both in class and at home so that all of them can get a score of 730 points or above of the TOEIC when they finish the course.		Week 1: Orientation; About International Communication and TOEIC Week 2: Missions 1, 2: Shopping; At a Restaurant Week 3: Missions 3, 4: At an Airport; Entertainment Week 4: Missions 5, 6: At a Hotel; Job Hunting Week 5: How to break through the “Wall of Speed” Week 6: Missions 7, 8: Telephoning; Negotiating Week 7: Missions 9, 10: Giving a Presentation; Appointment Week 8: How to break through the “Wall of Pronunciation” Week 9: Missions 11, 12: At a Bank; On the Street Week 10: Missions 13, 14: Taking a Trip; Dealing with Troubles Week 11: Missions 15, 16: Renting an Apartment; Meetings Week 12: Missions 17, 18: Handling Customer Complaints Week 13: Missions 19, 20: Advertising; Parties Week 14: TOEIC Mock Test Week 15: Feedback and Advice for Further Study	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	1) Preparation: Work out your answers to all the questions in a designated Mission (Chapter). Also, be prepared for a “snowballing” vocabulary quiz. 2) Review: Read transcriptions of listening questions to check where you made mistakes.		
テキスト、参考文献	<i>Raise Your Score 150 Plus on the TOEIC Test</i> (松岡昇、傍島一夫共著、松柏社)		
評価方法	50% from Vocabulary Quizzes, 50% from TOEIC Mock Tests AA:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60、Failure: 59 or below		

08年度以降	English(資格II) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
In an increasingly globalizing world, English competence is no longer just a nice skill to have – it is a necessary skill for success in various fields. The purpose of this course is to provide students with good communication skills in English and, as a consequence, help them get a high score of the TOEIC. For this purpose, a TOEIC Listening/Reading workbook will be used as a main textbook, focusing on both listening and reading exercises. The course activities also include intensive and extensive vocabulary-building exercises and quick grammar review to totally strengthen their command of English. Students are expected to work hard both in class and at home so that all of them can get a score of 730 points or above of the TOEIC when they finish the course.		Week 1: Orientation; About International Communication and TOEIC Week 2: Missions 1, 2: Shopping; At a Restaurant Week 3: Missions 3, 4: At an Airport; Entertainment Week 4: Missions 5, 6: At a Hotel; Job Hunting Week 5: How to break through the “Wall of Speed” Week 6: Missions 7, 8: Telephoning; Negotiating Week 7: Missions 9, 10: Giving a Presentation; Appointment Week 8: How to break through the “Wall of Pronunciation” Week 9: Missions 11, 12: At a Bank; On the Street Week 10: Missions 13, 14: Taking a Trip; Dealing with Troubles Week 11: Missions 15, 16: Renting an Apartment; Meetings Week 12: Missions 17, 18: Handling Customer Complaints Week 13: Missions 19, 20: Advertising; Parties Week 14: TOEIC Mock Test Week 15: Feedback and Advice for Further Study	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	1) Preparation: Work out your answers to all the questions in a designated Mission (Chapter). Also, be prepared for a “snowballing” vocabulary quiz. 2) Review: Read transcriptions of listening questions to check where you made mistakes.		
テキスト、参考文献	<i>Raise Your Score 150 Plus on the TOEIC Test</i> (松岡昇、傍島一夫共著、松柏社)		
評価方法	50% from Vocabulary Quizzes, 50% from TOEIC Mock Tests AA:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60、Failure: 59 or below		

08年度以降	English (資格 III) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>▼ ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部1~4年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。</p> <p>▼ TOEFL iBTは、英語圏の大学レベルの英語を理解する能力と、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングスキルを統合して、アカデミックな課題を遂行する能力を評価する試験です。授業では、TOEFL iBT テストの各パートで求められる英語力と基本のtest-taking strategiesを理解し、テスト問題の実践練習を繰り返して行います。さらに、テスト問題練習に加え、様々な学習活動を通してアカデミックな英語コミュニケーションの実践力を伸ばす練習も行います。</p> <p>▼ 将来、英語圏大学への留学を考えている学生、TOEIC以外の国際的な英語検定試験に関心がある学生、より高度なアカデミック英語を学びたい学生に適した科目です。</p> <p>▼ MyDOCを使って連絡、教材・資料配布、学習活動、課題提出などをしますので、毎週定期的に確認できるように設定してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Overview of the TOEFL iBT</li> <li>3. Listening section</li> <li>4. Writing: Independent (Q2)</li> <li>5. Writing Integrated (Q1)</li> <li>6. Reading section</li> <li>7. Speaking: independent</li> <li>8. Speaking: integrated (Q3&amp;5)</li> <li>9. Speaking: integrated (Q4)</li> <li>10. Summarizing practice</li> <li>11. Summarizing practice</li> <li>12. Practice test</li> <li>13. Practice test</li> <li>14. Review, Final exam (Speaking and Writing)</li> <li>15. Final exam (Reading, Listening)</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、次の授業までに教科書・補助教材の指定箇所の学習と課題提出を行う。		
テキスト	第1回目の授業で発表します。		
参考文献	参考文献情報とその他補助教材はMyDOCで配布		
評価方法	Participation (Discussion Forum & Blogs on MyDOC) 20%; Assignments (e.g., Listening/Reading Summary Reports, Criterion Writing) 40 %; Final exam 40%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	English (資格 IV) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed to help prepare students to write the IELTS (International English Language Testing System) exam.</p> <p>Students will be introduced to the format of the exam at the beginning of the course. Throughout the semester, topic-based units will be explored while focusing on the four skills. Test-taking advice, general study strategies, and IELTS-specific strategies will also be examined. A variety of practice questions and practice tests will also be introduced to help prepare students for sitting the exam.</p> <p>Although this course is designed to prepare students who plan to write IELTS, any student who wishes to improve their English skills may also enroll.</p> <p>Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class.</p> <p>* Note: This course is only one-semester in length.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. What is IELTS? / Unit 1</li> <li>3. Unit 1 (Cont.)</li> <li>4. Unit 2</li> <li>5. Unit 2 (Cont.)</li> <li>6. Unit 3</li> <li>7. Unit 3 (Cont.)</li> <li>8. Mid-term exam / Unit 4</li> <li>9. Unit 4 (Cont.)</li> <li>10. Unit 5</li> <li>11. Unit 5 (Cont.)</li> <li>12. Unit 6</li> <li>13. Unit 6 (Cont.)</li> <li>14. Review</li> <li>15. Final exam</li> </ol>	
到達目標	<p>学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>Students will be expected to complete reading and grammar assignments as preparation for subsequent class activities.</p>		
テキスト	<p><i>Achieve IELTS 1</i> (著者 L. Harrison, C. Cushen; 出版社 National Geographic / Cengage)</p>		
参考文献	<p>Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.</p>		
評価方法	<p>Class participation 20%; Midterm exam 40%; Final exam 40% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)</p>		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

08年度以降	English(発音) / (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期1回のみです。</p> <p>大学や仕事での様々な場面、特に公の場（プレゼンテーション、ディスカッションなど）で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニケーション型の授業活動と、シャドーイングや図書館発話ブースの発音矯正ソフトを用いた練習などの自発的学習を通して身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母音・子音の発音</li> <li>・強勢、イントネーション、リズム</li> <li>・音の短縮・脱落・同化・結合</li> <li>・発音記号と辞書の使い方</li> <li>・日本語と英語の発音の違い</li> </ul> <p>学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction: Ch.2 Overview</li> <li>2. Ch.3 Voiceless and voiced sounds</li> <li>3. Ch.1 Your pronunciation profile (Recording)</li> <li>4. Ch.4 Grammatical endings</li> <li>5. Ch.5 Word stress in nouns, verbs, &amp; numbers</li> <li>6. Ch.6 Stress in words with suffixes</li> <li>7. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences</li> <li>8. Midterm speech presentations</li> <li>9. Ch.8 Thought groups</li> <li>10. Ch.9 Focus words</li> <li>11. Ch.10 Final intonation</li> <li>12. Ch.11 Linking and sound change</li> <li>13. Ch.12 Consonant clusters</li> <li>14. Final speech presentations; Ch. 1 (Recording)</li> <li>15. Review</li> </ol> <p>※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
<b>テキスト</b>	Grant, L. (2017). <i>Well Said</i> , Fourth Edition. Cengage.		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	授業参加 30%、課題 10%、中間発表 10%、期末発表 20%、期末試験 30%		

08年度以降	English(発音) / (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期1回のみです。</p> <p>大学や仕事での様々な場面、特に公の場（プレゼンテーション、ディスカッションなど）で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニケーション型の授業活動と、シャドーイングや図書館発話ブースの発音矯正ソフトを用いた練習などの自発的学習を通して身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母音・子音の発音</li> <li>・強勢、イントネーション、リズム</li> <li>・音の短縮・脱落・同化・結合</li> <li>・発音記号と辞書の使い方</li> <li>・日本語と英語の発音の違い</li> </ul> <p>学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction: Ch.2 Overview</li> <li>2. Ch.3 Voiceless and voiced sounds</li> <li>3. Ch.1 Your pronunciation profile (Recording)</li> <li>4. Ch.4 Grammatical endings</li> <li>5. Ch.5 Word stress in nouns, verbs, &amp; numbers</li> <li>6. Ch.6 Stress in words with suffixes</li> <li>7. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences</li> <li>8. Midterm speech presentations</li> <li>9. Ch.8 Thought groups</li> <li>10. Ch.9 Focus words</li> <li>11. Ch.10 Final intonation</li> <li>12. Ch.11 Linking and sound change</li> <li>13. Ch.12 Consonant clusters</li> <li>14. Final speech presentations; Ch. 1 (Recording)</li> <li>15. Review</li> </ol> <p>※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。</p>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
<b>テキスト</b>	Grant, L. (2017). <i>Well Said</i> , Fourth Edition. Cengage.		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	授業参加 30%、課題 10%、中間発表 10%、期末発表 20%、期末試験 30%		

08年度以降	English(基礎文法 a) / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	垣下 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。</p> <p>文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていきます。</p> <p>授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。</p> <p>TOEICの得点が、<u>300点台後半から400点台半ば</u>程度の学生が受講することが望まれます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、現在形</li> <li>2. 現在形・現在進行形</li> <li>3. 過去形（単純過去形、過去進行形）</li> <li>4. 過去形（used to, wouldなど）</li> <li>5. 名詞（可算名詞・不可算名詞）</li> <li>6. 名詞（数量形容詞）</li> <li>7. 代名詞・前置詞</li> <li>8. 冠詞</li> <li>9. 現在完了形</li> <li>10. 現在完了進行形・過去完了形</li> <li>11. 形容詞・副詞</li> <li>12. 未来形</li> <li>13. 比較級</li> <li>14. 最上級</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。 また、ライティングの課題が出されるので、指示に従って提出してください。		
テキスト	<i>Grammar Explorer 2A</i> (CENGAGE Learning)		
参考文献			
評価方法	積極的な授業参加（20%） 課題（10%）小テスト（30%） 期末試験（40%）とする。 原則として、 <u>4回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。</u>		

08年度以降	English(基礎文法 b) / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	垣下 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。</p> <p>文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていきます。</p> <p>授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。</p> <p>TOEICの得点が、<u>300点台後半から400点台半ば</u>程度の学生が受講することが望まれます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、接続詞</li> <li>2. 副詞句</li> <li>3. 動名詞</li> <li>4. 不定詞</li> <li>5. 関係代名詞（主格）</li> <li>6. 関係代名詞（目的格）</li> <li>7. 助動詞（能力）</li> <li>8. 助動詞（推量・許可）</li> <li>9. 慣用句</li> <li>10. 受動態</li> <li>11. 現在分詞・過去分詞</li> <li>12. 間接話法</li> <li>13. 仮定法（直説法・仮定法過去）</li> <li>14. 仮定法（仮定法過去完了）</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。 また、ライティングの課題が出されるので、指示に従って提出してください。		
テキスト	<i>Grammar Explorer 2B</i> (CENGAGE Learning)		
参考文献			
評価方法	積極的な授業参加（20%） 課題（10%）小テスト（30%） 期末試験（40%）とする。 原則として、 <u>4回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。</u>		

08年度以降	English(基礎文法 a) / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	豊田 宣是
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、英文法のおさらいをします。文法は、文章を正しく理解し、自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるために不可欠なものです。</p> <p>授業は発表形式で行い、各章の担当者に文法事項と練習問題の解説をしてもらい、教員は主にその補助をします。練習問題の分量が多いので、全てを取り扱うことはできません。</p> <p>大学の授業というものは、学生が作るものです。よって、学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で積極的に質問し、解決できるように心がけて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation + Module 1: Nouns and articles</li> <li>2. Module 1: Nouns and articles</li> <li>3. Module 2: Possessives, pronouns and quantifiers</li> <li>4. Module 3: Prepositions</li> <li>5. Module 4: Adjectives and adverbs</li> <li>6. Module 5: Present tenses</li> <li>7. Module 6: Past tenses</li> <li>8. Review</li> <li>9. Midterm Exam</li> <li>10. Module 7: Present perfect</li> <li>11. Module 8: Future forms</li> <li>12. Module 9: Modal verbs</li> <li>13. Module 10: Conditionals</li> <li>14. Review</li> <li>15. Final Exam</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に練習問題を一通り解いて、わからないところを見つけ、授業後に必ず復習してください。		
テキスト	Mark Foley, Diane Hall, <i>MyGrammarLab Intermediate B1/B2</i> , Pearson.		
参考文献			
評価方法	中間試験 (40%) + 期末試験 (40%) + 発表 (20%)		

08年度以降	English(基礎文法 b) / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	豊田 宣是
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、英文法のおさらいをします。文法は、文章を正しく理解し、自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるために不可欠なものです。</p> <p>授業は発表形式で行い、各章の担当者に文法事項と練習問題の解説をしてもらい、教員は主にその補助をします。練習問題の分量が多いので、全てを取り扱うことはできません。</p> <p>大学の授業というものは、学生が作るものです。よって、学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で積極的に質問し、解決できるように心がけて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Module 11: Word order and sentence patterns</li> <li>3. Module 11: Word order and sentence patterns</li> <li>4. Module 12: Verbs with -ing forms and infinitives</li> <li>5. Module 13: Reported speech</li> <li>6. Module 14: Relatives, particles and other clauses</li> <li>7. Module 15: Linking words</li> <li>8. Review</li> <li>9. Midterm Exam</li> <li>10. Module 16: Passive forms</li> <li>11. Module 17: Word combinations</li> <li>12. Module 18: Word formation</li> <li>13. Module 19: Formal and written English</li> <li>14. Module 20: Spoken English</li> <li>15. Final Exam</li> </ol>	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に練習問題を一通り解いて、わからないところを見つけ、授業後に必ず復習してください。		
テキスト	Mark Foley, Diane Hall, <i>MyGrammarLab Intermediate B1/B2</i> , Pearson.		
参考文献			
評価方法	中間試験 (40%) + 期末試験 (40%) + 発表 (20%)		

08年度以降	English(基礎文法 a) / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	菊池 武
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。</p> <p>文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないだろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。TOEICの得点が400点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、現在形・現在進行形</li> <li>2 現在形・現在進行形</li> <li>3 過去形・過去進行形</li> <li>4 動名詞、so, neither の用法</li> <li>5 現在完了形と現在完了進行形</li> <li>6 現在完了形と過去形</li> <li>7 6回目の授業までのまとめ</li> <li>8 疑問文</li> <li>9 過去完了・過去完了進行形</li> <li>10 目的語を2つ取る動詞、時を表す節</li> <li>11 間接話法 (1)</li> <li>12 助動詞の用法</li> <li>13 推量の表現</li> <li>14 both, neither; all, none の用法</li> <li>15 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外での学習に反映すること。		
<b>テキスト</b>	<i>Grammar three Third Edition</i> (Oxford University Press)		
<b>参考文献</b>	授業において指示する。		
<b>評価方法</b>	授業への参加の姿勢 (30%)、課題等の提出 (30%)、期末テスト (40%)。原則として4回以上欠席した学生は評価の対象とならない。		

08年度以降	English(基礎文法 b) / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	菊池 武
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。</p> <p>文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないだろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。TOEICの得点が400点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、仮定法過去・不可算名詞</li> <li>2 不定詞、使役動詞</li> <li>3 need + ing; have/got something done の用法</li> <li>4 関係詞</li> <li>5 間接疑問文</li> <li>6 必要・義務の表現、動詞句</li> <li>7 付加疑問・願望の表現 (1)、可算名詞</li> <li>8 義務の表現</li> <li>9 不定詞 (2)、動名詞 (2)</li> <li>10 副詞・願望の表現 (2)</li> <li>11 受動態 (1)</li> <li>12 受動態 (2)</li> <li>13 仮定法過去完了</li> <li>14 時制のまとめ</li> <li>15 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外での学習に反映すること。		
<b>テキスト</b>	<i>Grammar three Third Edition</i> (Oxford University Press)		
<b>参考文献</b>	授業において指示する		
<b>評価方法</b>	授業への参加の姿勢 (30%)、課題等の提出 (30%)、期末テスト (40%)。原則として4回以上欠席した学生は評価の対象とならない。		

08年度以降	基礎コース ドイツ語 (I a 基礎)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また映像と音声はすべてWebの専用ページでPCでもスマホでも視聴できます。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語学習への導入</li> <li>2. Lektion 1 (1)</li> <li>3. Lektion 1 (2)</li> <li>4. Lektion 2 (1)</li> <li>5. Lektion 2 (2)</li> <li>6. Lektion 3 (1)</li> <li>7. Lektion 3 (2)</li> <li>8. Lektion 4 (1)</li> <li>9. Lektion 4 (2)</li> <li>10. Lektion 5 (1)</li> <li>11. Lektion 5 (2)</li> <li>12. Lektion 6 (1)</li> <li>13. Lektion 6 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。		
<b>テキスト</b>	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』(朝日出版社) 2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	基礎コース ドイツ語 (I b 基礎)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また映像と音声はすべてWebの専用ページでPCでもスマホでも視聴できます。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 7 (1)</li> <li>3. Lektion 7 (2)</li> <li>4. Lektion 8 (1)</li> <li>5. Lektion 8 (2)</li> <li>6. Lektion 9 (1)</li> <li>7. Lektion 9 (2)</li> <li>8. Lektion 10 (1)</li> <li>9. Lektion 10 (2)</li> <li>10. Lektion 11 (1)</li> <li>11. Lektion 11 (2)</li> <li>12. Lektion 12 (1)</li> <li>13. Lektion 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。		
<b>テキスト</b>	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』(朝日出版社) 2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (I a 基礎)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。映像と音声はすべてWebの専用ページでPCでもスマホでも視聴できます。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語学習への導入</li> <li>2. Lektion 1 (1)</li> <li>3. Lektion 1 (2)</li> <li>4. Lektion 2 (1)</li> <li>5. Lektion 2 (2)</li> <li>6. Lektion 3 (1)</li> <li>7. Lektion 3 (2)</li> <li>8. Lektion 4 (1)</li> <li>9. Lektion 4 (2)</li> <li>10. Lektion 5 (1)</li> <li>11. Lektion 5 (2)</li> <li>12. Lektion 6 (1)</li> <li>13. Lektion 6 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。		
<b>テキスト</b>	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』(朝日出版社) 2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (I b 基礎)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。映像と音声はすべてWebの専用ページでPCでもスマホでも視聴できます。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 7 (1)</li> <li>3. Lektion 7 (2)</li> <li>4. Lektion 8 (1)</li> <li>5. Lektion 8 (2)</li> <li>6. Lektion 9 (1)</li> <li>7. Lektion 9 (2)</li> <li>8. Lektion 10 (1)</li> <li>9. Lektion 10 (2)</li> <li>10. Lektion 11 (1)</li> <li>11. Lektion 11 (2)</li> <li>12. Lektion 12 (1)</li> <li>13. Lektion 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。		
<b>テキスト</b>	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』(朝日出版社) 2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (I a 会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語学習への導入</li> <li>2. Lektion 1 Guten Tag, wie gehts? (1)</li> <li>3. Lektion 1 Guten Tag, wie gehts? (2)</li> <li>4. Lektion 1 Guten Tag, wie gehts? (3)</li> <li>5. Lektion 2 Familie! Familie? (1)</li> <li>6. Lektion 2 Familie! Familie? (2)</li> <li>7. Lektion 2 Familie! Familie? (3)</li> <li>8. Lektion 2 Familie! Familie? (4)</li> <li>9. Lektion 3 In meiner Freizeit (1)</li> <li>10. Lektion 3 In meiner Freizeit (2)</li> <li>11. Lektion 3 In meiner Freizeit (3)</li> <li>12. Lektion 3 In meiner Freizeit (4)</li> <li>13. Lektion 3 In meiner Freizeit (5)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。		
<b>テキスト</b>	Akamatsu, Enrico / Meyer, Andreas 2016: プラン D Plan D Deutsch für Anfänger Kursbuch und Arbeitsbuch CD[MP3 付き, 三修社		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (I b 会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 4 So wohne ich (1)</li> <li>3. Lektion 4 So wohne ich (2)</li> <li>4. Lektion 4 So wohne ich (3)</li> <li>5. Lektion 4 So wohne ich (4)</li> <li>6. Lektion 5 Mein Tag (1)</li> <li>7. Lektion 5 Mein Tag (2)</li> <li>8. Lektion 5 Mein Tag (3)</li> <li>9. Lektion 5 Mein Tag (4)</li> <li>10. Lektion 6 Studieren und Lernen (1)</li> <li>11. Lektion 6 Studieren und Lernen (2)</li> <li>12. Lektion 6 Studieren und Lernen (3)</li> <li>13. Lektion 6 Studieren und Lernen (4)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。		
<b>テキスト</b>	Akamatsu, Enrico / Meyer, Andreas 2016: プラン D Plan D Deutsch für Anfänger Kursbuch und Arbeitsbuch CD[MP3 付き, 三修社		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	基礎コース ドイツ語 (IIa 基礎)	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験 (独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語学習への導入</li> <li>2. Lektion 1 (1)</li> <li>3. Lektion 1 (2)</li> <li>4. Lektion 2 (1)</li> <li>5. Lektion 2 (2)</li> <li>6. Lektion 3 (1)</li> <li>7. Lektion 3 (2)</li> <li>8. Lektion 4 (1)</li> <li>9. Lektion 4 (2)</li> <li>10. Lektion 5 (1)</li> <li>11. Lektion 5 (2)</li> <li>12. Lektion 6 (1)</li> <li>13. Lektion 6 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。		
<b>テキスト</b>	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	基礎コース ドイツ語 (IIb 基礎)	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験 (独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 7 (1)</li> <li>3. Lektion 7 (2)</li> <li>4. Lektion 8 (1)</li> <li>5. Lektion 8 (2)</li> <li>6. Lektion 9 (1)</li> <li>7. Lektion 9 (2)</li> <li>8. Lektion 10 (1)</li> <li>9. Lektion 10 (2)</li> <li>10. Lektion 11 (1)</li> <li>11. Lektion 11 (2)</li> <li>12. Lektion 12 (1)</li> <li>13. Lektion 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。		
<b>テキスト</b>	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (IIa 基礎)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。  <b>講義概要</b> 1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。		1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。		
<b>テキスト</b>	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (IIb 基礎)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。  <b>講義概要</b> 1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。		
<b>テキスト</b>	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (IIa 会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。これによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 1 (1)</li> <li>3. Lektion 1 (2)</li> <li>4. Lektion 2 (1)</li> <li>5. Lektion 2 (2)</li> <li>6. Lektion 3 (1)</li> <li>7. Lektion 3 (2)</li> <li>8. Lektion 4 (1)</li> <li>9. Lektion 4 (2)</li> <li>10. Lektion 5 (1)</li> <li>11. Lektion 5 (2)</li> <li>12. Lektion 6 (1)</li> <li>13. Lektion 6 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。		
<b>テキスト</b>	佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver : 『CD付き スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社) 2007年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	総合コース ドイツ語 (IIb 会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。これによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 7 (1)</li> <li>3. Lektion 7 (2)</li> <li>4. Lektion 8 (1)</li> <li>5. Lektion 8 (2)</li> <li>6. Lektion 9 (1)</li> <li>7. Lektion 9 (2)</li> <li>8. Lektion 10 (1)</li> <li>9. Lektion 10 (2)</li> <li>10. Lektion 11 (1)</li> <li>11. Lektion 11 (2)</li> <li>12. Lektion 12 (1)</li> <li>13. Lektion 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。		
<b>テキスト</b>	佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver : 『CD付き スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社) 2007年		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	ドイツ語 (Ⅲa 会話)	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>「ドイツ語I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語III」を終えた時点でGoethe-InstitutのZD (Zertifikat Deutsch)および独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツの若者たちの日常をテーマにしたDVD教材&lt;Treffpunkt Berlin&gt;を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実践的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と春学期への導入</li> <li>2. Abschnitt 1 (1)</li> <li>3. Abschnitt 1 (2)</li> <li>4. Abschnitt 2 (1)</li> <li>5. Abschnitt 2 (2)</li> <li>6. Abschnitt 3 (1)</li> <li>7. Abschnitt 3 (2)</li> <li>8. Abschnitt 4 (1)</li> <li>9. Abschnitt 4 (2)</li> <li>10. Abschnitt 5 (1)</li> <li>11. Abschnitt 5 (2)</li> <li>12. Abschnitt 6 (1)</li> <li>13. Abschnitt 6 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。		
テキスト	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。		
参考文献			
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	ドイツ語 (Ⅲb 会話)	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点でGoethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 &lt;Treffpunkt Berlin&gt;を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実践的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と秋学期への導入</li> <li>2. Abschnitt 7 (1)</li> <li>3. Abschnitt 7 (2)</li> <li>4. Abschnitt 8 (1)</li> <li>5. Abschnitt 8 (2)</li> <li>6. Abschnitt 9 (1)</li> <li>7. Abschnitt 9 (2)</li> <li>8. Abschnitt 10 (1)</li> <li>9. Abschnitt 10 (2)</li> <li>10. Abschnitt 11 (1)</li> <li>11. Abschnitt 11 (2)</li> <li>12. Abschnitt 12 (1)</li> <li>13. Abschnitt 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。		
テキスト	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。		
参考文献			
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08年度以降	基礎コース フランス語 (I a 基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週1回の授業で2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、<i>Tome 1</i> の第5課まで進む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、発音と綴り字の読み方 (1)</li> <li>2. 発音と綴り字の読み方 (2)</li> <li>3. 第1課</li> <li>4. 第1課</li> <li>5. 第2課</li> <li>6. 第2課</li> <li>7. 第3課</li> <li>8. 第3課</li> <li>9. 第4課</li> <li>10. 第4課</li> <li>11. 第5課</li> <li>12. 第5課</li> <li>13. まとめ (1)</li> <li>14. まとめ (2)</li> <li>15. まとめ (3)</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト	教科書: <i>Tome 1</i> (第三書房)		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	基礎コース フランス語 (I b 基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週1回の授業で2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、<i>Tome 1</i> の第6課から第10課まで進む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第6課</li> <li>2. 第6課</li> <li>3. 第7課</li> <li>4. 第7課</li> <li>5. 第8課</li> <li>6. 第8課</li> <li>7. 第9課</li> <li>8. 第9課</li> <li>9. 第10課</li> <li>10. 第10課</li> <li>11. Annexe</li> <li>12. 総合問題 (bilan)</li> <li>13. まとめ (1)</li> <li>14. まとめ (2)</li> <li>15. まとめ (3)</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト	教科書: <i>Tome 1</i> (第三書房)		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	総合コース フランス語 (I a 総合J)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。</p> <p>教科書は<i>Conversation et Grammaire</i>で (I a 総合J) は日本人講師、(I a 総合F) はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (I a 総合F) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (I a 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、1a</li> <li>2. 1a, 1b</li> <li>3. 2a, 2b</li> <li>4. 2a, 2b</li> <li>5. 3a, 3b</li> <li>6. 3a, 3b</li> <li>7. révision bilan</li> <li>8. 4a, 4b</li> <li>9. 4a, 4b</li> <li>10. 5a, 5b</li> <li>11. 5a, 5b</li> <li>12. 6a, 6b</li> <li>13. 6a, 6b</li> <li>14. 7a</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など(担当教員から指示があります)。		
<b>テキスト</b>	教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
<b>参考文献</b>	必要に応じて担当教員より指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験など(各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	総合コース フランス語 (I b 総合J)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。</p> <p>教科書は<i>Conversation et Grammaire</i>で (I b 総合J) は日本人講師、(I b 総合F) はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (I b 総合F) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (I b 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 7b</li> <li>3. 8a, 8b</li> <li>4. 8a, 8b</li> <li>5. révision bilan</li> <li>6. 9a, 9b</li> <li>7. 9a, 9b</li> <li>8. 10a, 10b</li> <li>9. 10a, 10b</li> <li>10. révision bilan</li> <li>11. 11a, 11b</li> <li>12. 11a, 11b</li> <li>13. 12a, 12b</li> <li>14. 12a, 12b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など(担当教員から指示があります)。		
<b>テキスト</b>	教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
<b>参考文献</b>	必要に応じて担当教員より指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験など(各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	総合コース フランス語 (I a 総合F)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 (I a 総合J:日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する (ただし再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (I a 総合J) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (I a 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、1a</li> <li>2. 1a, 1b</li> <li>3. 2a, 2b</li> <li>4. 2a, 2b</li> <li>5. 3a, 3b</li> <li>6. 3a, 3b</li> <li>7. révision bilan</li> <li>8. 4a, 4b</li> <li>9. 4a, 4b</li> <li>10. 5a, 5b</li> <li>11. 5a, 5b</li> <li>12. 6a, 6b</li> <li>13. 6a, 6b</li> <li>14. 7a</li> <li>15. révision, bilan</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
<b>テキスト</b>	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	総合コース フランス語 (I b 総合F)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 (I b 総合J:日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する (ただし再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (I b 総合J) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (I b 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 7b</li> <li>3. 8a, 8b</li> <li>4. 8a, 8b</li> <li>5. révision bilan</li> <li>6. 9a, 9b</li> <li>7. 9a, 9b</li> <li>8. 10a, 10b</li> <li>9. 10a, 10b</li> <li>10. révision bilan</li> <li>11. 11a, 11b</li> <li>12. 11a, 11b</li> <li>13. 12a, 12b</li> <li>14. 12a, 12b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
<b>テキスト</b>	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	基礎コース フランス語（Ⅱa 基礎）	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の2年目。1年間学んだことを発展させていく講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unité 1</li> <li>2. Unité 1</li> <li>3. Unité 1</li> <li>4. Unité 2</li> <li>5. Unité 2</li> <li>6. Unité 2</li> <li>7. Unité 3</li> <li>8. Unité 3</li> <li>9. Unité 3</li> <li>10. Unité 4</li> <li>11. Unité 4</li> <li>12. Unité 4</li> <li>13. Unité 5</li> <li>14. Unité 5</li> <li>15. Unité 5</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	教科書： <i>Bis, amicalement</i> （駿河台出版社）		
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。		
評価方法	出席（積極的な授業参加、熱意）および宿題・課題への取組 50%、期末試験 50%		

08年度以降	基礎コース フランス語（Ⅱb 基礎）	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の2年目。1年間学んだことを発展させていく講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unité 6</li> <li>2. Unité 6</li> <li>3. Unité 6</li> <li>4. Unité 7</li> <li>5. Unité 7</li> <li>6. Unité 7</li> <li>7. Unité 8</li> <li>8. Unité 8</li> <li>9. Unité 8</li> <li>10. Unité 9</li> <li>11. Unité 9</li> <li>12. Unité 9</li> <li>13. Unité 10</li> <li>14. Unité 10</li> <li>15. Unité 10</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	教科書： <i>Bis, amicalement</i> （駿河台出版社）		
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。		
評価方法	出席（積極的な授業参加、熱意）および宿題・課題への取組 50%、期末試験 50%		

08年度以降	総合コース フランス語 (Ⅱa 総合J)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ⅰa/b 総合J) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。</p> <p>教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ⅱa 総合J) は日本人講師、(Ⅱa 総合F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ⅱa 総合F) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (Ⅱa 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 13a, 13b</li> <li>3. 13a, 13b</li> <li>4. 14a, 14b</li> <li>5. 14a, 14b</li> <li>6. 15a, 15b</li> <li>7. 15a, 15b</li> <li>8. révision bilan</li> <li>9. 16a, 16b</li> <li>10. 16a, 16b</li> <li>11. 16a, 16b</li> <li>12. 17a, 17b</li> <li>13. 17a, 17b</li> <li>14. 17a, 17b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
<b>テキスト</b>	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	総合コース フランス語 (Ⅱb 総合J)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ⅰa/b 総合J) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。</p> <p>教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ⅱb 総合J) は日本人講師、(Ⅱb 総合F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ⅱb 総合F) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (Ⅱb 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 18a, 18b</li> <li>3. 18a, 18b</li> <li>4. 18a, 18b</li> <li>5. 19a, 19b</li> <li>6. 19a, 19b, révision bilan</li> <li>7. 20a, 20b</li> <li>8. 20a, 20b</li> <li>9. 20a, 20b</li> <li>10. 21a, 21b</li> <li>11. 21a, 21b, révision bilan</li> <li>12. 22a, 22b</li> <li>13. 22a, 22b</li> <li>14. 22a, 22b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
<b>テキスト</b>	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	総合コース フランス語 (Ⅱa 総合F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ⅰ a/b 総合F) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。</p> <p>教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ⅱa 総合J) は日本人講師、(Ⅱa 総合F) はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ⅱa 総合J) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (Ⅱa 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 13a, 13b</li> <li>3. 13a, 13b</li> <li>4. 14a, 14b</li> <li>5. 14a, 14b</li> <li>6. 15a, 15b</li> <li>7. 15a, 15b</li> <li>8. révision bilan</li> <li>9. 16a, 16b</li> <li>10. 16a, 16b</li> <li>11. 16a, 16b</li> <li>12. 17a, 17b</li> <li>13. 17a, 17b</li> <li>14. 17a, 17b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など(担当教員から指示があります)。		
テキスト	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験など(各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	総合コース フランス語 (Ⅱb 総合F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ⅰ a/b 総合F) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。</p> <p>教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ⅱb 総合J) は日本人講師、(Ⅱb 総合F) はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ⅱb 総合J) とのペアでしか受講できない。</p> <p>この (Ⅱb 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 18a, 18b</li> <li>3. 18a, 18b</li> <li>4. 18a, 18b</li> <li>5. 19a, 19b</li> <li>6. 19a, 19b, révision bilan</li> <li>7. 20a, 20b</li> <li>8. 20a, 20b</li> <li>9. 20a, 20b</li> <li>10. 21a, 21b</li> <li>11. 21a, 21b, révision bilan</li> <li>12. 22a, 22b</li> <li>13. 22a, 22b</li> <li>14. 22a, 22b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など(担当教員から指示があります)。		
テキスト	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験など(各担当教員より指示・説明があります)。		

08年度以降	フランス語 (IIIa)	担当者	L. フォンテーヌ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Se débrouiller de plus en plus en français pour ne pas craindre de parler avec des francophones. Pour ceci, il faut développer son oreille et acquérir du vocabulaire. Nous allons donc travailler de deux façons : premièrement, écouter des dialogues et répondre aux questions sur ces dialogues et, deuxièmement, faire des exercices de production orale.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Parler de la vie professionnelle</li> <li>2. Le futur simple</li> <li>3. La condition.</li> <li>4. Les indications temporelles</li> <li>5. Passe récent, futur proche, etc.</li> <li>6. Parler de difficultés</li> <li>7. Le style indirect</li> <li>8. Parler du passé</li> <li>9. Décrire</li> <li>10. Faire un récit.</li> <li>11. Catastrophes, crimes</li> <li>12. Les loisirs</li> <li>13. La conséquence</li> <li>14. Conseiller</li> <li>15. Faire des hypothèses</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Relire les transcriptions des dialogues ; préparer les exercices de conversation		
テキスト	Pas de manuel ; les étudiants recevront des photocopies.		
参考文献	Pas de livre de références		
評価方法	Les étudiants seront évalués selon leurs devoirs et leur participation aux cours.		

08年度以降	フランス語 (IIIb)	担当者	L. フォンテーヌ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Se débrouiller de plus en plus en français pour ne pas craindre de parler avec des francophones. Pour ceci, il faut développer sa compréhension auditive et acquérir du vocabulaire. Le travail se fera donc en deux temps : écoute et production orale.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Parler des activités culturelles.</li> <li>2. Le plus-que-parfait</li> <li>3. Les pronoms relatifs</li> <li>4. La famille</li> <li>5. Le subjonctif</li> <li>6. Obligation et interdiction</li> <li>7. Infinitif ou subjonctif ?</li> <li>8. Défauts et qualités</li> <li>9. Souvenirs, amitié</li> <li>10. Apprécier les nuances de jugement</li> <li>11. Entraide, solidarité</li> <li>12. Rapporter un discours au passé</li> <li>13. Indications temporelles complexes</li> <li>14. Parler des médias</li> <li>15. But, concession</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Relire les transcriptions des dialogues; préparer les exercices de production		
テキスト	Pas de manuel; les étudiants recevront les photocopies nécessaires		
参考文献	Pas de livre de références		
評価方法	Les étudiants seront évalués selon leurs devoirs et leur participation aux cours.		

08年度以降	基礎コース スペイン語 (I a 文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>としている。</p> <p>スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 発音・アクセント</li> <li>② 発音・アクセント</li> <li>③ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>④ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>⑤ 形容詞</li> <li>⑥ 形容詞</li> <li>⑦ ser, estar動詞の用法</li> <li>⑧ ser, estar動詞の用法</li> <li>⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用</li> <li>⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用</li> <li>⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用</li> <li>⑫ 代名詞の用法</li> <li>⑬ gustar型動詞の用法</li> <li>⑭ gustar型動詞の用法</li> <li>⑮ 今学期の復習</li> </ul>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	基礎コース スペイン語 (I b 文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>としている。</p> <p>スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 春学期の復習</li> <li>② 代名詞の用法（復習）</li> <li>③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>⑥ 動詞の活用---再帰動詞</li> <li>⑦ 動詞の活用---再帰動詞</li> <li>⑧ 再帰動詞の用法</li> <li>⑨ 動詞の現在形のまとめ</li> <li>⑩ 動詞の活用---現在完了・現在進行形</li> <li>⑪ 動詞の活用---現在完了・現在進行形</li> <li>⑫ 現在分詞と過去分詞の用法</li> <li>⑬ 受け身表現</li> <li>⑭ 今学期の復習</li> <li>⑮ 春・秋学期のまとめと未習の文法事項について</li> </ul>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ia 文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>としている。</p> <p>スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p> <p><b>原則としてスペイン語（Ia会話）とペアで履修することとなる。</b></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 発音・アクセント</li> <li>② 発音・アクセント</li> <li>③ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>④ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>⑤ 形容詞</li> <li>⑥ 形容詞</li> <li>⑦ ser, estar動詞の用法</li> <li>⑧ ser, estar動詞の用法</li> <li>⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用</li> <li>⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用</li> <li>⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用</li> <li>⑫ 代名詞の用法</li> <li>⑬ gustar型動詞の用法</li> <li>⑭ gustar型動詞の用法</li> <li>⑮ 今学期の復習</li> </ul>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社		
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ib 文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>としている。</p> <p>スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p> <p><b>原則としてスペイン語（Ib会話）とペアで履修することとなる。</b></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 春学期の復習</li> <li>② 代名詞の用法（復習）</li> <li>③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>⑥ 動詞の活用---再帰動詞</li> <li>⑦ 動詞の活用---再帰動詞</li> <li>⑧ 動詞の活用---再帰動詞</li> <li>⑨ 動詞の現在形のまとめ</li> <li>⑩ 動詞の活用---現在完了・現在進行形</li> <li>⑪ 動詞の活用---現在完了・現在進行形</li> <li>⑫ 現在分詞と過去分詞の用法</li> <li>⑬ 受け身表現</li> <li>⑭ 今学期の復習</li> <li>⑮ 春・秋学期のまとめと未習の文法事項について</li> </ul>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ia 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>としている。</p> <p>スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><b>原則としてスペイン語（Ia文法）とペアで履修することとなる。</b></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ia文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ia会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語（Ia文法）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社		
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ib 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>としている。</p> <p>スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><b>原則としてスペイン語（Ib文法）とペアで履修することとなる。</b></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ib文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ib会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語（Ib文法）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	基礎コース スペイン語 (Ⅱa 文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>とした、スペイン語 (Ⅱb 文法) の継続の授業である。</p> <p>現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 既習事項の復習</li> <li>② 動詞の活用 -- 直説法現在形・再帰動詞 (復習)</li> <li>③ 動詞の活用 -- 直説法現在形・再帰動詞 (復習)</li> <li>④ 動詞の活用 -- 直説法点過去規則活用</li> <li>⑤ 動詞の活用 -- 直説法点過去規則活用</li> <li>⑥ 動詞の活用 -- 直説法点過去不規則活用</li> <li>⑦ 動詞の活用 -- 直説法点過去不規則活用</li> <li>⑧ 動詞の活用 -- 直説法点過去不規則活用</li> <li>⑨ 動詞の活用 -- 直説法線過去</li> <li>⑩ 動詞の活用 -- 直説法線過去</li> <li>⑪ 点過去と線過去の違い</li> <li>⑫ 点過去と線過去の違い</li> <li>⑬ 比較表現</li> <li>⑭ 比較表現</li> <li>⑮ 今学期の復習</li> </ul>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	担当者が指定する教科書 (基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ)		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	基礎コース スペイン語 (Ⅱb 文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 (Ⅱa 文法) の継続の授業である。</p> <p><b>基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象</b>としている。</p> <p>接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法の学習を終える。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 春学期の復習</li> <li>② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習</li> <li>③ 動詞の活用 -- 未来形</li> <li>④ 動詞の活用 -- 未来形</li> <li>⑤ 動詞の活用 -- 過去未来形</li> <li>⑥ 動詞の活用 -- 過去未来形</li> <li>⑦ 動詞の活用 -- 接続法現在規則活用</li> <li>⑧ 動詞の活用 -- 接続法現在規則活用</li> <li>⑨ 動詞の活用 -- 接続法現在不規則活用</li> <li>⑩ 動詞の活用 -- 接続法現在不規則活用</li> <li>⑪ 命令表現</li> <li>⑫ 命令表現</li> <li>⑬ 接続法を使った表現</li> <li>⑭ 接続法を使った表現</li> <li>⑮ 今学期の復習</li> </ul>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	担当者が指定する教科書 (基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ)		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ⅱa 文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>とした、スペイン語（Ⅱb 文法）の継続の授業である。</p> <p>現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p> <p><u>原則としてスペイン語（Ⅱa会話）とペアで履修すること</u>を要望する。</p>		① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 -- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 -- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 -- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 -- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 -- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 -- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 -- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 -- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 -- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習	
<b>到達目標</b>	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
<b>テキスト</b>	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ⅱb 文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ⅱa 文法）の継続の授業である。</p> <p><u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法の学習を終える。</p> <p>基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p> <p><u>原則としてスペイン語（Ⅱb会話）とペアで履修すること</u>を要望する。</p>		① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 -- 未来形 ④ 動詞の活用 -- 未来形 ⑤ 動詞の活用 -- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 -- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 -- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 -- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 -- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 -- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習	
<b>到達目標</b>	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
<b>テキスト</b>	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ⅱa 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>原則としてスペイン語（Ⅱa文法）とペアで履修すること</u>を要望する。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱa文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱa会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語（Ⅱa文法）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	総合コース スペイン語（Ⅱb 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語（Ⅱa 会話）の継続の授業である。</p> <p><u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>原則としてスペイン語（Ⅱa文法）とペアで履修すること</u>を要望する。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱb文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱb会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語（Ⅱb文法）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	スペイン語 (Ⅲa 講読)	担当者	金澤 直也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅰ、Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。</p> <p>さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。</p> <p>なお、スペイン語Ⅱまでに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>到達目標</b>	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
<b>テキスト</b>	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	スペイン語 (Ⅲb 講読)	担当者	金澤 直也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ⅲa 講読) の継続の授業である。</p> <p>スペイン語Ⅰ、Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。</p> <p>さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>到達目標</b>	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
<b>テキスト</b>	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	スペイン語 (Ⅲa 会話)	担当者	M. サンチェス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 I、II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。</p> <p>さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>到達目標</b>	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
<b>テキスト</b>	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	スペイン語 (Ⅲb 会話)	担当者	M. サンチェス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ⅲa 会話) の継続の授業である。</p> <p>スペイン語 I、II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。</p> <p>さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>到達目標</b>	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
<b>テキスト</b>	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降	基礎コース 中国語 (I a 会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法（ピンイン）、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。</p> <p>【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業について・中国語とは[発音入門]声調、単母音 等</li> <li>2. 子音一覧、有気音と無気音、巻舌音 等</li> <li>3. 複母音、鼻母音、ピンインの読み方の注意点</li> <li>4. 声調変化、r化、軽声の高さ 等</li> <li>5. 第1課 人称代名詞、“是”述語文、“吗”疑問文 等</li> <li>6. 第2課 姓名、疑問詞“什么”、形容詞述語文 等</li> <li>7. 第3課、動詞述語文、“有”述語文、指示代名詞 等</li> <li>8. 第4課 存在の“有”、疑問詞“几”、量詞 等</li> <li>9. まとめ、試験 等</li> <li>10. 第5課 年月日・曜日、語気助詞“了”・“吧” 等</li> <li>11. 第6課 時刻と時間量、連動文、完了の“了” 等</li> <li>12. 第7課 場所を表す代名詞、動詞“在”、介詞 等</li> <li>13. 第8課 動詞“喜欢”、経験の“过”、離合詞、V重畳 等</li> <li>14. まとめ、試験 等</li> <li>15. まとめ、試験、補足説明 等</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『老师好！ - 王先生との出会い』守屋宏則、陳浩、梁月軍 著 郁文堂		
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	基礎コース 中国語 (I b 会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての「話せる・聴ける」中国語の習得を目指す。</p> <p>【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・既習の文法事項を用いて、日常生活に関することを表現する。そのために必要な教科書以外の語彙を補充する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習、発音練習 等</li> <li>2. 第9課 比較の表現、程度補語、選択疑問文 等</li> <li>3. 第10課 数量補語、動詞“打算”、助動詞“想” 等</li> <li>4. 第11課 方向補語、“请”の兼語文、持続の“着” 等</li> <li>5. 第12課 動作の進行、結果補語、V+“给” 等</li> <li>6. 第13課 助動詞“能”“会”“可以”、方位詞、“一下” 等</li> <li>7. まとめ、試験 等</li> <li>8. 試験、補足説明 等</li> <li>9. 第14課 “把”文型、方向補語の（基本義と）派生義</li> <li>10. 第14課 助動詞“要”、副詞の“不用”、可能補語</li> <li>11. 第15課 条件・仮定を表す“了”、副詞“可能”</li> <li>12. 第15課 “是…的”文型、疑問詞“怎么”</li> <li>13. 第16課 近接未来の表現、様態補語、助動詞“应该”</li> <li>14. 第16課 “让”“叫”“使”の兼語文、連用修飾の“地”</li> <li>15. まとめ、試験 等</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする		
テキスト	『老师好！ - 王先生との出会い』守屋宏則、陳浩、梁月軍 著 郁文堂		
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語 (Ia 会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法（ピンイン）、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。</p> <p>【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、授業について・中国語とは [発音入門]声調、単母音 等</li> <li>2、子音一覧、有気音と無気音、巻舌音 等</li> <li>3、複母音、鼻母音、ピンインの読み方の注意点</li> <li>4、声調変化、r化、 軽声の高さ 等</li> <li>5、第1課 人称代名詞、“是”述語文、“吗”疑問文 等</li> <li>6、第2課 姓名、疑問詞“什么”、形容詞述語文 等</li> <li>7、第3課、動詞述語文、“有”述語文、指示代名詞 等</li> <li>8、第4課 存在の“有”、疑問詞“几”、量詞 等</li> <li>9、まとめ、試験 等</li> <li>10、第5課 年月日・曜日、語気助詞“了”・“吧” 等</li> <li>11、第6課 時刻と時間量、連動文、完了の“了” 等</li> <li>12、第7課 場所を表す代名詞、動詞“在”、介詞 等</li> <li>13、第8課 動詞“喜欢”、経験の“过”、離合詞、V重畳 等</li> <li>14、まとめ、試験 等</li> <li>15、まとめ、試験、補足説明 等</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『老师好！ - 王先生との出会い』守屋宏則、陳浩、梁月軍 著 郁文堂		
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語 (Ib 会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての「話せる・聴ける」中国語の習得を目指す。</p> <p>【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・既習の文法事項を用いて、日常生活に関することを表現する。そのために必要な教科書以外の語彙を補充する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習、発音練習 等</li> <li>2. 第9課 比較の表現、程度補語、選択疑問文 等</li> <li>3. 第10課 数量補語、動詞“打算”、助動詞“想” 等</li> <li>4. 第11課 方向補語、“请”の兼語文、持続の“着” 等</li> <li>5. 第12課 動作の進行、結果補語、V+“给” 等</li> <li>6. 第13課 助動詞“能”“会”“可以”、方位詞、“一下” 等</li> <li>7. まとめ、試験 等</li> <li>8. 試験、補足説明 等</li> <li>9. 第14課 “把”文型、方向補語の（基本義と）派生義</li> <li>10. 第14課 助動詞“要”、副詞の“不用”、可能補語</li> <li>11. 第15課 条件・仮定を表す“了”、副詞“可能”</li> <li>12. 第15課 “是…的”文型、疑問詞“怎么”</li> <li>13. 第16課 近接未来の表現、様態補語、助動詞“应该”</li> <li>14. 第16課 “让”“叫”“使”の兼語文、連用修飾の“地”</li> <li>15. まとめ、試験 等</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする		
テキスト	『老师好！ - 王先生との出会い』守屋宏則、陳浩、梁月軍 著 郁文堂		
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語 (Ia 講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。</p> <p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。</li> <li>中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。</li> <li>基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。</li> <li>1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語とは？ 授業の進め方など</li> <li>2. 第1課 韻母1、韻母2、声母1、轻声</li> <li>3. 第2課 声母2、鼻母音、声調変化①</li> <li>4. 第3課 轻声2、変調②③、r化、声調の組合せ 等</li> <li>5. 第4課 “是”の文、“吗”疑問文、副詞“也”“都”</li> <li>6. 第4課 人称代名詞</li> <li>7. 第5課 “S+V+O”構造、姓名の言い方</li> <li>8. 第5課 疑問詞疑問文、選択疑問文</li> <li>9. まとめ、試験 など</li> <li>10. 第6課 名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的”</li> <li>11. 第6課・第7課 形容詞述語文、</li> <li>12. 第7課 比較文、反復疑問文、指示代名詞のまとめ</li> <li>13. 第8課 所在の“在”、存在・所有の“有”</li> <li>14. 第8課 時点と時量、量詞</li> <li>15. まとめ、試験 など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『中国語への道 一近きより遠きへ』内田慶市 他 著 (金星堂)		
参考文献	書籍版 (=紙の) 中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語 (Ib 講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」「使える言い回し」を増やす。</p> <p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」=「使える単語」にする。</li> <li>基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを知る。</li> <li>それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習、口慣らし</li> <li>2. 第9課 前置詞、経験の“过”、数量補語</li> <li>3. 第9課 方位詞・第10課 主述述語文、2つの“了”</li> <li>4. 第10課 “有点儿”と“一点儿”、願望・意思の助動詞</li> <li>5. 第11課 進行の“在”、持続の“着”、連動文</li> <li>6. 第11課 結果補語、{V/Adj.}を含む連体修飾節</li> <li>7. 第12課 可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文</li> <li>8. 第12課 副詞“就”と“才”</li> <li>9. まとめ、試験 など</li> <li>10. 第13課 様態補語、二重目的語をとる動詞</li> <li>11. 第13課 受身文、動詞の重ね型</li> <li>12. 第14課 存現文、方向補語</li> <li>13. 第14課 可能補語、“把”構文</li> <li>14. 第15課 使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗”</li> <li>15. まとめ、試験など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『中国語への道 一近きより遠きへ』内田慶市 他 著 (金星堂)		
参考文献	書籍版 (=紙の) 中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	基礎コース 中国語 (Ⅱa 会話)	担当者	張 継英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めしていくことを目指す。</p> <p>【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文の内容を理解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習課 1年次の復習、</li> <li>2. 第1課 「打电话」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>3. 第1課・第2課 「接风」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>4. 第2課</li> <li>5. 第3課 「介绍」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>6. 第3課・第4課「交通工具1」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>7. 第4課</li> <li>8. まとめ、試験 など</li> <li>9. 第5課 「换钱」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>10. 第5課・第6課 「吃饭」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>11. 第6課</li> <li>12. 第7課 「生病」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>13. 第7課</li> <li>14. まとめ、試験、補足など</li> <li>15. まとめ、試験など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』		
参考文献	書籍版 (=紙の) 中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	基礎コース 中国語 (Ⅱb 会話)	担当者	張 継英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。</p> <p>【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を読解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習、口慣らし</li> <li>2. 第8課 「交通工具2」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>3. 第8課・第9課「网上聊天儿1」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>4. 第9課</li> <li>5. 第10課 「网上聊天儿2」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>6. 第10課・第11課 「买东西」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>7. 第11課</li> <li>8. 第12課 「爱好」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>9. まとめ、試験 など</li> <li>10. 第13課 「坐火车」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>11. 第13課14課「观光(游外滩)」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>12. 第14課</li> <li>13. 第15課 「送行」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>14. 第15課</li> <li>15. まとめ、試験など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする		
テキスト	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
参考文献	書籍版 (=紙の) 中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語（Ⅱa 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めしていくことを目指す。</p> <p>【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文の内容を理解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習課 1年次の復習、</li> <li>2. 第1課 「打电话」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>3. 第1課・第2課 「接风」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>4. 第2課</li> <li>5. 第3課 「介绍」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>6. 第3課・第4課「交通工具1」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>7. 第4課</li> <li>8. まとめ、試験 など</li> <li>9. 第5課 「换钱」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>10. 第5課・第6課 「吃饭」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>11. 第6課</li> <li>12. 第7課 「生病」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>13. 第7課</li> <li>14. まとめ、試験、補足など</li> <li>15. まとめ、試験など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語（Ⅱb 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。</p> <p>【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を読解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習、口慣らし</li> <li>2. 第8課 「交通工具2」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>3. 第8課・第9課「网上聊天儿1」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>4. 第9課</li> <li>5. 第10課 「网上聊天儿2」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>6. 第10課・第11課 「买东西」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>7. 第11課</li> <li>8. 第12課 「爱好」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>9. まとめ、試験 など</li> <li>10. 第13課 「坐火车」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>11. 第13課14課「观光(游外滩)」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>12. 第14課</li> <li>13. 第15課 「送行」 課文、ポイント、ドリル</li> <li>14. 第15課</li> <li>15. まとめ、試験など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする		
テキスト	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語 (Ⅱa 講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 1年次に中国語Ⅰを履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に進んだレベルの文法項目を学習し、150字～350字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。</p> <p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。</li> <li>1年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。</li> <li>学習した文法事項を用いた作文など練習問題を行い定着した知識とする。</li> <li>1年次に引き続き発音練習を行い、一文ではなく文章を読む練習をする。</li> <li>各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1年次の復習、ガイダンス</li> <li>第1課 「大学生の週末」ポイント、本文</li> <li>第1課 練習問題</li> <li>第2課 「食習慣」ポイント、本文</li> <li>第2課 練習問題</li> <li>第3課 「北京の交通」ポイント、本文</li> <li>第3課 練習問題</li> <li>まとめ、試験など</li> <li>第4課 「数字の好み」ポイント、本文</li> <li>第4課 練習問題</li> <li>第5課 「大学生のアルバイト事情」ポイント、本文</li> <li>第5課 練習問題</li> <li>第6課 「集団生活の利点」ポイント、本文</li> <li>第6課 練習問題</li> <li>まとめ、試験など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『知っておきたい中国事情 改訂版』 吉田泰謙 相原里美 葛婧 著 白水社		
参考文献	書籍版 (=紙の) 中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	総合コース 中国語 (Ⅱb 講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 春学期に引き続き、中国語Ⅰで学んだ文法の基礎を確認しつつ、更に進んだレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。</p> <p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。</li> <li>量的に多い文章に対し、学んだ文法事項を生かして単語・文の意味を正確に読み取り、文章の趣旨を的確に把握する練習をする。</li> <li>学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。</li> <li>春学期に引き続き発音練習を行う。</li> <li>日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>春学期の復習、ガイダンス</li> <li>第7課 「値切る」ポイント、本文</li> <li>第7課 練習問題</li> <li>第8課 「贈り物」ポイント、本文</li> <li>第8課 練習問題</li> <li>第9課 「中国式の結婚」ポイント、本文</li> <li>第9課 練習問題</li> <li>まとめ、試験 など</li> <li>第10課 「共働き世帯」ポイント、本文</li> <li>第10課 練習問題</li> <li>第11課 「中国人の人への呼称」ポイント、本文</li> <li>第11課 練習問題</li> <li>第12課 「理想の職業」ポイント、本文</li> <li>第12課 練習問題</li> <li>まとめ、試験など</li> </ol>	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト	『知っておきたい中国事情 改訂版』 吉田泰謙 相原里美 葛婧 著 白水社		
参考文献	書籍版 (=紙の) 中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08年度以降	中国語 (Ⅲa 会話)	担当者	馮 日珍
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、中級レベルの語学力を持つ受講者を対象に、より実践的な会話能力を養うことを目指す。</p> <p>テキストは1課を2回の授業で進める。各課のスキットは予習で内容を事前に理解しておくこと。授業では、発音をチェックし、スキットのポイントや語法についての練習をしながら理解を深める。各課の終わりにはより実践的な応用練習を行う</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、第1課 还是这件好看</li> <li>2. 第1課</li> <li>3. 第1課</li> <li>4. 第2課 这是我刚买的手机</li> <li>5. 第2課</li> <li>6. 第3課 我想订往返机票</li> <li>7. 第3課</li> <li>8. 前半のまとめ発表</li> <li>9. 第4課 去嵐山公园怎么走?</li> <li>10. 第4課</li> <li>11. 第5課 父母给我寄来一个包裹</li> <li>12. 第5課</li> <li>13. 第6課 她能租到理想的房子吗?</li> <li>14. 第6課</li> <li>15. 期末のまとめ発表</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストは授業前にピンインに頼らず音読し、内容について予習してくること、各課の第二回目の授業ではテキストなしで会話ができるように練習してくること		
<b>テキスト</b>	『中日汉语桥 中国語一日中の架け橋』(准中級上) 北京大学出版社		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	テスト 50%、予習 25%、授業の参加度 25%		

08年度以降	中国語 (Ⅲb 会話)	担当者	馮 日珍
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前期「中国語(Ⅲa 会話)」に引き続きこの授業は、中級レベルの語学力を持つ受講者を対象に、より実践的な会話能力を養うことを目指す。</p> <p>テキストは1課を2回の授業で進める。各課のスキットは予習で内容を事前に理解しておくこと。授業では、発音をチェックし、スキットのポイントや語法についての練習をしながら理解を深める。各課の終わりにはより実践的な応用練習を行う</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習、第7課 原来你就是不愿意出家门啊!</li> <li>2. 第7課</li> <li>3. 第7課</li> <li>4. 第8課 以后我吃慢点儿不就行了吗?</li> <li>5. 第8課</li> <li>6. 第9課 你唱得太好了</li> <li>7. 第9課</li> <li>8. 前半のまとめ発表</li> <li>9. 第10課 漫画书可不都是只给小孩儿看的</li> <li>10. 第10課</li> <li>11. 第11課 今天我们品尝一下新茶</li> <li>12. 第11課</li> <li>13. 第12課 我是鲁迅的校友</li> <li>14. 第12課</li> <li>15. 期末のまとめ発表</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストは授業前にピンインに頼らず音読し、内容について予習してくること、各課の第二回目の授業ではテキストなしで会話ができるように練習してくること		
<b>テキスト</b>	『中日汉语桥 中国語一日中の架け橋』(准中級上) 北京大学出版社		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	テスト 50%、予習 25%、授業の参加度 25%		

08年度以降	中国語 (Ⅲa 講読・文法)	担当者	平野 佐和
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。</p> <p>読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。</p> <p>他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習(解釈・作文)も並行して行います。</p> <p>中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付け、最新の中国文化と社会事情をより深く理解してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1課 「海のシルクロードの輝く真珠」読解</li> <li>2. 第1課 読解の手がかり</li> <li>3. 第2課 「又吉直樹、友好の「火花」」読解</li> <li>4. 第2課 読解の手がかり</li> <li>5. 第3課 「「普通話」発祥地、灤平」読解</li> <li>6. 第3課 読解の手がかり</li> <li>7. 第4課 「高速鉄道で料理を予約注文！」読解</li> <li>8. 第4課 読解の手がかり</li> <li>9. 第5課 「九寨溝、震災に哭く」読解</li> <li>10. 第5課 読解の手がかり</li> <li>11. 第6課 「二人の女性が外出を変えた！」読解</li> <li>12. 第6課 読解の手がかり</li> <li>13. 第7課 「故郷を離れた大学生活とは？」読解</li> <li>14. 第7課 読解の手がかり</li> <li>15. 春学期総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に各課の放題鏡(エッセイ)を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。		
<b>テキスト</b>	『2018年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社		
<b>参考文献</b>	授業内で指示します。		
<b>評価方法</b>	期末試験 60%・平常点(発表・課題・参加姿勢) 40%によって評価します。		

08年度以降	中国語 (Ⅲb 講読・文法)	担当者	平野 佐和
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。</p> <p>読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。</p> <p>他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習(解釈・作文)も並行して行います。</p> <p>中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付け、最新の中国文化と社会事情をより深く理解してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第8課 「考古学、驚きの発見続々」読解</li> <li>2. 第8課 読解の手がかり</li> <li>3. 第9課 「中国版《深夜食堂》、話題の真相」読解</li> <li>4. 第9課 読解の手がかり</li> <li>5. 第10課 「海外旅行、爆買いから深化」読解</li> <li>6. 第10課 読解の手がかり</li> <li>7. 第11課 「ヒトとゾウ、共存への模索」読解</li> <li>8. 第11課 読解の手がかり</li> <li>9. 第12課 「どうなる？中国の子供たち」読解</li> <li>10. 第12課 読解の手がかり</li> <li>11. 第13課 「糖尿病大国にどう取り組む？」読解</li> <li>12. 第13課 読解の手がかり</li> <li>13. 第14課 「台湾、働く女性たちの苦悩」読解</li> <li>14. 第14課 読解の手がかり</li> <li>15. 秋学期総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に各課の放題鏡(エッセイ)を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。		
<b>テキスト</b>	『2018年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社		
<b>参考文献</b>	授業内で指示します。		
<b>評価方法</b>	期末試験 60%・平常点(発表・課題・参加姿勢) 40%によって評価します。		

08年度以降	基礎コース 韓国語 (I a 基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。</p> <p>ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 字母編1課</li> <li>3. 字母編2課</li> <li>4. 字母編3課</li> <li>5. 字母編4課</li> <li>6. まとめ</li> <li>7. 1課 SET1 自己紹介/습니다体</li> <li>8. 1課 SET2 SET3</li> <li>9. 2課 SET1 注文</li> <li>10. 2課 SET2 位置関連</li> <li>11. 2課 SET3 漢数字</li> <li>12. 3課 SET1 場所/ ㅁㅇ体</li> <li>13. 3課 SET2 好き嫌い/固有数字</li> <li>14. 3課 SET3 否定形</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル 『ことばの架け橋改訂版』 白帝社		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	基礎コース 韓国語 (I b 基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 4課 SET1 過去形・否定形</li> <li>4. 4課 SET2 曜日</li> <li>5. 4課 SET3 時間表現</li> <li>6. 5課 SET1 敬語表現</li> <li>7. 5課 SET2 様々な表現</li> <li>8. 5課 SET3 比較表現</li> <li>9. 6課 SET1 天気予報</li> <li>10. 6課 SET2 ㅁㅇ変則・丁寧な命令形</li> <li>11. 6課 SET3 季節の食べ物</li> <li>12. 7課 SET1 電話表現・不可能のㅁㅇ</li> <li>13. 7課 SET2 理由説明の表現</li> <li>14. 7課 SET3 誕生日と食べ物・誘いの表現</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル 『ことばの架け橋改訂版』 白帝社		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (I a 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。</p> <p>ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 字母編1課</li> <li>3. 字母編2課</li> <li>4. 字母編3課</li> <li>5. 字母編4課</li> <li>6. まとめ</li> <li>7. 1課 SET1 自己紹介/습니다体</li> <li>8. 1課 SET2 SET3</li> <li>9. 2課 SET1 注文</li> <li>10. 2課 SET2 位置関連</li> <li>11. 2課 SET3 漢数字</li> <li>12. 3課 SET1 場所/ ㅁㅇ체</li> <li>13. 3課 SET2 好き嫌い/固有数字</li> <li>14. 3課 SET3 否定形</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
<b>参考文献</b>	生越直樹・チョ・ヒチョル 『ことばの架け橋改訂版』 白帝社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (I b 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 4課 SET1 過去形・否定形</li> <li>4. 4課 SET2 曜日</li> <li>5. 4課 SET3 時間表現</li> <li>6. 5課 SET1 敬語表現</li> <li>7. 5課 SET2 様々な表現</li> <li>8. 5課 SET3 比較表現</li> <li>9. 6課 SET1 天気予報</li> <li>10. 6課 SET2 ㅁㅇ変則・丁寧な命令形</li> <li>11. 6課 SET3 季節の食べ物</li> <li>12. 7課 SET1 電話表現・不可能のㅁㅇ</li> <li>13. 7課 SET2 理由説明の表現</li> <li>14. 7課 SET3 誕生日と食べ物・誘いの表現</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
<b>参考文献</b>	生越直樹・チョ・ヒチョル 『ことばの架け橋改訂版』 白帝社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。</p> <p>ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字と発音①②</li> <li>2. 文字と発音③④</li> <li>3. 文字と発音⑤⑥</li> <li>4. 1課</li> <li>5. 2課</li> <li>6. 3課</li> <li>7. まとめ</li> <li>8. 4課</li> <li>9. 5課</li> <li>10. まとめ/中間テスト</li> <li>11. 6課</li> <li>12. 7課</li> <li>13. 8課</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	金京子・喜多恵美子『改訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社		
<b>参考文献</b>	生越直樹他 『根と幹』朝日出版社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト、小テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 9課</li> <li>4. 10課</li> <li>5. 11課</li> <li>6. まとめ</li> <li>7. 12課</li> <li>8. 13課</li> <li>9. 14課</li> <li>10. まとめ</li> <li>11. まとめ/中間テスト</li> <li>12. 15課</li> <li>13. 16課</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	金京子・喜多恵美子『改訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社		
<b>参考文献</b>	生越直樹他 『根と幹』朝日出版社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト 小テスト		

08年度以降	基礎コース 韓国語 (Ⅱa 講読・会話)	担当者	沈 民珪
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。</p> <p>基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 8課 SET1</li> <li>4. 8課 SET2</li> <li>5. 8課 まとめ</li> <li>6. 9課 SET1</li> <li>7. 9課 SET2</li> <li>8. 9課 まとめ</li> <li>9. 中間テスト</li> <li>10. 10課 SET1</li> <li>11. 10課 SET2</li> <li>12. 10課 まとめ</li> <li>13. 11課 SET1</li> <li>14. 11課 SET2</li> <li>15. 11課 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
<b>参考文献</b>	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 中級表現編』 白帝社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	基礎コース 韓国語 (Ⅱb 講読・会話)	担当者	沈 民珪
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 12課 SET1</li> <li>4. 12課 SET2</li> <li>5. 12課 まとめ</li> <li>6. 12課 プレゼンテーション課題発表</li> <li>7. 13課 SET1</li> <li>8. 13課 SET2</li> <li>9. 13課 まとめ</li> <li>10. まとめ/中間テスト</li> <li>11. 14課 SET1</li> <li>12. 14課 SET2</li> <li>13. 14課 まとめ</li> <li>14. 14課 プレゼンテーション課題発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
<b>参考文献</b>	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 中級表現編』 白帝社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (Ⅱa 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。</p> <p>基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 8課 SET1</li> <li>4. 8課 SET2</li> <li>5. 8課 まとめ</li> <li>6. 9課 SET1</li> <li>7. 9課 SET2</li> <li>8. 9課 まとめ</li> <li>9. 中間テスト</li> <li>10. 10課 SET1</li> <li>11. 10課 SET2</li> <li>12. 10課 まとめ</li> <li>13. 11課 SET1</li> <li>14. 11課 SET2</li> <li>15. 11課 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
<b>参考文献</b>	生越直樹・チョ・ヒチョル 『ことばの架け橋 中級表現編』 白帝社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (Ⅱb 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 12課 SET1</li> <li>4. 12課 SET2</li> <li>5. 12課 まとめ</li> <li>6. 12課 プレゼンテーション課題発表</li> <li>7. 前半のまとめ</li> <li>8. 13課 SET1</li> <li>9. 13課 SET2</li> <li>10. 13課 まとめ</li> <li>11. まとめ/中間テスト</li> <li>12. 14課 SET1</li> <li>13. 14課 SET2</li> <li>14. 14課 まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』 Asahi Press		
<b>参考文献</b>	生越直樹・チョ・ヒチョル 『ことばの架け橋 中級表現編』 白帝社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (Ⅱa 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。</p> <p>基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 1課</li> <li>4. 2課</li> <li>5. 3課</li> <li>6. まとめ</li> <li>7. 4課</li> <li>8. 5課</li> <li>9. まとめ</li> <li>10. まとめ/中間テスト</li> <li>11. 6課</li> <li>12. 7課</li> <li>13. 8課</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	金京子・喜多恵美子 『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社		
<b>参考文献</b>	生越直樹他 『花と実』朝日出版社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト、小テスト		

08年度以降	総合コース 韓国語 (Ⅱb 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 9課</li> <li>4. 10課</li> <li>5. 11課</li> <li>6. まとめ</li> <li>7. 12課</li> <li>8. 13課</li> <li>9. まとめ</li> <li>10. まとめ/中間テスト</li> <li>11. 14課</li> <li>12. 15課</li> <li>13. 16課</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	金京子・喜多恵美子 『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社		
<b>参考文献</b>	生越直樹他 『花と実』朝日出版社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト、小テスト		

08年度以降	韓国語 (Ⅲa 総合3)	担当者	柳 蓮淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は1～2年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。</p> <p>基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1課 復習</li> <li>2. 2課 復習</li> <li>3. 3課 ぞんざいな文末表現</li> <li>4. 3課 推量表現</li> <li>5. 4課 未来連体形</li> <li>6. 4課 さまざまな表現</li> <li>7. 5課 引用形</li> <li>8. 5課 引用形のさまざまな表現</li> <li>9. まとめ</li> <li>10. 中間テスト</li> <li>11. 6課 名詞化語尾</li> <li>12. 6課 さまざまな表現</li> <li>13. 7課 受身形</li> <li>14. 7課 さまざまな表現</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編 白帝社		
<b>参考文献</b>	金京子・喜多恵美子 『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト、小テスト		

08年度以降	韓国語 (Ⅲb 総合3)	担当者	柳 蓮淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本事項の確認①</li> <li>2. 基本事項の確認②</li> <li>3. 8課 本文</li> <li>4. 8課 慣用句</li> <li>5. 8課 さまざまな表現①</li> <li>6. 8課 さまざまな表現②</li> <li>7. 9課 本文</li> <li>8. 9課 使役形</li> <li>9. 9課 慣用句</li> <li>10. まとめ／中間テスト</li> <li>11. 10課 本文</li> <li>12. 10課 書きことばの表現</li> <li>13. 10課 さまざまな表現①</li> <li>14. 10課 さまざまな表現②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編 白帝社		
<b>参考文献</b>	金京子・喜多恵美子 『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社		
<b>評価方法</b>	中間テスト、期末テスト、小テスト		

08年度以降	外国語(イタリア語 Ia 基礎)	担当者	園田 みどり
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと導入 (イタリア語のアルファベット)</li> <li>2. イタリア語の発音について</li> <li>3. 名詞と定冠詞</li> <li>4. 名詞と不定冠詞</li> <li>5. 挨拶の表現、形容詞</li> <li>6. イタリア語のbe動詞: essere</li> <li>7. 数字と時刻の表現</li> <li>8. イタリア語のhave動詞: avere</li> <li>9. 規則動詞の現在形: -are型と-ere型</li> <li>10. 規則動詞の現在形: -ire型</li> <li>11. 前置詞</li> <li>12. 前置詞と定冠詞の結合形</li> <li>13. 不規則で重要な動詞 (fare, dare, andareなど)</li> <li>14. 不規則で重要な動詞 (bere, sapere, dire, venireなど)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。		
<b>テキスト</b>	教科書: ナンニーニ、藤谷『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』(三修社) / 推薦する辞書: 授業時に紹介する。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	平素の学習態度 (20%) と、授業内に随時行う小テストの成績 (80%) による。あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。		

08年度以降	外国語(イタリア語 Ib 基礎)	担当者	園田 みどり
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期に学習した内容の復習</li> <li>2. 様態動詞 (~できる、~しなくてはならない、~したい)</li> <li>3. 所有形容詞の活用</li> <li>4. 所有形容詞と親族名詞</li> <li>5. 代名動詞の活用</li> <li>6. 代名動詞の用法</li> <li>7. 優等比較と劣等比較、同等比較</li> <li>8. 最上級</li> <li>9. 近過去と過去分詞</li> <li>10. 近過去における助動詞の使い分け</li> <li>11. 半過去の活用</li> <li>12. 半過去の用法</li> <li>13. 近過去と半過去の違い</li> <li>14. 直接・間接目的語代名詞</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。		
<b>テキスト</b>	教科書: ナンニーニ、藤谷『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』(三修社) / 推薦する辞書: 授業時に紹介する。		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	平素の学習態度 (20%) と、授業内に随時行う小テストの成績 (80%) による。あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。		

08年度以降	外国語(イタリア語 Ia 基礎)	担当者	島津 寛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。</p> <p>(概要) 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。</p> <p>(受講上の注意点) 教科書、辞書は必ず購入して下さい。推奨辞書はガイドンスの際に案内します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1)</li> <li>3) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2)</li> <li>4) 規則動詞の練習(1)</li> <li>5) 規則動詞の練習(2)</li> <li>6) 規則動詞の練習(3)</li> <li>7) 規則動詞の練習(4)</li> <li>8) 基本不規則動詞の練習(1)</li> <li>9) 基本不規則動詞の練習(2)</li> <li>10) 基本不規則動詞の練習(3)</li> <li>11) 冠詞・形容詞・所有形容詞のまとめ(1)</li> <li>12) 冠詞・形容詞・所有形容詞のまとめ(2)</li> <li>13) 頻出不規則動詞の練習(1)</li> <li>14) 頻出不規則動詞の練習(2)</li> <li>15) 頻出不規則動詞の練習(3) / 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ディアログの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
<b>テキスト</b>	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012年。		
<b>参考文献</b>	ガイダンスの際に案内します。		
<b>評価方法</b>	平常点(授業参加、宿題履行等)40%、期末試験 60%		

08年度以降	外国語(イタリア語 Ib 基礎)	担当者	島津 寛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。</p> <p>(概要) 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人称代名詞の練習(1)</li> <li>2) 人称代名詞の練習(2)</li> <li>3) 近過去形の練習(1)</li> <li>4) 近過去形の練習(2)</li> <li>5) 近過去形の練習(3)</li> <li>6) 近過去形の練習(4)</li> <li>7) 近過去形の練習(5)</li> <li>8) 再帰動詞の練習(1)</li> <li>9) 再帰動詞の練習(2)</li> <li>10) 再帰動詞の練習(3)</li> <li>11) 半過去形の練習(1)</li> <li>12) 半過去形の練習(2)</li> <li>13) 半過去形の練習(3)</li> <li>14) 半過去形の練習(4)</li> <li>15) 映画鑑賞/総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ディアログの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
<b>テキスト</b>	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012年。		
<b>参考文献</b>	ガイダンスの際に案内します。		
<b>評価方法</b>	平常点(授業参加、宿題履行等)100%		

08年度以降	外国語(イタリア語 IIa 基礎)	担当者	島津 寛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。</p> <p>(概要) イタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テキストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して行います。また60年代のカンツォーネを鑑賞し、その歌詞を解釈する作業もとりいれます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 過去形・再帰動詞の復習(1)</li> <li>2) 過去形・再帰動詞の復習(2)</li> <li>3) 過去形・再帰動詞の復習(3)</li> <li>4) 過去形・再帰動詞の復習(4)</li> <li>5) 過去形・再帰動詞の復習(5)</li> <li>6) 大過去形の練習(1)</li> <li>7) 大過去形の練習(2)</li> <li>8) 未来形の練習(1)</li> <li>9) 未来形の練習(2)</li> <li>10) 条件法の練習(1)</li> <li>11) 条件法の練習(2)</li> <li>12) 条件法の練習(3)</li> <li>13) 遠過去形の練習(1)</li> <li>14) 遠過去形の練習(2)</li> <li>15) 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
<b>テキスト</b>	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012年。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点(授業参加、宿題履行等)100%		

08年度以降	外国語(イタリア語 IIb 基礎)	担当者	島津 寛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。</p> <p>(概要) 前半はイタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テキストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して進めます。後半では受講者のレベルに応じて、ストーリー性を備えた長めの会話テキスト、映画のシナリオ、時事文、小説を中心とした文学作品等の高度なテキストを講読し、読解力養成を図ります。最終授業ではしめくりとしてイタリア映画の鑑賞を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 接続法の練習(1)</li> <li>2) 接続法の練習(2)</li> <li>3) 接続法の練習(3)</li> <li>4) 接続法の練習(4)</li> <li>5) 接続法の練習(5)</li> <li>6) 接続法の練習(6)</li> <li>7) 接続法の練習(7)</li> <li>8) 講読(1)</li> <li>9) 講読(2)</li> <li>10) 講読(3)</li> <li>11) 講読(4)</li> <li>12) 講読(5)</li> <li>13) 講読(6)</li> <li>14) 講読(7)</li> <li>15) 映画鑑賞</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
<b>テキスト</b>	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012年。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点(授業参加、宿題履行等)100%		

08年度以降	外国語(ポルトガル語 Ia 総合)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語 I b に続く形でポルトガル語の初級文法を中心に学びます。</p> <p>授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。</p> <p>辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。</p> <p>質問等は授業後に受け付けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音</li> <li>2. 主格人称代名詞、不規則動詞 <i>ser</i>、否定文、疑問文</li> <li>3. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化</li> <li>4. 規則動詞の直説法現在形、基本前置詞 <i>de, em, com</i></li> <li>5. 不規則動詞 <i>estar</i>、所有詞、基数詞</li> <li>6. 規則動詞の直説法現在形、疑問詞、指示詞、曜日</li> <li>7. 不規則動詞の直説法現在形、前置詞 <i>a, para, por</i></li> <li>8. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形</li> <li>9. 不規則動詞の直説法現在形と直説法過去形</li> <li>10. 対格・与格人称代名詞、序数詞</li> <li>11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞、序数詞</li> <li>12. 感嘆文、強調構文、時間表現</li> <li>13. 直説法半過去形、月日、名詞・形容詞の特殊な複数形</li> <li>14. 関係代名詞 <i>que</i> と <i>quem</i>、接尾辞 <i>-inho</i>、命令形</li> <li>15. まとめ/試験</li> </ol>	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。		
テキスト	講師がプリント形式で用意します。		
参考文献	辞書は上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割 (練習問題の解答+授業への参加度) + 最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08年度以降	外国語(ポルトガル語 Ib 総合)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では前期のポルトガル語 I a に引き続いてポルトガル語の初級文法を中心に学びます。</p> <p>授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。</p> <p>辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。</p> <p>質問等は授業後に受け付けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 過去分詞、直説法大過去形、絶対最上級</li> <li>2. 優等比較級、劣等比較級、同等比較級、相対最上級</li> <li>3. 法動詞 <i>poder</i> と <i>dever</i>、完了不定詞、人称不定詞</li> <li>4. 受動文、結果構文、接尾辞 <i>-mente</i></li> <li>5. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形</li> <li>6. 直説法複合過去形、二重過去分詞</li> <li>7. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現</li> <li>8. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現)</li> <li>9. 現在分詞句、補文標識 <i>se</i></li> <li>10. 過去分詞句、関係代名詞 <i>o que</i> と <i>quem</i>、指示詞 <i>o</i></li> <li>11. 関係代名詞 <i>o qual</i>、関係形容詞 <i>cujo</i></li> <li>12. 接続法現在形、強調構文、接続法半過去形</li> <li>13. 時間表現、接続法過去形、接続法大過去形</li> <li>14. 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文</li> <li>15. まとめ/試験</li> </ol>	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。		
テキスト	講師がプリント形式で用意します。		
参考文献	辞書は上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割 (練習問題の解答+授業への参加度) + 最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08年度以降	外国語(ポルトガル語 Ia 会話)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ポルトガル語 I (会話) では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。</p> <p>その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。</p> <p>本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。</p> <p>質問等は授業後に受け付けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション「挨拶する」「出身地を尋ねる」</li> <li>2. 「物の名を尋ねる」「持ち主を尋ねる」</li> <li>3. 「曜日を探ねる」「日付を探ねる」</li> <li>4. 「健康状態を探ねる」「場所を探ねる」</li> <li>5. 「時間を探ねる」「約束・待ち合わせをする」</li> <li>6. 「人を待つ」「物の貸し借りをする」</li> <li>7. 「聞き返す」「好き嫌いを述べる」</li> <li>8. 「食事をする」「買い物をする」</li> <li>9. 「感想を述べる」「希望を述べる」「天候を探ねる」</li> <li>10. 「義務を課す」「許可を与える」「同意する」</li> <li>11. 「身体の状態を述べる」「経験を述べる」</li> <li>12. 「頻度を探ねる」「選択を述べる」「勧誘する」</li> <li>13. 「道順を探ねる」「伝聞を述べる」「誇張して述べる」</li> <li>14. 「日常生活について述べる(起床・身支度・就寝)」</li> <li>15. まとめ/試験</li> </ol>	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。		
テキスト	講師がプリント形式で用意します。		
参考文献	辞書は上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割 (練習問題の解答+授業への参加度) + 最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08年度以降	外国語(ポルトガル語 Ib 会話)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ポルトガル語 I (会話) では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。</p> <p>その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。</p> <p>本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。</p> <p>質問等は授業後に受け付けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・既習事項の復習</li> <li>2. 「相互動作を表現する」「過去の事柄を表現する」</li> <li>3. 「感謝する」「話題に取り上げる」「乗り物の表現」</li> <li>4. 「休暇について探ねる」「未遂の事柄を述べる」</li> <li>5. 「過去の習慣を述べる」「過去の状態を述べる」</li> <li>6. 「願望を婉曲的に述べる」「喜びを表現する」</li> <li>7. 「人を褒める」「羨望を述べる」</li> <li>8. 「驚き・残念・嘆き・後悔を表現する」</li> <li>9. 「忠告する」「推測する」「断定する」</li> <li>10. 「丁寧に頼む」「丁寧に断る」</li> <li>11. 「可能性のある『もし…なら』」</li> <li>12. 「可能性のない『もし…なら』」</li> <li>13. 「謙遜して述べる」</li> <li>14. 総まとめ</li> <li>15. まとめ/試験</li> </ol>	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。		
テキスト	講師がプリント形式で用意します。		
参考文献	辞書は上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割 (練習問題の解答+授業への参加度) + 最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08年度以降	外国語(ロシア語 Ia 総合)	担当者	齊藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>初心者を対象としてロシア語の文法を学ぶ授業です。キリル文字の読み書きから始め、秋学期を含めた1年間でロシア語の初歩をマスターすることを目指します。</p> <p>ユーラシアに位置するロシアは独特の文化を持ち、また日本の隣国でもあります。ロシア語はその重要さにもかかわらず、大学以外ではなかなか学ぶ場がありません。この機会にぜひロシア語の世界への扉を開いてみてください。</p> <p>会話を中心とした「ロシア語I 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>教科書の第 10 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>1-8 キリル文字の発音・書き方、 基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在形（1） 13-14 場所の表現（前置詞、名詞類の格変化の導入） 15 まとめ</p> <p>授業では受講者の皆さん一人一人の練習を中心とします。春学期はとくに発音の練習に力を入れます。ロシアの地理・歴史・文化についても話してゆくつもりです。</p>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	小テストの準備、および宿題。		
<b>テキスト</b>	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。		
<b>参考文献</b>	辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入してください。		
<b>評価方法</b>	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)（%はおおよその目安）		

08年度以降	外国語(ロシア語 Ib 総合)	担当者	齊藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ロシア語Ia総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。</p>		<p>教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。また、並行して簡単なテキストの読解練習を行いません。</p> <p>1-2 動詞の現在形（2） 3 動詞の現在形（3） 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞類の格変化（1）生格 10-11 名詞類の格変化（2）対格 12 動詞の過去形 13-14 移動の動詞、方向の表現 15 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	小テストの準備、および宿題。		
<b>テキスト</b>	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。		
<b>参考文献</b>	辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入してください。		
<b>評価方法</b>	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)（%はおおよその目安）		

08年度以降	外国語(ロシア語 Ia 会話)	担当者	小西 昌隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。</p> <p>キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。</p> <p>またロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思ひます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文字と発音 (1)</li> <li>3. 文字と発音 (2)</li> <li>4. 文字と発音 (3)</li> <li>5. いろいろなあいさつ</li> <li>6. 名詞の性、人称代名詞 (1)</li> <li>7. 形容詞の変化 (1)</li> <li>8. 「AはBである」</li> <li>9. 名詞の複数形</li> <li>10. 所有代名詞</li> <li>11. 形容詞の変化 (2)</li> <li>12. 人称代名詞 (2)</li> <li>13. 動詞の現在形</li> <li>14. 動詞と目的語の関係</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
<b>テキスト</b>	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』(改訂版、CD 付き) 白水社		
<b>参考文献</b>	教場で指示します。		
<b>評価方法</b>	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08年度以降	外国語(ロシア語 Ib 会話)	担当者	小西 昌隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ロシア語Ia の続きの授業になります。</p> <p>春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. 名詞の対格 (1)</li> <li>3. 不規則変化の動詞 (1)</li> <li>4. 願望の表現</li> <li>5. 命令形の表現</li> <li>6. 人称代名詞の与格</li> <li>7. 方向と場所の表現 (1)</li> <li>8. 数詞</li> <li>9. 時間の表現</li> <li>10. 年齢の表現</li> <li>11. 運動の動詞</li> <li>12. 方向と場所の表現 (2)</li> <li>13. 名詞の生格</li> <li>14. 所有の表現</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
<b>テキスト</b>	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』(改訂版、CD 付き) 白水社		
<b>参考文献</b>	教場で指示します。		
<b>評価方法</b>	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08年度以降	外国語(ロシア語 IIa 総合)	担当者	齊藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨年度の「ロシア語 I 総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書、およびプリント教材を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。最終的に、秋学期の終わりには、ロシア語の基本文法(検定試験3級程度)をすべてマスターすることができます。</p> <p>会話を中心とした「ロシア語 II 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p> <p>昨年度「ロシア語 I 総合」を履修していなくても、ロシア語の初歩を勉強したことがある人ならば受講可能ですので、最初の授業時に相談してください。</p>		<p>教科書の第18課から始めます。</p> <p>1-2 移動の動詞、方向の表現 3-4 格変化・生格 5-6 格変化・前置格 7 数詞 8-9 格変化・与格 10-11 状態の表現(無人称文) 12 未来の表現 13-14 格変化・造格 15 まとめ</p> <p>平行して簡単なテキストの読解練習を行いません。</p>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	小テストの準備、および宿題。		
<b>テキスト</b>	黒田龍之助『ロシア語文法への旅(改訂版)』(大学書林)。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)(%はおおよその目安)		

08年度以降	外国語(ロシア語 IIb 総合)	担当者	齊藤 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ロシア語 II a総合」の続きの授業ですので、詳しくはそちらをご覧ください。</p>		<p>教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて新たな文法事項を学びます。簡単なテキストの読解練習も引き続き行いません。</p> <p>1-2 数と名詞 3 前置詞と格変化 4-6 動詞の体(不完了体と完了体) 7-8 格変化の総まとめ 9 形容詞短語尾 10 比較級・最上級 11-12 関係代名詞、不定人称文 13 仮定法 14 形動詞、副動詞 15 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	小テストの準備、および宿題。		
<b>テキスト</b>	特になし		
<b>参考文献</b>	黒田龍之助『ロシア語文法への旅(改訂版)』(大学書林)		
<b>評価方法</b>	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)(%はおおよその目安)		

08年度以降	外国語(ロシア語 IIa 会話)	担当者	小西 昌隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ロシア語 I 会話」の続きの授業ですが、「ロシア語 I」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。</p> <p>この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。</p> <p>教科書は「ロシア語 I 会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 名詞の生格、所有代名詞、所有の表現</li> <li>3. 曜日の表現</li> <li>4. 未来の表現 (1)</li> <li>5. 形容詞の変化</li> <li>6. 名詞の前置格と場所の表現</li> <li>7. 不規則変化の動詞</li> <li>8. 再帰動詞</li> <li>9. 「～の中に」と「～の上に」</li> <li>10. 動詞の過去 (1)</li> <li>11. 動詞の過去 (2)</li> <li>12. 名詞の対格 (2)</li> <li>13. 人称代名詞の対格</li> <li>14. まとめ (1)</li> <li>15. まとめ (2)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	とくに課すものではありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
<b>テキスト</b>	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』(改訂版、CD 付き) 白水社		
<b>参考文献</b>	教場で指示します。		
<b>評価方法</b>	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08年度以降	外国語(ロシア語 IIb 会話)	担当者	小西 昌隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ロシア語 IIa 会話」の続きの授業です。</p> <p>春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. 名詞の与格</li> <li>3. 名詞の造格</li> <li>4. 不完了体動詞と完了体動詞 (1)</li> <li>5. 不完了体動詞と完了体動詞 (2)</li> <li>6. 未来の表現 (2)</li> <li>7. 形容詞の格変化</li> <li>8. 無人称文</li> <li>9. 運動の動詞 (2)</li> <li>10. 前置詞のまとめ</li> <li>11. 仮定の表現</li> <li>12. 関係代名詞</li> <li>13. 自己紹介文を作る (1)</li> <li>14. 自己紹介文を作る (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	とくに課すものではありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
<b>テキスト</b>	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』(改訂版、CD 付き) 白水社		
<b>参考文献</b>	教場で指示します。		
<b>評価方法</b>	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08年度以降	外国語(タイ語 Ia 会話)	担当者	江藤 双恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>入門レベルの標準タイ語会話を翻字（ローマ字と発音記号）で学ぶ。声調、子音や母音の発音、翻字のルールなどの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。</p> <p>映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。</p> <p>なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱaで学ぶ。Ⅱaの方が難易度が高いので、Iaを先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。また、昨年度も同様の科目を履修した人がもう一度この科目を申請する場合、昨年度とは異なる教科書を用いる場合もあるのでぜひとも講師に相談されたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入：タイ社会の現状、タイ語を学ぶ意義について発音練習（声調・数字・子音・母音、翻字のルール）</li> <li>2 会話1（挨拶、所在に関する表現）</li> <li>3 会話2（ものの性質などに関して）</li> <li>4 会話3（家族）、タイ語を聞いて書く</li> <li>5 会話4（所有、存在）、タイ語を聞いて書く</li> <li>6 会話5（職業、国名）タイ語を聞いて書く</li> <li>7 会話6（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く</li> <li>8 会話7（名前、所在、手段などに関する表現）</li> <li>9 会話8（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く</li> <li>10 会話9（レストランで）、タイ語を聞いて書く</li> <li>11 会話10（お金の計算）タイ語を聞いて書く</li> <li>12 会話11（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く</li> <li>13 タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）</li> <li>14 タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）</li> <li>15 まとめ／試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	復習に力をいれること。CDを聞いて発音練習をすること。		
<b>テキスト</b>	2000円程度のテキストを使用する。最初の授業で指定する。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。		

08年度以降	外国語(タイ語 Ia 会話)	担当者	江藤 双恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Iaに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。特に類別詞の使い方について重点的に理解し、比較表現などに応用できるようにする。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。</p> <p>ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。</p> <p>インターネット動画や映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 会話1（類別詞の用法1）、タイ語を聞いて書く</li> <li>2 会話2（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く</li> <li>3 会話3（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く</li> <li>4 会話4（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く</li> <li>5 会話5（類別詞の用法2）、タイ語を聞いて書く</li> <li>6 会話6（類別詞の用法3）、タイ語を聞いて書く</li> <li>7 会話7（類別詞の用法4）、タイ語を聞いて書く</li> <li>8 会話8（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く</li> <li>9 会話9（電話をかける）、タイ語を聞いて書く</li> <li>10 会話10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く</li> <li>11 会話11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く</li> <li>12 会話12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く</li> <li>13 タイ事情（映画鑑賞など）</li> <li>14 タイ事情（映画鑑賞など）</li> <li>15 まとめ／試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	復習に力をいれること。CDを聞いて発音練習をすること。		
<b>テキスト</b>	前期と同じテキスト（2000円程度）の予定。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。		

08年度以降	外国語(タイ語IIa 文字の読み書き)	担当者	江藤 双恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。文字が判読でき、正しく発音できること、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢を身につけることが目標である。</p> <p>本講義では、翻字のルール、発音方法、文字の書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。</p> <p>具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。</p> <p>随時、インターネット動画、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話Iaを先に履修の方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。IIaのみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。タイ語検定受験対策も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？社会のタイ語需要</li> <li>2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概</li> <li>3 ローマ字表記の方法、数字の発音</li> <li>4 文字の読み書き1（中子音・高子音）</li> <li>5 文字の読み書き2（低子音と長母音）</li> <li>6 文字の読み書き3（真正二重子音・平音節・促音節）</li> <li>7 文字の読み書き4（声調符号、短母音）</li> <li>8 文字の読み書き5（高子音化、擬似二重子音）</li> <li>9 文字の読み書き6（一字再読字）</li> <li>10 文字の読み書き7（タイ数字など）</li> <li>11 文字の読み書き8（特殊な表記）</li> <li>12 タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定）</li> <li>13 タイ事情（映画などのビジュアル教材）</li> <li>14 講読1（読み方、文章のつながり方など）</li> <li>15 講読2（読み方、タイ語らしい言い回し）</li> <li>まとめ/試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学習は難しいので、復習をしっかりと行って知識の定着をはかる。		
<b>テキスト</b>	「やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント。		
<b>参考文献</b>	授業中に示す。		
<b>評価方法</b>	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。		

08年度以降	外国語(タイ語IIb 文字の読み書き)	担当者	江藤 双恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>IIaで学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、小学校の国語の教科書など、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。暗唱にも力をいれる。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。</p> <p>なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。タイ検定への挑戦についてもできるかぎりのバックアップを行う予定である。遠慮なく自分の課題について相談してほしい。</p> <p>特にタイ語検定受験希望者は、過去問などを用いて対策を行うので申し出ること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講読1（読み方、文章のつながり方など）</li> <li>2 講読2（平易な物語など）</li> <li>3 文法1（指示詞の用法）</li> <li>4 文法2（一般動詞の用法）</li> <li>5 文法3（形容詞の用法）</li> <li>6 講読3（平易な物語など）</li> <li>7 文法4（類別詞の用法・比較）</li> <li>8 講読4（タイの文化・祭り）</li> <li>9 講読5（首都バンコクについて）</li> <li>10 文法5（否定の表現）</li> <li>11 講読6（子どもの夢）</li> <li>12 講読7（書店）</li> <li>13 タイ事情（現代映画の鑑賞）</li> <li>14 タイ事情（現代映画の鑑賞）</li> <li>15 まとめ/試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの購読を行うので、自分でできるところまで進めておく。暗唱をしてみよう		
<b>テキスト</b>	「やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント。		
<b>参考文献</b>	授業中に示す。		
<b>評価方法</b>	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。		

08年度以降	外国語（アラビア語 Ia 会話と文化）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アラビア語は総人口が3億に達するアラブ22カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン）』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、16億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。</p> <p>本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。</p> <p>この講義は、「アラビア語IIa 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction、発音の基礎</li> <li>2. 「あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり</li> <li>3. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」</li> <li>4. 「ご機嫌いかがですか？」「私の名前は・・・」</li> <li>5. 「彼女の名前は」</li> <li>6. 「おはようございます。今日の天気は？」</li> <li>7. 「これは何ですか？エジプトのパンですか？」</li> <li>8. アラビア文字の基礎</li> <li>9. アラビア文字を読む</li> <li>10. これまで学んだことの応用</li> <li>11. 「アラブの様々な食べ物」</li> <li>12. 「トイレはどこですか？」</li> <li>13. アラブのテレビを観る</li> <li>14. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いです」</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で学んだ表現を使って何を言いたいのか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。		
<b>テキスト</b>	『ニューエクスプレス・アラビア語』（竹田敏之著・白水社）		
<b>参考文献</b>	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK出版）		
<b>評価方法</b>	積極的な授業参加に重点を置きます（80%）。また、常時会話の小テストを行います（20%）。		

08年度以降	外国語（アラビア語 Ib 会話と文化）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。</p> <p>この講義は、「アラビア語 II b 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習</li> <li>2. 数と数字</li> <li>3. 「アラビア語を学んだことがありますか？」</li> <li>4. 「あなたに兄弟はいますか？」</li> <li>5. 「私たちはピラミッドの前にいます」</li> <li>6. 「ラクダに乗ったことがありますか？」</li> <li>7. 「日本にはたくさんの大学がありますか？」</li> <li>8. 「あなたは何を勉強していますか？」</li> <li>9. 「私はお腹がすきました」</li> <li>10. 「コシヤリを食べたことはありません」</li> <li>11. 「気に入りましたか？」</li> <li>12. 「書店に行きたいです」</li> <li>13. 「どちらがより近いですか？」</li> <li>14. 復習</li> <li>15. 応用</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で学んだ表現を使って何を言いたいのか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。		
<b>テキスト</b>	『ニューエクスプレス・アラビア語』（竹田敏之著・白水社）		
<b>参考文献</b>	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK出版）		
<b>評価方法</b>	積極的な授業参加に重点を置きます（80%）。また、常時会話の小テストを行います（20%）。		

08年度以降	外国語（アラビア語IIa 読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アラビア語は総人口が3億人に達するアラブ22カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。</p> <p>また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。</p> <p>本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。</p> <p>この講義は、「アラビア語Ia 会話と文化」と同時に履修することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. アラビア文字を覚える (1) 挨拶の言葉</li> <li>3. アラビア文字を覚える (2) 挨拶の言葉</li> <li>4. アラビア文字を覚える (3) 自己紹介</li> <li>5. アラビア文字を覚える (4) 「私は日本人です」</li> <li>6. アラビア文字を覚える (5) アラブの国名</li> <li>7. 自分の名前を書く！</li> <li>8. 自己紹介の文章を書く！</li> <li>9. 自己紹介の文章を書く！</li> <li>10. アラビア語を読む</li> <li>11. 男性形と女性形「私は学生です」</li> <li>12. 定冠詞の使い方「駅はどこですか」</li> <li>13. 「それは何ですか？」「アラブのコーヒーです」</li> <li>14. 復習</li> <li>15. テスト・アラビア語によるビデオ鑑賞</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	小テストを行うので、学んだテキストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配ります。		
<b>参考文献</b>	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）		
<b>評価方法</b>	授業の中で常時小テストを行う（50%）ほか、期末に筆記試験を行います（50%）。		

08年度以降	外国語（アラビア語IIb 読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。</p> <p>本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。</p> <p>この講義は、「アラビア語Ib 会話と文化」と同時に履修することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習</li> <li>2. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」</li> <li>3. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」（続き）</li> <li>4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」</li> <li>5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」</li> <li>6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」</li> <li>7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」</li> <li>8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」</li> <li>9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」</li> <li>10. 現在形動詞の否定「知りません」</li> <li>11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」</li> <li>12. 複数と双数「エジプトのアーティストたち」</li> <li>13. 辞書の引き方の基礎・復習</li> <li>14. テスト</li> <li>15. アラブの詩を読む、アラビア語で歌う</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	小テストを行うので、学んだテキストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配ります。		
<b>参考文献</b>	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）		
<b>評価方法</b>	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。		

08年度以降	外国語(現代ヘブライ語 Ia 基礎)	担当者	阿部 望
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムードなどの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。</p> <p>現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を現代に伝えていきます。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけでなく、ユダヤ学全体への入口となります。フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。</p> <p>さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。授業は随時配布されるプリントにそって進められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アルファベットの歴史</li> <li>2. ヘブライ文字</li> <li>3. 発音練習</li> <li>4. 自分の名前をヘブライ語で書いてみよう。</li> <li>5. 自己紹介をヘブライ語でしてみよう。</li> <li>6. ヘブライ語起源の人名</li> <li>7. 名詞の性</li> <li>8. 名詞の数</li> <li>9. 形容詞の性と数</li> <li>10. ヘブライ語の神名について</li> <li>11. ヘブライ語の動詞(1)</li> <li>12. ヘブライ語の動詞(2)</li> <li>13. 数字としてのヘブライ文字</li> <li>14. 動詞の変化</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定部分の精読と返却されたプリントの確認		
<b>テキスト</b>	授業テキストはプリントとして教室で配布		
<b>参考文献</b>	『ヘブライ語入門』日本ヘブライ文化協会刊		
<b>評価方法</b>	授業毎のプリント提出(40%)、試験(60%)		

08年度以降	外国語(現代ヘブライ語 Ib 基礎)	担当者	阿部 望
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ヘブライ語とアラビア語の違い、旧約聖書のヘブライ語と現代ヘブライ語の違い、キリスト教発生時のヘブライ語、ヘブライ語が死語となったとはどういう意味か、ヘブライ語が復活したとは、ユダヤ人が使用し続けたユダヤ語、ファミリーネームから分かるユダヤ人、ユダヤ教シナゴーク訪問、ユダヤ人との付き合い方、ユダヤ人の祝祭日、ユダヤ教とキリスト教の違いなど、ヘブライ語の観点から世界常識を学び直します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の総復習</li> <li>2. ユダヤ人の祭(1)、会話練習</li> <li>3. ユダヤ人の祭(2)、会話練習</li> <li>4. ユダヤ人の祭(3)、ヘブライ語の復活</li> <li>5. ユダヤ人のファミリーネーム(1)</li> <li>6. ユダヤ人のファミリーネーム(2)</li> <li>7. ユダヤ人のファミリーネーム(3)</li> <li>8. ユダヤ語とヘブライ語</li> <li>9. 不定詞の使い方(1)</li> <li>10. 不定詞の使い方</li> <li>11. 動詞の過去形(1)</li> <li>12. 動詞の過去形(2)</li> <li>13. 動詞の未来形(1)</li> <li>14. 動詞の未来形(2)</li> <li>15. 総復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定部分の精読と返却されたプリントの確認		
<b>テキスト</b>	教室にて配布		
<b>参考文献</b>	『ヘブライ語入門』日本ヘブライ文化協会刊		
<b>評価方法</b>	授業毎のプリント提出(40%)、試験(60%)		

08年度以降	外国語(トルコ語 Ia 総合)	担当者	M. チャクル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象に、トルコ語の文法や読み書きを中心に学習を進めていきます。また、トルコの文化や歴史などについて知る時間も設け、トルコについて総合的に学ぶとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。</p> <p>アルタイ語族に属するトルコ語は、日本語とも同語族とされ、基本的な文法構造が似ています。また、文字は英語のアルファベットに近く、発音も規則的なことから、日本人にとっては比較的習得しやすい言語の一つと考えられています。</p> <p>トルコだけでなく、バルカン諸国や東欧、中央アジア、西アジアにもまたがるトルコ語話者は、同系言語を含めると2億2千万人がいるとされ、汎用性の高い言語です。</p> <p>単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語 Ia 会話」とあわせて受講することを勧めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) アルファベット</li> <li>2) 数字</li> <li>3) 挨拶の言葉</li> <li>4) 挨拶の練習</li> <li>5) 人称代名詞／トルコ料理の紹介</li> <li>6) 人称・指示代名詞で文を作る「これはAです」</li> <li>7) 人称・指示代名詞で質問を作る「これは何ですか」</li> <li>8) 国と言語の名前／トルコの観光</li> <li>9) 肯定文の作り方</li> <li>10) 疑問文の作り方</li> <li>11) 否定文の作り方／トルコの歴史</li> <li>12) 形容詞の使い方</li> <li>13) 自己紹介をする</li> <li>14) 単語の複数形</li> <li>15) まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
<b>テキスト</b>	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インститウト編) ほか補助教材を使用。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果(70%)、および課題の提出(30%)を評価対象とする。		

08年度以降	外国語(トルコ語 Ib 総合)	担当者	M. チャクル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>このクラスは、「トルコ語 Ia 総合」の続きになります。</p> <p>授業では、文法や読み書きを中心にトルコ語の基礎を学んでいきますが、あわせてトルコの建築、芸術、食文化などさまざまな側面についても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。</p> <p>テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インstitウト」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。</p> <p>なお、単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語 Ib 会話」とあわせて受講することを勧めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 前期の復習</li> <li>2) 家族について紹介する (1)</li> <li>3) 家族について紹介する (2)</li> <li>4) 命令形の作り方／トルコの芸術 (マーブリング)</li> <li>5) 生活環境についての単語 (1)</li> <li>6) 生活環境についての会話 (2)</li> <li>7) 場所を聞く (1)</li> <li>8) 場所を聞く (2)</li> <li>9) 色の名前／トルコのコーヒーと紅茶</li> <li>10) 現在進行形 (肯定文)</li> <li>11) 現在進行形 (疑問文)</li> <li>12) 現在進行形 (否定文)</li> <li>13) 現在進行形の総合練習</li> <li>14) スケジュールを説明する</li> <li>15) まとめ、総合練習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
<b>テキスト</b>	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インstitウト編) ほか補助教材を使用。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果(70%)、および課題の提出(30%)を評価対象とする。		

08年度以降	外国語(トルコ語 Ia 会話)	担当者	M. チャクル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>トルコはアジアとヨーロッパの接点として、古くからさまざまな文明が交錯しました。そのため、世界有数の観光地として、日本人を含め多くの観光客が集まります。一方で、近年は経済的な発展もとげ、ヨーロッパだけでなく、中近東、アフリカ、中央アジア諸国へのゲートウェイとして、さまざまな企業の進出が続いており、トルコ語の注目度も増えています。</p> <p>このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象とし、授業では日常生活やトルコへの旅行などで使えるフレーズを中心に、会話の練習を行いながらコミュニケーション能力を身につけていきます。また、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。</p> <p>単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語I a 総合」とあわせて受講することを勧めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) アルファベットと数字</li> <li>2) 初めての挨拶</li> <li>3) 自己紹介／肯定文</li> <li>4) タクシーに乗る／疑問形</li> <li>5) レストランで①／所有形</li> <li>6) ホテルでの会話／人称代名詞</li> <li>7) 買い物をする①「～をください」</li> <li>8) 家族を紹介する／複数語尾</li> <li>9) レストランで②</li> <li>10) 依頼する</li> <li>11) 予約をする</li> <li>12) 両替をする／未来形</li> <li>13) 乗り物に乗る「～へ行きます」</li> <li>14) 買い物をする②／未来形</li> <li>15) まとめ</li> </ol>	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インститウト編) ほか補助教材を使用。		
参考文献	特になし		
評価方法	期末試験の結果(70%)、および課題の提出(30%)を評価対象とする。		

08年度以降	外国語(トルコ語 Ib 会話)	担当者	M. チャクル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスは、「トルコ語 Ia 会話」の続きになります。授業では会話の学習を中心に進め、トルコを訪れた際、必要な日常会話ができるようになることを目指します。後期では、定型表現だけでなく、簡単な文章を使いながら、自分の状況や考えを相手に伝える練習も行います。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。</p> <p>テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インstitウト」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。</p> <p>なお、単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語I b総合」とあわせて受講することを勧めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 前期の復習</li> <li>2) 自分の体験を語る／過去形</li> <li>3) 「週末何をしましたか?」／過去形</li> <li>4) 「～だそうです」／伝聞完了形</li> <li>5) インフォメーションでの会話</li> <li>6) 電話で話す／未来形と中立形</li> <li>7) バスターミナルで／中立形の否定形</li> <li>8) 買い物の会話「～できますか?」</li> <li>9) 様々な疑問詞・許可／「～してもいいですか?」</li> <li>10) 趣味について話す「～が好きですか?」</li> <li>11) 「～しよう」</li> <li>12) レストランでの会話</li> <li>13) 別れの場面／「～でいてください」</li> <li>14) 復習</li> <li>15) まとめ</li> </ol>	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インstitウト編) ほか補助教材を使用。		
参考文献	特になし		
評価方法	期末試験の結果(70%)、および課題の提出(30%)を評価対象とする。		

08年度以降	外国語(トルコ語 II a 応用)	担当者	M. チャクル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>このクラスは、トルコ語の基礎的な学習を行った学生を対象としています。</p> <p>トルコ語の文法と会話を中心に総合的に練習を重ね、トルコ語のレベルアップを目指します。特に、トルコ語において重要な動詞の活用については、現在進行形、未来形、過去形、超越形の構造を身につけ、会話の中でも使えるように取り組みます。</p> <p>あわせて、トルコの文化や歴史などについて知る時間を設けるとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。</p> <p>テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティテュート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 挨拶、人称</li> <li>2) 自己紹介の復習</li> <li>3) 現在進行形（肯定文）</li> <li>4) 現在進行形（疑問文）</li> <li>5) 現在進行形（否定文）／トルコ料理の紹介</li> <li>6) 「を」格</li> <li>7) 「へ」格／トルコ映画</li> <li>8) 「から」の表現方法格</li> <li>9) 家族について話す</li> <li>10) 過去形（肯定文）／トルコの歴史</li> <li>11) 過去形（否定文、疑問文）</li> <li>12) 時間を表す表現</li> <li>13) 時間を表す表現／トルコの芸術（マーブリング）</li> <li>14) 時間表現を使って話す</li> <li>15) まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
<b>テキスト</b>	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インスティテュート編) ほか補助教材を使用。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。		

08年度以降	外国語(トルコ語 II b 応用)	担当者	M. チャクル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>このクラスは、「トルコ語 II a 応用」の続きのクラスです。</p> <p>中級レベルのトルコ語会話を中心に学び、旅行や日常生活など様々な場面で使えるフレーズを身につけます。今までに学習した文章を使いながら、会話だけでなく、自分の考えや状況を相手に伝える練習も行い、トルコ語でのコミュニケーション力の向上を図ります。</p> <p>授業は会話の練習を中心に進んでいきますが、トルコの習慣や、観光、芸術、食文化などについても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。あわせて、ネイティブスピーカーとの交流会など、トルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。</p> <p>テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティテュート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 前期の復習</li> <li>2) ile と ve の使い方</li> <li>3) -li, -li の使い方</li> <li>4) 日常生活の会話</li> <li>5) 週末の予定について話す</li> <li>6) 家族について話す</li> <li>7) 交通機関</li> <li>8) 買い物の会話</li> <li>9) 計量単位</li> <li>10) 食事の会話</li> <li>11) 道を尋ねる</li> <li>12) 時間を尋ねる</li> <li>13) トルコのお金</li> <li>14) スーパーでの会話</li> <li>15) まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
<b>テキスト</b>	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インスティテュート編) ほか補助教材を使用。		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。		

シラバス 全学共通授業科目

---

2018年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1661



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	